

# 君津市寺ノ代遺跡

——県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書——

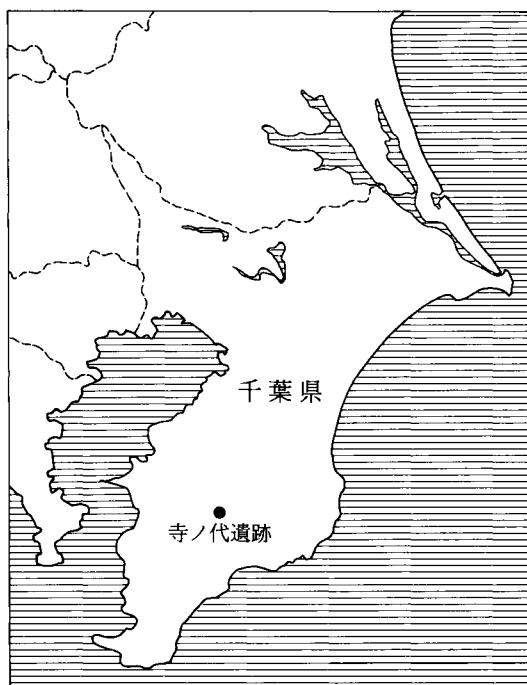
平成13年3月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

# 君津市寺ノ代遺跡

—— 県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書 ——



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第412集として、一般国道465号線（藤林地区）の建設に伴って実施した君津市寺ノ代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、竪穴住居跡や土坑群が発見され、縄文土器や石器が出土するなど、この地域の縄文時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年3月30日

財団法人千葉県文化財センター

理 事 長 中 村 好 成

## 凡　　例

- 1 本書は、千葉県土木部による一般国道465号（藤林地区）特殊改良第1種事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県君津市藤林字寺ノ代357ほかに所在する寺ノ代遺跡（遺跡コード225-008）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第1章を研究員 高梨友子が担当し、その他は木更津調査室長 小林清隆が行った。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
  - 第1図 国土地理院発行 1:200,000地形図「大多喜」・「横須賀」
  - 第2図（調査区周辺の地形図） 君津市発行 1:2,500地形図（L-11）を改図転載
  - 第4図（周辺の遺跡） 国土地理院発行 1:50,000地形図「大多喜」
- 7 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 8 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部道路建設課、千葉県君津土木事務所上総支所、君津市教育委員会、財君津都市文化財センター、千葉県立中央博物館高橋直樹、財千葉県史料研究財団 加納 実、財君津都市文化財センター 大谷弘幸の諸機関及び諸氏のほか、多くの方々から御指導、御協力を得た。

# 本文目次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査の概要 .....	1
1 調査の経緯と経過 .....	1
2 調査方法と成果の概要 .....	3
第2節 遺跡の位置と周辺の環境 .....	6
第2章 検出した遺構と出土遺物 .....	9
第1節 壴穴住居と出土遺物 .....	9
第2節 埋設土器集中遺構と出土遺物 .....	42
第3節 土坑と出土遺物 .....	48
第4節 遺構外出土遺物 .....	64
1 土器 .....	64
2 土製品 .....	101
3 石器 .....	101
4 石製品 .....	133
第3章 まとめ .....	147
報告書抄録 .....	巻末

# 挿図目次

第1図 遺跡の位置 (1:200,000) .....	1	第15図 012集石検出状況 .....	20
第2図 調査区と周辺地形 (1:2,000) .....	4	第16図 012・029・035配置図 .....	20
第3図 遺構検出状況 (1:1,000) .....	5	第17図 012遺物出土状況 .....	21
第4図 周辺の遺跡分布図 (1:50,000) .....	7	第18図 012出土遺物 (1) .....	22
第5図 遺構配置図 .....	8	第19図 012出土遺物 (2) .....	23
第6図 001 .....	10	第20図 012出土遺物 (3) .....	24
第7図 001出土遺物 (1) .....	11	第21図 012出土遺物 (4) .....	25
第8図 001出土遺物 (2) .....	12	第22図 012出土遺物 (5) .....	26
第9図 001出土遺物 (3) .....	13	第23図 012出土遺物 (6) .....	27
第10図 002 .....	14	第24図 012出土遺物 (7) .....	28
第11図 002出土遺物 (1) .....	15	第25図 012出土遺物 (8) .....	29
第12図 002出土遺物 (2) .....	16	第26図 012出土遺物 (9) .....	30
第13図 005・005出土遺物 .....	17	第27図 012出土遺物 (10) .....	31
第14図 012 .....	19	第28図 029 .....	33

第 29 図	029出土遺物（1）	34	第 66 図	遺構外出土土器（8）	73
第 30 図	029出土遺物（2）	35	第 67 図	遺構外出土土器（9）	74
第 31 図	035・035出土遺物（1）	36	第 68 図	遺構外出土土器（10）	75
第 32 図	035出土遺物（2）	37	第 69 図	遺構外出土土器（11）	76
第 33 図	P105・P105遺物出土状況	38	第 70 図	遺構外出土土器（12）	77
第 34 図	P105出土遺物（1）	39	第 71 図	遺構外出土土器（13）	78
第 35 図	P105出土遺物（2）	40	第 72 図	遺構外出土土器（14）	79
第 36 図	P105出土遺物（3）	41	第 73 図	遺構外出土土器（15）	80
第 37 図	015	41	第 74 図	遺構外出土土器（16）	81
第 38 図	011・011出土遺物（1）	43	第 75 図	遺構外出土土器（17）	82
第 39 図	011出土遺物（2）	44	第 76 図	遺構外出土土器（18）	83
第 40 図	011出土遺物（3）	45	第 77 図	遺構外出土土器（19）	84
第 41 図	013・013出土遺物（1）	46	第 78 図	遺構外出土土器（20）	85
第 42 図	013出土遺物（2）	47	第 79 図	遺構外出土土器（21）	86
第 43 図	土坑分布状況（1）	50	第 80 図	遺構外出土土器（22）	87
第 44 図	003・003出土遺物	51	第 81 図	遺構外出土土器（23）	88
第 45 図	006・006出土遺物（1）	51	第 82 図	遺構外出土土器（24）	89
第 46 図	006出土遺物（2）	52	第 83 図	遺構外出土土器（25）	90
第 47 図	007	52	第 84 図	遺構外出土土器（26）	91
第 48 図	008・008出土遺物（1）	53	第 85 図	遺構外出土土器（27）	92
第 49 図	008出土遺物（2）	54	第 86 図	遺構外出土土器（28）	93
第 50 図	土坑分布状況（2）	54	第 87 図	遺構外出土土器（29）	94
第 51 図	土坑と出土遺物（1）	55	第 88 図	遺構外出土土器（30）	95
第 52 図	土坑と出土遺物（2）	56	第 89 図	遺構外出土土器（31）	96
第 53 図	土坑と出土遺物（3）	57	第 90 図	遺構外出土土器（32）	97
第 54 図	土坑と出土遺物（4）	58	第 91 図	遺構外出土土器（33）	98
第 55 図	土坑と出土遺物（5）	59	第 92 図	遺構外出土土器（34）	99
第 56 図	土坑と出土遺物（6）	60	第 93 図	遺構外出土土器（35）	100
第 57 図	土坑と出土遺物（7）	61	第 94 図	遺構外出土土製品（1）	101
第 58 図	遺構外出土土器（1）	64	第 95 図	遺構外出土土製品（2）	102
第 59 図	遺構外出土土器（2）	66	第 96 図	遺構外出土土製品（3）	103
第 60 図	遺構外出土土器（3）	67	第 97 図	012周辺の石器出土状況	104
第 61 図	遺構外出土土器（4）	68	第 98 図	遺構外出土石器（1）	105
第 62 図	012周辺の土器出土状況	69	第 99 図	遺構外出土石器（2）	106
第 63 図	遺構外出土土器（5）	70	第100図	遺構外出土石器（3）	107
第 64 図	遺構外出土土器（6）	71	第101図	遺構外出土石器（4）	108
第 65 図	遺構外出土土器（7）	72	第102図	遺構外出土石器（5）	109

第103図	遺構外出出土石器（6）	110	第116図	遺構外出出土石器（19）	123
第104図	遺構外出出土石器（7）	111	第117図	遺構外出出土石器（20）	124
第105図	遺構外出出土石器（8）	112	第118図	遺構外出出土石器（21）	125
第106図	遺構外出出土石器（9）	113	第119図	遺構外出出土石器（22）	126
第107図	遺構外出出土石器（10）	114	第120図	遺構外出出土石器（23）	127
第108図	遺構外出出土石器（11）	115	第121図	遺構外出出土石器（24）	128
第109図	遺構外出出土石器（12）	116	第122図	遺構外出出土石器（25）	129
第110図	遺構外出出土石器（13）	117	第123図	遺構外出出土石器（26）	130
第111図	遺構外出出土石器（14）	118	第124図	遺構外出出土石器（27）	131
第112図	遺構外出出土石器（15）	119	第125図	遺構外出出土石器（28）	132
第113図	遺構外出出土石器（16）	120	第126図	遺構外出出土石器（29）	133
第114図	遺構外出出土石器（17）	121	第127図	遺構外出出土石製品	134
第115図	遺構外出出土石器（18）	122			

## 表 目 次

第1表	検出遺構一覧	62	第5表	遺構外出出土石器計測表	137
第2表	土錐計測表	103	第6表	グリッド出土石器一覧	143
第3表	遺構出土石器計測表	135	第7表	検出竪穴住居一覧	148
第4表	遺構出土石器一覧	136			

## 図版目次

図版1	1. 遺跡の立地（亀山ダムから） 2. 遺跡から見た亀山ダム 3. 遺跡近景（南から） 4. 確認調査状況 5. 確認トレンチ内遺物出土状況	5. 012（左）と029（右）土層断面
図版2	1. 001（北東から） 2. 002（北西から） 3. 005（北西から）	図版4 1. 029（北から） 2. 035（北から） 3. P105（南西から）
図版3	1. 012（北から） 2. 012遺物出土状況（北東から） 3. 012遺物出土状況（部分・北東から） 4. 012集石検出状況	図版5 1. P105土層断面（西から） 2. 015（西から） 3. 006（南西から） 4. 013遺物出土状況（南から） 5. 011遺物出土状況（南から） 6. P008遺物出土状況 7. P055遺物出土状況 8. P102（南から）

図版 6	1. P103 (南東から) 2. P104 (南東から) 3. P107遺物出土状況 (西から) 4. P108・P109 (南西から) 5. P109 (南西から) 6. P110 (西から) 7. P111 (西から) 8. P112 (南から)	P074・P075・P076出土土器 図版19 1. P077・P104・P107・P110・P116出土土器 2. 土製品 (1) 3. 土製品 (2)
図版 7	1. P113 (北から) 2. P116 (西から) 3. 031・033・036 (北東から) 4. 6区ピット群 (南東から)	図版20 4B・C・D・5C出土土器 図版21 5C出土土器 (2) 図版22 5C出土土器 (3) 図版23 5C出土土器 (4) 図版24 5C出土土器 (5) 図版25 5D・6D出土土器 図版26 6D出土土器 (2)
図版 8	遺構出土土器 (1)	図版27 7D出土土器 (1)
図版 9	遺構出土土器 (2)	図版28 7D出土土器 (2)
図版10	遺構出土土器 (3)	図版29 7D出土土器 (3)
図版11	遺構外出土土器 (1)	図版30 7D出土土器 (4)
図版12	遺構外出土土器 (2)	図版31 7D出土土器 (5)
図版13	1. 001出土土器 (1) 2. 001出土土器 (2) 3. 001出土土器 (3)	図版32 表採土器 図版33 1. 遺構出土石器 (1) 2. 遺構出土石器 (2) 3. 遺構出土石器 (3)
図版14	1. 001出土土器 (4) 2. 002出土土器 (1) 3. 002出土土器 (2)	図版34 1. 遺構出土石器 (4) 2. 遺構出土石器 (5) 3. 遺構出土石器 (6)
図版15	1. 012出土土器 (1) 2. 012出土土器 (2) 3. 012出土土器 (3)	図版35 1. 剥片 2. 石核 3. 石鏃
図版16	1. 029出土土器 2. P105出土土器 3. 011出土土器 (1)	図版36 1. 打製石斧・磨製石斧 2. 石皿 (1) 3. 石皿 (2)
図版17	1. 011出土土器 (2) 2. 011出土土器 (3) 3. 036出土土器	図版37 1. 石皿 (3) 2. 磨石 (1) 3. 磨石 (2)
図版18	1. 003・006・008出土土器 2. P020・P022・P027・P032・P039・P040・P045・P051・P052・P053・P055A・P055B出土土器 3. P060・P064・P065・P067・P068・P071・	図版38 1. 石錘 (1) 2. 石錘 (2) 3. 石製品・装身具

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

千葉県土木部は、一般国道465号（藤林地区）特殊改良第1種事業を計画した。この事業の実施に当たって、千葉県教育委員会に対して事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出したところ、事業地内に遺跡が所在する旨の回答が出された。それを受け、遺跡の取扱いについて千葉県教育委員会との間で協議が重ねられた結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整った。調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり、委託契約を締結した。

発掘調査は平成7年度～平成9年度にかけて行われた。まず平成7年度には、調査対象となる4,900m<sup>2</sup>に対して、その10%に当たる490m<sup>2</sup>について上層の確認調査を行い、その結果に基づいて3,000m<sup>2</sup>の本調査範囲を決定した。そしてそのうちの1,800m<sup>2</sup>について、平成7年度に本調査を行った。また、平成8年度には、残り1,200m<sup>2</sup>のうち770m<sup>2</sup>について、さらに平成9年度には430m<sup>2</sup>について、それぞれ本調査を実施した。なお、下層については立川ローム層の堆積が一部にしか認められない状況から、確認調査及び本調査は行っていない。

整理作業は平成10年度から本格的に開始し、各年度の整理工程にしたがって作業を進め、平成12年度に原稿執筆し、報告書の刊行に至った。

なお、各年度の担当と作業内容は次頁のとおりである。



第1図 遺跡の位置 (1 : 200,000)

平成7年度（確認・本調査）

期 間 平成7年10月2日～平成7年11月30日  
調査研究部長 西山太郎，市原調査事務所長 森 尚登  
担当 技師 城田義友  
作業内容 確認調査 上層490m<sup>2</sup>／4,900m<sup>2</sup>，下層—m<sup>2</sup>／—m<sup>2</sup>  
本調査 上層1,800m<sup>2</sup>

平成8年度（本調査）

期 間 平成8年10月1日～平成8年11月29日  
調査部長 西山太郎，南部調査事務所長 高田 博  
担当 研究員 土屋治雄  
作業内容 本調査 上層770m<sup>2</sup>

平成9年度（本調査）

期 間 平成9年9月1日～平成9年11月14日  
調査部長 西山太郎，南部調査事務所長 高田 博  
担当 技師 糸原 清  
作業内容 本調査 上層430m<sup>2</sup>

平成10年度（整理）

期 間 平成10年6月1日～平成11年3月31日  
調査部長 沼澤 豊，南部調査事務所長 高田 博  
担当 木更津調査室長 小林清隆  
作業内容 出土遺物の水洗・注記から実測の一部

平成11年度（整理）

期 間 平成11年7月1日～平成11年9月30日，平成11年12月1日～平成12年2月29日  
調査部長 沼澤 豊，南部調査事務所長 高田 博  
担当 木更津調査室長 小林清隆  
作業内容 実測の一部から挿図・図版作成の一部

平成12年度（整理，報告書刊行）

期 間 平成12年4月3日～平成13年3月31日  
調査部長 沼澤 豊，南部調査事務所長 高田 博  
担当 木更津調査室長 小林清隆，研究員 高梨友子  
作業内容 挿図・図版作成の一部から原稿執筆，報告書刊行

## 2 調査方法と成果の概要（第2・3図）

発掘区の設定は、公共座標に基づく方眼を調査対象範囲に被せて行った。20m×20mの方眼を大グリッドとして配し、北から南へ1・2・3…10、西から東へA・B・C…Gの記号を付した。さらに大グリッドの中を2m×2mの小グリッドに100分割し、北西隅から南東隅へ00・01・02…99と付し、各地区は大グリッドと小グリッドを組み合わせて、例えば5B-73、7C-12などと呼称することとした。

南北にのびる調査対象範囲は、北から南に行くほど標高が高くなる斜面に立地しており、その南端は急崖を成し、眼下の谷に小櫃川が流れる。平成7年度の確認調査では、斜面上部については、谷の落ち際からセンターに対して直交になるトレンチを6本、平行になるものを3本、また、その一部は交わるように配置した。一方水田として利用されていた北部の標高の低い部分には、2m×2mの確認グリッドを大グリッドに沿って7か所を任意に配置した。そして表土下の状況の把握に努めた結果、斜面上部は後代の開墾などにより若干削平されていることが確認された。しかし、調査区の中央部分には縄文時代後期に属すると考えられる竪穴住居や土坑が、比較的良好な状態で数多く存在することが明らかになった。また、標高が低く水田として利用されていた部分では、遺構や遺物はほとんど確認されなかった。そこで、斜面中央部分を中心に3,000m<sup>2</sup>の本調査範囲が決定され、買収・伐採の済んだ部分から順次本調査を行うこととなった。

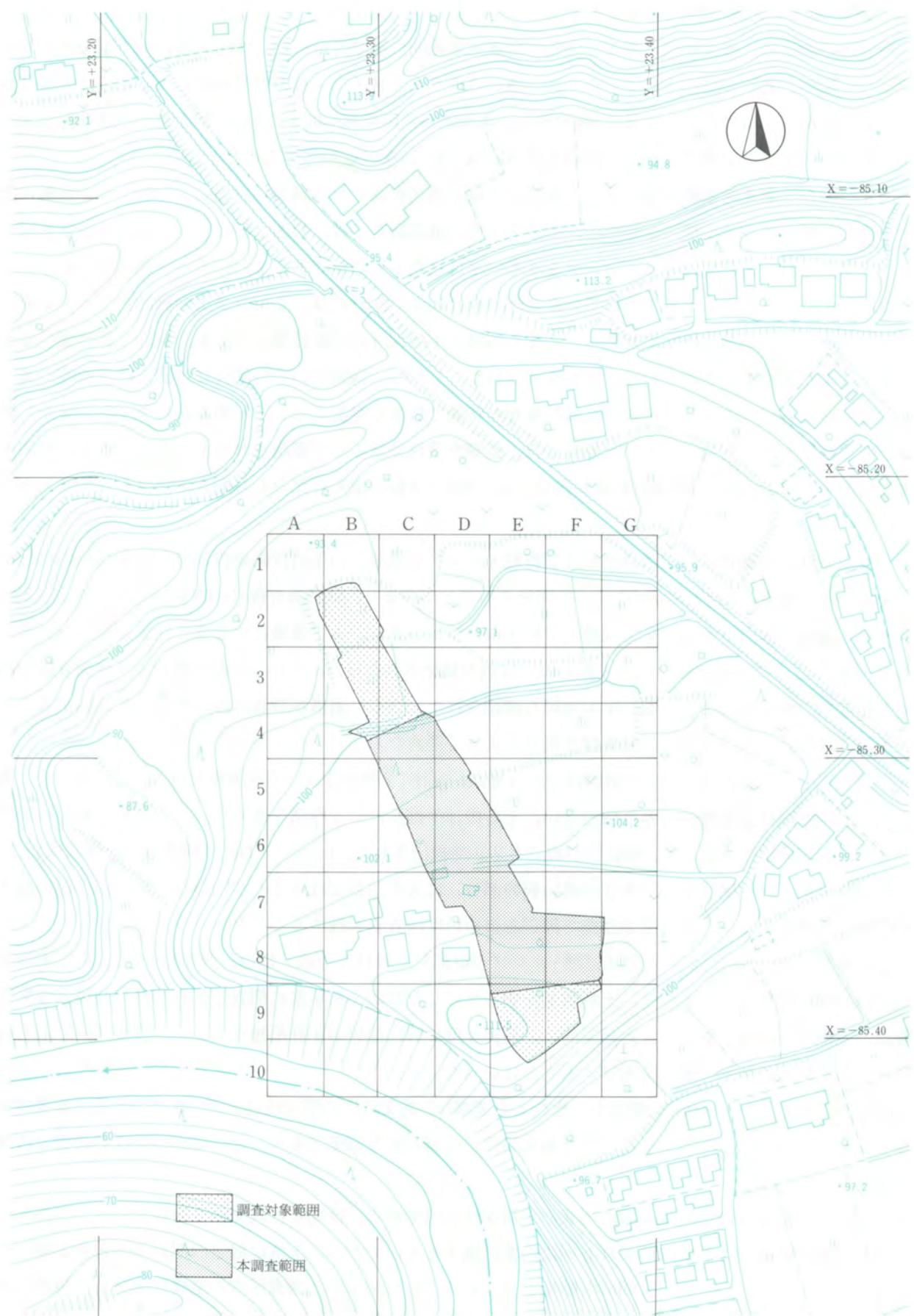
平成7年度の本調査は、生活道路および電柱・ポンプ小屋などの生活設備施設部分と、未伐採の杉林部分を除いた2地点、合計1,800m<sup>2</sup>について実施することが決まり、確認調査後に引き続いて行った。現表土上面から遺構が検出される面までは最大で約1mの深さがあり、まず重機による表土除去を行った。その結果、100基近くにものぼる土坑と3軒の竪穴住居が検出されたほか、それらを取り囲むように調査区の南端と北端で、縄文時代後期の遺物集中地区も確認された。さらに遺構が調査区外の東西方向に広がることが予想された。これらの遺構の発掘は手掘りによって進めた。

平成8年度は、第3図に示した斜線部分の3地点、合計で770m<sup>2</sup>について本調査を行うこととなった。調査は、前年度同様表土除去のみ重機で行い、その後は手掘りによる作業を進めた。その結果、新たに竪穴住居や土坑が検出されたほか、埋甕集中地点も2か所検出された。しかし、7D区で検出された竪穴住居は、生活道路・ポンプ小屋設置下（第3図濃い網の部分）に大半が含まれることが明らかになり、一部の調査を行った後埋め戻して、次年度の調査で周辺も含め再度精査を実施することとなった。

平成9年度は、残されていた生活道路・ポンプ小屋部分と杉林部分の2地点、合計430m<sup>2</sup>について本調査を行い、新たに竪穴住居1軒と、土坑数基を明らかにしたほか、前年度に精査しきれなかった竪穴住居を確認、完掘して調査を終了した。結果的に、最終年度に竪穴住居が4軒重複していて、調査区内で最も複雑な状況を呈する地点の調査を実施することになった。

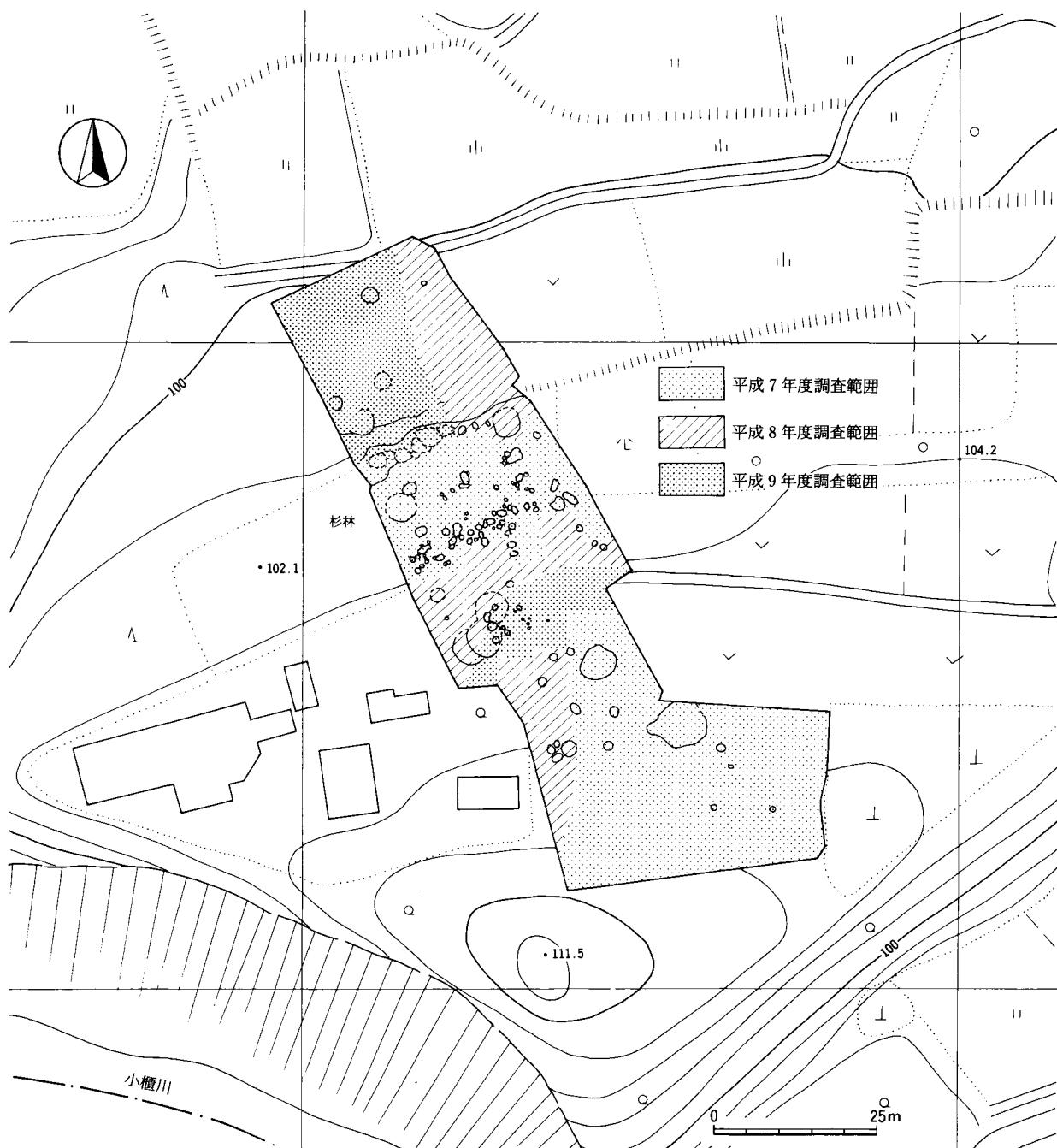
本調査を実施した3,000m<sup>2</sup>の範囲から検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居8軒、同じく埋設土器集中遺構2か所、土坑88基、小ピットで、全て縄文時代に帰属可能な遺構であり、そのほかの時代の遺構は皆無であった。

竪穴住居の時期は後期前葉の堀之内式の土器を伴う段階から、後期安行式を伴う時期にかけてであり、埋設土器集中遺構の2か所はいずれも堀之内期に属するものである。土坑は堀之内期から加曾利B期に営まれたと考えられ、小ピットも同様な時期と見られる。したがって、調査区内の遺構は縄文時代後期の構築に集中していることが判明した。



第2図 調査区と周辺地形 (1 : 2,000)

次に出土遺物について簡単にふれておきたい。今回の調査では発掘面積や検出遺構数に比して多くの遺物が出土し、その量は整理箱で400箱を数えた。ほとんどは、縄文時代後期に属する土器で占められ、内訳では堀之内式の割合が最も多く、加曾利B式、安行式が次いでいる。ほかにわずかであるが、早期撲糸文系土器、中期中葉から末葉の土器、晩期の土器が出土している。土製品では、土器片錐、円板状品、土偶等が存在するが、少量の出土にとどまっている。石器類では石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、軽石製浮、礫石錐等が出土しているが、中でも礫石錐は145点出土しており注目される。また、石棒や垂飾等の精神活動を示す遺物も出土している。



第3図 遺構検出状況 (1:1,000)

## 第2節 遺跡の位置と周辺の環境（第4図）

寺ノ代遺跡（1）は、君津市藤林字寺ノ代357ほかに所在する。JR久留里線の終点、上総亀山駅からは250mほど線路沿いを木更津方面に戻った位置にあり、「藤林遺跡」として周知されていた場所<sup>1)</sup>に含まれる。遺跡は小櫃川上流域右岸の標高95m～100mの台地緩斜面上に立地しており、遺跡のすぐ南から西側の絶壁下では、ダム湖である亀山湖を経由した小櫃川が東へ、そして再び北へと蛇行し流れている。遺跡の広がりを、畠の表面に露呈している遺物の分布状況等から推測すると、調査区の西側については小櫃川を見下ろす崖の際が限界になるであろう。調査区の北側を南西から東に入る谷と、現在水田として耕作されている斜面部の間での遺物は希薄となり、確認調査の結果と同様な状況が広がるとも考えられる。一方調査区の東から北東方向の平坦部では、縄文時代後期の堀之内式を主体に遺物の分布が密であり、晚期の土器も散見される。しかし、現時点では明確な遺跡範囲は確定不可能な状況にあるので、周辺の調査機会には慎重を期す必要があろう。

遺跡の南から西側を流れる小櫃川は、清澄山に水源を発し、著しく蛇行を繰り返しながら房総丘陵のほぼ中央部を北流して東京湾に注ぐ、県内有数の河川である。遺跡のある上流域では浸食作用によって河岸段丘が形成され、河床面までの比高差50m以上を測る浸食の深い渓谷も見られる。本遺跡もこのような、垂直に切り立つ段丘上に立地し、南西側に隣接して流れる小櫃川へ下るのは、断崖絶壁に阻まれてほとんど不可能である。中世にはこのような「天然の要害」ともいるべき地形を利用して、亀山城（3）、荏柄城（8）、大戸城（15）、蔵玉砦（2）<sup>2)</sup>などの城や砦が築かれた。

古代以前では、主に縄文時代の遺跡が多く確認されている。

小櫃川を挟んで対岸の台地上に立地する豊田遺跡（11）<sup>3)</sup>では、数軒の住居跡や包含層、北側斜面に形成された「土器捨て場」が確認され、中期後葉加曾利E式～晩期末葉千網式に至る相当量の土器が出土している。その中でも主体を占めていたのは後・晩期安行式土器であるが、特に千網式土器の出土については、現在のところ君津市内では極めて希であり注目に値する。寺ノ代遺跡とは時期的に重なる部分もあるが、主体とする時期は、豊田遺跡の方がやや新しいといえる。

寺ノ代遺跡と上総亀山駅を挟んでほぼ等距離に位置する、標高140mの坂畠南遺跡（10）<sup>4)</sup>では、炉穴や住居跡、土坑などが検出されており、早期前葉～晩期末葉にわたる土器が出土している。主体となるのは中期中葉勝坂式～阿玉台式である。

また、直線距離で寺ノ代遺跡から約2.5km東に離れた標高140mの台地上にある臼井台北遺跡（5）<sup>5)</sup>では、確認調査の結果、遺構は検出できなかったものの、早期前半燃糸文系を中心とし中期後半に至る土器が出土している。

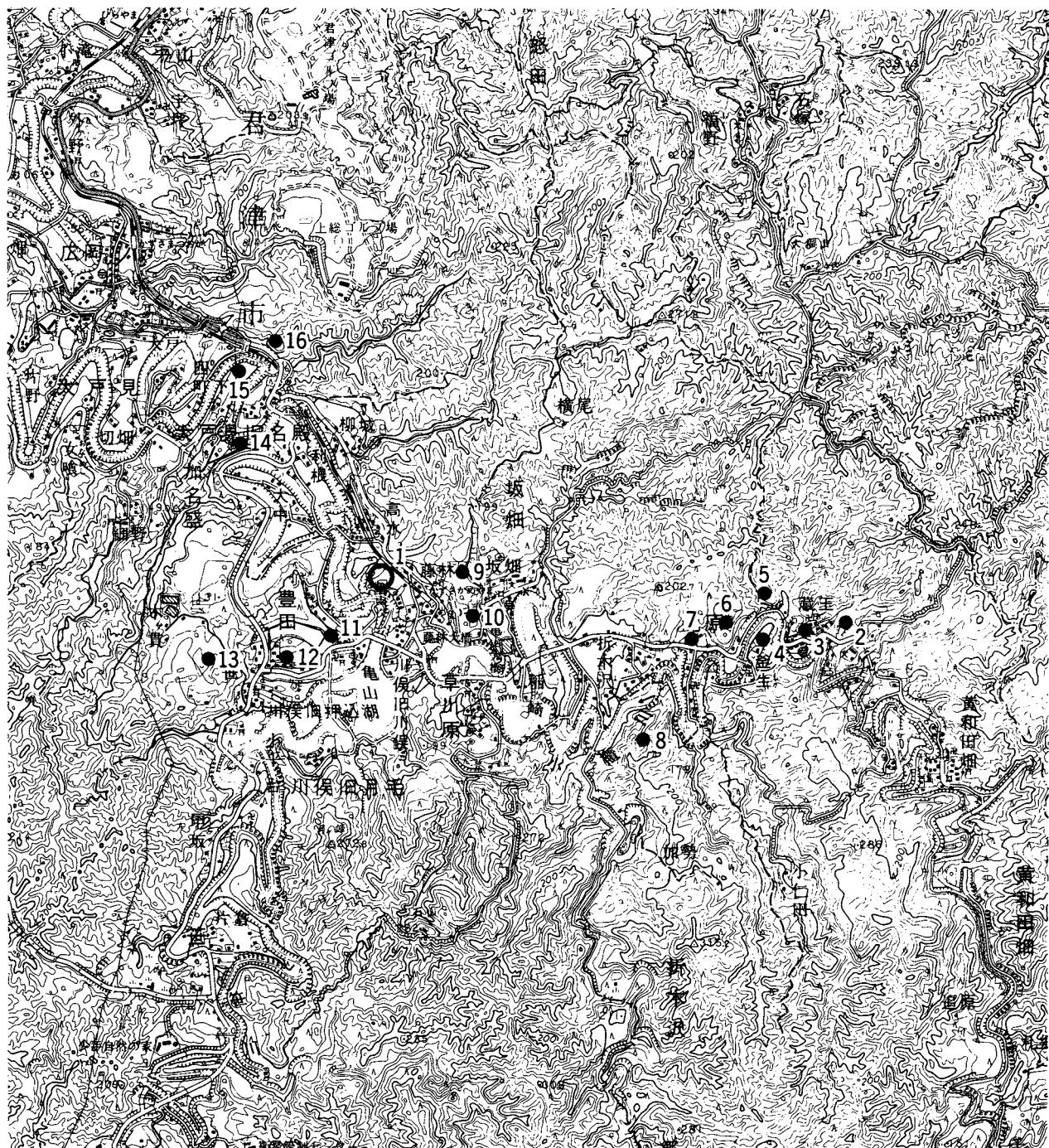
このほかにも、詳しい調査はされていないものの、臼井台遺跡（4）、外原遺跡（6）、坂畠遺跡（9）、前釜遺跡（12）、中釜遺跡（13）、海老山遺跡（14）、城ノ作遺跡（16）なども縄文時代の遺跡として知られている<sup>11)</sup>。

続く弥生時代や古墳時代に関しては、坂畠遺跡（9）や坂畠南遺跡（10）、豊田遺跡（11）で弥生土器が、坂畠南遺跡（10）で土師器が確認されている<sup>11)</sup>にすぎず、不明な点が多い。

注1 財団法人千葉県文化財センター 1987 『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)－市原市・君津・長生地区－』

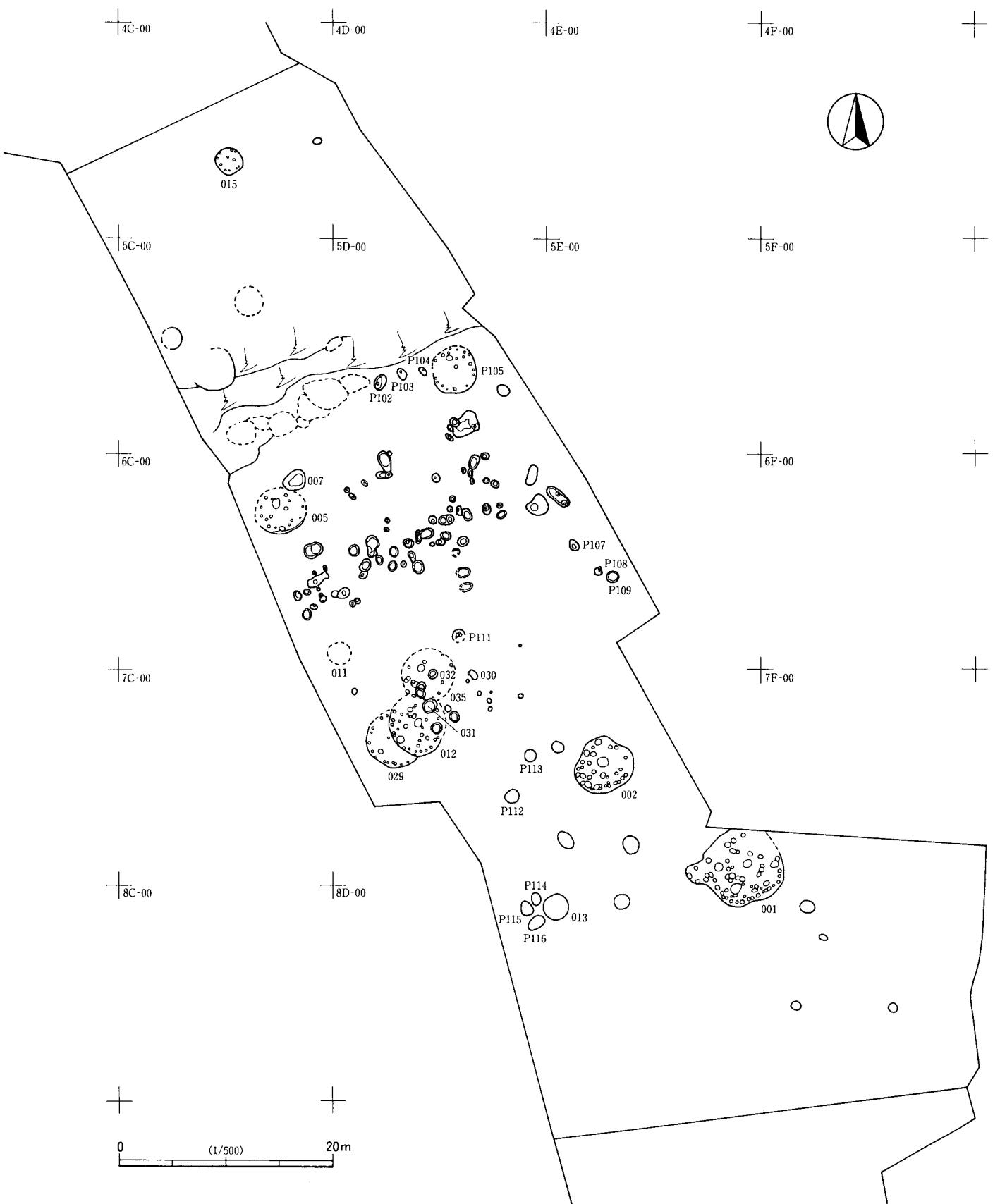
2 諸墨知義ほか 1990 『蔵玉砦跡』 財団法人君津郡市文化財センター

- 3 能城秀喜 1991 『君津市内遺跡発掘調査報告書』 君津市教育委員会  
 4 財団法人君津郡市文化財センターの御教示による。  
 5 甲斐博幸ほか 1988 『臼井台北遺跡』 財団法人君津郡市文化財センター



1 寺ノ代遺跡, 2 蔵玉砦跡, 3 亀山城跡, 4 臼井台遺跡, 5 臼井台北遺跡, 6 外原遺跡, 7 滝原塚群, 8 苾柄城跡, 9 坂畠遺跡, 10 坂畠南遺跡, 11 豊田遺跡, 12 前笛遺跡, 13 中笛遺跡, 14 海老山遺跡, 15 大戸城跡, 16 城ノ作遺跡

第4図 周辺の遺跡分布図 (1:50,000)



第5図 遺構配置図

## 第2章 検出した遺構と出土遺物

### 第1節 壇穴住居と出土遺物

調査区内で検出した壇穴住居は8軒で、それらの帰属時期は、縄文時代後期前葉から後期後半である。検出軒数こそ少ないが、これまでの小櫃川上流域での調査例が乏しかったので、今後当地域の注目される資料になるであろう。

各遺構の記述に先立ち、遺構番号、掲載資料についての補足説明を下記に行っておきたい。

今回の調査では、遺構平面の確認段階で壇穴住居か小壇穴状遺構と判断されるものには、001から一連の遺構番号を用いた。また、小土坑については3桁の数字の前に「P」の先頭記号を付け、P001からの連番の番号を付けて調査を始めた。ただし、調査を進めていく中で遺構でないことが判明したものは欠番とした。第1章に記載したとおり、調査が3年次に亘り、しかも調査区が隣接していないので、それぞれの番号は調査順を原則に付した。

なお、P105は当初小土坑と考えて調査を開始したが、その途中で壇穴住居であることが明らかになった遺構である。しかし、後の混乱を避けるため、遺構番号及び遺物番号の変更は行わなかった。また、ほかの遺構についても、調査結果に関わらず、本書では現地で付した遺構番号と遺物番号をそのまま使用している。

遺物については、遺構のプラン中から出土した遺物を遺構出土として取り上げ、掲載についても同様に取り扱っているが、遺構と確認可能になる状態以前に出土した遺物は遺構外とし、グリッド出土としている。したがって、遺構外出土遺物の一部については、遺構覆土上層に包含されていた可能性を残している。

001（遺構：第6図 図版2、遺物：第7～9図 図版8・13・14・19・33）

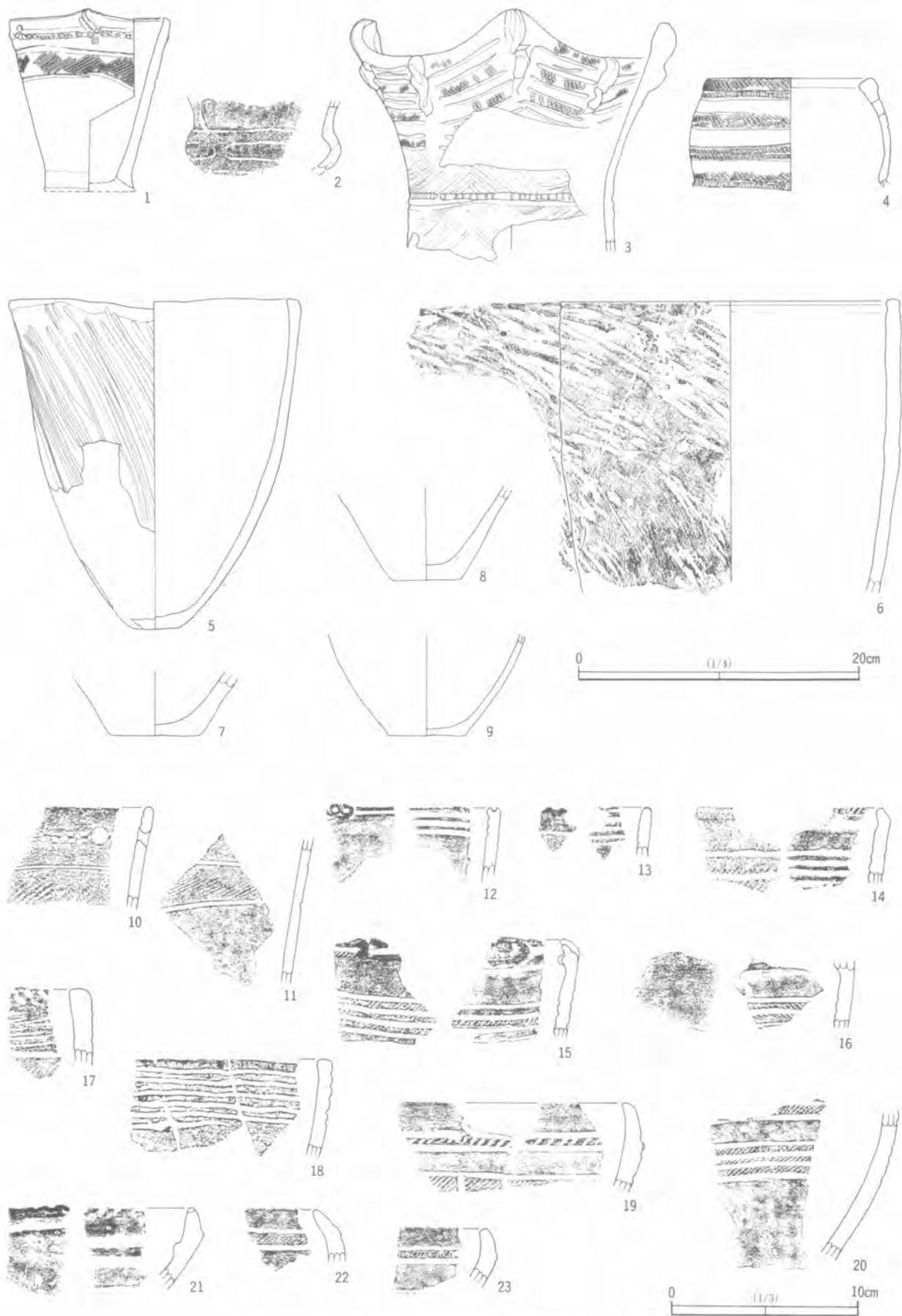
7E-99を中心的位置する。この周辺は傾斜が緩やかな地区で、平場状の地形が形成された場所に検出された。しかし、住居の北側縁辺は農地造成に伴う改変の際に削られ、遺構平面の確認段階で、一部がすでに遺存しないことが明らかになった。

遺構の平面は比較的容易に捉えられ、約6mの円形プランの西側に張り出し部が付く形態として確認した。覆土を取り除くと、北東から北そして北西にかけての壁が、人為的削平ばかりでなく、すでに流出していることが判明し、遺構の残りは思ったより不良であった。それでも南側の良好な部分では、床面まで37cmの深さがある。平面形は円形に近いと見られるが、南東側にやや角が認められ、南側と北側で柱穴配置に粗密があることなどから、本来の形態の復元は難しい。また、当初住居の一部と考えていた西側張り出し部も、そこの底面レベルが床面レベルよりも若干高くなることから、住居に直接伴う施設とするには疑問がある。したがって張り出し部は別遺構の可能性が高い。

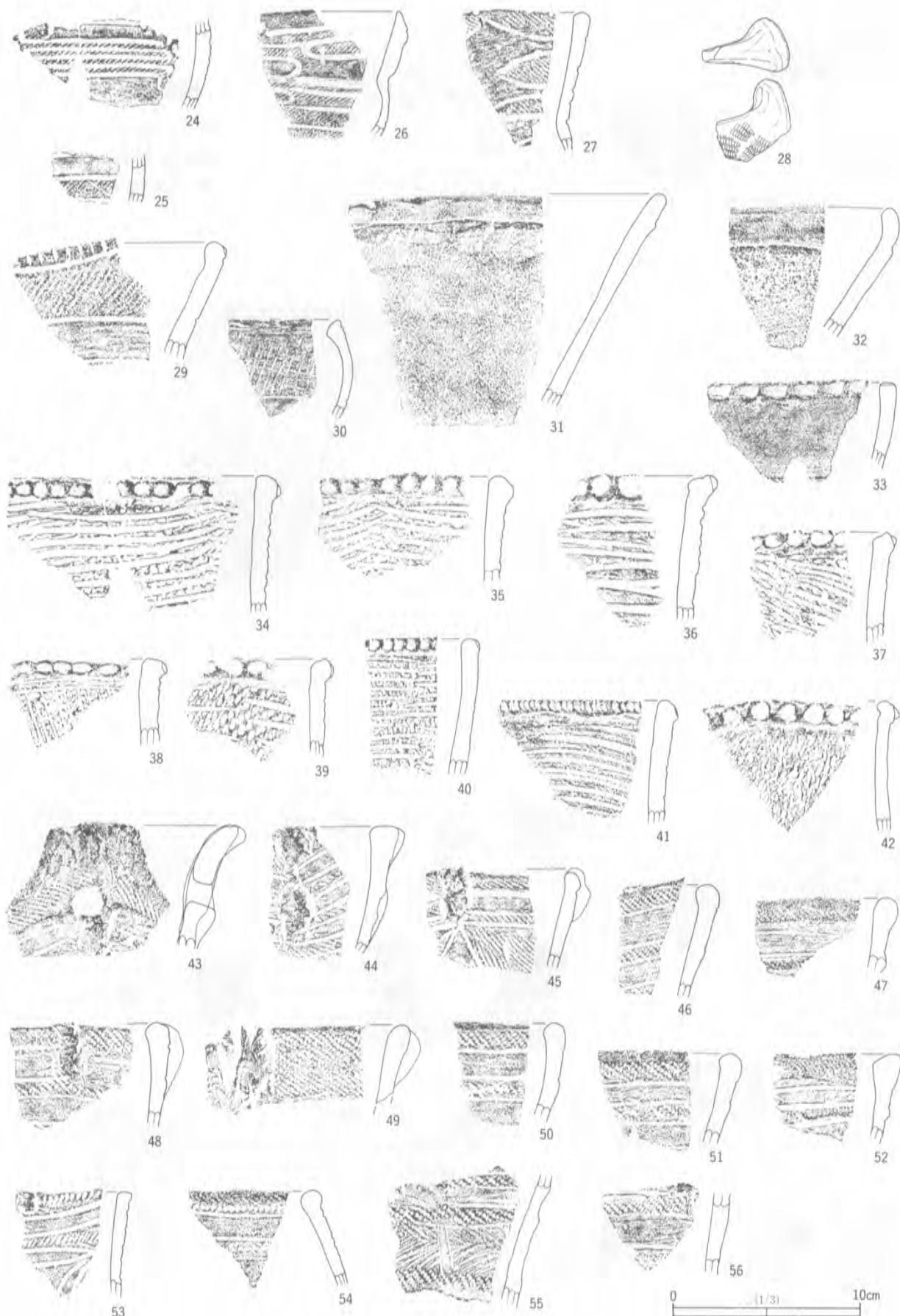
床面は南側で保存状態がよいものの、硬質になる明瞭な範囲はつかめない。炉は地床炉で、住居のほぼ中央に位置し、円形の平面形を呈している。火床面までは10cmの深さがあるが、底面は火熱による硬化の度合いが低い。ほかに2か所、焼土が検出されており、その内の南側については、炉のような掘込みが認められる。ピットは59か所検出された。南側の壁に沿って多く検出され、北側は少ない。また、炉と壁の



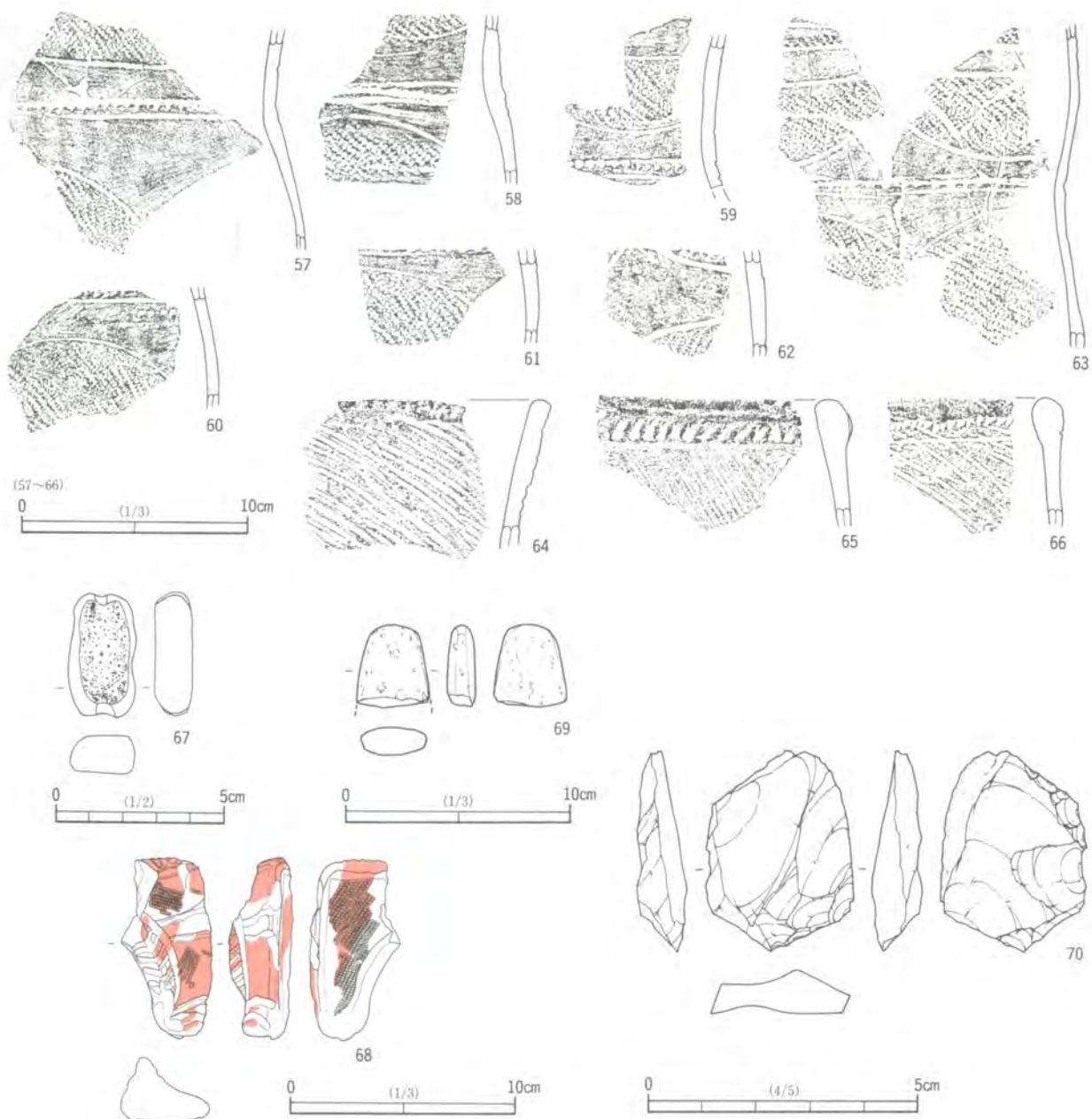
第6図 001



第7図 001出土遺物（1）



第8図 001出土遺物(2)



第9図 001出土遺物（3）

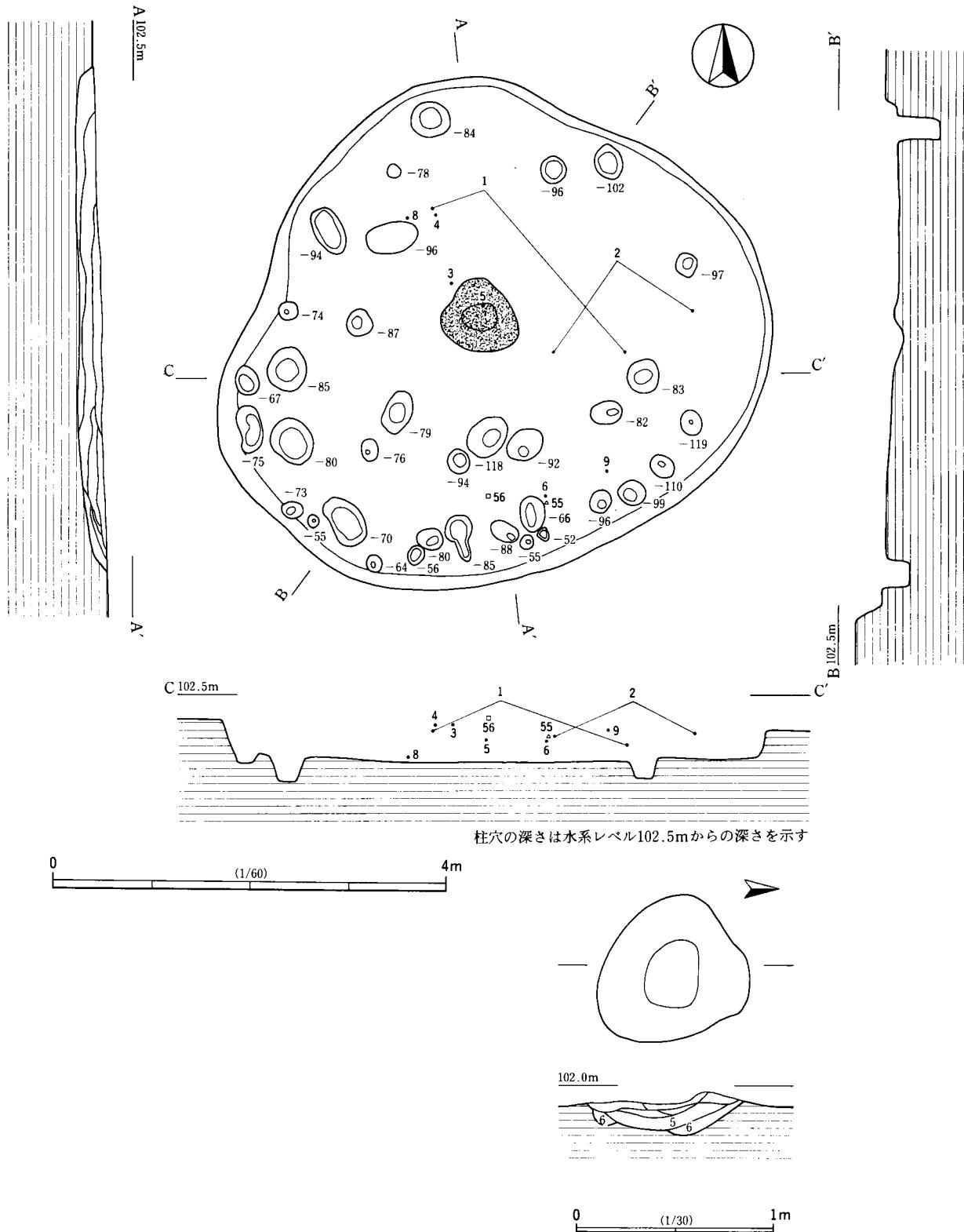
中間の位置にピットが一巡する状況が看取される。入り口は南西側の可能性がある。

遺物は覆土中を主体に出土し、堀之内2式から安行1式までが認められる。加曾利B式も目立つが、主体は安行1式になる。第7図1は小型の精製土器で残存する器高9.6cm、口径8.8cmである。4は括れをもつ形態で、その口縁部と考えられる。肥厚した口縁部に円孔が認められる。第9図67は土器片錐、69は軽石製品である。68は土偶の脚部で赤彩が施されている。

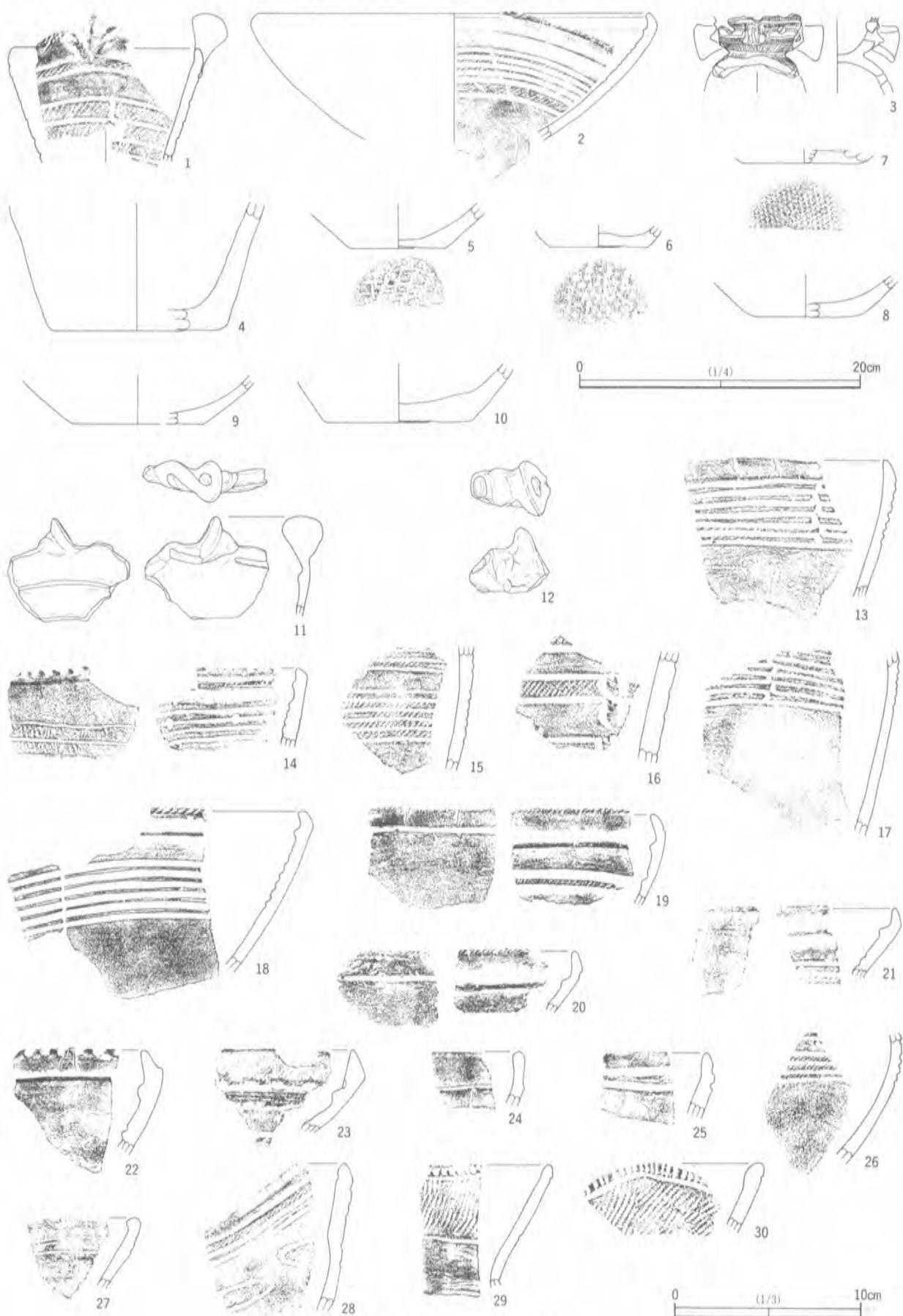
002（遺構：第10図 図版2、遺物：第11・12図 図版14・33）

7E-42を中心に位置し、確認トレンチで存在が明らかになっていた竪穴住居である。他の遺構との重複関係をもたず、また、傾斜が緩やかな地区に位置しているため、住居の全体を把握できた。平面形は不整な

円形で、規模は北東－南西方向に5.70m、その直交方向に4.95mである。検出面から床面までは30cm残存し、壁は緩やかに立ち上がる。床面は壁際から中央部に向かって、わずかに低くなる状況が看取される。特に硬化している範囲は認められない。先に記したように平面形は不整な円形を呈し、柱穴についても規則的な配置は認められない。基本的には壁柱穴と考えられるが、壁に沿って検出されているのは、南側の



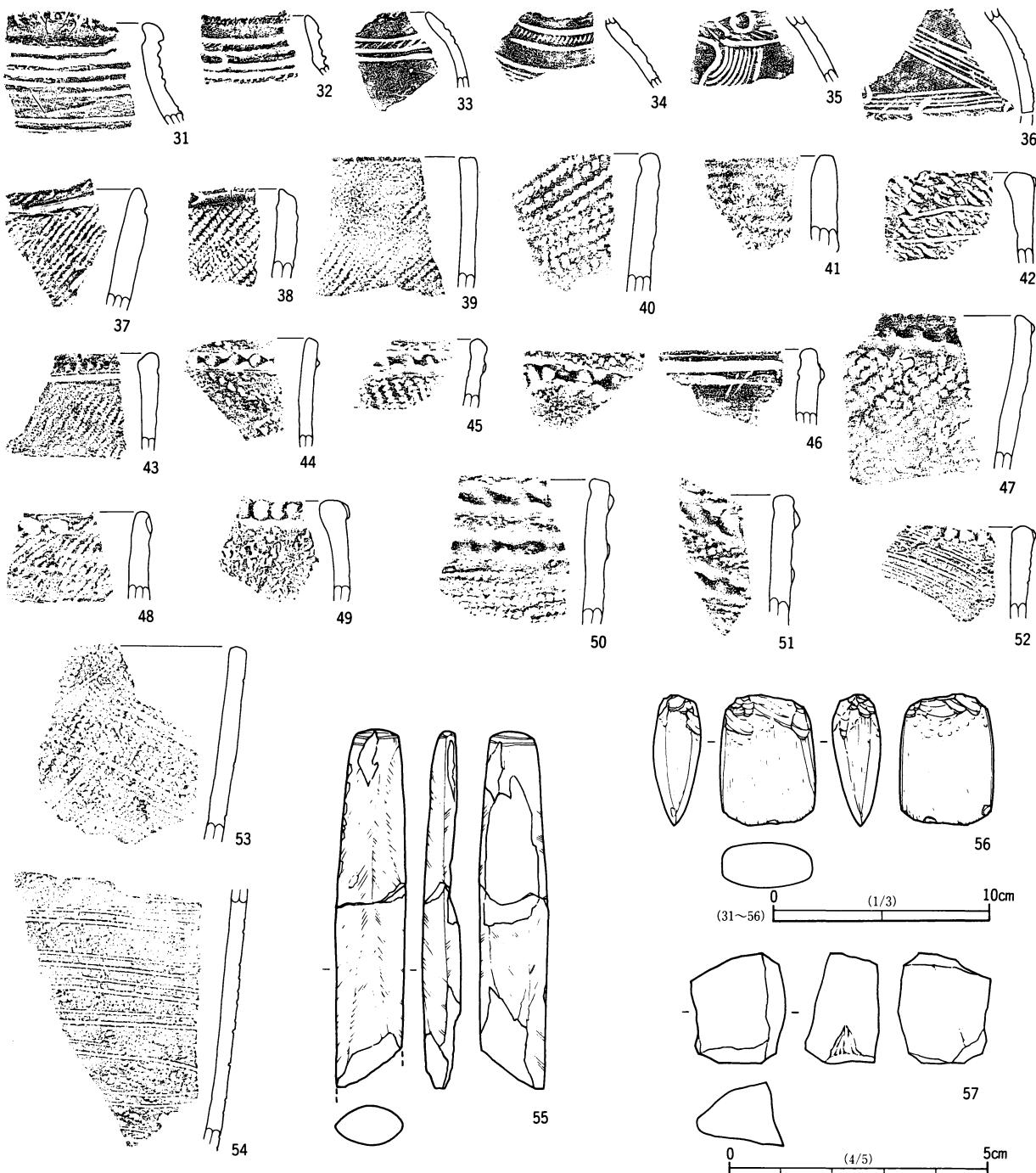
第10図 002



第11図 002出土遺物（1）

みであり、東側から北側については壁柱穴とは言い切れない。ただ住居の内側には一巡するピットが存在し、これらも柱穴である可能性がある。出入り口と断定はできないものの、ピットが密に存在している、住居の南西側から南側にかけての部分がその可能性がある。炉は地床炉で、住居のほぼ中央に設置されている。炉の土層断面図の5・6層は、火床面の焼土化の及んでいる深度を示している。

遺物は覆土から床面にかけて、第11図～第12図に掲載した土器、石器、石製品が出土している。第11図3は安行式の異形台付土器と考えられ、ほかは加曾利B式で主体はB1式になる。第12図57は滑石の剥片で、一部に切削の痕跡が確認される。装身具の素材と考えられる。

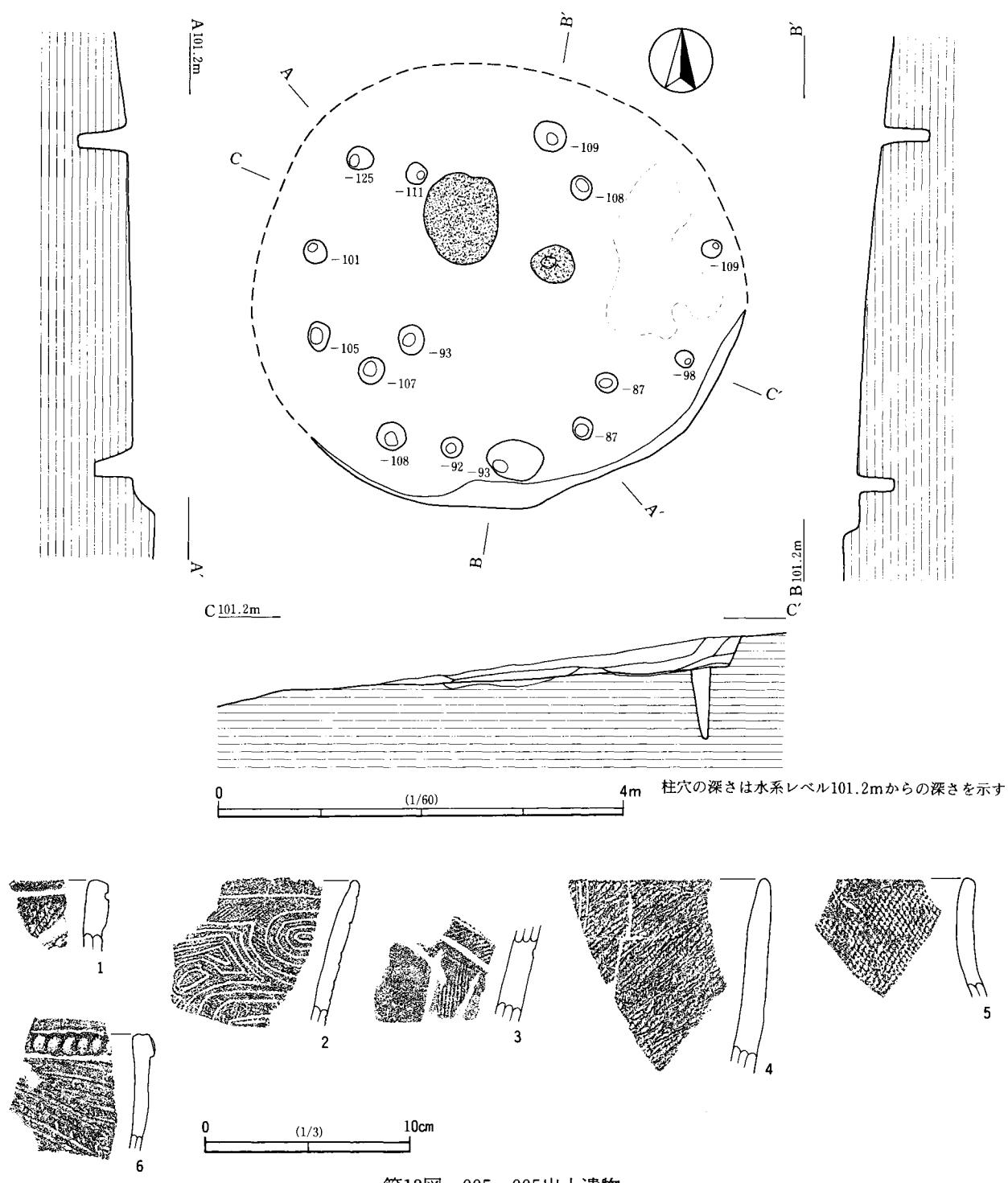


第12図 002出土遺物（2）

005 (遺構: 第13図 図版2, 遺物: 第13図)

6C-27を中心にして位置する。緩やかな斜面部であり、ここから約5m北側から段がつくように急斜面となる。検出面はやや粘性のある黄色土で、一部に小礫を含む粘質の黄白色土が露呈する。本遺構の北東に007(土坑)が近接して位置するが、別遺構として捉えている。

覆土の堆積は薄く、壁は山側である南側に一部が検出されたにすぎない。床面も谷側では本来の構築面が失われており、傾斜に合致するように北側が低くなっている。ただ、住居の東側の小範囲に硬化面の残



第13図 005・005出土遺物

存を認めることができる。壁の遺存する部分では、外傾する状況が見られ、壁下に溝は存在しない。柱穴は壁下に伴うという状況ではなく、やや壁から住居の内側に入った位置に検出された。基本的には住居の内側を巡るような配置が看取されるが、各柱穴の間隔は不規則である。また、検出した柱穴から出入り口部の方向を判断することはできない。炉は中心からやや北側に検出され、地床炉である。火床面の硬化は顕著ではない。

遺物は土器片と礫が出土している。全体の形が復元可能な大型の破片は出土していない。2・3は文様の一部が窺える数少ない資料で、堀之内2式の精製深鉢になるであろう。

#### 012（遺構：第14・15図 図版3，遺物：第17～27図 図版8・9・15・19・33・34）

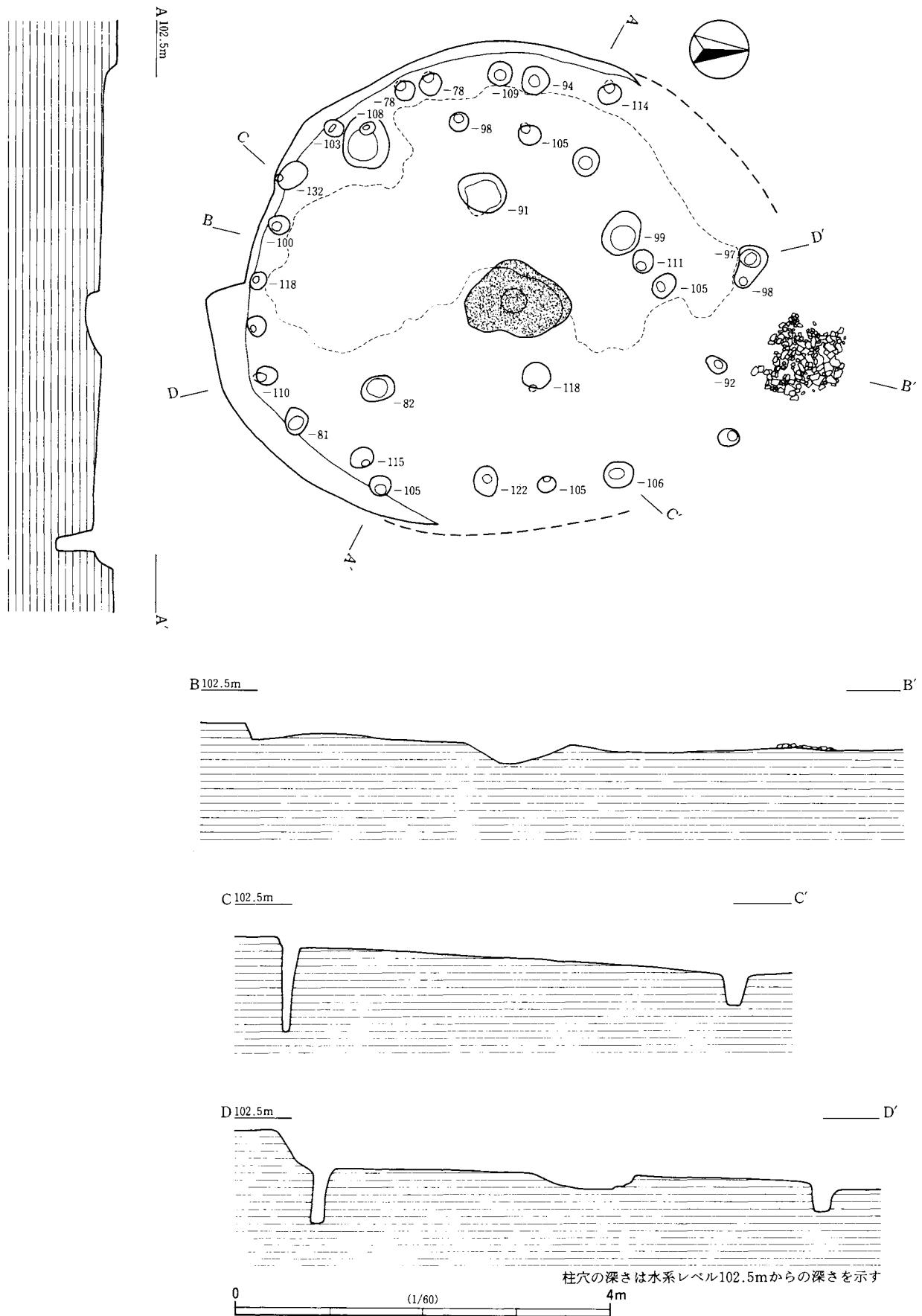
斜面部の中位に位置し、029・035と重複する。平成8年度の調査において一部を検出精査したが、大部分が次年度調査予定地区に含まれていたので、埋め戻して翌平成9年度に全体を完掘した。調査が2年度にまたがったため、3軒の重複関係が明瞭に捉えられなかったが、本住居が029よりも新しいことは、平面的に確認できた。しかし、斜面部に位置することから、035と重複する北側の状況は不明瞭であった。

平成8年度の調査では、まず西側の壁と床を検出し、続いて北から北東にかけての壁の検出に努めた。西側の床面は平坦で硬く、北側についても平坦であったものの、やや軟らかな状態を呈していた。その床面を追っていくと、軟質な泥岩が平面的に集積されていたが、その時点では全容を明らかにすることはできなかった。平成9年度の調査によって完掘できた結果、西一東で5.36mの規模があり、良好な部分で検出面から床面まで0.45mの壁高を残すことが判明した。ただ、北側については、壁の立ち上がりが不明で、泥岩の集石の範囲が明らかになったにとどまった。

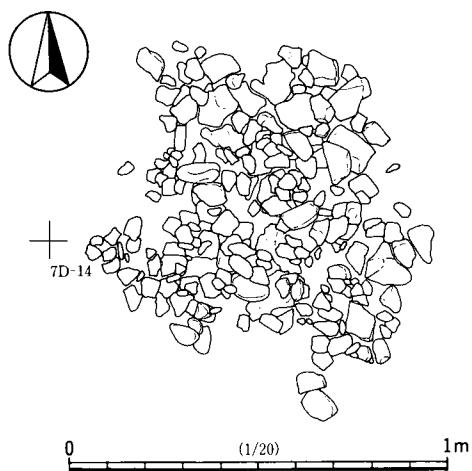
壁は西一南一南東にかけて全体の約2分の1が捉えられ、また、その壁の下に沿うような状況で柱穴も検出された。しかし、集石の検出された北側では柱穴が少なく、一巡する様相は看取不可能である。床面は西側で締まった状態で、南側と北側では硬さを認めない。炉は中央に位置し、灰や炭化物を覆土とし、火熱によって著しく硬化した一面の火床面を確認した。北側で検出した集石は、床面とほぼ同一の面に石が置かれることから、本住居に伴うと判断した。その規模は0.9m×0.8mで略方形の範囲に集中する。石材は全て軟質な泥岩で占められ、磨耗を伴うものが多い。礫の形態は様々で、基本的に平面的に敷かれた状態を示すが、一部上に重なったり浮いた状態で検出されている。当初の見解にしたがうと、本集石は住居に伴うものであるが、推定される円形のプランの外側に位置することになる。そのことから、張り出し部の存在が推測されるが、壁の残存がないため規模及び形状は不明である。しかし、この集石の意味を積極的に評価するならば、住居の入口に伴う敷石に類する施設との見方も可能であろう。なお、図版3-1に見られる本住居北側の大型土坑状掘込みは、後世の風倒木に原因するもので、直接遺構との関係はない。

遺物は遺構プラン検出の段階から出土し始め、床面に達するまで多量に出土した。プランが明らかになるまでに、遺構外出土として取り上げた遺物の中にも、本住居の覆土に含まれていた可能性の高いものも存在する（第62・97図参照）。しかし、床面から出土した遺物は少なく、圧倒的に覆土中からの出土が多い。遺物は土器を主体に、土製品、石器、礫、骨粉があり、整理箱で27箱の出土があった。

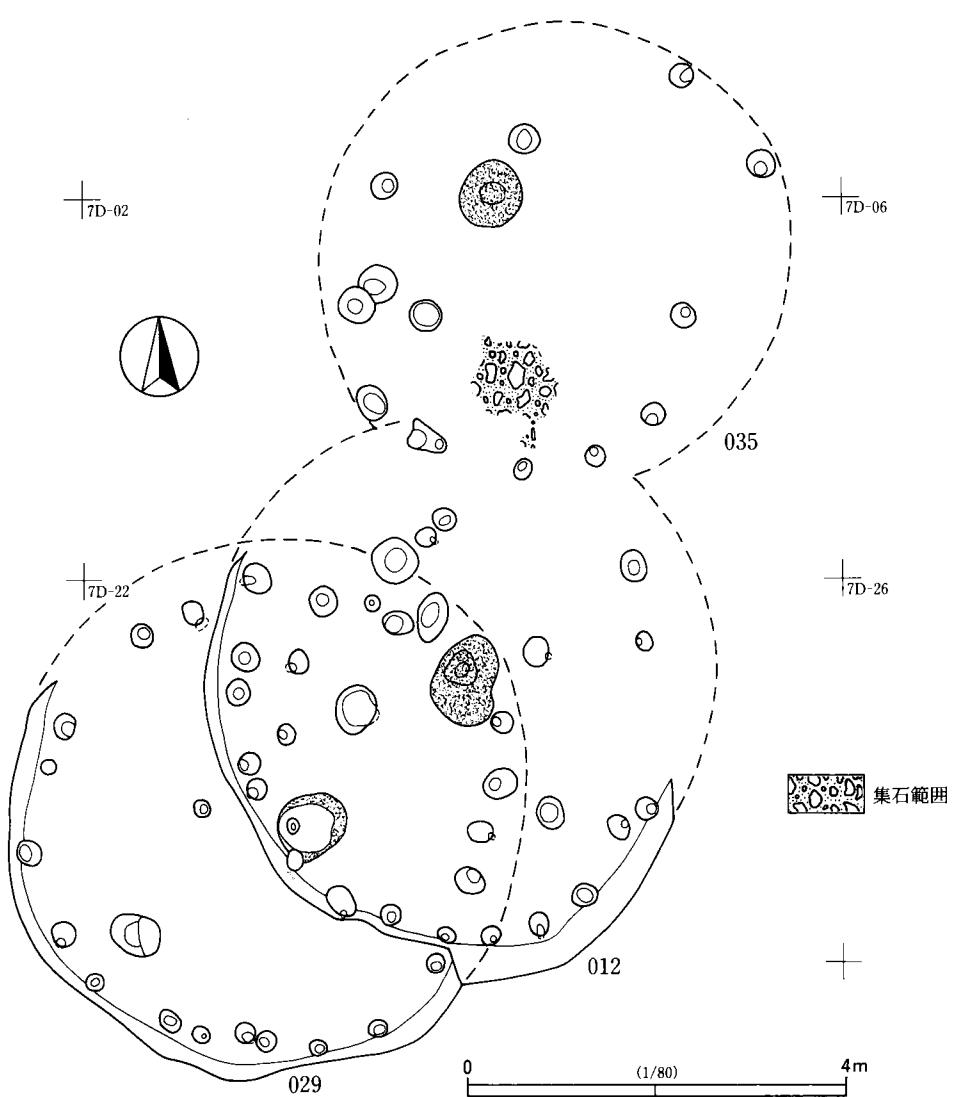
土器は堀之内1式から2式が出土している。第18図はいずれも口縁部と胴部の境にくびれをつける深鉢である。1は床面から出土した大型の深鉢で、口径40.8cm、器高43.7cm、底径11.6cmである。口縁部は3単位の波状を呈し、胴部は波頂部の下に4条の沈線が逆Uの字に施され、その間をX字状の沈線文が連絡



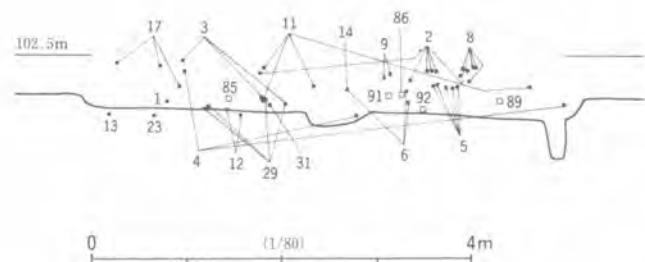
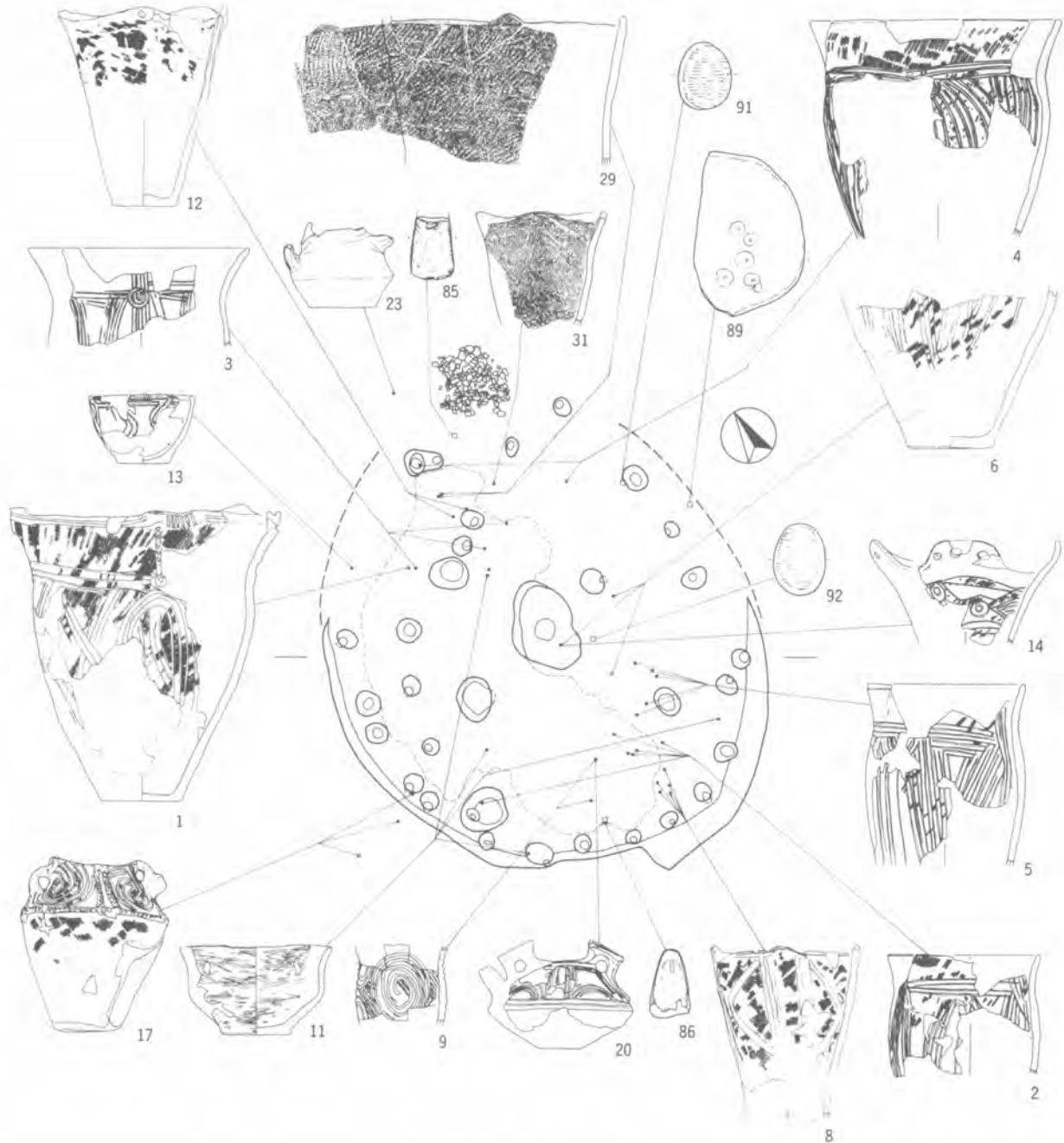
第14図 012



第15図 012集石検出状況



第16図 012・029・035配置図



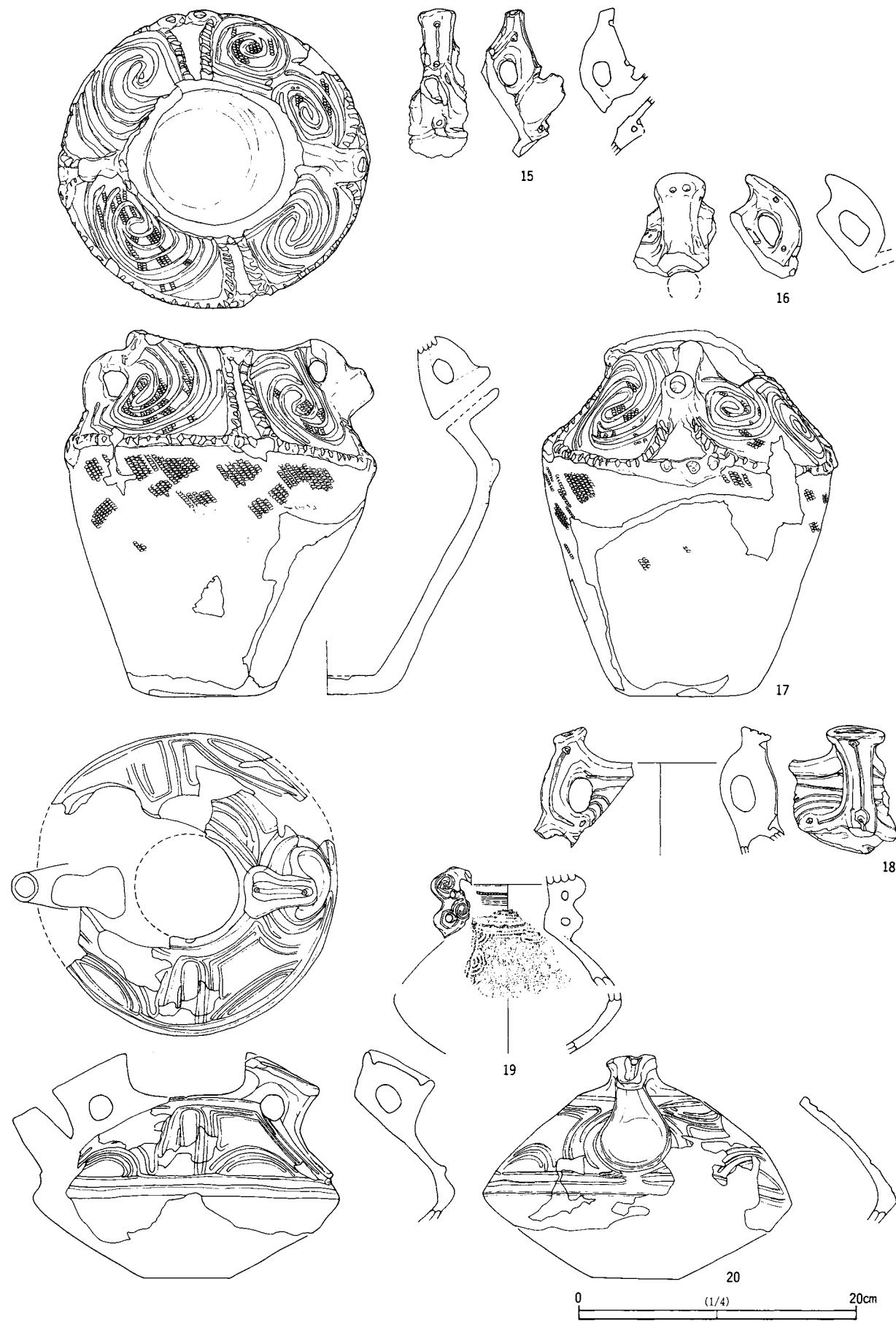
第17図 012遺物出土状況



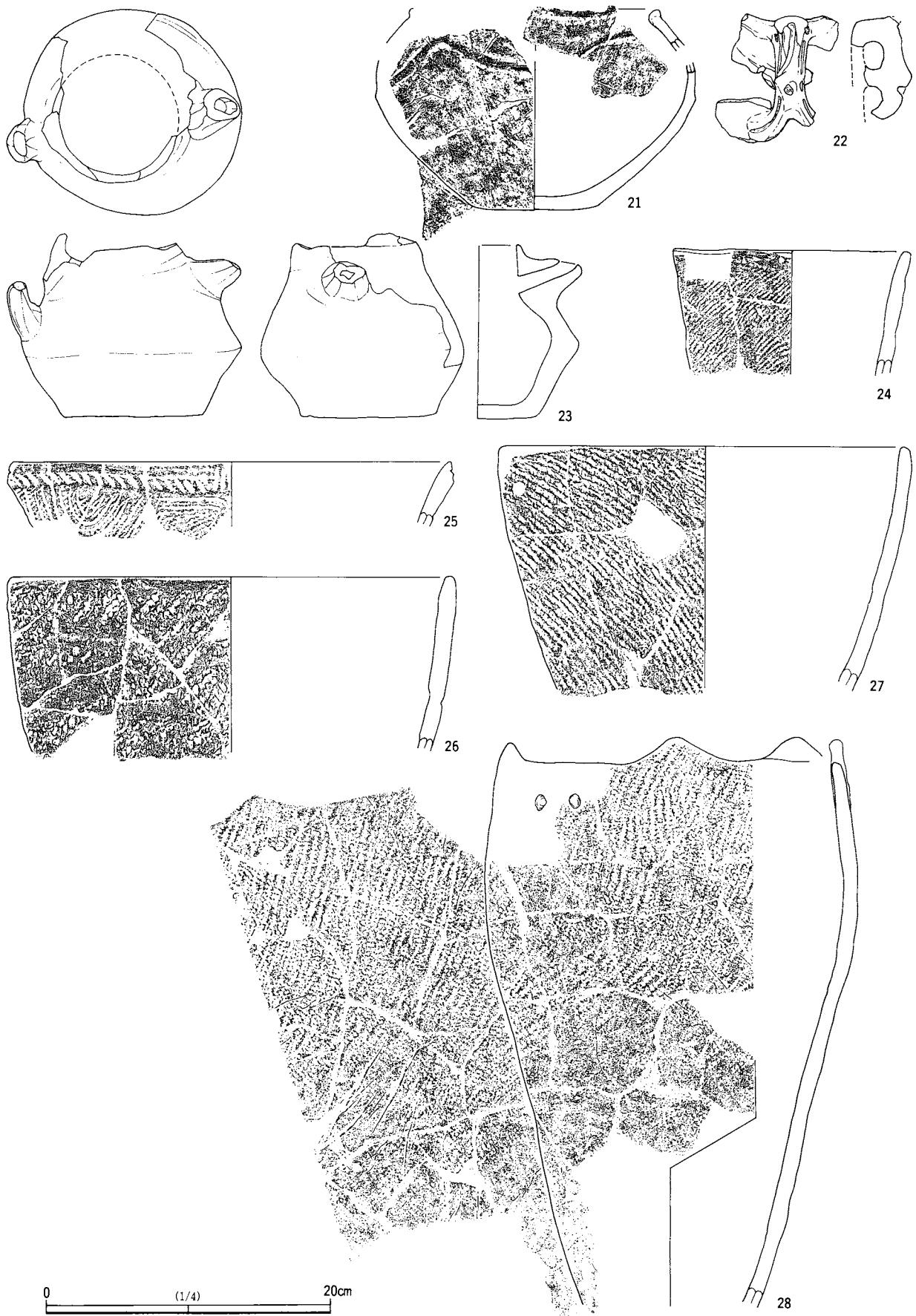
第18図 012出土遺物（1）



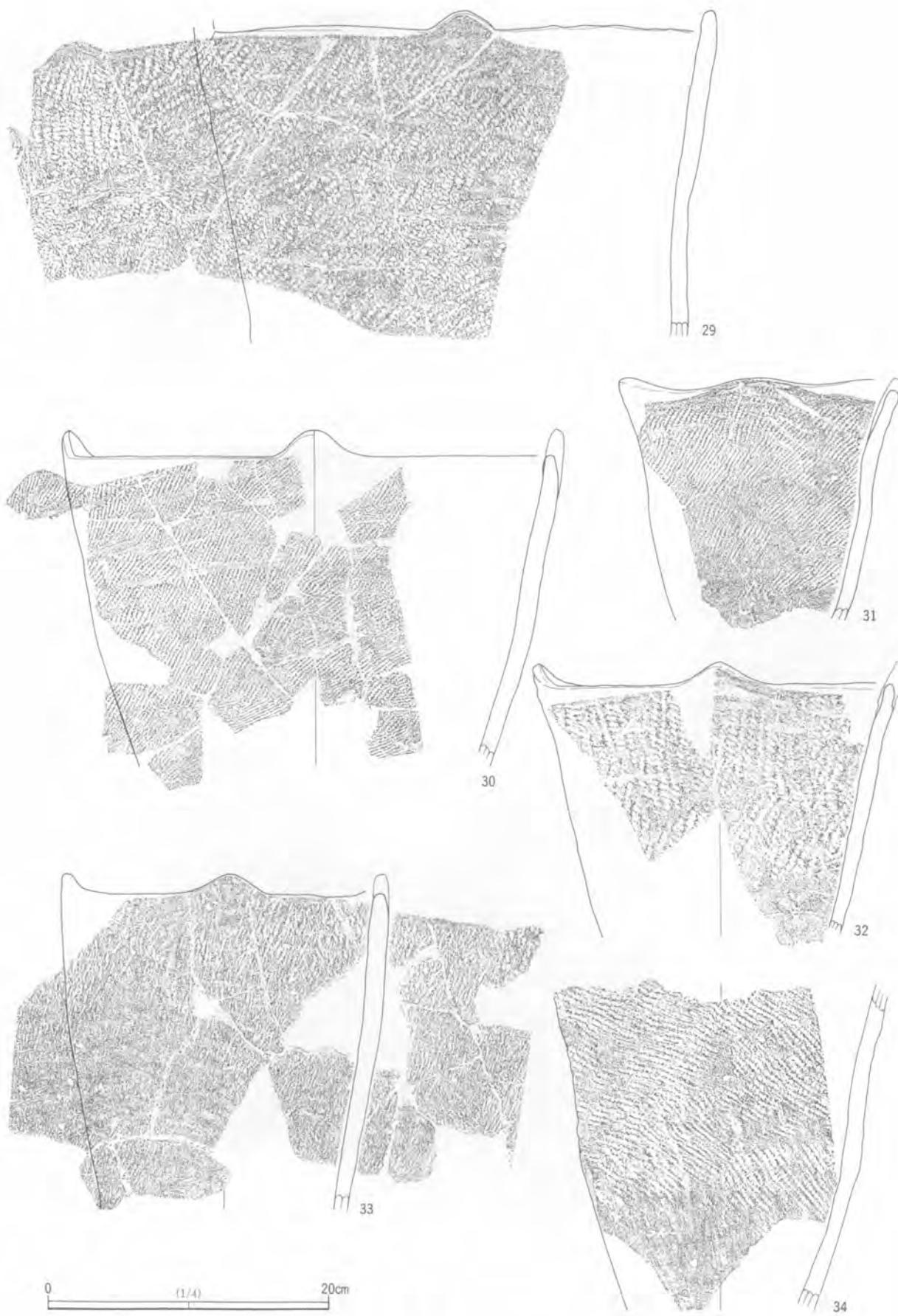
第19図 012出土遺物（2）



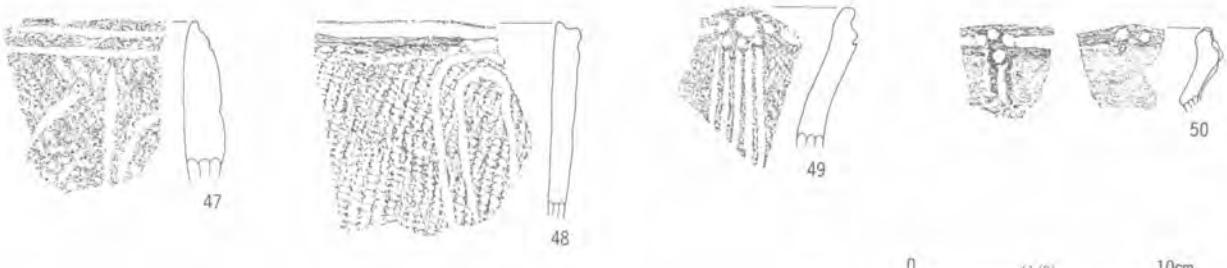
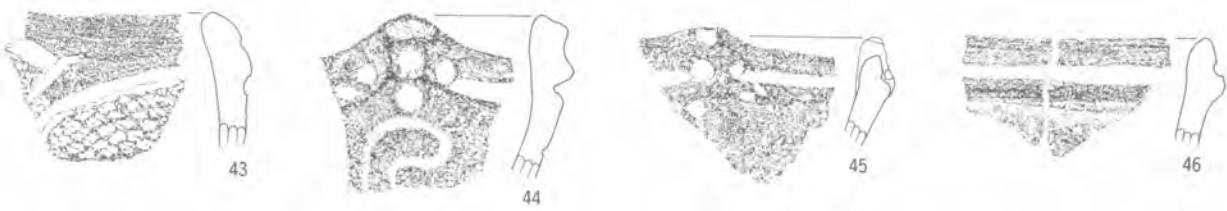
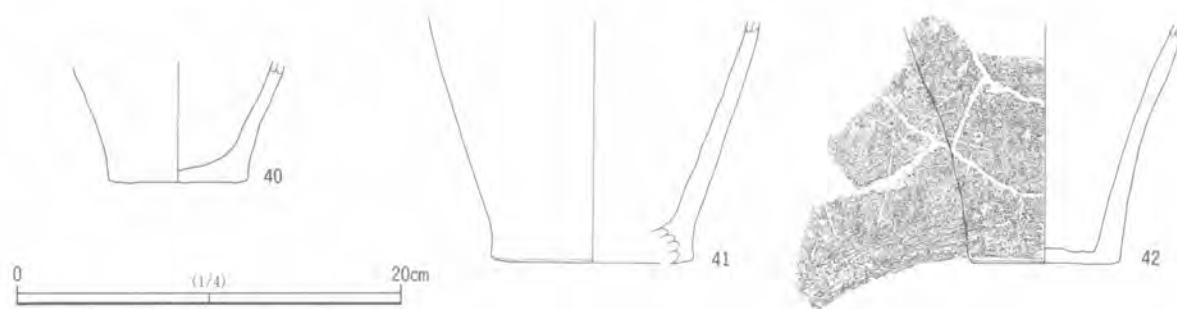
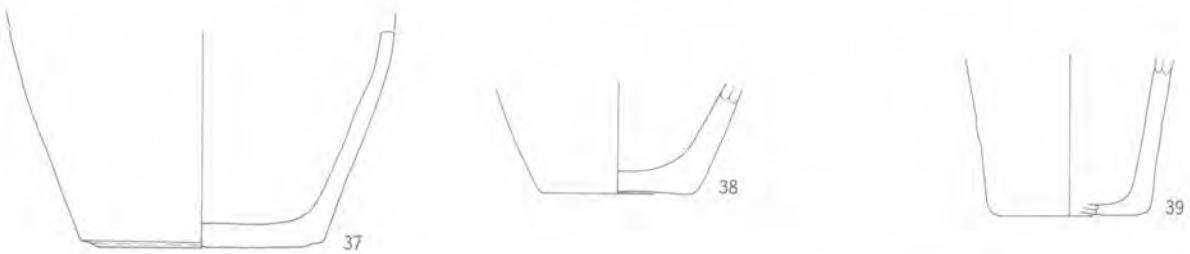
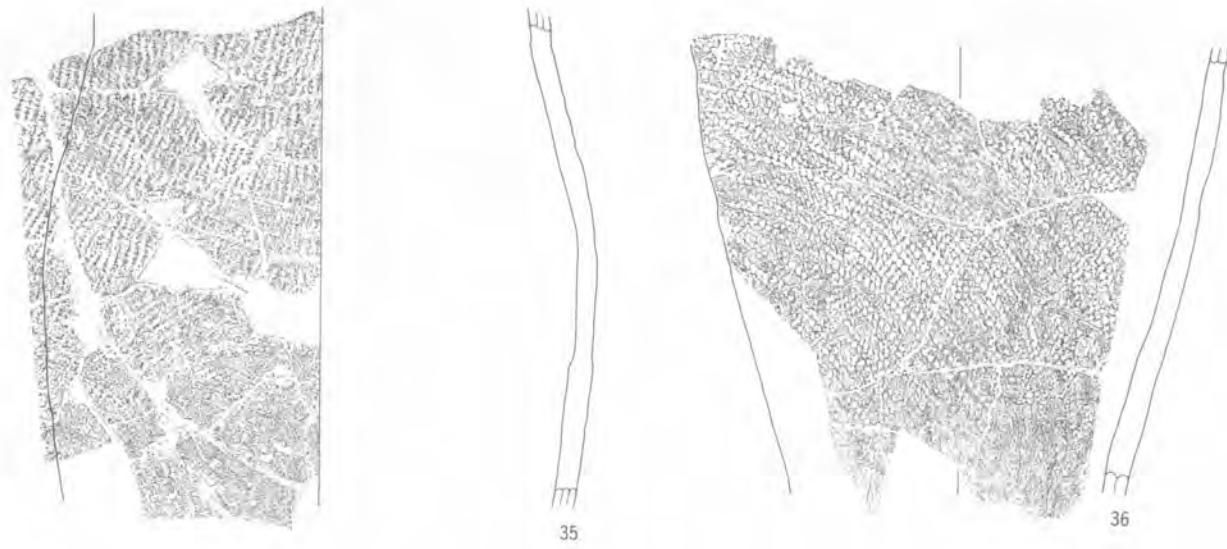
第20図 012出土遺物 (3)



第21図 012出土遺物 (4)



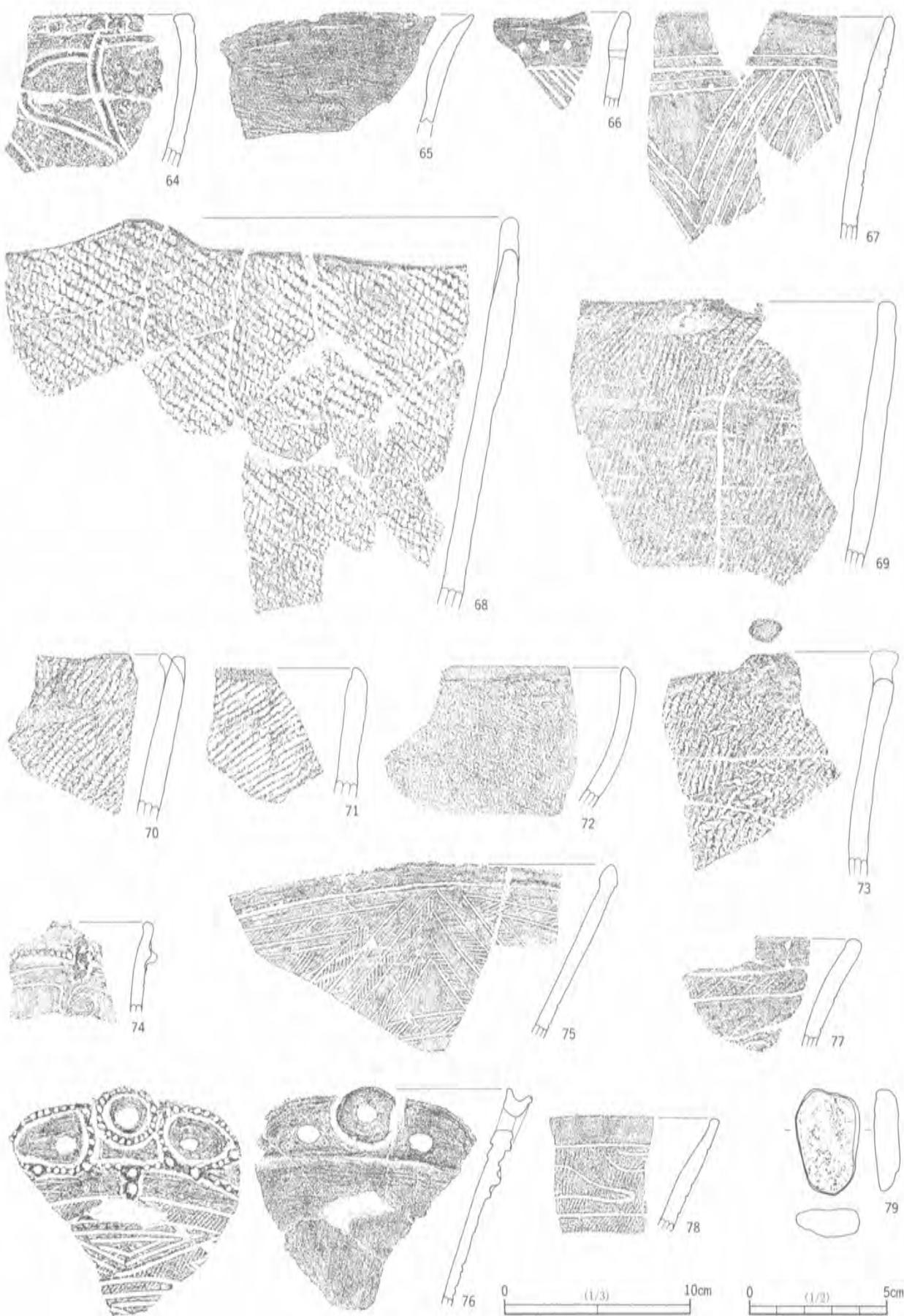
第22図 012出土遺物 (5)



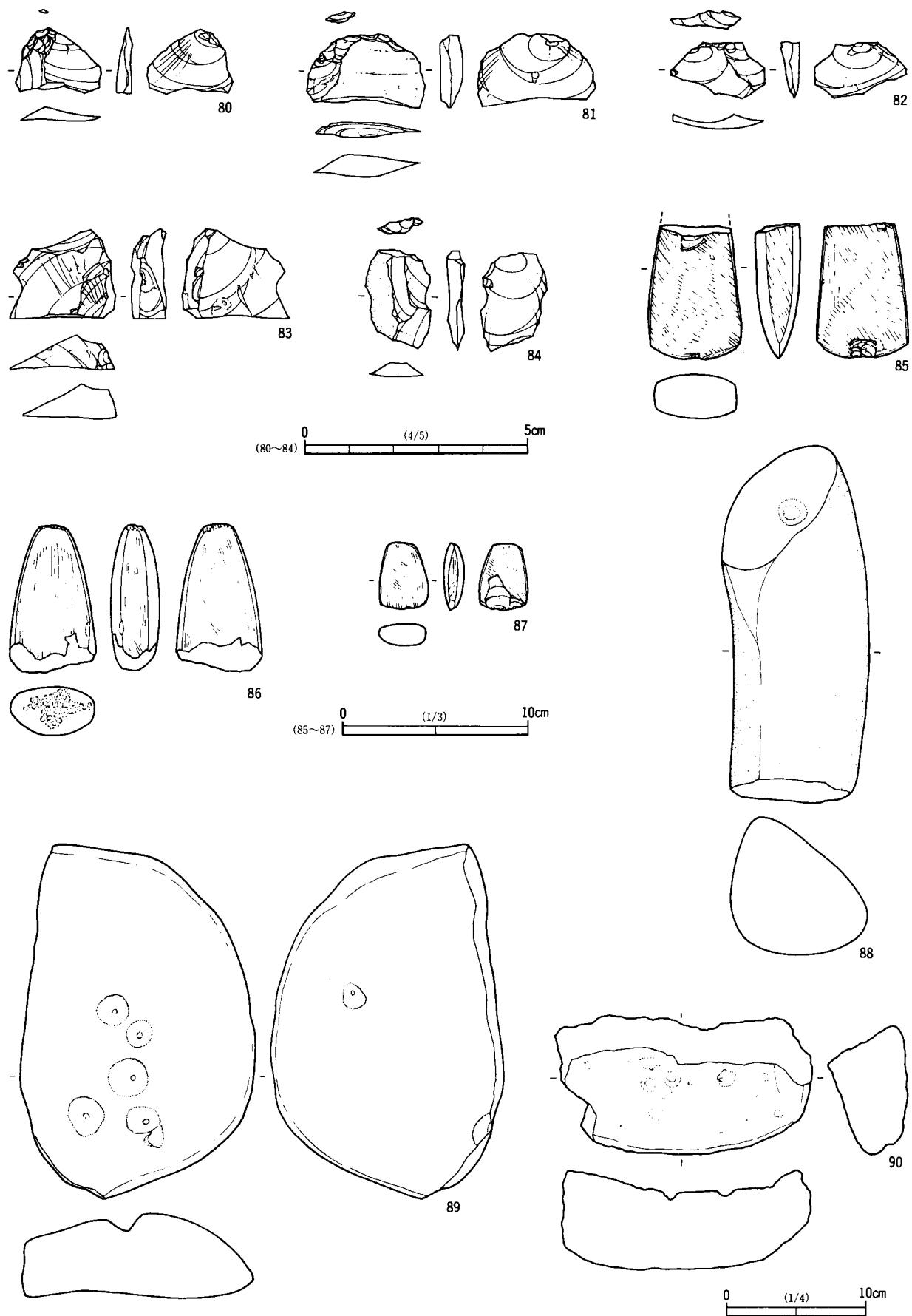
第23図 012出土遺物 (6)



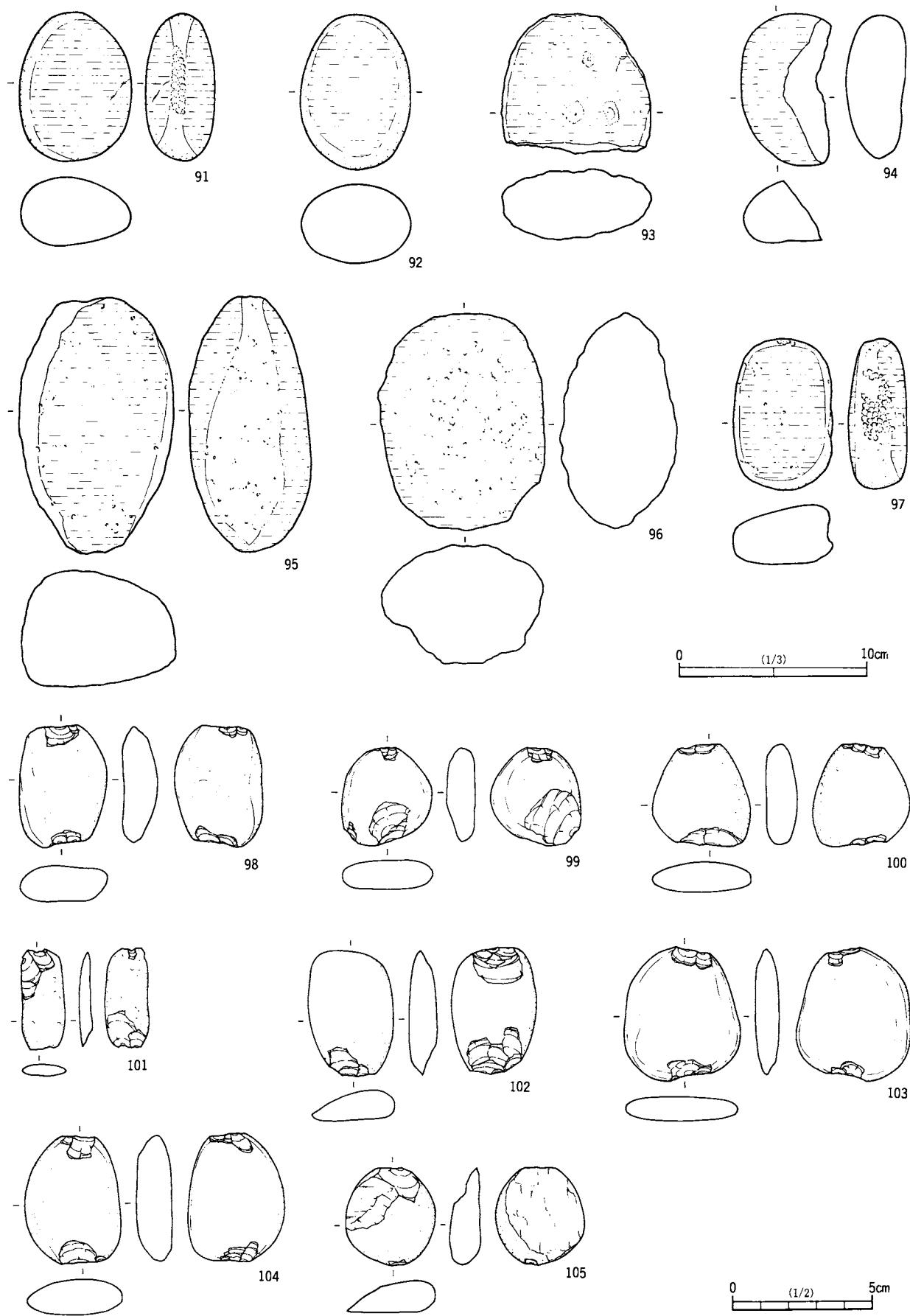
第24図 012出土遺物 (7)



第25図 012出土遺物 (8)



第26図 012出土遺物 (9)



第27図 012出土遺物 (10)

している。2～5は平縁である。3以外は地文に縄文が施され、数条を単位とする沈線文が垂下する。5は縦方向に引かれた沈線文間に重三角状の沈線文が充填される区画が存在する。第19図7は円筒状の胴部をもつ深鉢である。9は胴部に渦巻き状の沈線文が施されている。10は口唇部に刻みが入り、胴部には縦方向に条線が施される。11は無文の鉢で、内外面とも横方向の磨きである。12の胴部は無筋の縄文である。14の口縁部は波状を呈し、無文部分を多くとて胴部には同心円状や菱形の沈線文が描出される。第20図は口縁部を欠く深鉢形の注口土器である。輪状の把手が対になり、その一方の把手に接続して短い注口が付く。胴部上半部は縄文を地文に5単位の渦巻き状沈線文が配される。20は胴部が算盤玉状を呈する注口土器で、注口部と把手の1個と底部を欠損している。胴部上半は沈線のみによって文様が描かれ、黄褐色を示し焼成は不良である。第21図23は無文の注口土器で表面はナデが施されるのみである。24・26～36は胴部が縄文の施文のみになる深鉢である。27・28の口縁部には焼成後の穿孔が存在する。第25図75は三角形の磨消縄文が施されており、76にも同様な文様が展開する。

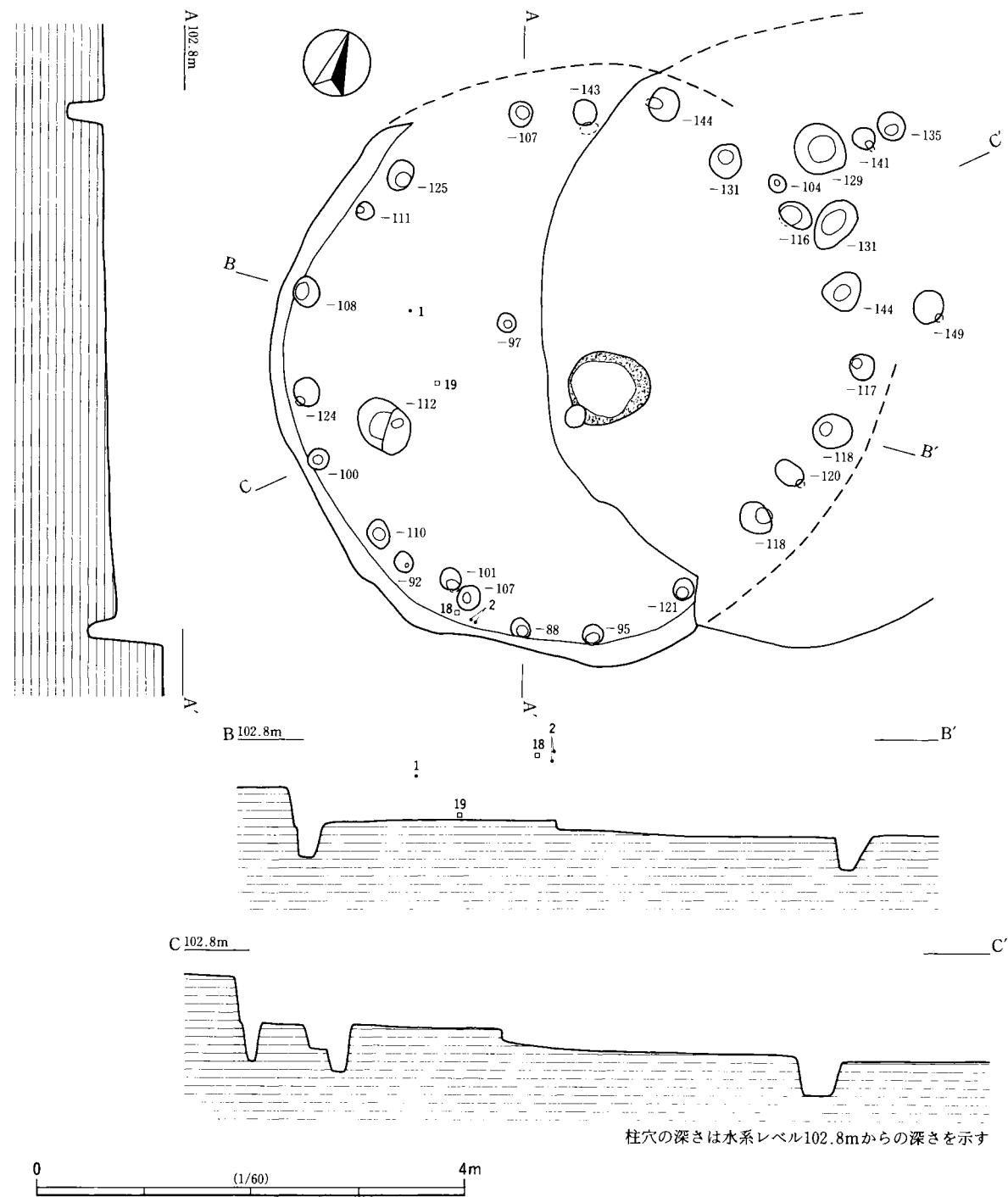
79は土器片の周囲に加工が施されたもので、土器片錐の可能性がある。

石器は剝片類9点、磨製石斧3点、石皿（破片）14点、磨石類12点、石錐9点のほか礫が出土している。第26図80～84は剝片である。85～87は磨製石斧である。85は頭部を欠損し刃部にも刃こぼれ状の欠損部が存在する。86は刃部の破損後、敲石状に敲打具として用いられたと見られる使用痕が認められる。88は自然面を多く残し、1か所に凹部を認めるのみで定型的な石器にはなっていない。石皿は個体数として14点と多く出土しているが、全て欠損品で凹石への転用が認められる。90は縁に高まりをつけた石皿であるが、一部分の遺存にすぎない。第27図91～97は磨石である。側面に敲打痕跡を認めるものも存在する。98～105は礫石錐である

#### 029（遺構：第28図 図版4、遺物：29・30図 図版10・16・19・34）

緩斜面部の7D-32付近に位置する。平成8年度と平成9年度の2年度に調査を実施した。平成8年度の調査では、プラン全体を明らかにすることが不可能で、部分的な調査になった。平成9年度に至って初めて012〔竪穴住居〕との重複部分を含め、全容の把握が可能となった。位置関係としては緩斜面の山側に029が存在し、やや低くなる谷側にズレて012が位置する。検出面は砂を含むローム質土で、周辺全体が濁った状態を呈していた。壁は北西から南東にかけて検出され、北から東側の012との重複部分は残存しない。規模は直径5.50m内外になると推測され、良好な位置で0.45mの壁高を残す。本住居に伴うピットは30か所と考えられ、柱穴は壁柱穴で壁際に一巡する。個々のピットは小型で、部分的に近接して検出されている。その中でも住居の中心から見て北東側にピットが集中しており、ここが出入り口であったと考えられる。炉は地床炉であるが、012の柱穴によって切られており、残存は不良である。しかし、遺存している一部の火床は、火熱によって硬化した状態を認めることができる。床面は平坦であるが、硬化面の範囲を明確に示すことはできない。また、炉の北西側に小ピットが存在し、南西の壁近くにも柱穴とは別の性格をもつであろうピットが検出された。

遺物は土器、土製品、石器が出土している。土器は堀之内1式が主体になるが、出土量は少量である。1・2の保存状態の比較的良い土器は覆土中からの出土で、床面付近からは破片が出土している。2の注口土器には対の把手が付き、その把手部が破頂部となる波状口縁をもつと考えられる。深鉢3～5、8・10の口縁部には円形等の押圧文、刺突文が認められる。15は土器片錐である。石器は剝片4点、石皿片4

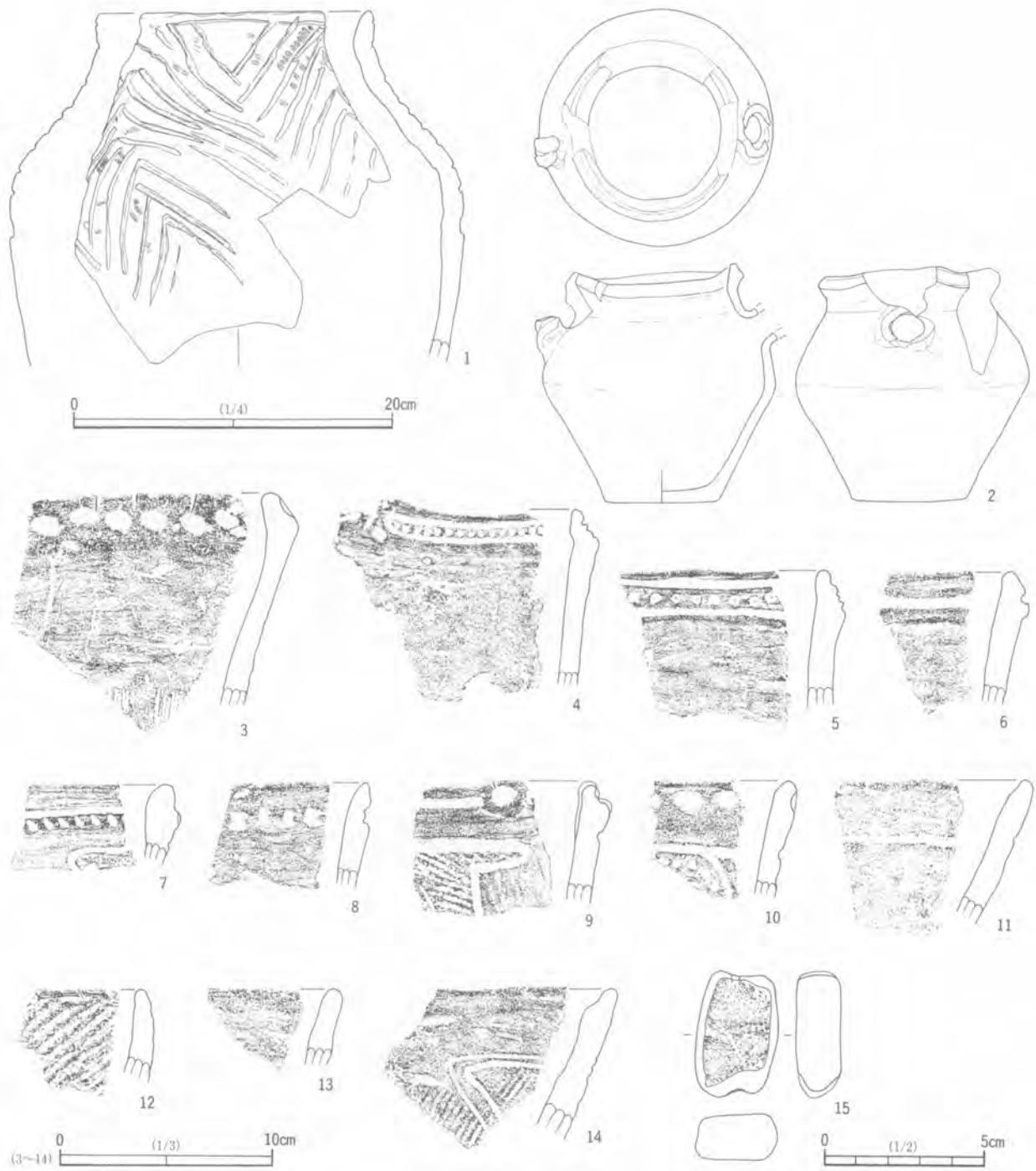


第28図 029

点、磨石3点、石錐1点等が出土している。石皿片は第30図19のように一部に円錐状の凹部が付くものである。

035 (遺構: 第31図 図版4, 遺物: 第31・32図 図版10・34)

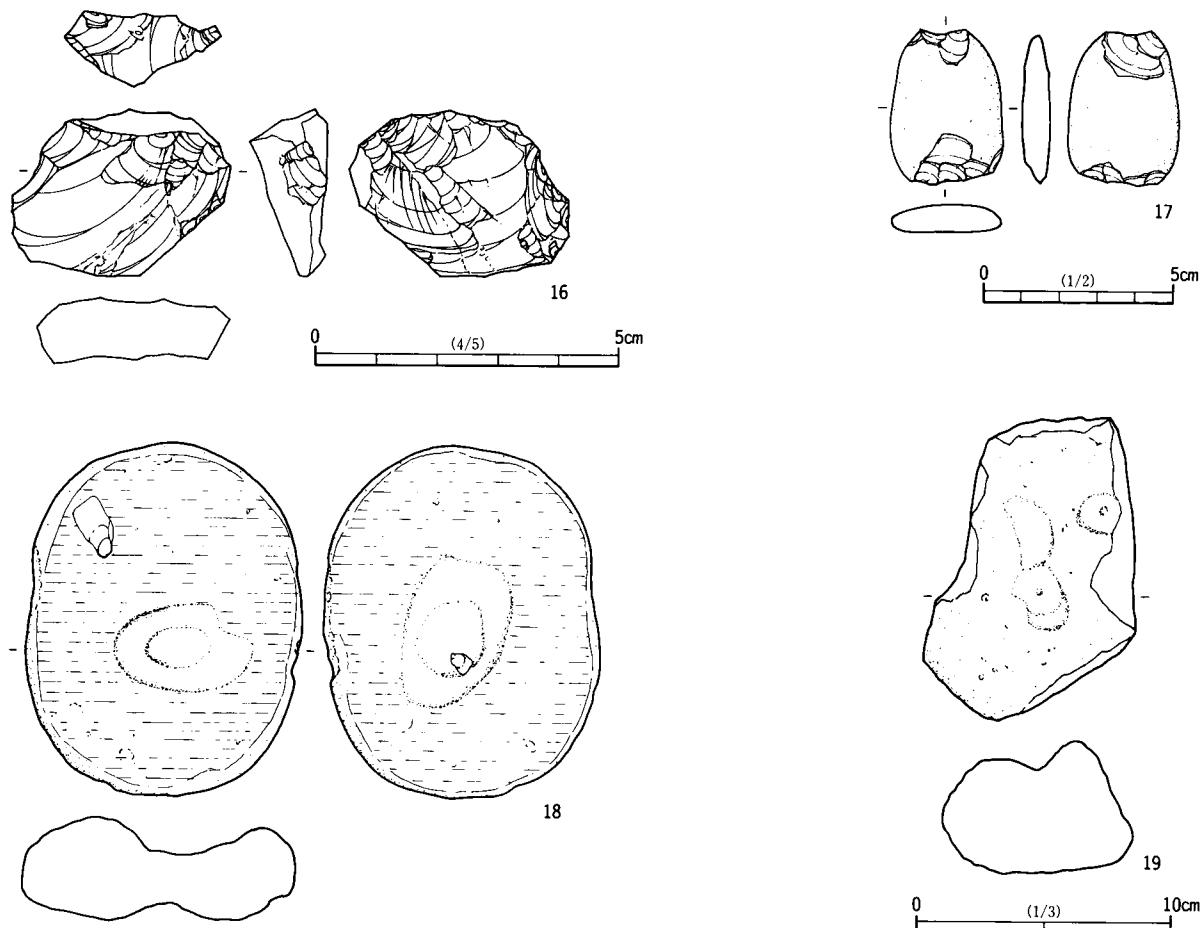
7Dに検出され、012と重複する。本住居は012の周辺を精査していたところ、その北東側に直径5.0mの円形のシミ状のプランを検出した。周辺は全域に黒褐色の濁った土が広がり、遺構部は暗褐色土であった。



第29図 029出土遺物（1）

暗褐色土を剥ぐと床面が現れる状況で、壁の立ち上がりを捉えることは困難だった。また、012と重複するが、平面的及び土層断面からの新旧関係の把握は不可能な状況である。しかし、先述した012の集石が012の入口部に伴うとなれば、本住居は012より古いと判断される。

第31図に示したように、暗褐色土の広がりを根拠に円形のプランを復元した。しかし、炉や柱穴、また埋甕の位置から推測すると、復元プランは必ずしも適切とは言い切れない。仮に炉が住居の中心に位置していたとすれば、推定プランが全体に北側に移動すると考えられる。検出状況での推定規模は、直径4m



第30図 029出土遺物（2）

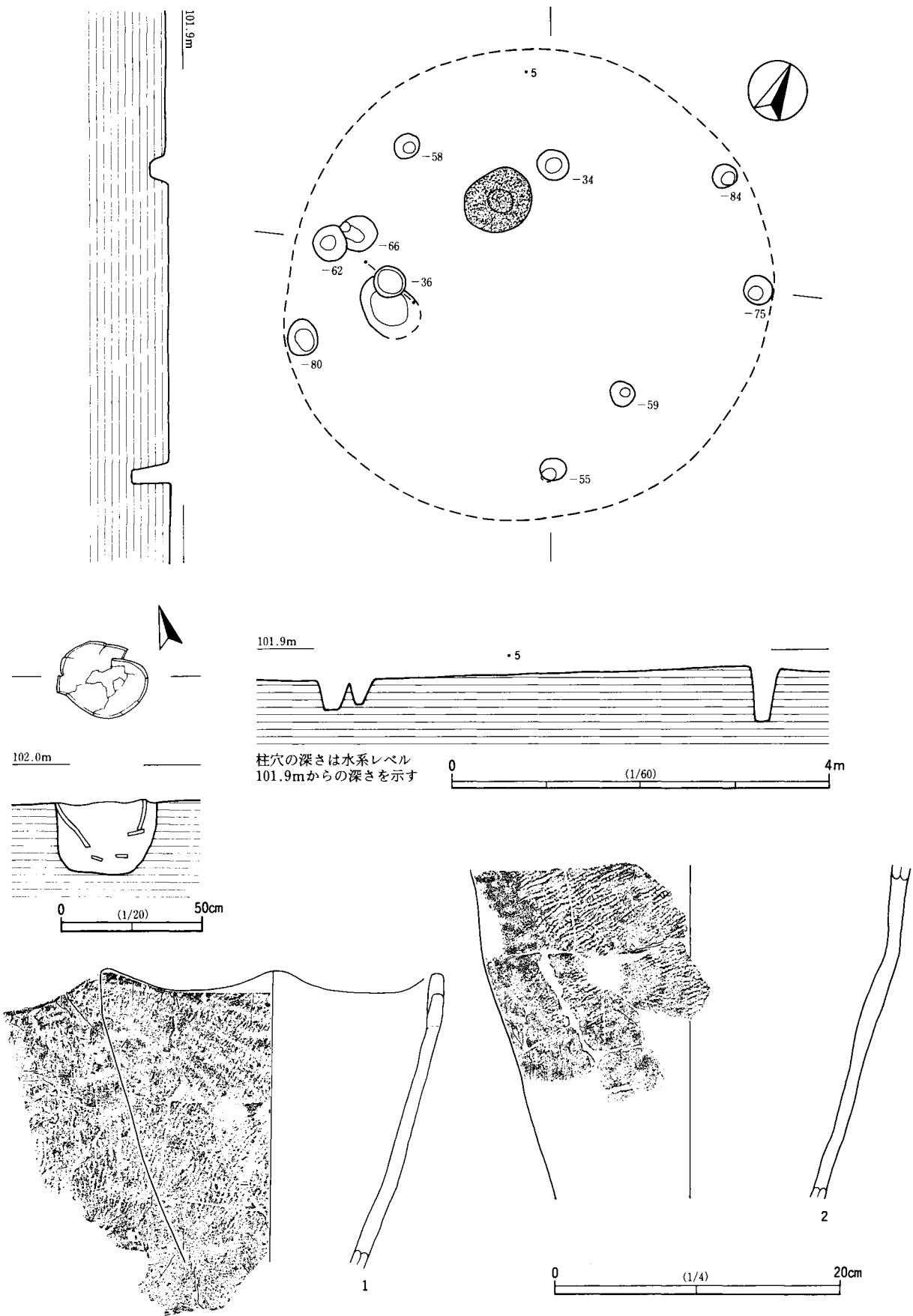
強になる。床面は平坦であるが軟らかで、調査によって削り過ぎた感がある。柱穴状のピットは9か所検出したが、規則的な配置は認められず、その深さも一定しない。炉は $0.75m \times 0.65m$ で北—南方向にやや伸びる。埋甕は炉の南側に検出され、直径 $0.38m$ 、深さ $0.25m$ の円形の土坑の中に底部を欠く粗製の深鉢が埋納されていた。

遺物は床面から出土し、土器、石器、礫がある。第31図1は埋甕として埋納されていた深鉢で、残存する器高は21cmである。第32図5の注口土器は、口縁部を床面に付けた倒立の状態で出土し、注口部を欠くもののほぼ完形を保っていた。文様は磨かれた器面に沈線で描出され、焼成中に付いた黒斑（第32図のスクリーントーンの部分）が文様的効果をだしている。出土した全ての注口土器の中でも優品と呼べる土器である。石器は6の礫石器1点の出土である。

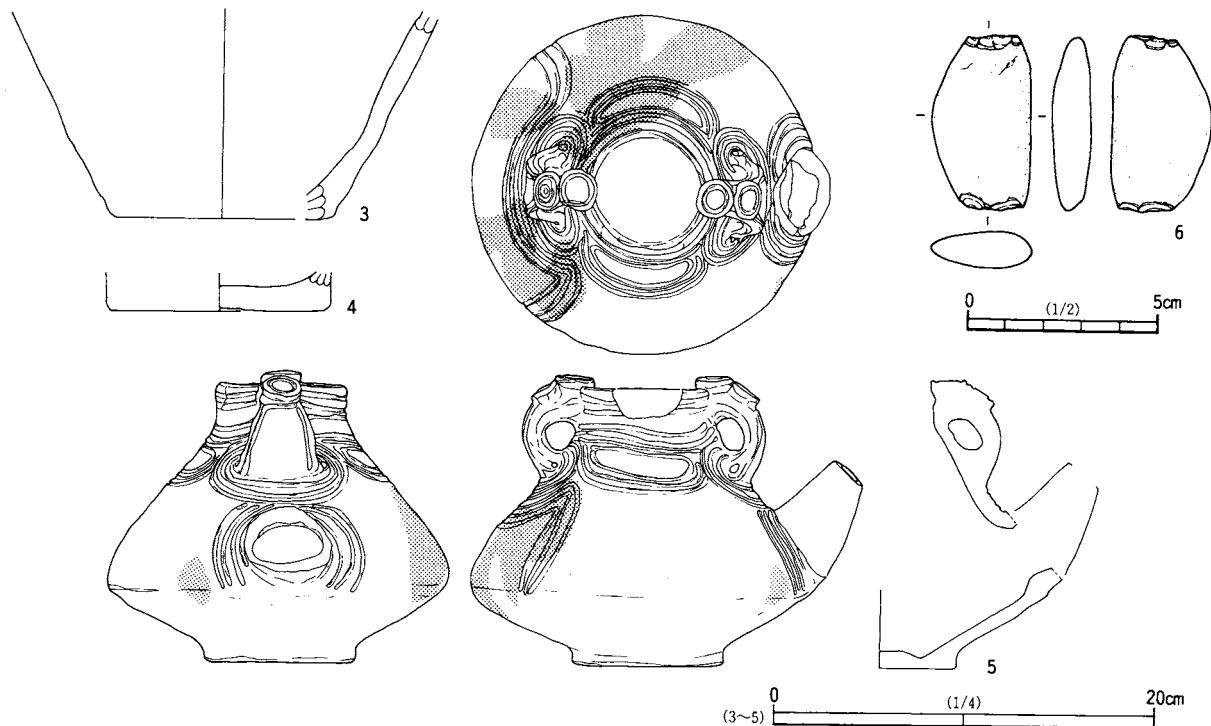
P105〔竪穴住居跡〕（遺構：第33図 図版4・5、遺物：第34～36図 図版10・16・19）

斜面部に位置している。遺構確認の段階では、直径 $1.50m$ 前後の円形の落込みが確認されたので、土坑と判断し調査を開始した。しかし、掘り下げていくと平坦な床面と埋甕炉が検出され、竪穴住居であることが明らかになった。

斜面部に存在するため、標高の高い南側は壁高が高く、逆に谷側方向である北から北西の壁は失われている。それでも全体の半分強の壁を検出し得て、本来の平面形が略円形であったと想定できる。直径は $4.20$



第31図 035・035出土遺物 (1)

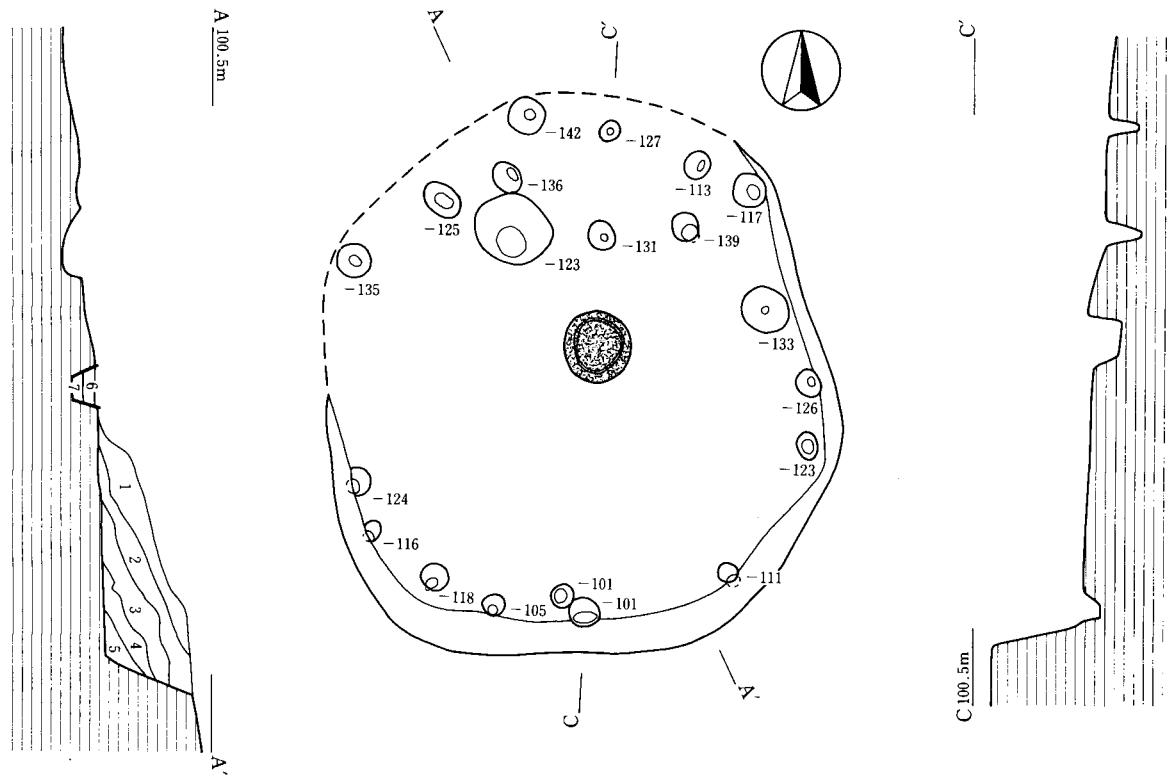


第32図 035出土遺物（2）

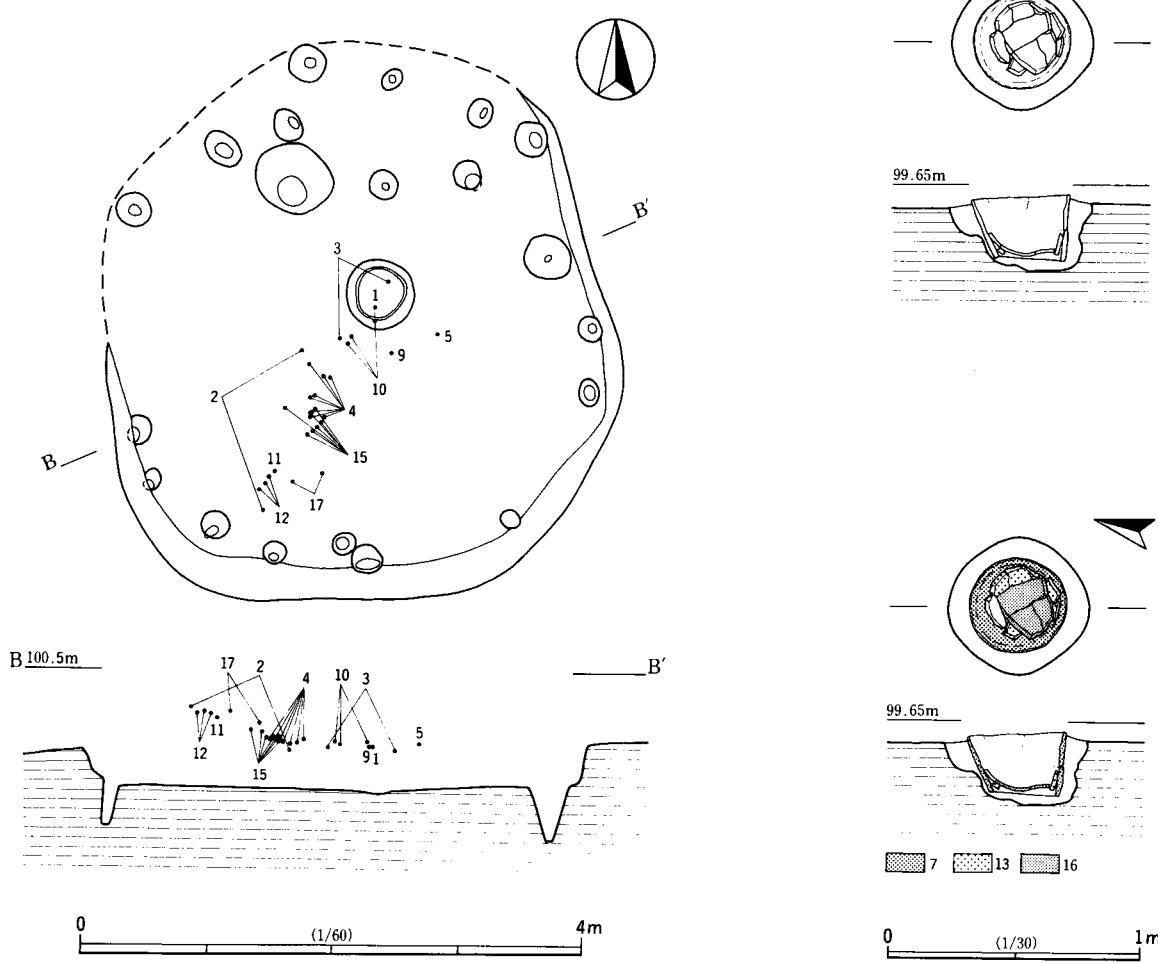
m内外である。山側の壁は70cmの高さを残存するが、北側では全く遺存しない。壁を検出した範囲では、やや傾斜して立ち上がる状況が認められ、壁の下に壁溝は存在しない。床面は小礫を含む黄白色の粘質土中に設定される。この層は、通常の掘削でも多少の困難を伴うほど、しまった状態で堆積している。したがって、床面の残存する範囲は堅く平坦である。柱穴は壁際にほぼ一巡する状況で検出された。しかし、その配置間隔は一定しない。柱穴は南側に比較し北側に多く検出され、また、4か所のピットは壁から離れた住居の内側から発見された。入り口の位置は確定できないが、ピットの配置状況から考えると、谷の方向である北側に設けられていた可能性が高い。

炉は竪穴住居の中心からやや北に寄って存在する埋甕炉である。炉体は第34図7に挙げた胴部から口縁部までが遺存する深鉢で、その底に第35図13・16の大型破片が敷かれていた。いずれも縄文のみの施文が認められる。炉の覆土は2層に分かれ。上層は暗褐色土で下層が黒褐色土になるが、肉眼の観察では灰や焼土の堆積は確認できない。

遺物は覆土1層の上から多く出土し、床面からは炉体土器が出土したにすぎない。また、1層以下の覆土に含まれる遺物もわずかであった。土器の主体は堀之内1式である。第34図2・3には蕨手状の沈線文が施されている。また、2の口縁部の直下に焼成後に穿たれた孔が存在する。大型の深鉢は縄文が施文されるのみである。第36図18は土器片錘、19は土器片に加工を施した円板状品である。



柱穴の深さは水系レベル100.5mからの深さを示す



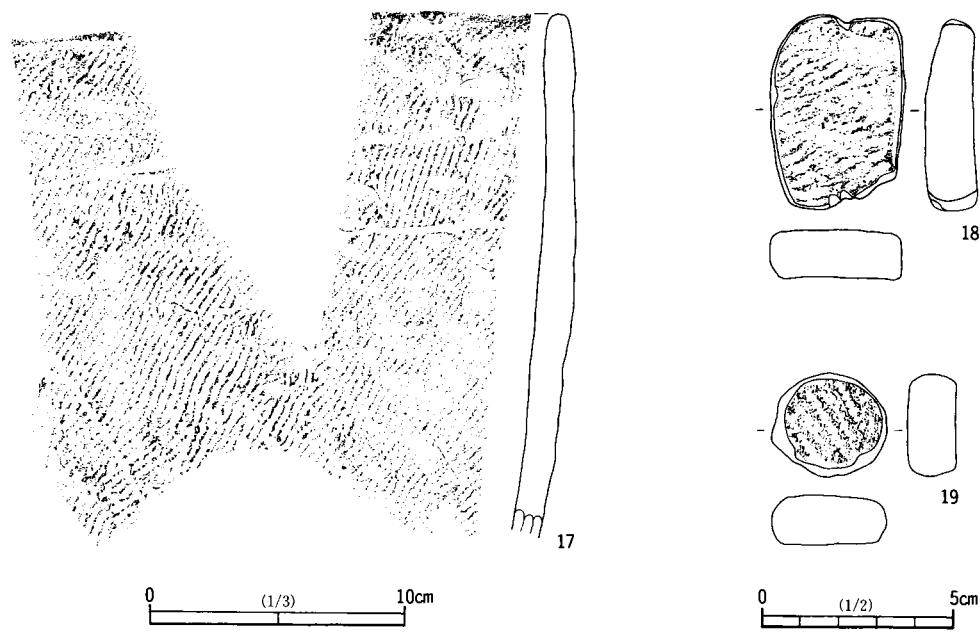
第33図 P 105・P 105遺物出土状況



第34図 P 105出土遺物 (1)



第35図 P105出土遺物（2）

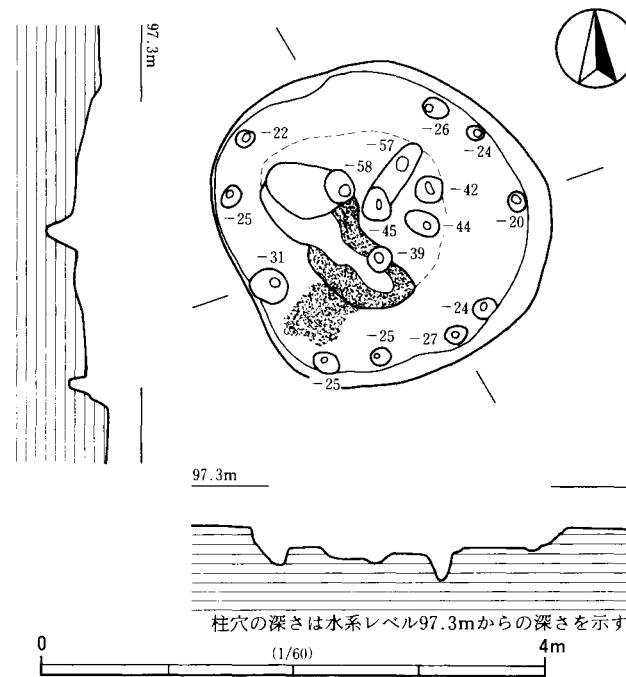


第36図 P 105出土遺物（3）

#### 015（遺構：第37図 図版5）

今回の調査区内で最も北で検出された。規模は $2.55m \times 2.50m$ で、大略円形の平面形を示す小型の竪穴住居である。壁高は良好な部分で $0.26m$ 存在し、床面から傾斜しながら立ち上がる。柱穴は壁下に沿って検出されたが、いずれも浅いピットである。また、住居の中央部にも小ピットが存在し、全体に周囲から中央部に向かって低く窪んでいく。炉は中央から南西寄りに位置する。

土器は細片が出土しているのみで、呈示するまでの残存をもっていない。また、磨石の一部と礫が出土している。



第37図 015

## 第2節 埋設土器集中遺構と出土遺物

複数の深鉢が近接し、埋納された状態で検出された地点が2か所に検出された。それを便宜的に埋設土器集中遺構と呼称することにした。

011（遺構：第38図 図版5，遺物：第38～40図 図版10・16・17・19・33・34）

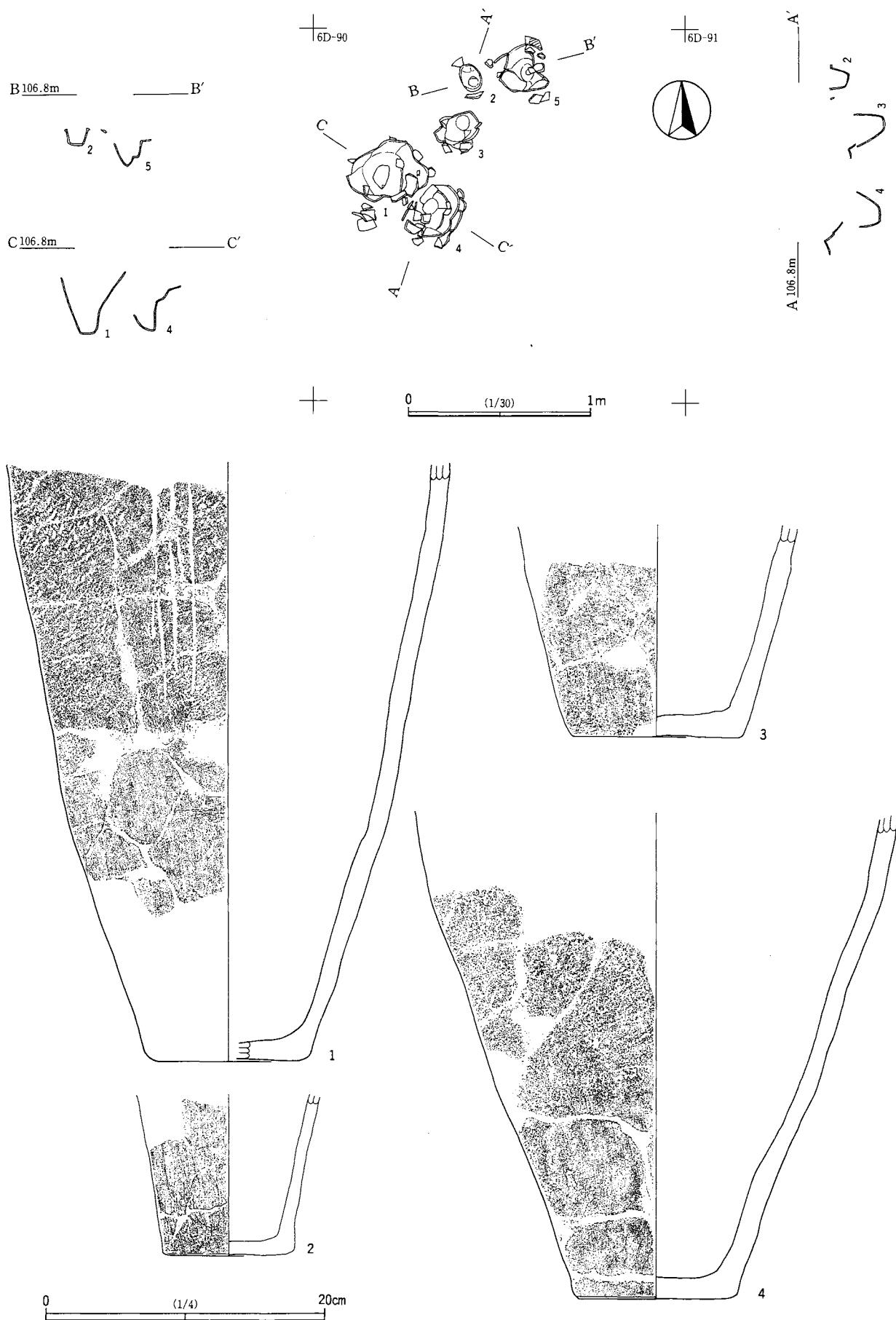
6D-90に位置する。このグリッド周辺は、広範囲に厚い黒色土の遺物包含層の堆積が認められる地区で、平面的に土坑等の遺構の存在は確認できなかった。全域を平面的に掘り下げていくと、口縁部を欠いた深鉢が正立した状態で出土し始めた。精査を進めた結果、ここでの深鉢の出土点数は5点になり、1.20m×1.20mの範囲に集中することが判明した。深鉢が口縁部を欠く状態で出土したのは、重機による表土除去の際に消失したとも見られるが、いずれも本来の形状を留めていない。また、深鉢の底面のレベルには違いが認められ、1・3・4が近似した状況を示し、2・5がほぼ同一になり、2群か2時期の存在があつたことを窺わせる。通常の状況で、深鉢の正立が保たれるとは考え難いので、何らかの施設を設けて埋納したものと想定することが妥当である。しかし、最後まで明確な掘込みは明らかにならなかった。また、深鉢の中は包含層と同様な黒色土が詰まっているのみで、骨粉等の自然遺物は検出されなかった。

遺物は周辺の遺物を含め第38～40図に掲載した。包含層中の検出であったため、土器は堀之内1式から安行式までが存在する。1～5は埋納されたと考えられる深鉢である。1に懸垂沈線文が認められる以外は、縄文の施文があるか無文部のみが遺存するかである。堀之内1式になるだろう。第39図6は胴部が算盤玉状を呈する注口土器で、口縁部に2段、胴部最大径部に1条の、押圧が加えられた細い紐線文が施されている。第40図47は打製石斧である。

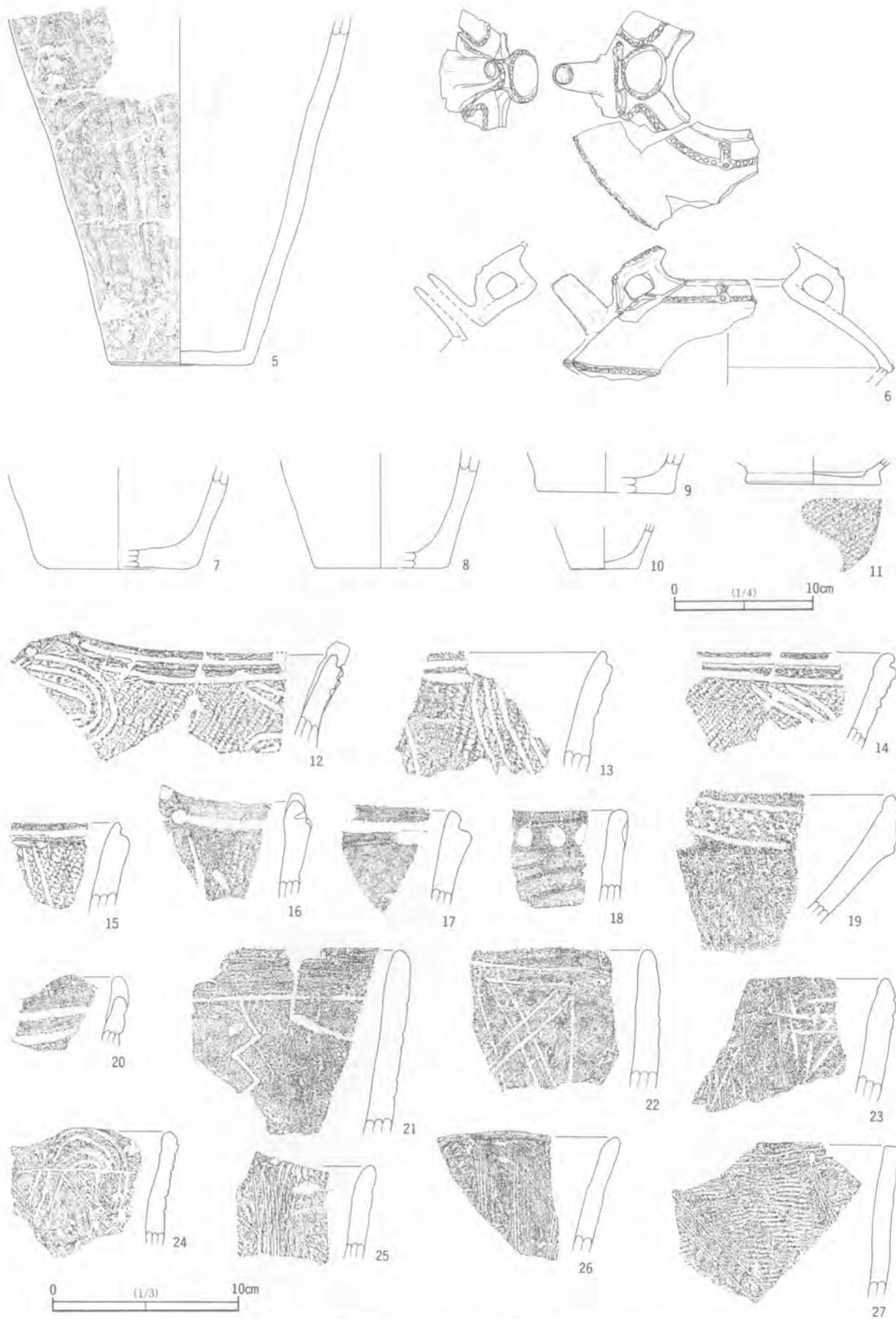
013（遺構：第41図 図版5，遺物：第41・42図 図版19・34）

調査区の南側である8E-10に位置する。地山の黄褐色ローム質土が残存し、そこに半円形を呈する黒褐色の落込みを確認した。平面形が半円形であったのは、周辺の一部地山がすでに削られていたためである。その遺構精査の途中に深鉢2個体の存在が明らかになり、それが正位の状態で埋納されていることが判明した。遺構は直径2.33m内外の円形の土坑であったと推定され、地山から底面までは0.30mの深さがあり、壁は底面から緩やかに傾斜して立ち上がる。また、底面には1か所ピットが存在し、深鉢はそのピットに近接した南西壁の底面に、底部を置くような状態で出土した。遺存部は胴部の下位から底部にかけてで、口縁部は重機による表土除去に伴い消失した可能性がある。土坑の覆土から底面にかけて土器や土製品が出土したが、深鉢の内部からは遺物は出土していない。

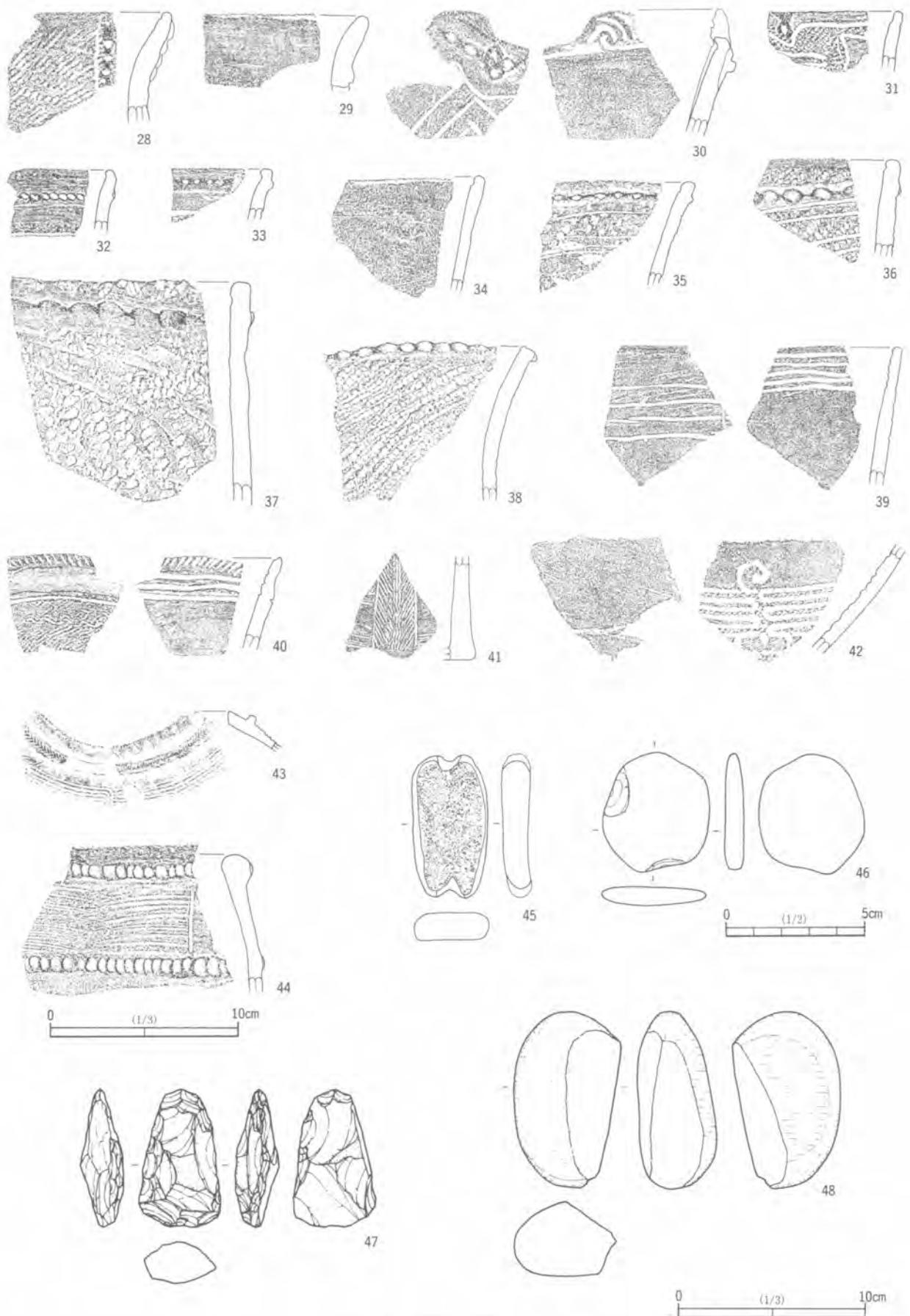
第41図1は底面に穿たれたピットに近接して出土し、2はその南西側に埋納されていた。覆土中の土器は堀之内1・2式である。9は蓋形の土製品で焼成前に開けられた孔が2か所に認められる。



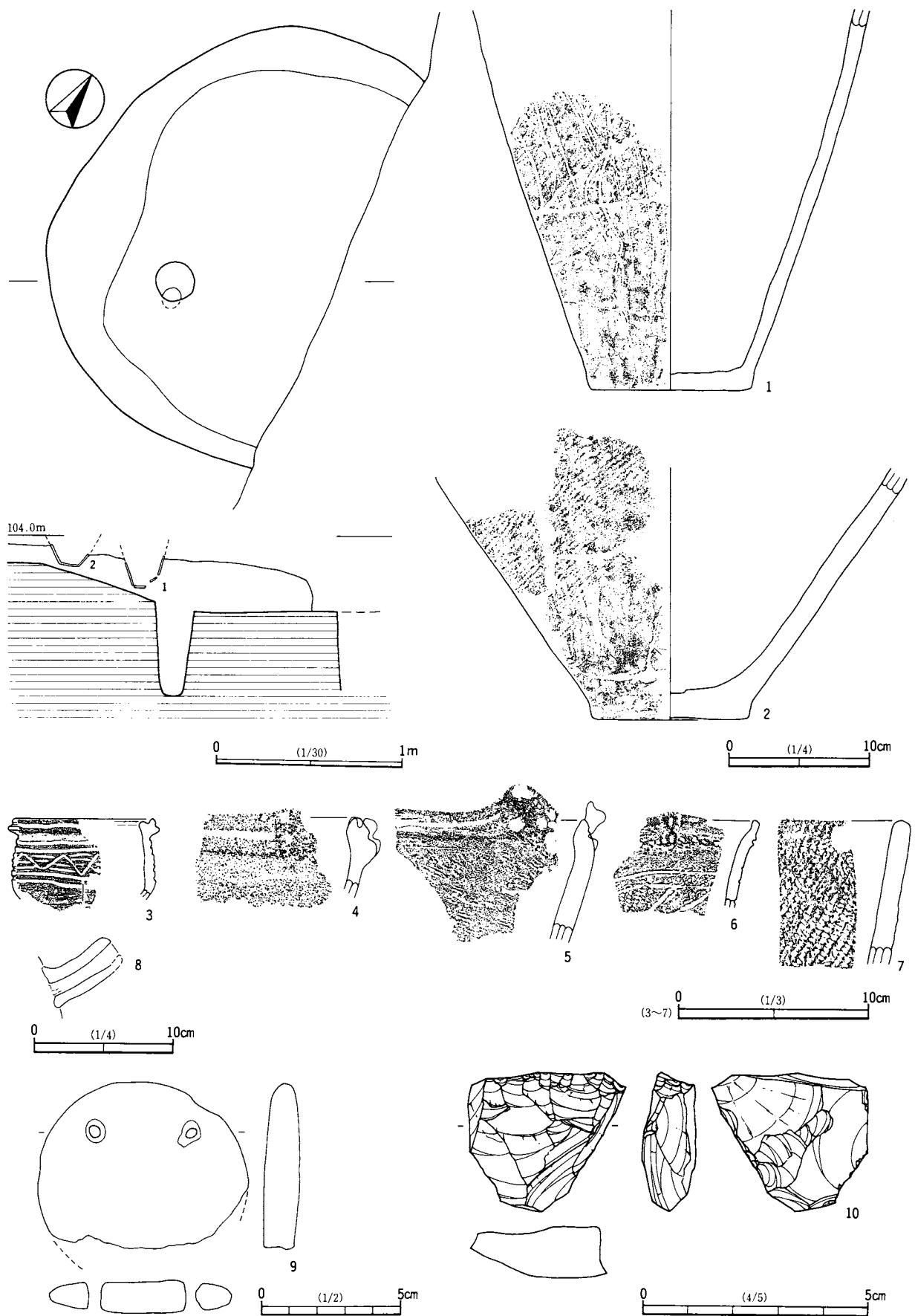
第38図 011・011出土遺物 (1)



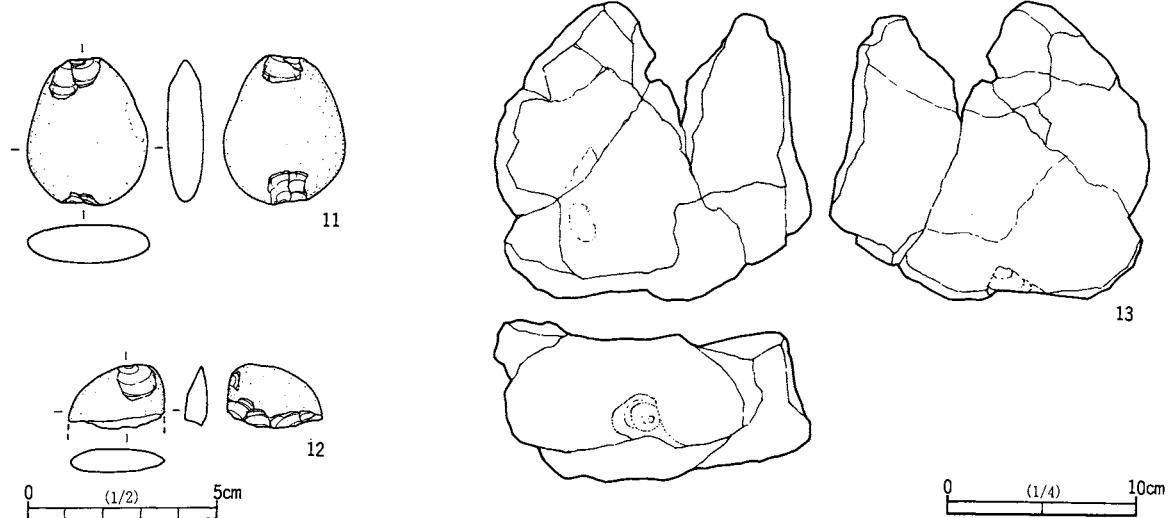
第39図 011出土遺物 (2)



第40図 011出土遺物（3）



第41図 013・013出土遺物（1）



第42図 013出土遺物（2）

### 第3節 土坑と出土遺物

土坑は88基を検出した。第5図・第43図・第50図の遺構配置図に示したように、6C・6Dに集中域が認められるほか、竪穴住居035周辺、埋甕集中遺構013の周りに多く検出された。土坑底面に遺物を伴うものが多く、明確な時期について捉え難いが、いずれも堀之内式から加曾利B式の間に構築されたと考えられる。各土坑の規模については、第1表の中に記載したので、以下に特徴的な土坑について説明を加えたい。

#### 003（第44図、図版18）

不整円形の平面形で、逆台形の掘込みをもち底面は平坦に構築される。遺物は覆土中から出土し、加曾利B1式を主体にする。

#### 006（第45・46図、図版5・18・33）

東西方向に1.72mの長径を測り、南北に短径1.36mになる橢円形の土坑の東側に、直径1.20mの円筒形の土坑が掘られる。円筒状部分の深さは1m以上になり、ボーリング棒の探査では1.7mを超えることが判明したが、調査安全上の理由から底面までは完掘していない。遺物は堀之内1式の土器を主体に出土している。

#### 008（第48・49図、図版10・18・33・34）

竪穴住居P105の南側に位置している不整形の土坑である。底面は平坦な状況を見せるが、壁の立ち上がりは緩やかである。南東側に焼土層を検出したが成因は明らかでない。土器は堀之内式から加曾利B1式が出土している。また、第49図に示したように、石器も出土している。16は石皿に使用されていた痕跡はわずかで、凹石として盛んに使用していたことを示す凹部が、両面に多数残存する。

#### 031（第51図、図版7）

不整円形でタライ状の断面形態を示す土坑である。土器の出土は少ない。1は口縁部にヘラ状の工具を用いて施文された鋸歯文が認められる。口縁部と胴部の境が急激に折れて、算盤玉状の器形を呈すると推測され、加曾利B式と考えられる。

#### P103（第54図、図版6）

竪穴住居P105の西に検出され、P102が西側に近接する。地形的には緩斜面部からやや急斜面に移行する肩に当たる位置である。平面形は不整な橢円形で、底面は北側に向かって傾斜している。その北側の狭小な底面に、置かれたような状態で石が出土しているが、この石には加工痕跡や使用痕跡は認められない。覆土はローム質土と黒色土の混ざり合った土で、一気に埋まったような単一層になっている。なお、覆土の状態は近接するP102も同様であった。

#### P107（第55図、図版6・10・19）

6E-41に位置する橢円形の土坑である。覆土はローム質土と黒色土と砂が混ざった単一の層で、検出面から39cmの深さで底面になる。その底面から深鉢1点が伏せられた状態で出土した。深鉢は出土状態では破

片になっていたものの、逆位の状態であることは明瞭で、接合の結果完形に復元できた。おそらく伏せた状態で埋納されたものと考えられるが、中から自然遺物等は検出できなかった。深鉢の器高は20.2cmで、口径は16.4cm、底径8.2cmである。口唇部に刻みが施され、内面の口縁部直下には刺突文が一巡する。口縁部文様の沈線の引き方がやや雑な感があるが、内外面ともミガキが施され、焼成は普通で、色調は全体に暗褐色を示している。

P109 (第55図、図版6・33)

P107の南東側にP108を挟んで位置する。砂とロームが混ざったような黄褐色土の検出面に、暗褐色のシミ状の落込みを発見した。覆土も暗褐色土の単一層で分層は困難であった。平面形は整った円形で、66cmの深さをもつ円筒状の土坑である。底面は小石を含む砂質土で、硬くしまっている。また、底面の南西部には硬い砂の層のためか、掘り残しのような部分が存在する。土器は覆土中に破片が出土するのみで、底面付近からは自然石と石器が出土した。1は底面から17cm上で出土した磨製石斧で完存している。石材は硬質な緑色凝灰岩で、作りは優秀で、肉眼による観察では刃こぼれは認められない。2も磨製石斧であるが、遺存はわずかの部分である。

P112 (第56図、図版6)

002の西側に位置している。円筒状の土坑で底面からの出土遺物もない。この土坑の特徴的な点は、覆土の堆積状況にある。他の土坑が単一層に近い覆土の状態を示していたが、本土坑の覆土は比較的特徴があり分層が可能であった。以下に説明したい。1は黒色土で骨粉らしき白色の細片を含む層である。2は暗褐色土で黒色土とロームが混ざり合う。3は黄褐色土でロームと砂である。4は暗褐色土で鉄分を含む砂と黒色土である。5は黄褐色土でロームと砂の混ざった層である。6は黄褐色土で鉄分を含む砂の中にロームブロックが混ざる層である。7は暗褐色土でロームと黒色土が混ざりしまりをもっている。8は暗褐色土で粘性があるロームである。以上のように分けられたが、1層は一度埋まった土坑を掘り返し、再度一気に埋め戻したように見える。

P113 (第56図、図版7)

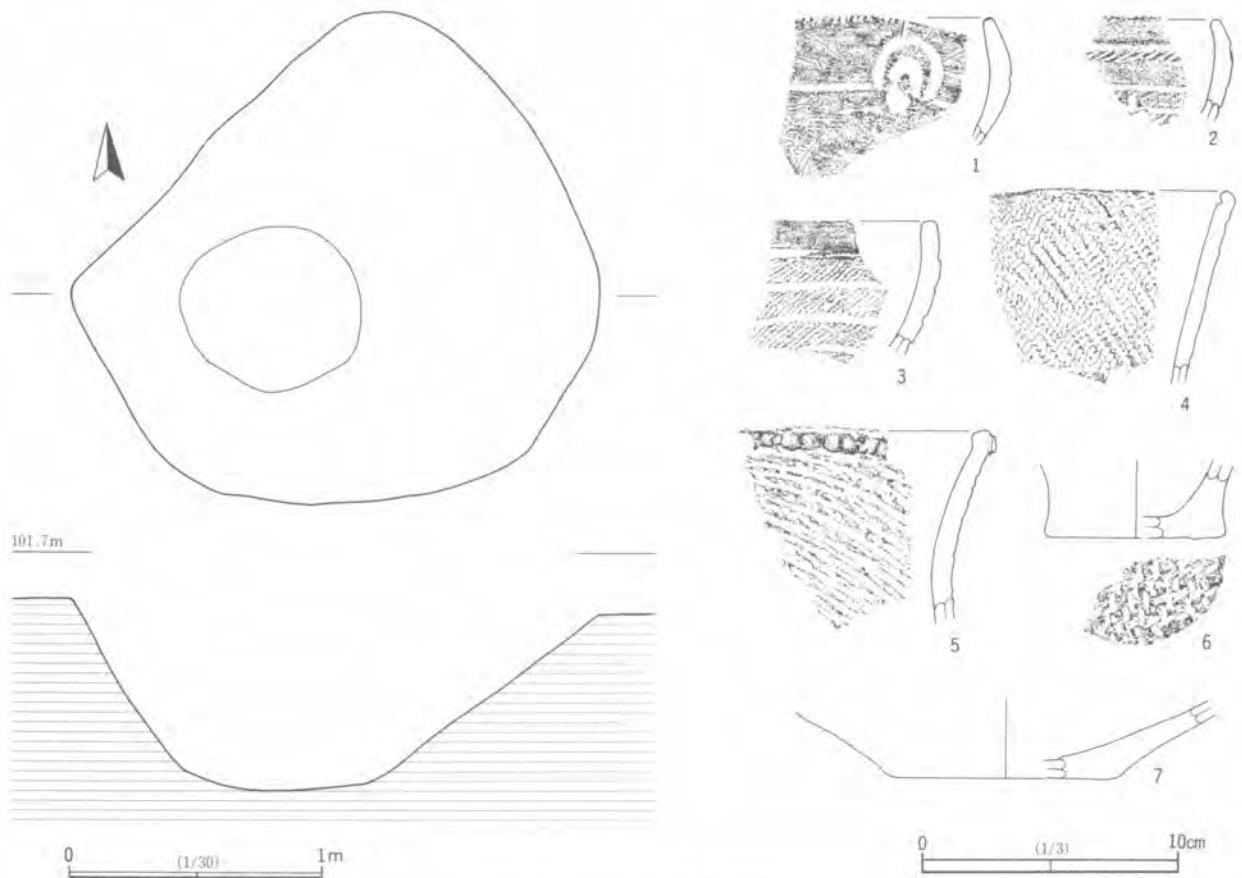
P112の北東に近接して位置する。直径約1.15mの円形を呈し、深さは40cmで底面にさらに小ピットを設ける土坑である。底面に明瞭に小ピットをもつ土坑はこの1基に限られる。覆土上層は焼土粒が混ざる黒色土である。遺物の出土は認められない。

P114 (第56・57図、図版10・34)

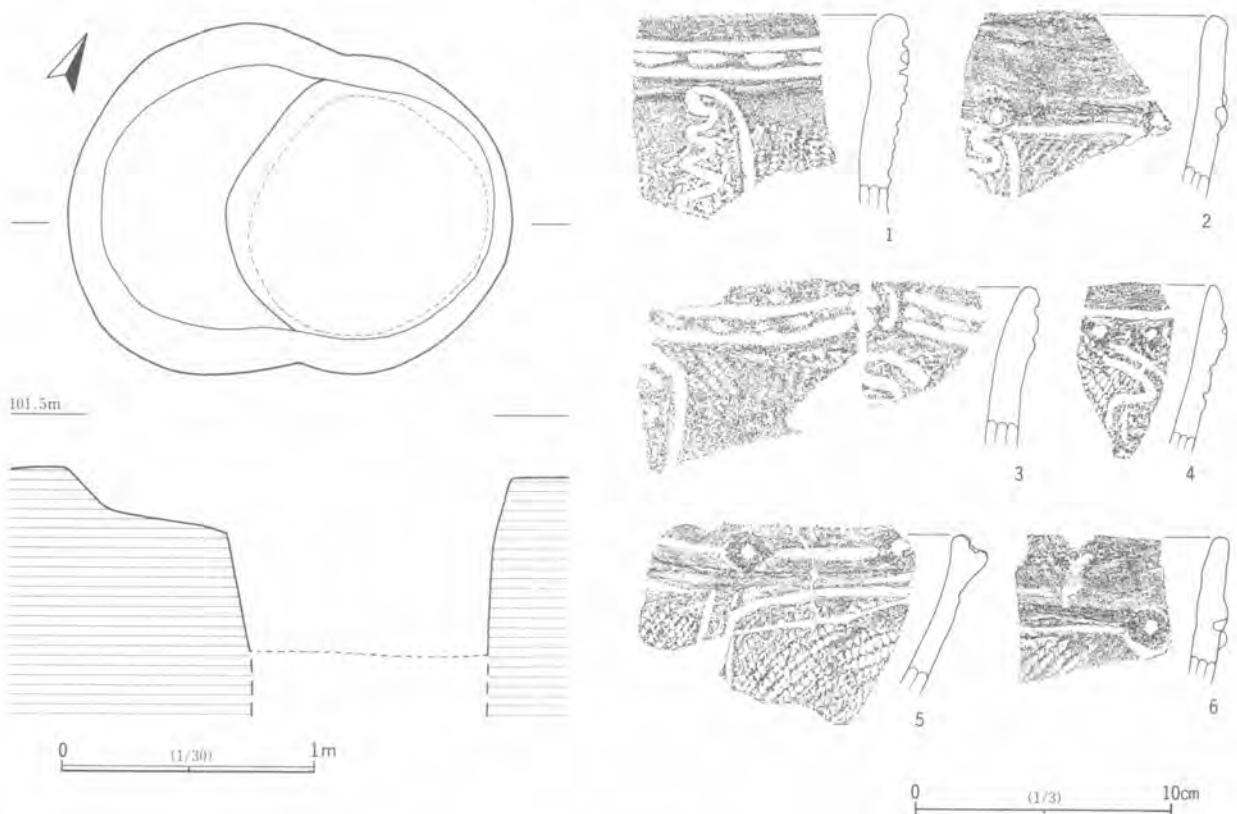
埋甕集中遺構013の北西に近接して位置している。平面形は不整な長方形で検出面から75cmの深さがあり、底面は船底状の曲面を呈する。長軸方向の片側である南側にオーバーハングが認められる。検出面から覆土にかけて複数の深鉢の破片が出土している。第57図の1・2はそれらの深鉢の中で復元できたものである。いずれも胴部から底部であり、縄文の施文のみが認められる。



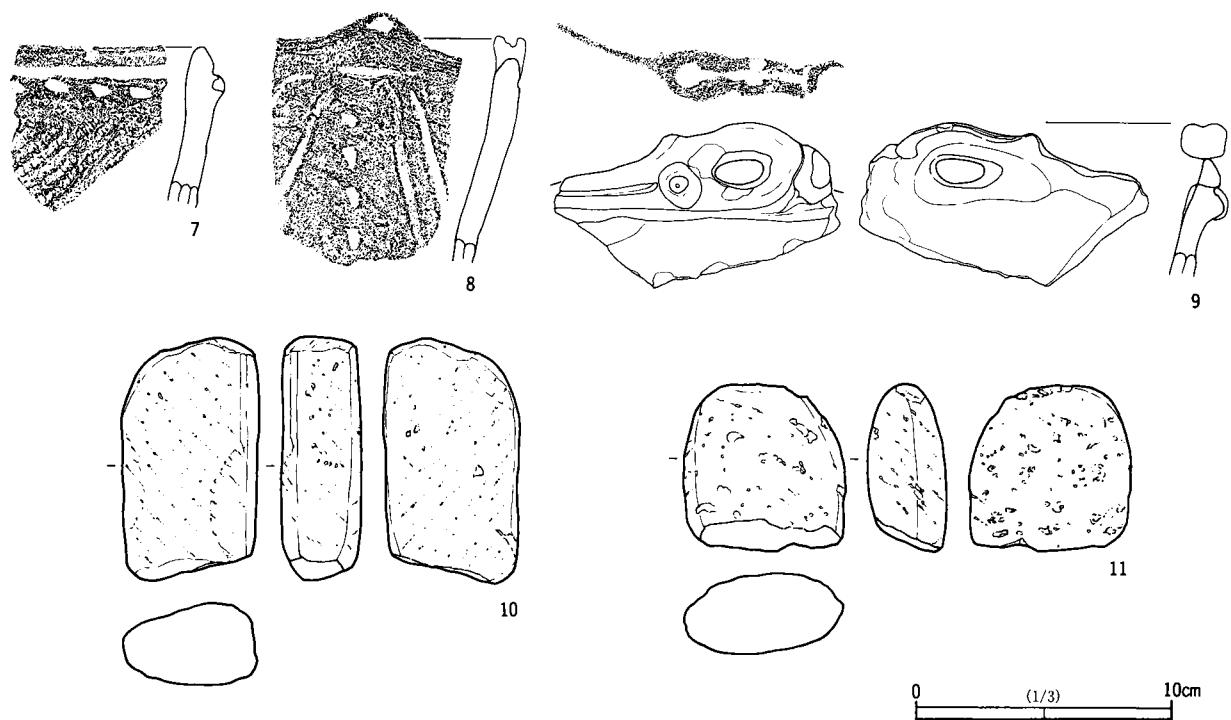
第43図 土坑分布状況（1）



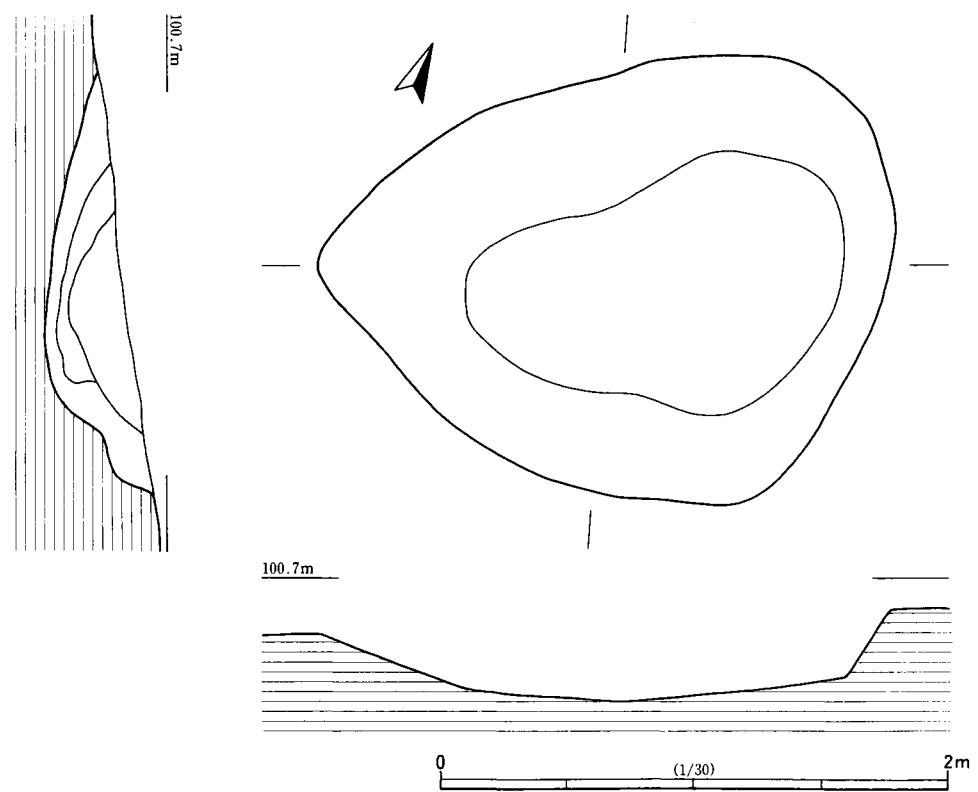
第44図 003・003出土遺物



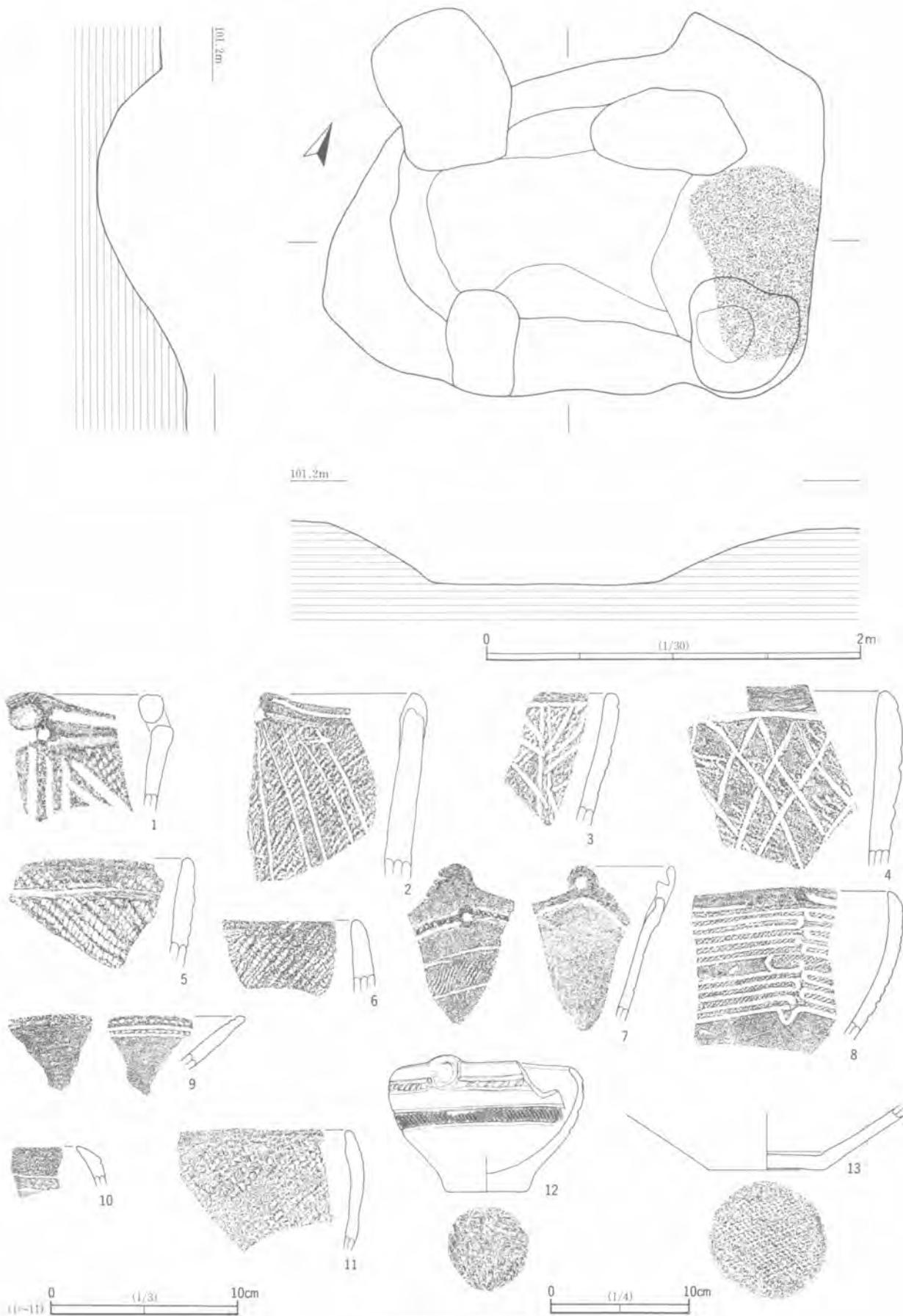
第45図 006・006出土遺物 (1)



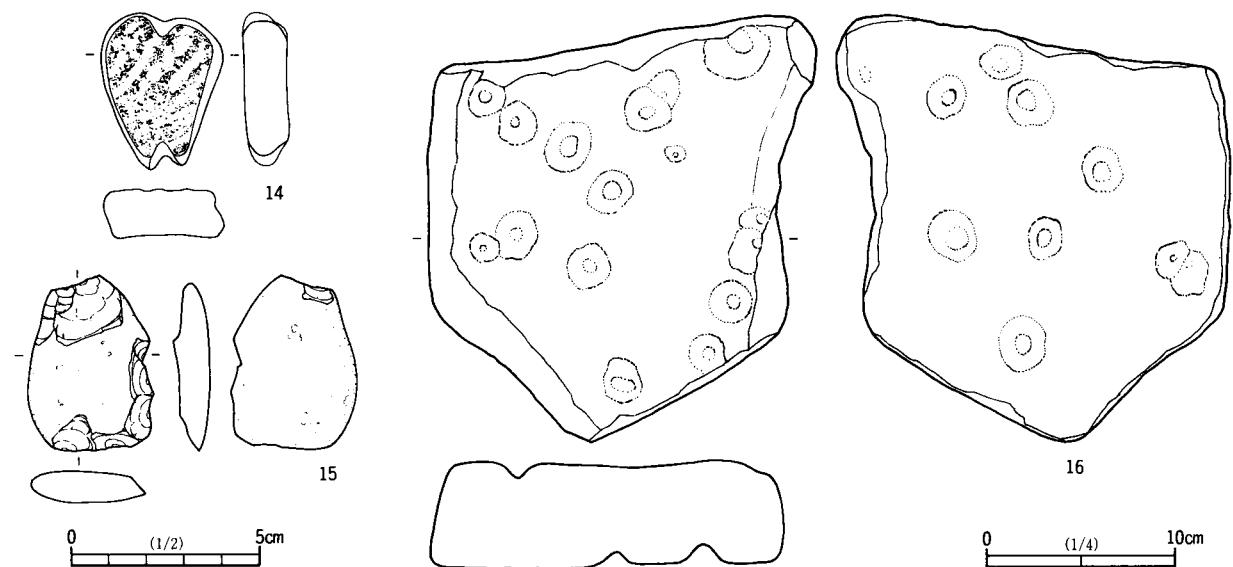
第46図 006出土遺物 (2)



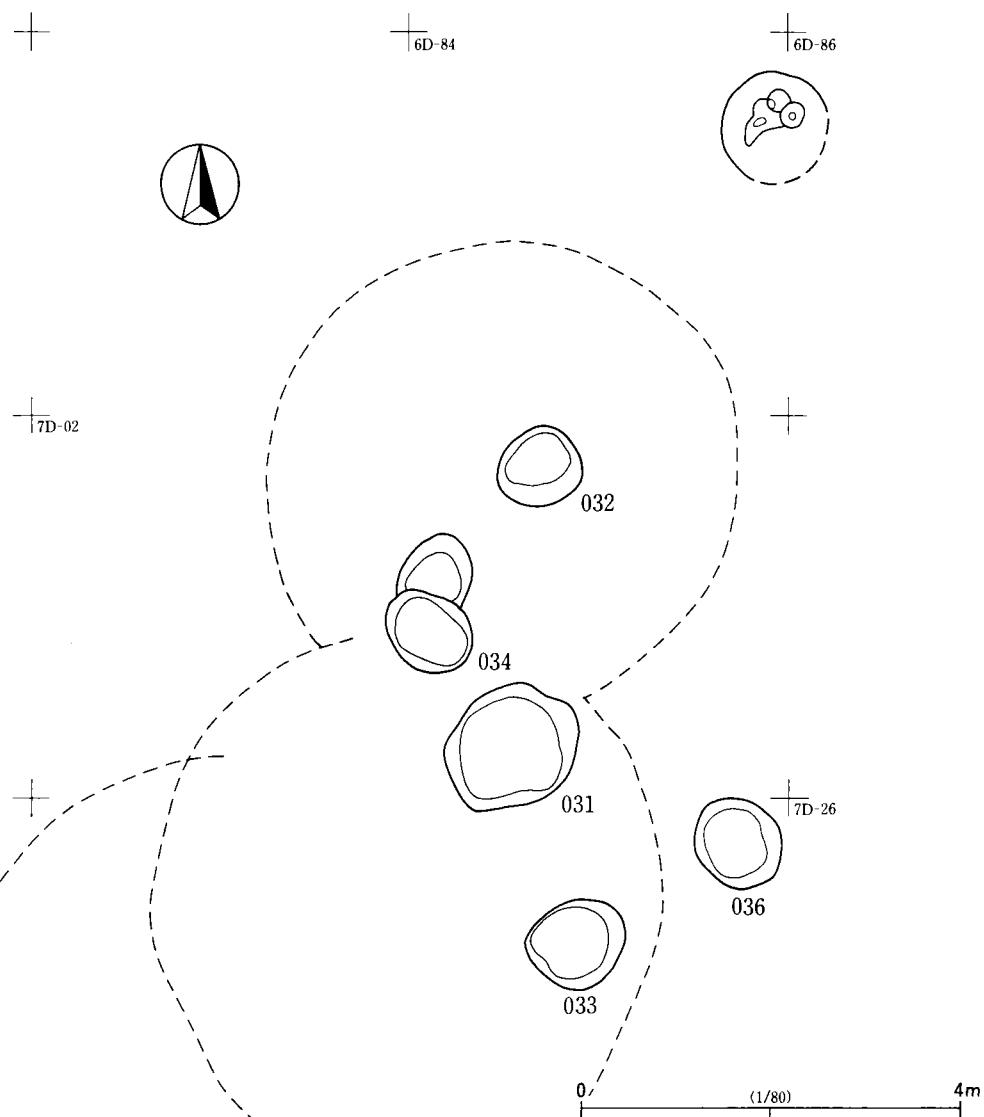
第47図 007



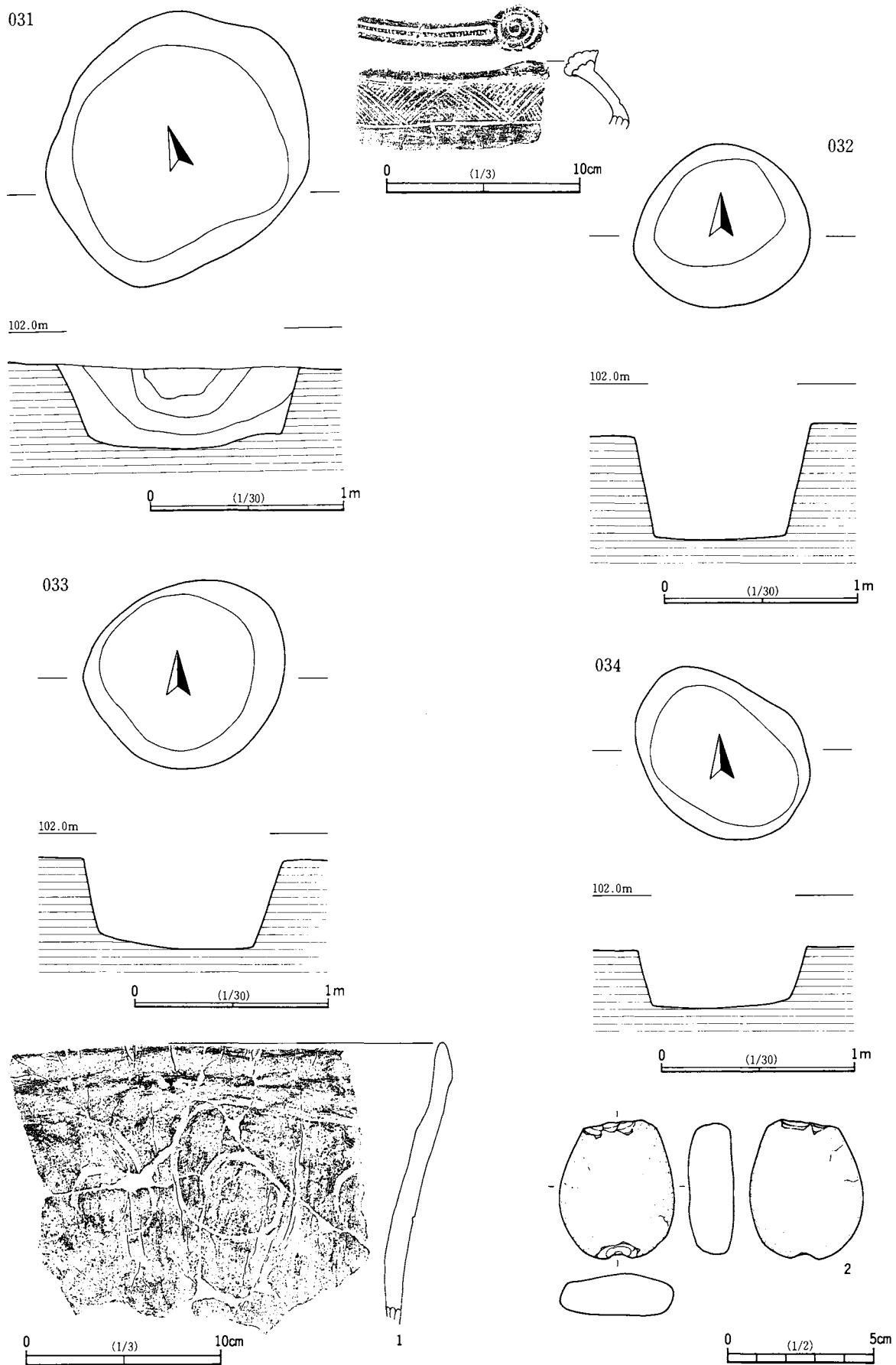
第48図 008・008出土遺物（1）



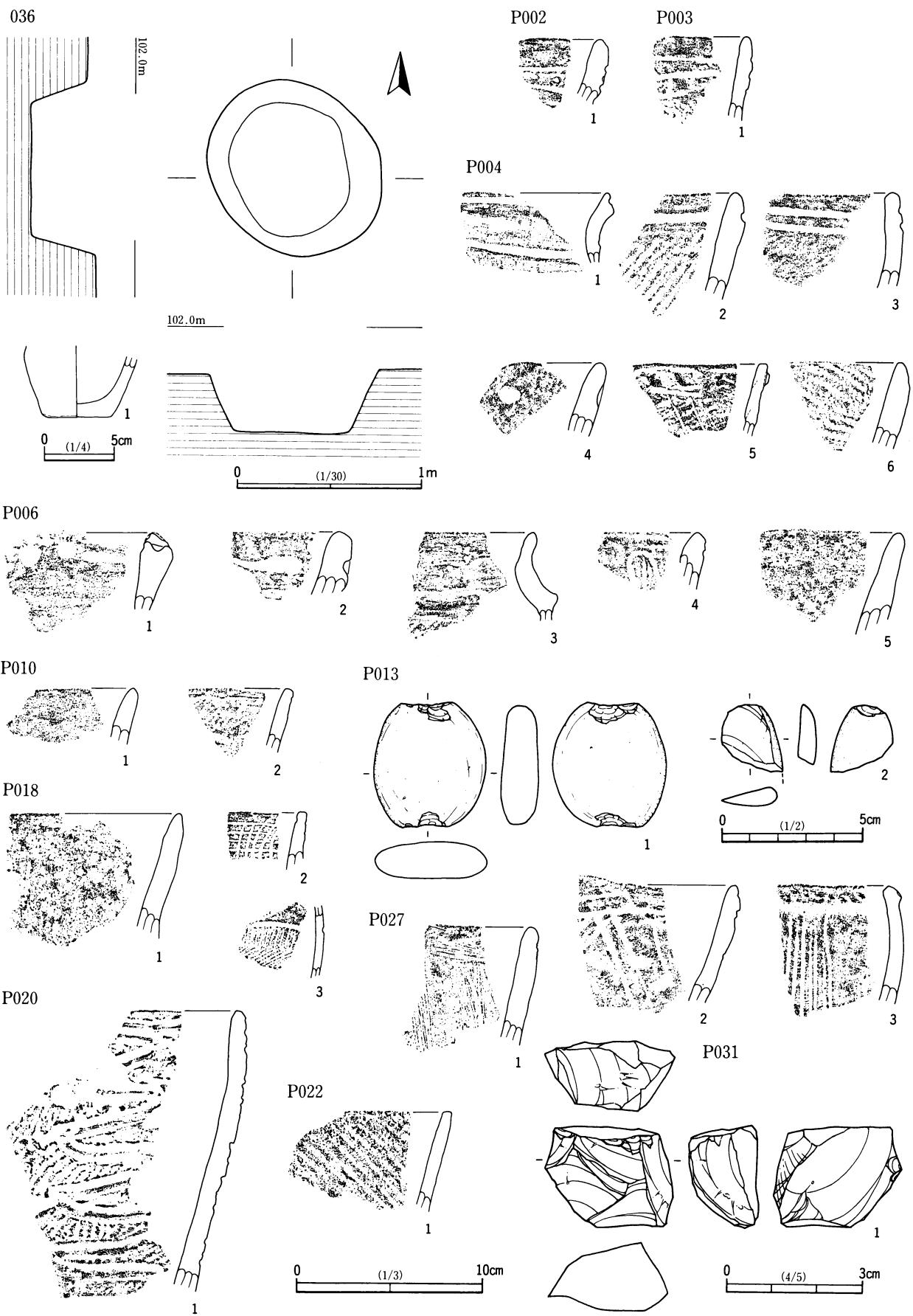
第49図 008出土遺物 (2)



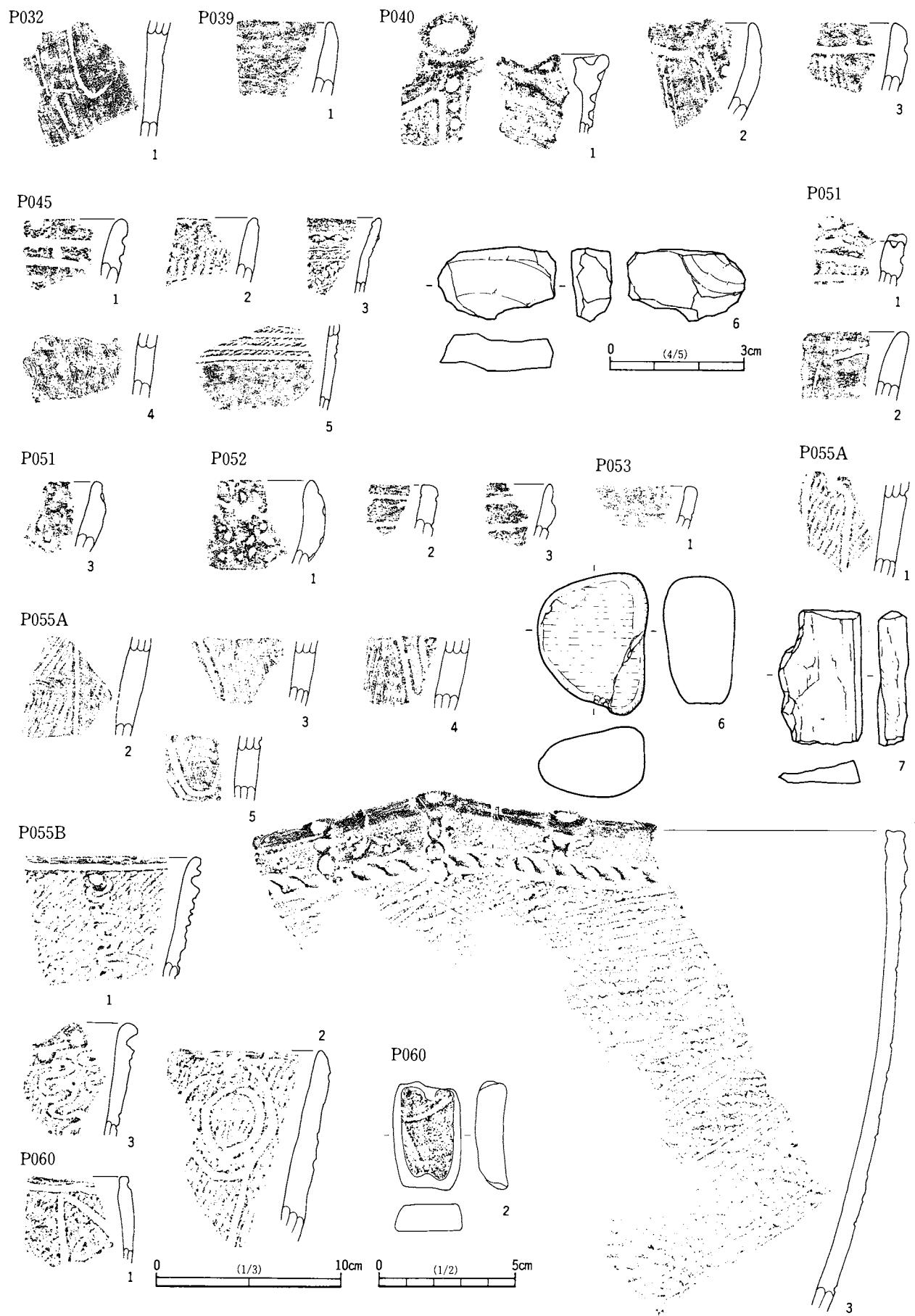
第50図 土坑分布状況 (2)



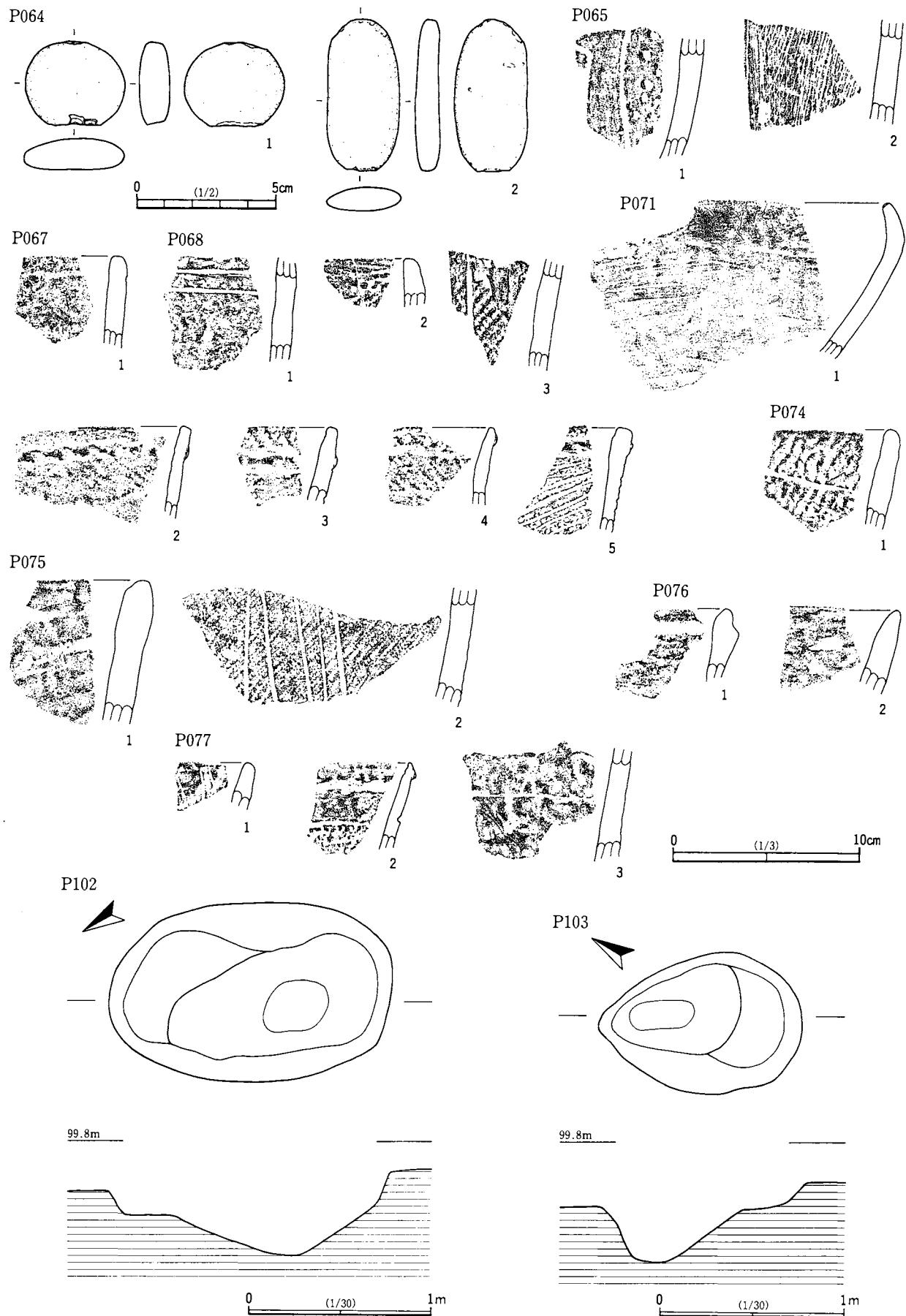
第51図 土坑と出土遺物（1）



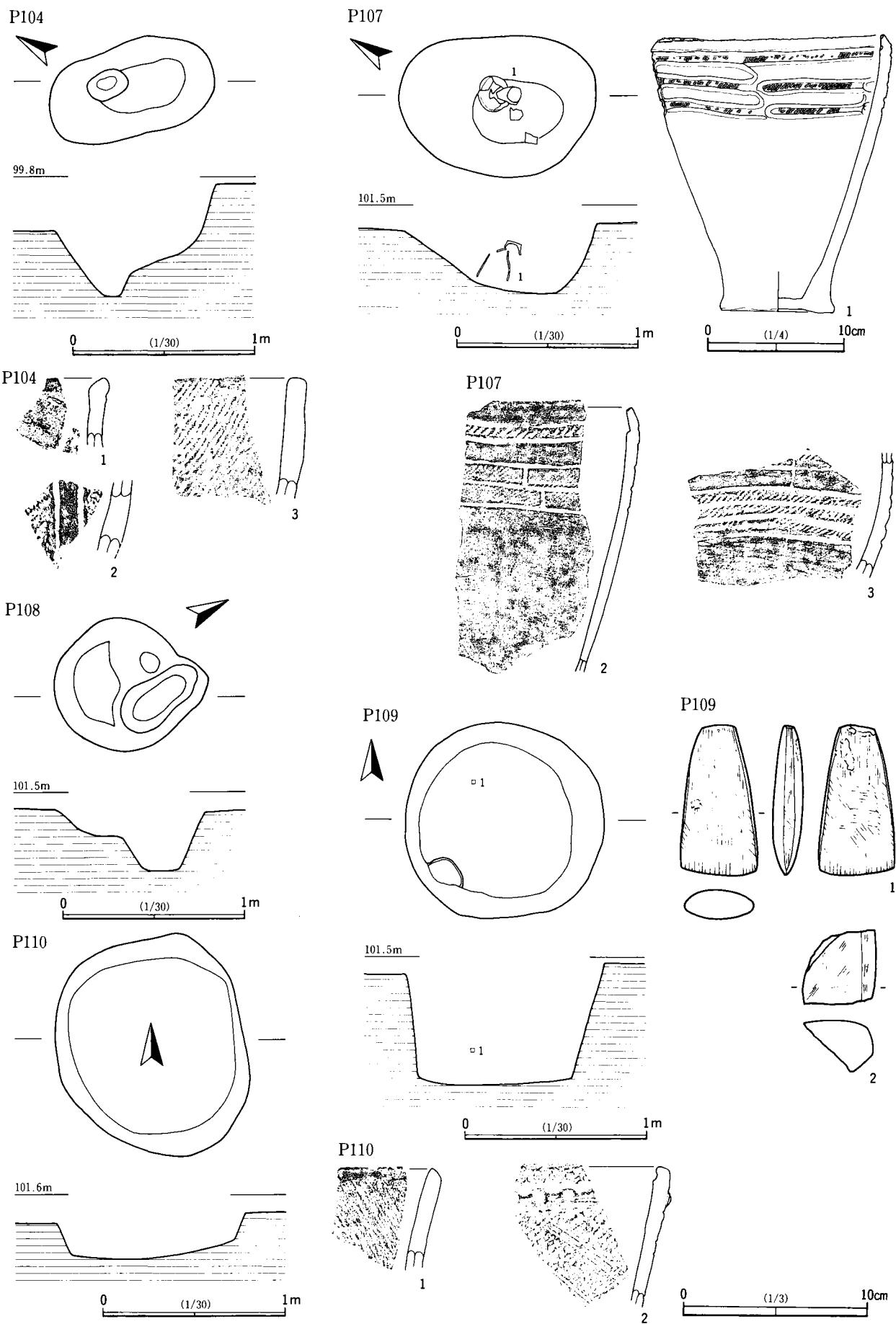
第52図 土坑と出土遺物（2）



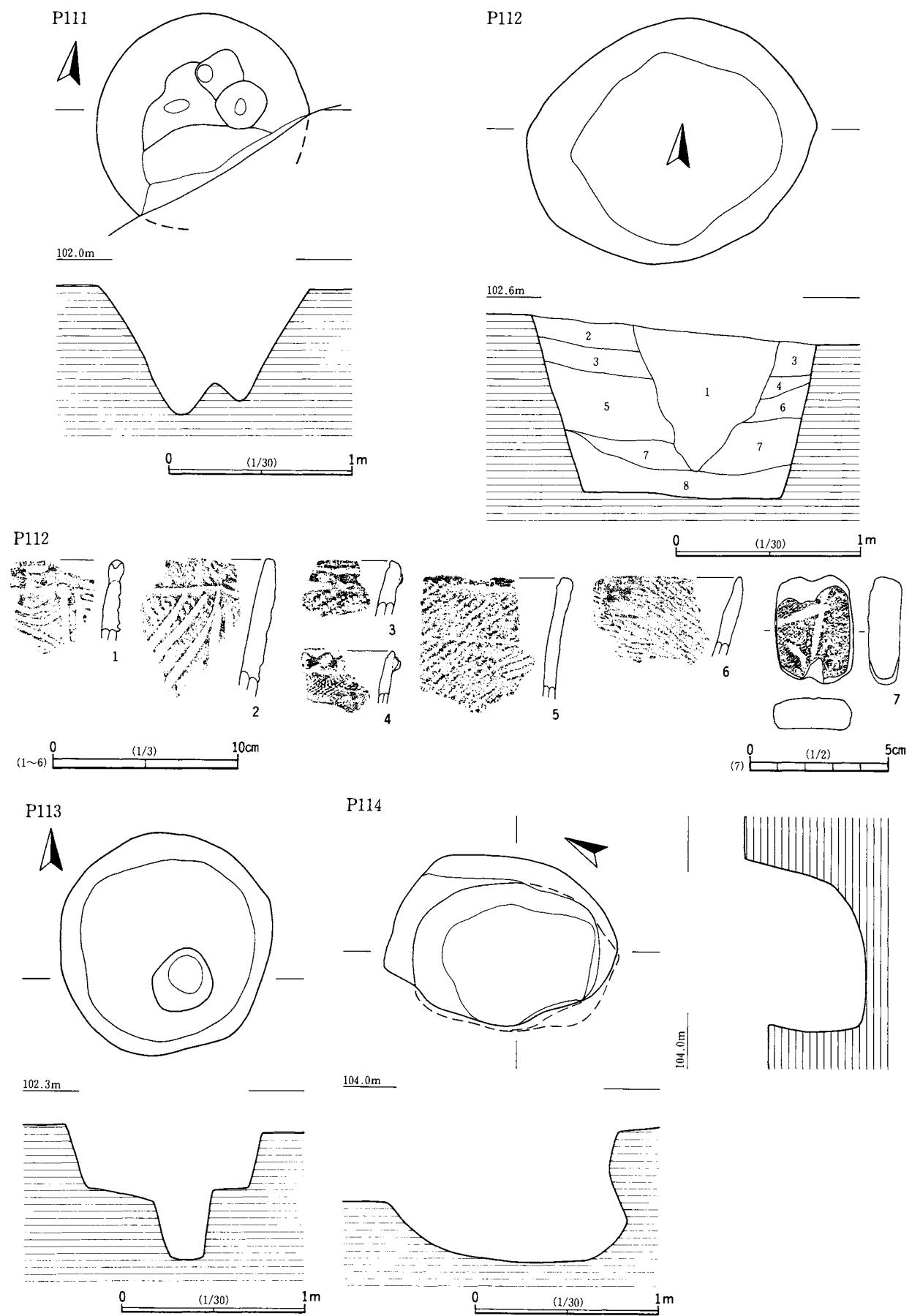
第53図 土坑と出土遺物（3）



第54図 土坑と出土遺物 (4)

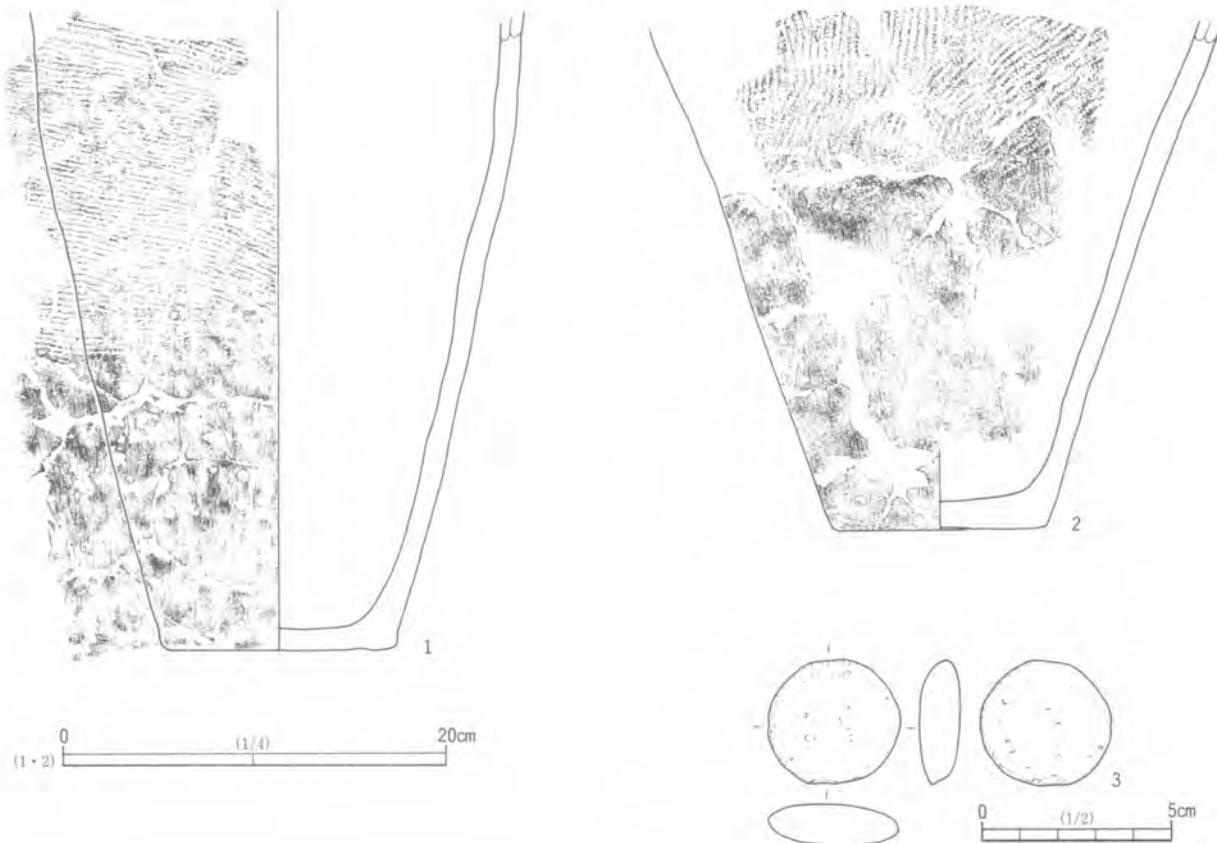


第55図 土坑と出土遺物（5）

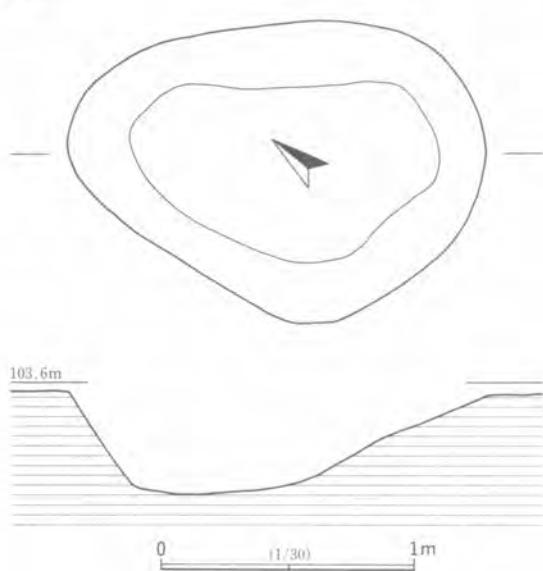


第56図 土坑と出土遺物（6）

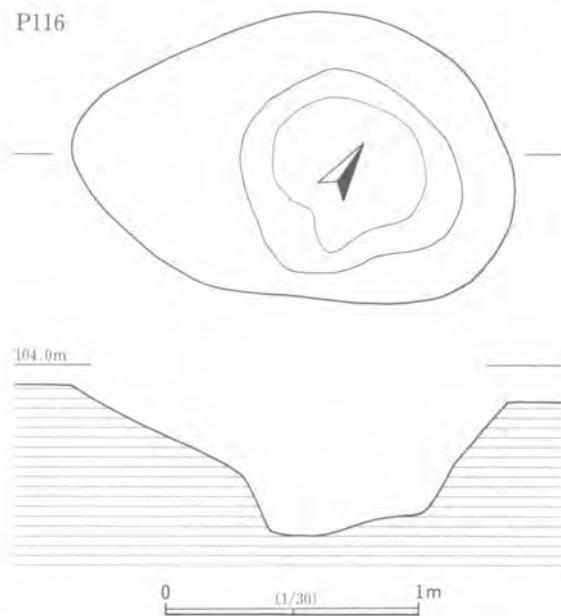
P114



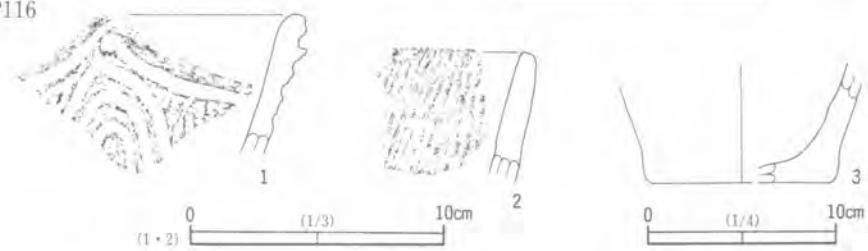
P115



P116



P116



第57図 土坑と出土遺物 (7)

第1表 検出遺構一覧

遺構No.	遺構の種類	位置	規模(長軸長)m	規模(短軸長)m	深さm	出土遺物	時期
001	竪穴住居	7E-99	(6.80)	(6.38)	(0.37)	土器	安行1
002	竪穴住居	7E-42	5.70	4.95	0.30	土器・石器・石棒	加曾利B1
003	土坑	6D-29	2.07	1.94	0.74	土器・石器	加曾利B1
004	遺構番号を付けて遺物を取り上げたが、遺構に認定していない。					土器・石器	
005	竪穴住居	6C-27	(4.60)	(4.38)	(0.30)	土器	堀之内2
006	土坑	6C-49	(1.72)	(1.36)	(1.76)	土器・石器	堀之内1
007	土坑	6C-18	2.24	1.76	0.42	土器・石器	
008	土坑	5D-86	2.70	2.09	0.25	土器・石器	加曾利B1
009	欠番						
010	欠番						
011	埋設土器集中遺構	6D-90	—	—	—	土器・石器	堀之内1
012	竪穴住居	7D-24	(5.36)	5.20	(0.45)	土器・石器・骨粉	堀之内1~2
013	埋設土器集中遺構	8E-10	(2.33)	—	(0.30)	土器・土製品・石器	堀之内1?
014	欠番						
015	竪穴住居	4C-65	2.55	2.50	0.26	土器・石器・種子	堀之内1?
016	風倒木痕	5C-79				土器	
017	風倒木痕	5C-89				土器	
018	風倒木痕	5C-64				土器	
019	風倒木痕	5C-42				土器	
020	風倒木痕	5C-58				土器	
021	風倒木痕	5C-26				土器	
022	風倒木痕	5D-40				土器	
023	欠番						
024	風倒木痕	5C-95				土器	
025	風倒木痕	5D-60				土器	
026	風倒木痕	5C-86				土器・石器	
027	欠番						
028	欠番						
029	竪穴住居	7D-32	5.50	(5.50)	(0.45)	土器・土製品・石器	堀之内1
030	土坑	7D-06	1.00	0.55	0.12		
031	土坑	7D-14	1.43	1.24	0.43	土器	加曾利B1
032	土坑	7D-04	0.91	0.83	0.60	土器	
033	土坑	7D-24	1.06	0.94	0.47		
034	土坑	7D-14	0.97	0.76	0.32	土器・石器	堀之内
035	竪穴住居	7D-04	(5.00)	(5.00)	—	土器・石器	堀之内1?
036	土坑	7D-25	1.00	0.87	0.36	土器	
037	欠番						
P-001	土坑	6C-78	1.04	0.74	0.20		
P-002	土坑	6C-68	0.87	0.77	0.33	土器	
P-003	土坑	6C-78	0.72	0.47	0.14	土器	
P-004	土坑	6C-68	0.70	0.58	0.41	土器	堀之内
P-005	土坑	6C-69	0.40	0.32	0.35		加曾利B1
P-006	土坑	6C-69				土器	堀之内
P-007	土坑	6D-60	(0.60)	(0.60)	(0.19)		
P-008	土坑	6D-60	1.30	0.90	0.39	土器	加曾利B
P-009	土坑	6D-60	0.56	0.53	0.43	土器	
P-010	土坑	6D-61	0.56	0.44	0.45	土器	
P-011	土坑	6C-69	0.33	0.18	0.42	土器	堀之内
P-012	土坑	6C-59	2.18	0.89	0.54	土器	堀之内
P-013	土坑	6C-59	0.38	0.27	0.48	土器	
P-014	欠番						
P-015	土坑	6C-59	0.52	0.26	0.36		
P-016	欠番						
P-017	欠番						
P-018	土坑	6D-51	1.24	0.84	0.24	土器	加曾利B
P-019	欠番						
P-020	土坑	6D-40	1.08	0.97	0.32	土器	
P-021	土坑	6D-41	(0.82)	(0.50)	(0.32)		
P-022	土坑	6D-42	0.85	0.60	0.18	土器	
P-023	土坑	6D-41	(1.30)	(1.06)	(0.32)	土器	堀之内
P-024	土坑	6D-52	0.92	0.78	0.20		
P-025	欠番						
P-026	土坑	6D-53	0.61	0.48	0.64		
P-027	欠番						
P-028	土坑	6D-43	(0.44)	(0.36)	(0.57)		
P-029	土坑	6D-43	0.80	0.57	0.16		

遺構No	遺構の種類	位置	規模(長軸長)m	規模(短軸長)m	深さm	出土遺物	時期
P-030	欠番						
P-031	土坑	6D-43	0.98	0.83	0.40	土器・石器	
P-032	土坑	6D-32	0.52	0.40	0.38	土器	堀之内
P-033	土坑	6D-22	0.48	0.36	0.16		
P-034	欠番						
P-035	欠番						
P-036	欠番						
P-037	欠番						
P-038	土坑	6D-00	0.75	0.46		土器	堀之内
P-039	土坑	6D-00	0.53	0.49	0.56		堀之内
P-040	土坑	6D-11	0.70	0.47	0.32	土器	堀之内
P-041	土坑	6D-02	(1.02)	(0.59)	(0.32)	土器	堀之内
P-042	土坑	6D-02	(1.95)	(1.10)	(0.30)		
P-043	欠番						
P-044	土坑	6D-14	0.84	0.68	0.31		
P-045	土坑	6D-24	4.70	1.94	0.43	土器・石器	加曾利B
P-046	土坑	6D-33	0.56	0.47	0.42	土器	堀之内
P-047	土坑	6D-34	1.90	0.87	0.10	土器	堀之内
P-048	土坑	6D-24	0.84	0.72	0.39	土器	堀之内
P-049	土坑	6D-15	0.56	0.55	0.16		
P-050	土坑	6D-25	0.50	0.41	0.55		
P-051	土坑	6D-25	1.42	0.85	0.33	土器	堀之内
P-052	土坑	6D-35	0.97	0.72	0.45	土器	堀之内
P-053	土坑	6D-45	0.84	0.64	0.32	土器	堀之内
P-054	欠番						
P-055A	土坑	6D-46	1.10	0.88	0.15	土器・石器	堀之内
P-055B	土坑	6D-36	(0.60)	(0.37)		土器	堀之内
P-056	土坑	6D-45	(0.48)	(0.70)	(0.09)		
P-057	土坑	6D-46	0.44	0.34		土器	堀之内
P-058	土坑	6D-56	(0.90)	(0.88)	(0.25)	土器	堀之内
P-059	土坑	6D-66	(0.80)	(0.70)	(0.38)	土器	堀之内
P-060	土坑	6D-44	0.45	0.41	0.21	土器	堀之内
P-061	欠番						
P-062	土坑	5D-92	(0.32)	(0.30)	(0.25)		
P-063	土坑	5D-95	0.85	0.40	0.16	土器・石器	
P-064	土坑	6D-06	1.30	0.86	0.40	土器・石器	加曾利B
P-065	土坑	6D-06	0.80	0.39	0.17	土器	
P-066	土坑	6D-26	1.13	0.78	0.32	土器	加曾利B
P-067	土坑	6D-07	0.78	0.58	0.45	土器	
P-068	土坑	6D-27	1.02	0.80	0.39	土器	
P-069	土坑	6D-27	1.05	0.60	0.14	土器	
P-070	土坑	6D-09	1.92	0.90			
P-071	土坑	6E-10	2.40	0.97	0.62	土器	加曾利B
P-072	土坑	6D-06	0.54	0.40	0.28		
P-073	土坑	6D-16	0.48	0.30	0.23		
P-074	土坑	6D-17	0.78	0.60	0.20	土器	
P-075	土坑	6D-27	0.55	0.40	0.16	土器	堀之内
P-076	土坑	5D-85	0.65	0.42	0.35	土器	堀之内
P-077	土坑	5D-85	(0.86)	(0.65)	(0.34)	土器	
P-078~P-100	欠番						
P-101	土坑	4C-59				土器	加曾利B
P-102	土坑	5D-62	1.51	0.95	0.45	土器	堀之内
P-103	土坑	5D-63	1.09	0.75	0.43	土器・石器	
P-104	土坑	5D-64	0.92	0.50	0.61	土器	堀之内
P-105	竪穴住居	5D-65	(4.38)	(4.06)	(0.70)	土器・石器	堀之内 1
P-106	欠番						
P-107	土坑	6E-41	1.08	0.77	0.39	土器	加曾利B1
P-108	土坑	6E-52	0.71	0.70	0.42	土器	
P-109	土坑	6E-53	1.09	1.06	0.66	土器・石器	堀之内
P-110	土坑	6D-54	1.20	1.02	0.26	土器	加曾利B
P-111	土坑	6D-85	1.16	0.85	0.67	土器	加曾利B
P-112	土坑	7D-58	1.55	1.24	0.98	土器	加曾利B
P-113	土坑	7D-39	1.18	1.13	0.40		
P-114	土坑	8D-09	1.25	0.90	0.75	土器	堀之内
P-115	土坑	8D-19	1.63	1.18	0.40		
P-116	土坑	8D-19	1.70	1.15	0.59	土器	堀之内

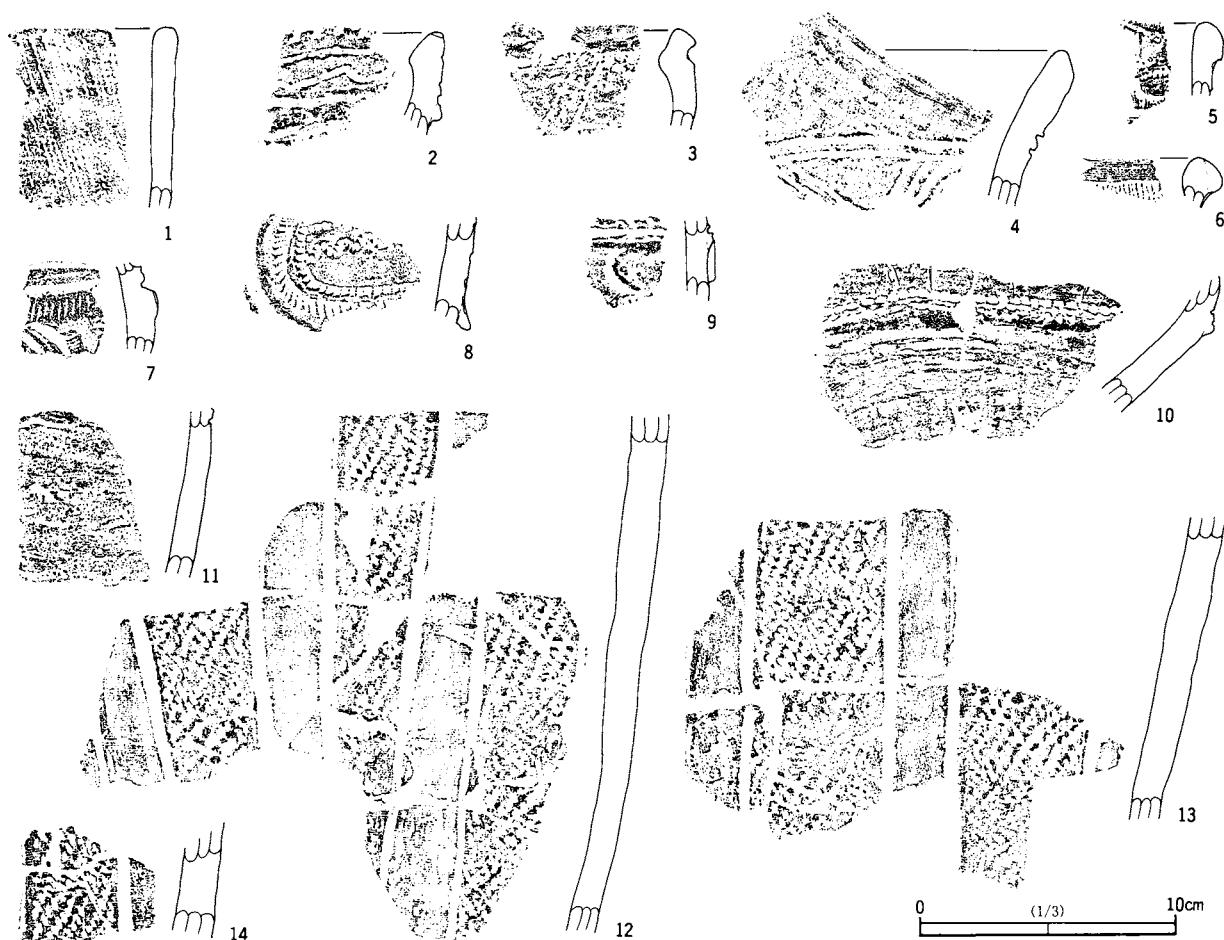
## 第4節 遺構外出土遺物

### 1 土器

前節まで遺構とそこから出土した遺物について説明を加えてきたが、遺構に伴わない土器の量は遺構出土土器の総量を遥かに上回る。遺構外の土器には早期と中期に比定できる資料がわずかに存在し、後期が大部分を占め、晩期の土器が散見される。早・中期の土器は調査区全域を対象に入れても、第58図にそのほとんどを呈示することが可能である。しかし、出土量の多い後期以降の土器は、大グリッド毎に掲載することとし、実測図作成が可能になった保存状態の比較的良好な資料をはじめに載せ、その後に破片資料を拓本と断面図で示した。

#### 早・中期の土器（第58図）

1は早期の撚糸文系土器で、出土土器の中で口縁部資料はこの1点のみである。稻荷台式になる。2～14は中期の土器である。2～11では6・7が勝坂式になるかもしれないが、ほかは阿玉台II式になるだろう。12～14は加曾利E式の深鉢の胴部である。沈線が縦方向に引かれ、縄文施文部分と磨消して無文になる部分が交互に繰り返されている同一個体である。E II式と見られる。



第58図 遺構外出土土器（1）

## 後期以降の土器（第59～93図、図版11・12・20～32）

第59図7は注口土器の口縁部から胴部上半部である。胴部は縄文を地文にし、沈線による渦巻き状の文様が4単位に施される。把手が対で付けられその一方に注口部を設けるが、注口部は剥がれて遺存しない。10は浅鉢形の注口土器である。口縁部は内側に折り曲げられ、対の把手が付けられる。対の把手部との直交方向の口縁部に注口部が作られるが形状は不明で、把手が存在していた可能性もある。13は小型の深鉢で縄文のみが施文されている。23は浅鉢で外面が無文で内面の口縁部に沈線と刻みが施され、口縁部に突起が付けられる。28は無文の深鉢である。30は口縁部を無文にし、胴部に縄文を施し、口縁部の内面に一条の凹線を引いている。39は晩期中葉の前浦式の浅鉢である。

45は朝顔形を呈する深鉢で、胴部は曲線的な沈線文間に縄文を充填し、本来無文になる部分にも縄文が施文されている。46は口縁部と胴部中位、注口部の周辺に列点状の刺突文を施した注口土器である。外面はミガキで平滑に仕上げられ、黒色を呈している。54は無節の縄文を地文にし、ヘラ状の幅のやや広い工具によって沈線文が施される。55は上面観が楕円形を呈する無文の浅鉢である。65は節の細かな縄文を地文にし、垂下する細い沈線文と同心円を描く細い沈線文が、器面全体を覆うように連続して施される。75は把手に注口部が連結する注口土器で、体部の上半に弧上の隆線文が付く。

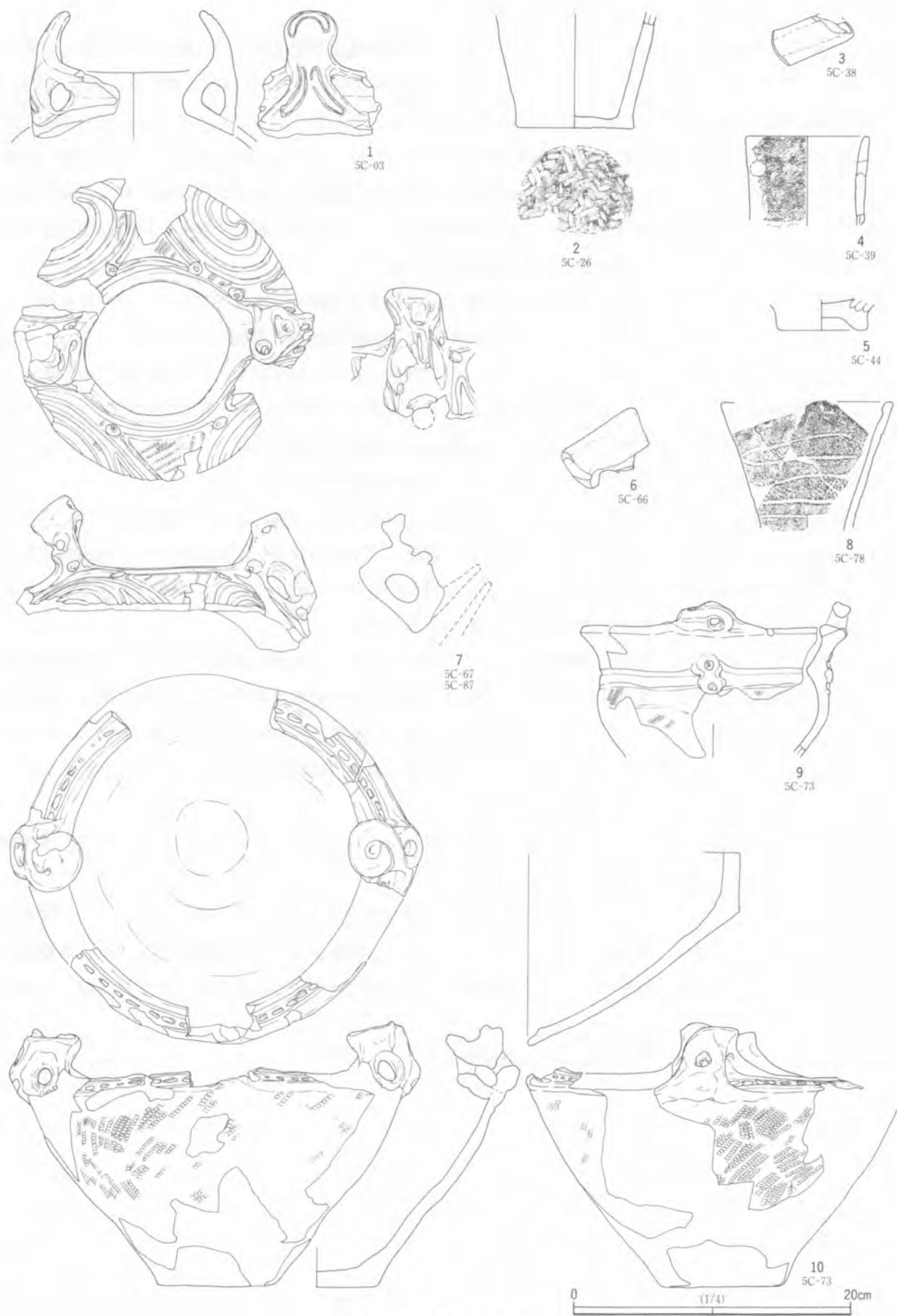
80は胴部と口縁部の境界にくびれをもち、4単位の波状口縁になる深鉢である。口縁部直下には長さ8mm前後の刻み状の短沈線が縦方向に連続して施され、胴部は2本対の沈線文が無文地の上に曲線的に配される。外面の色調は茶褐色で、内面にはこげ状の炭化物が付着する。胎土は緻密で焼成は普通である。東海地方あるいは西日本からの搬入である可能性をもつ土器である。

84は胴部上半のみに地文が施され、櫛歯状工具で引かれた沈線文が全面に展開する。86は波頂部から垂下する集合沈線間にX字状の沈線を埋めている。92は加曽利B式の粗製深鉢である。胴部が大きく膨らんで口縁部との境に紐線文を周回させている。98は注口土器の口縁部であるが、注口部と把手を欠いている。99は口縁部に3列の紐線文が巡り、胴部の上半部には沈線の区画内に縄文が充填され、そのほかをミガキで仕上げている。

第72図～第93図は破片資料の拓本を大グリッド毎に載せた。いずれの地区も堀之内式が多いが、加曽利B式も目立つ。また、晩期の資料が散発的に出土している。

第80図309は6D-84からの出土である。口縁部に杵状の隆起線が施され、その内側に沈線が巡る。縦方向に貼り付けられた突起には、縦長の刺突が加えられる。全体に縄文が施文され暗褐色を呈する。本資料は在地の土器に認められない特徴を示しており、搬入品の可能性があるが、土器型式の比定は保留しておきたい。

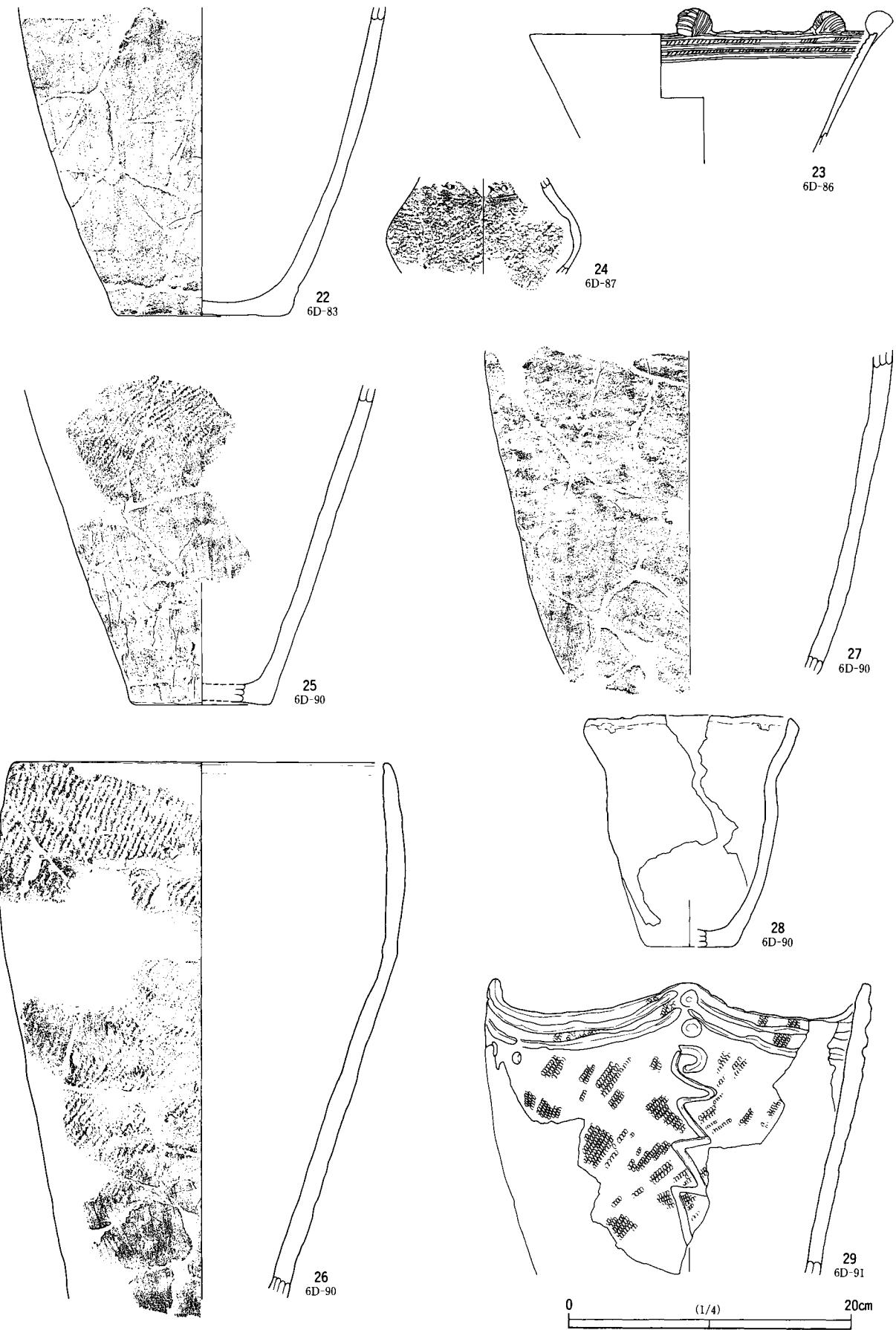
第85図414・415は波状口縁となる浅鉢の口縁部である。



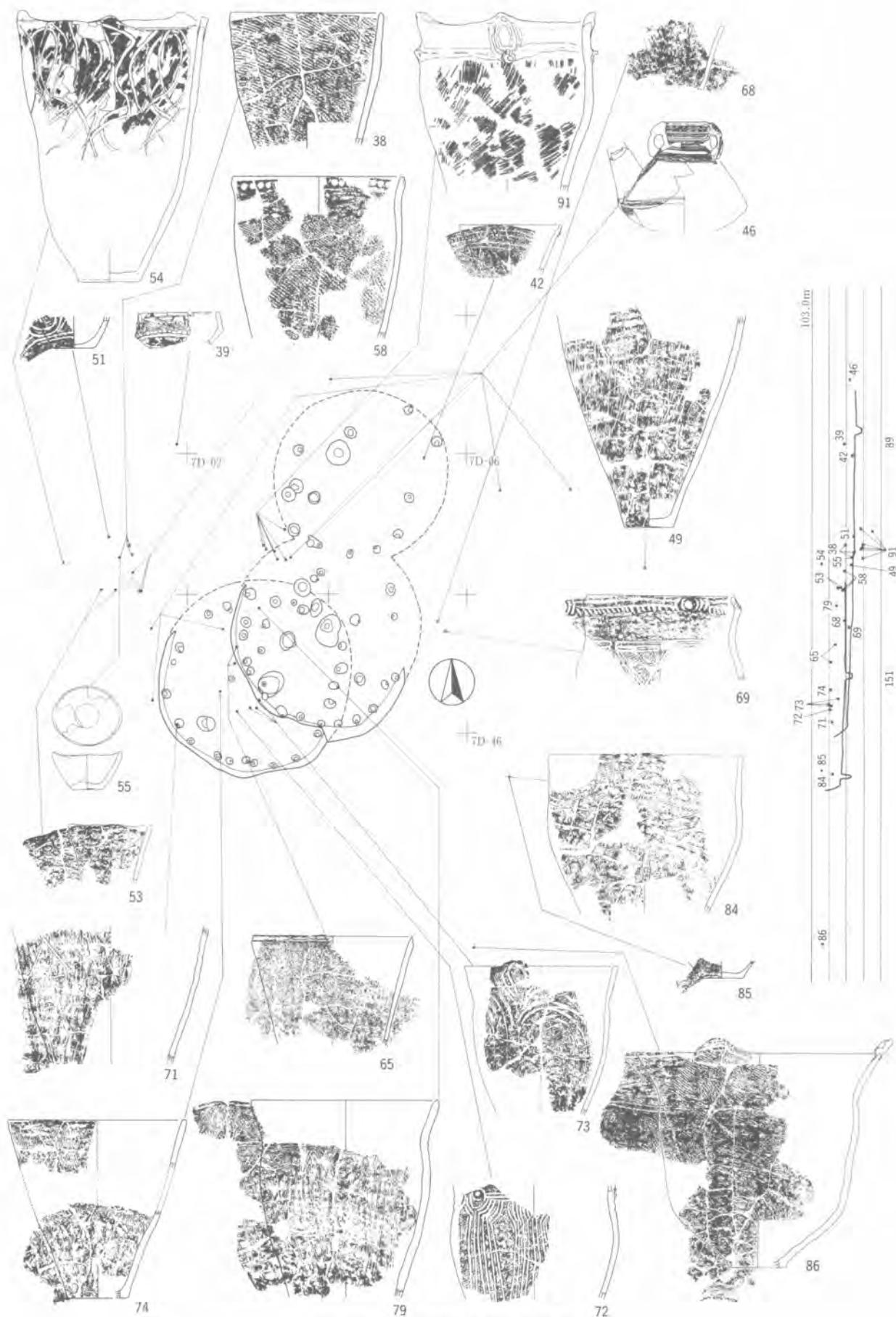
第59図 遺構外出土土器 (2)



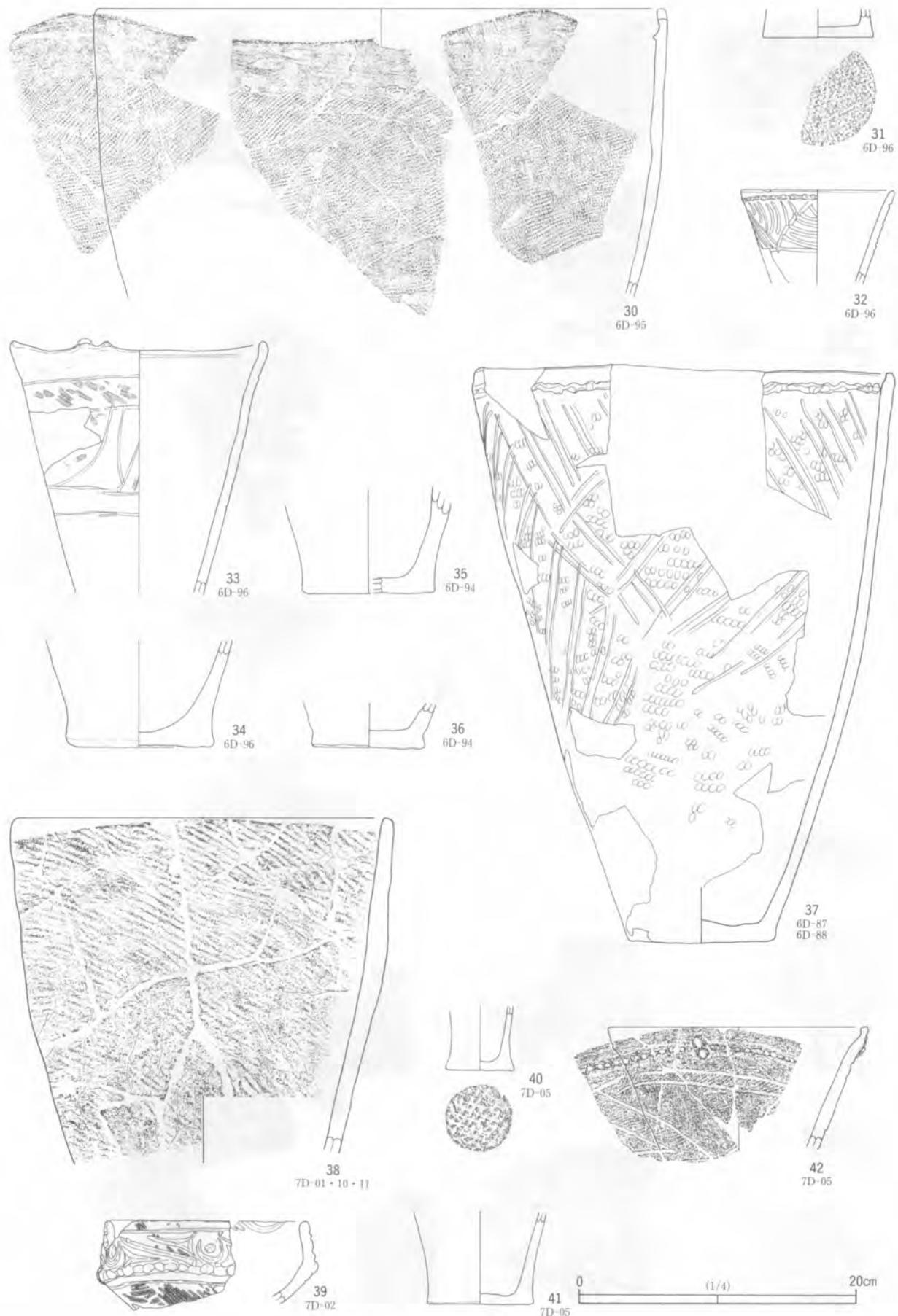
第60図 遺構出土土器 (3)



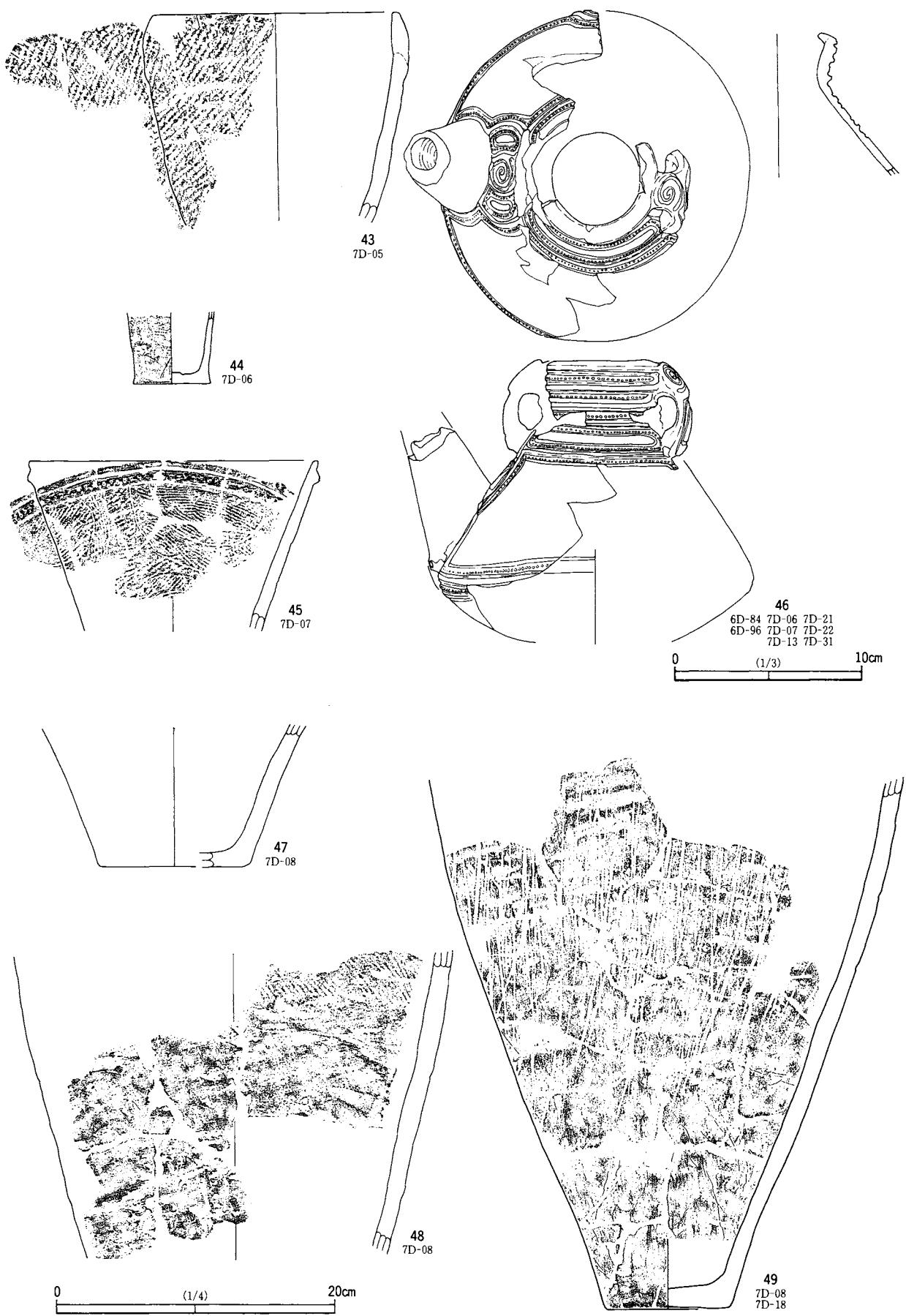
第61図 遺構外出土土器 (4)



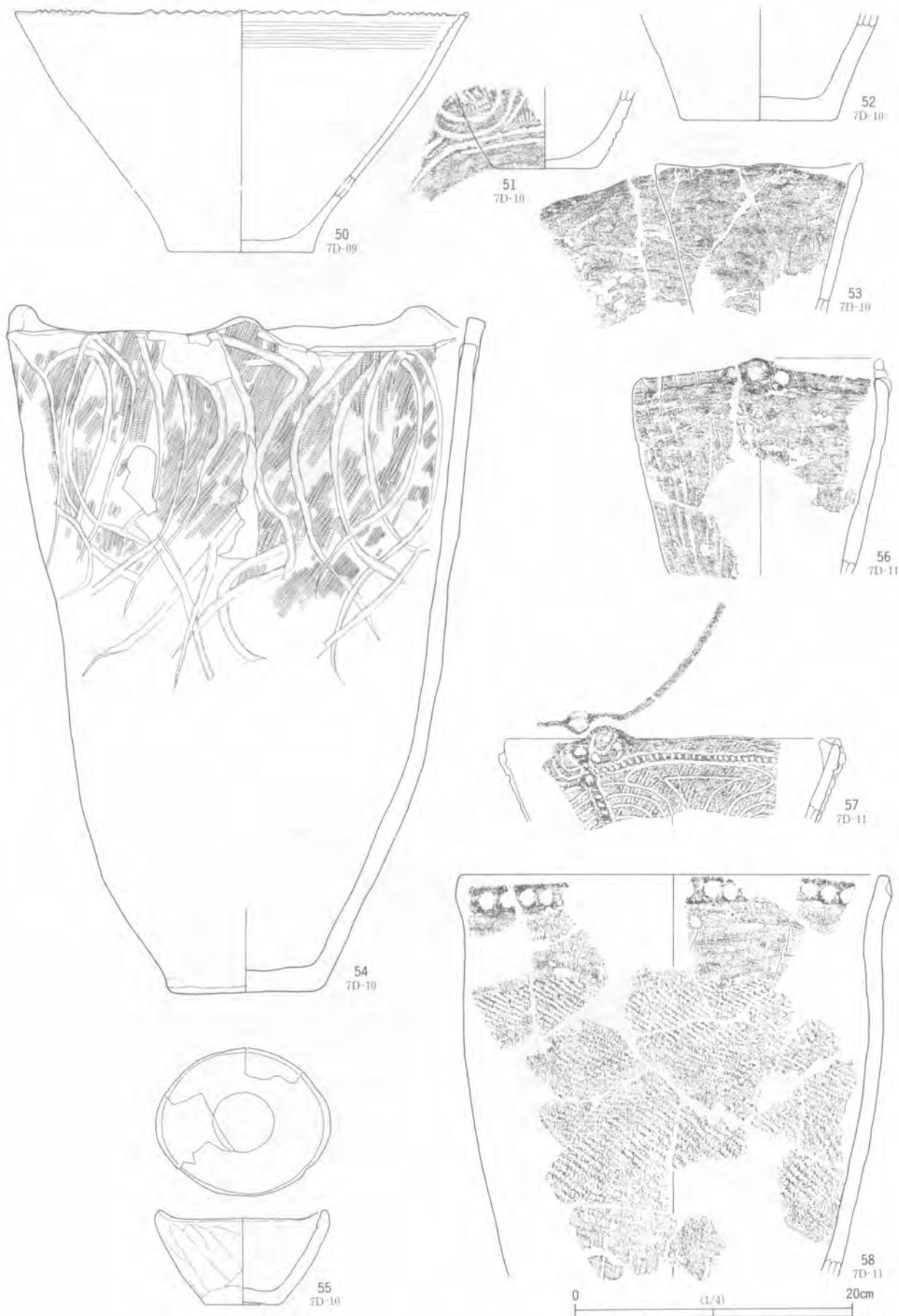
第62図 012周辺の土器出土状況



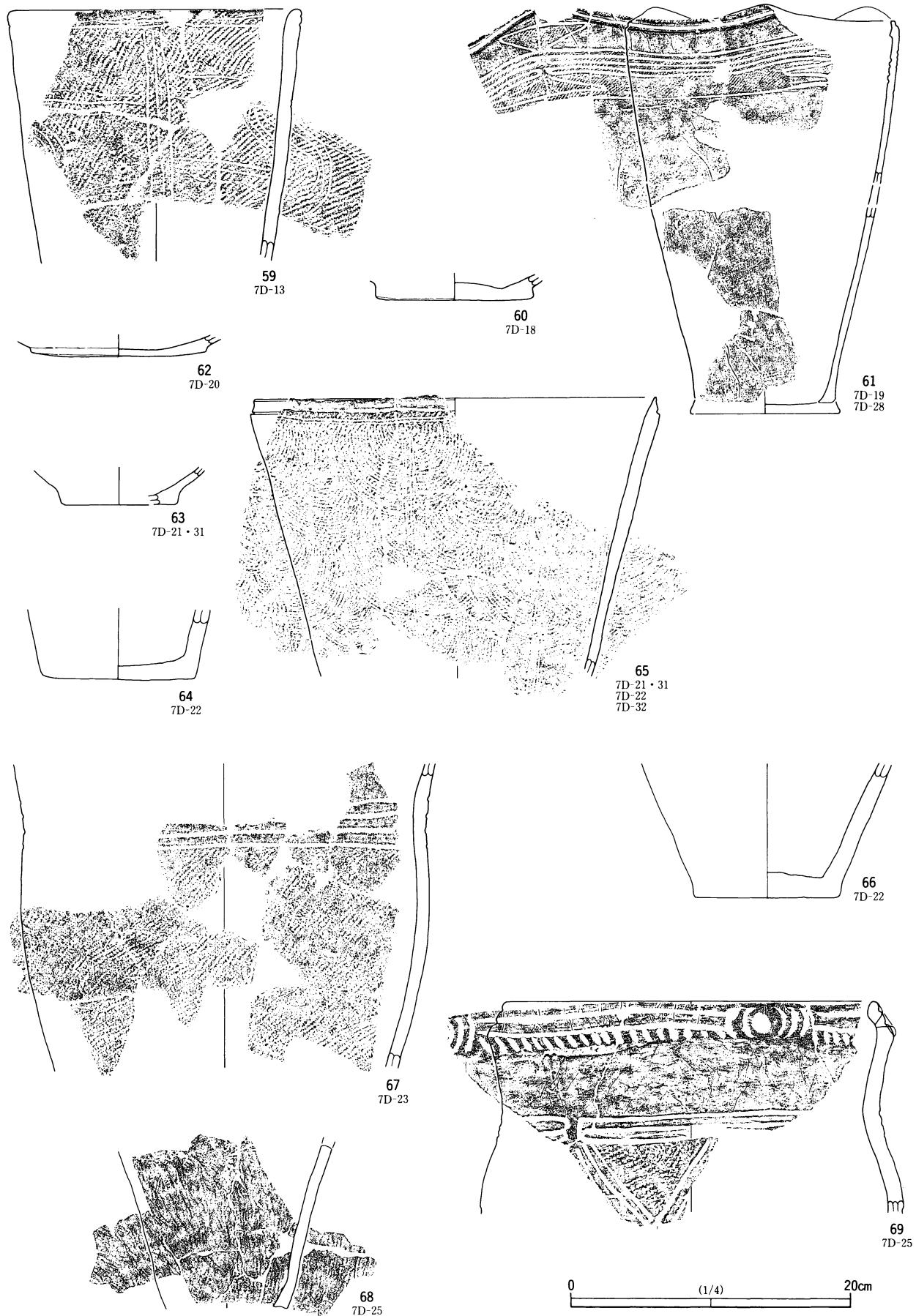
第63図 遺構外出土土器（5）



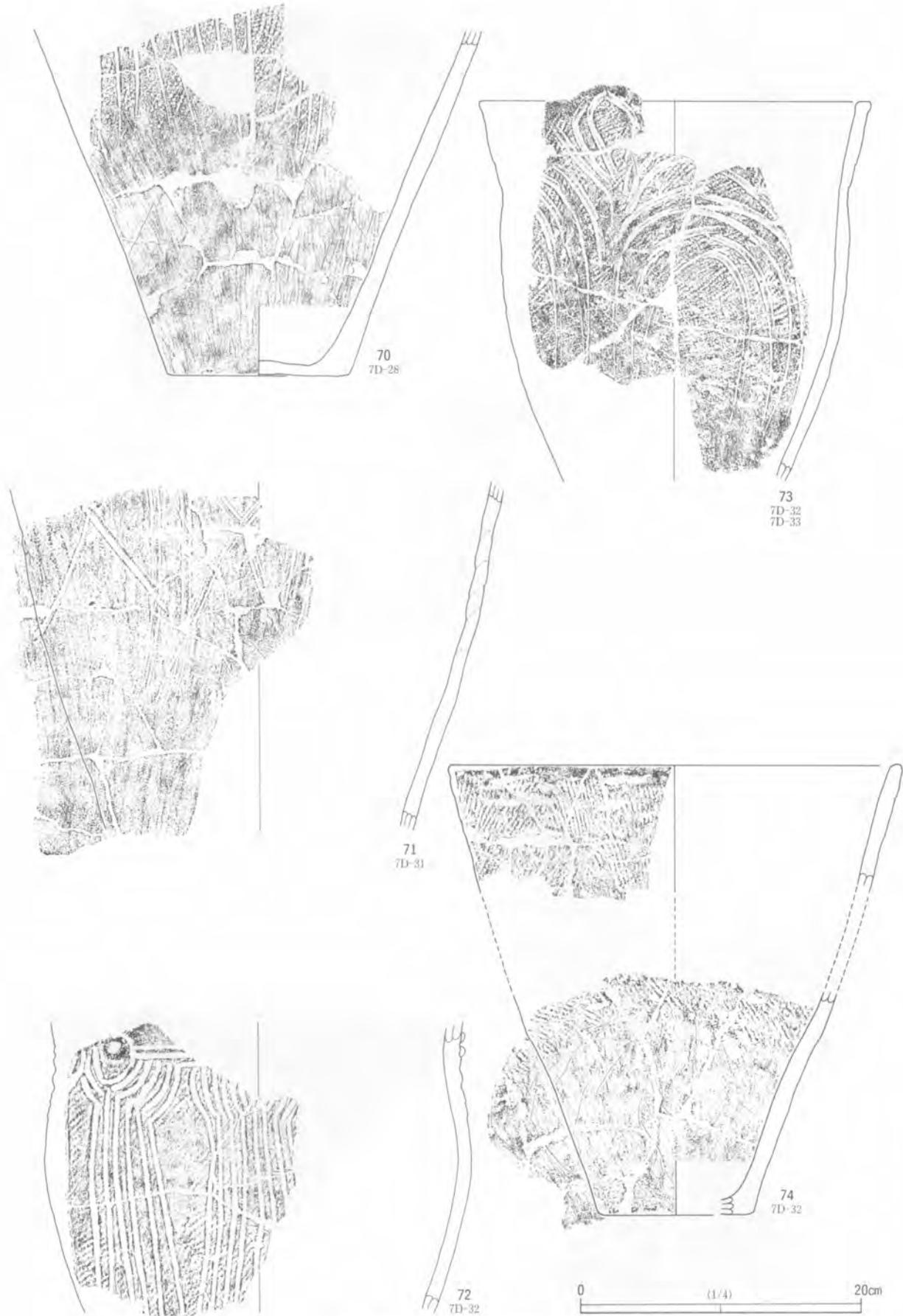
第64図 遺構外出土土器（6）



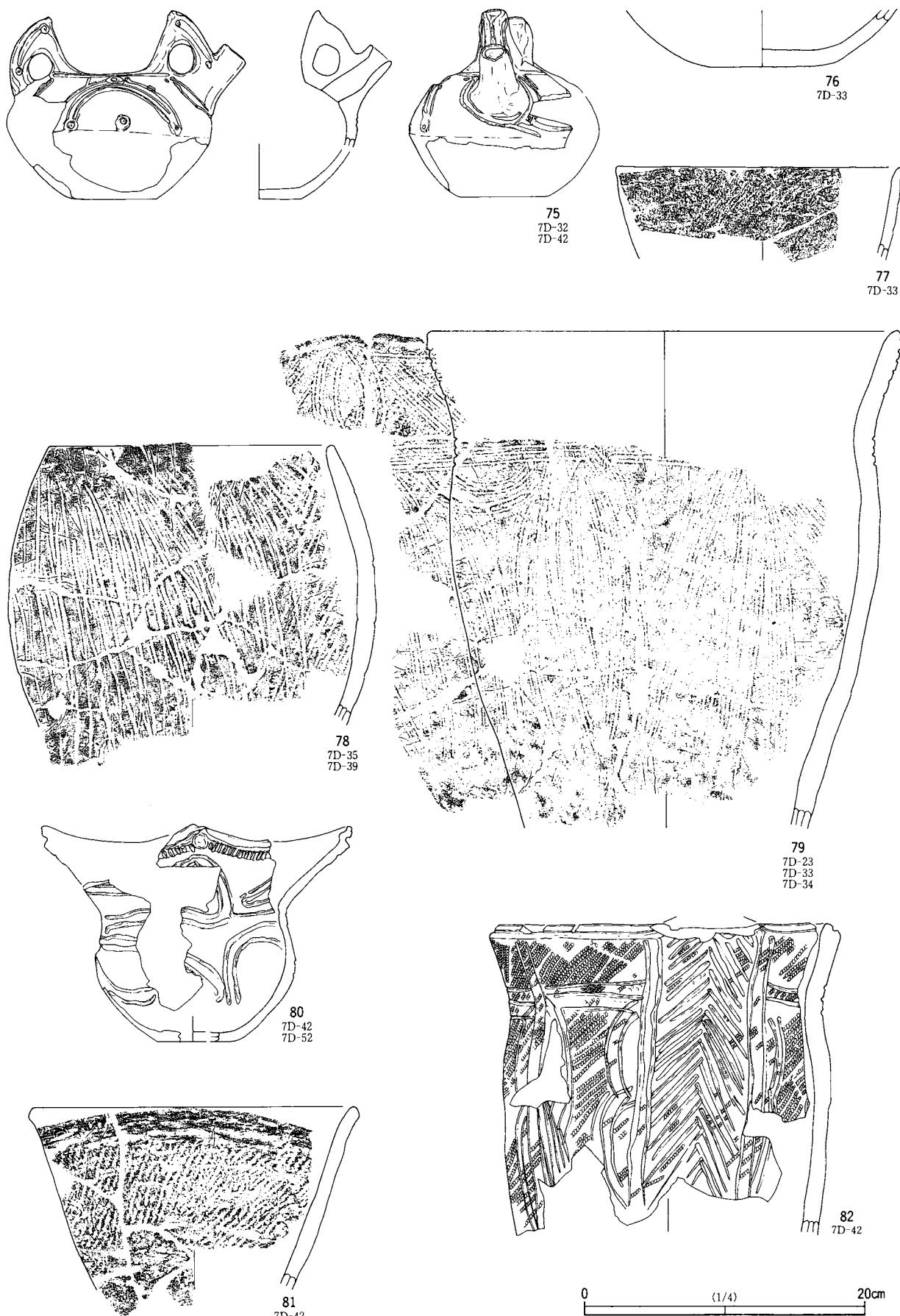
第65図 遺構外出土土器 (7)



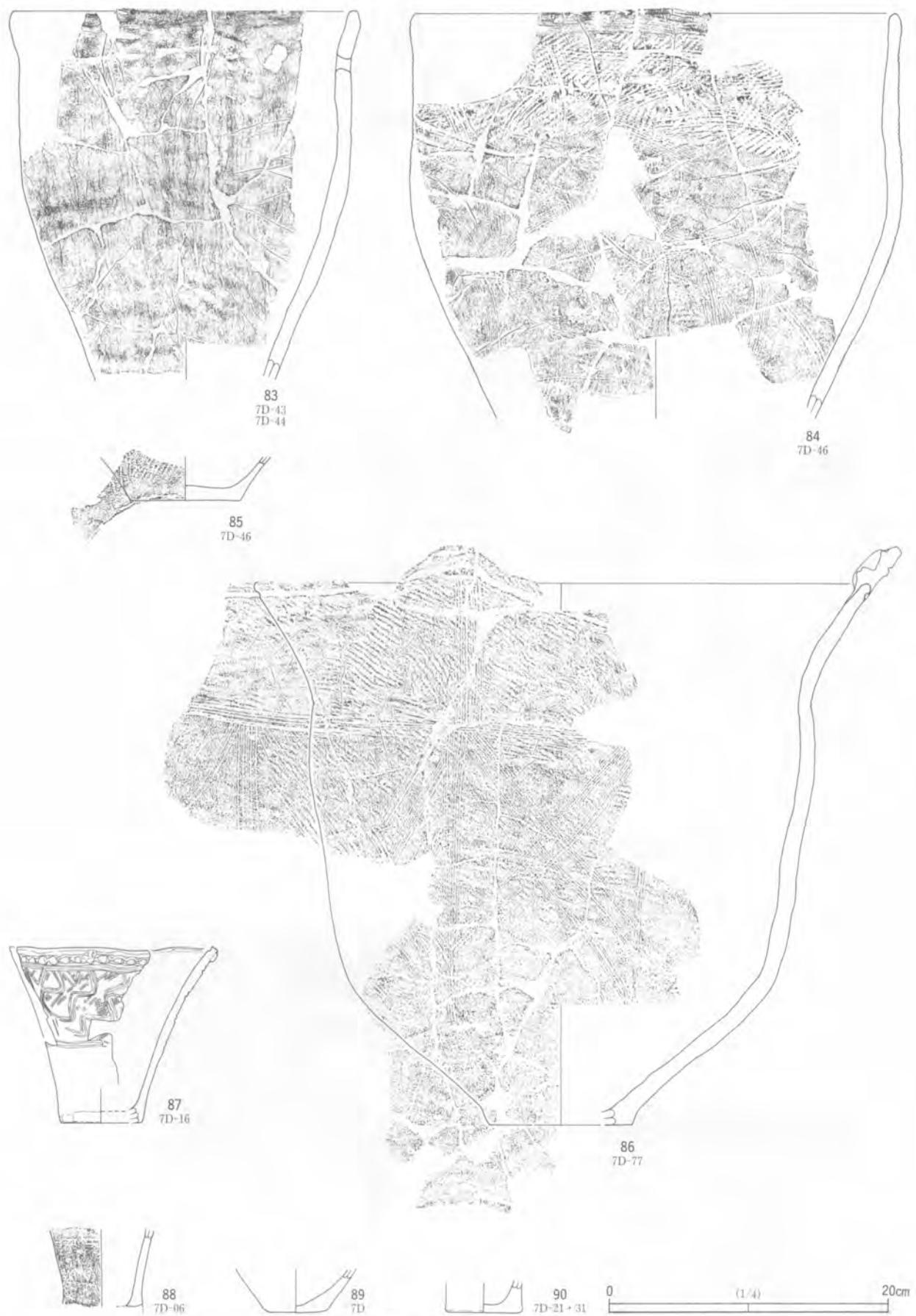
第66図 遺構外出土土器（8）



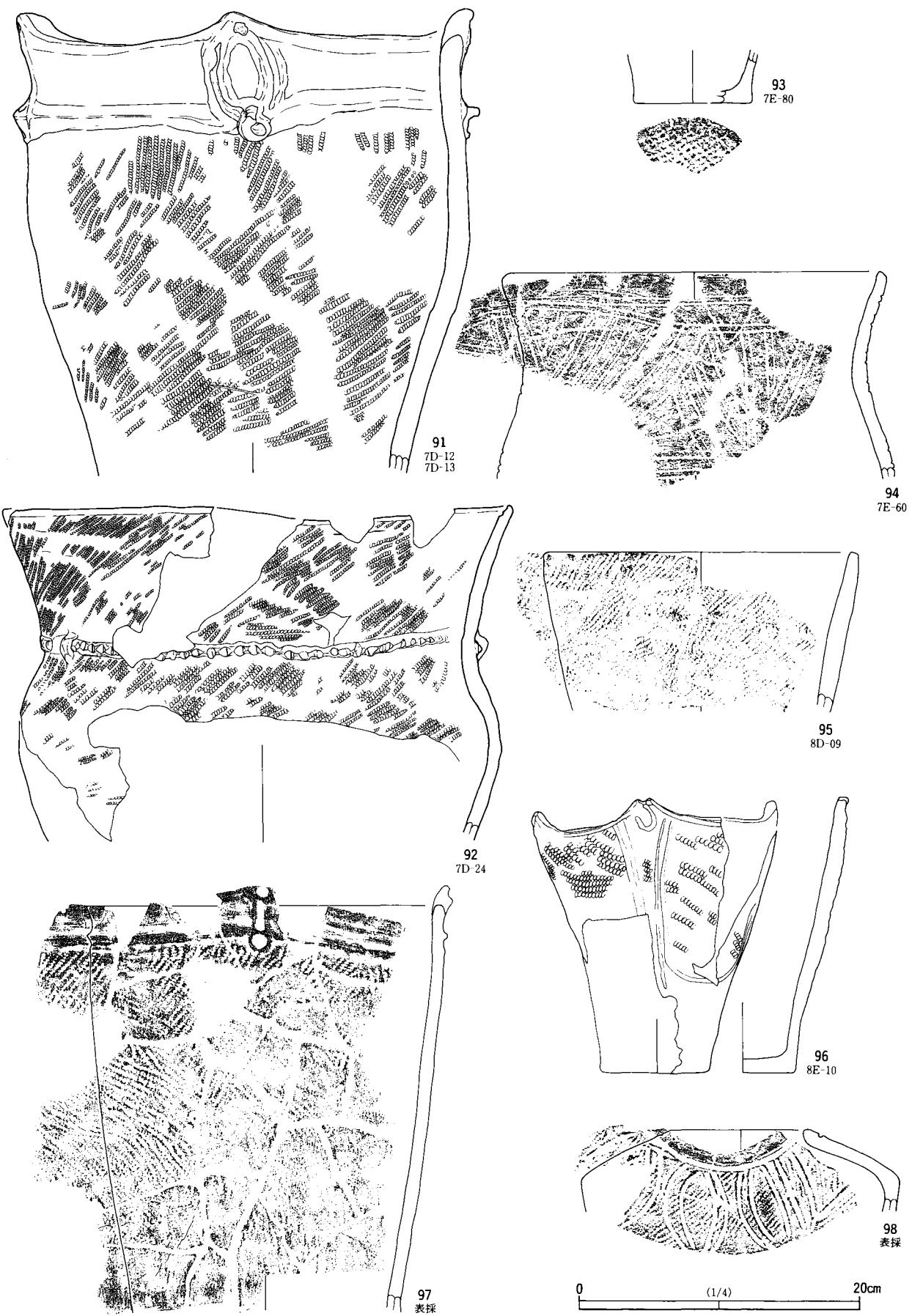
第67図 遺構外出土土器 (9)



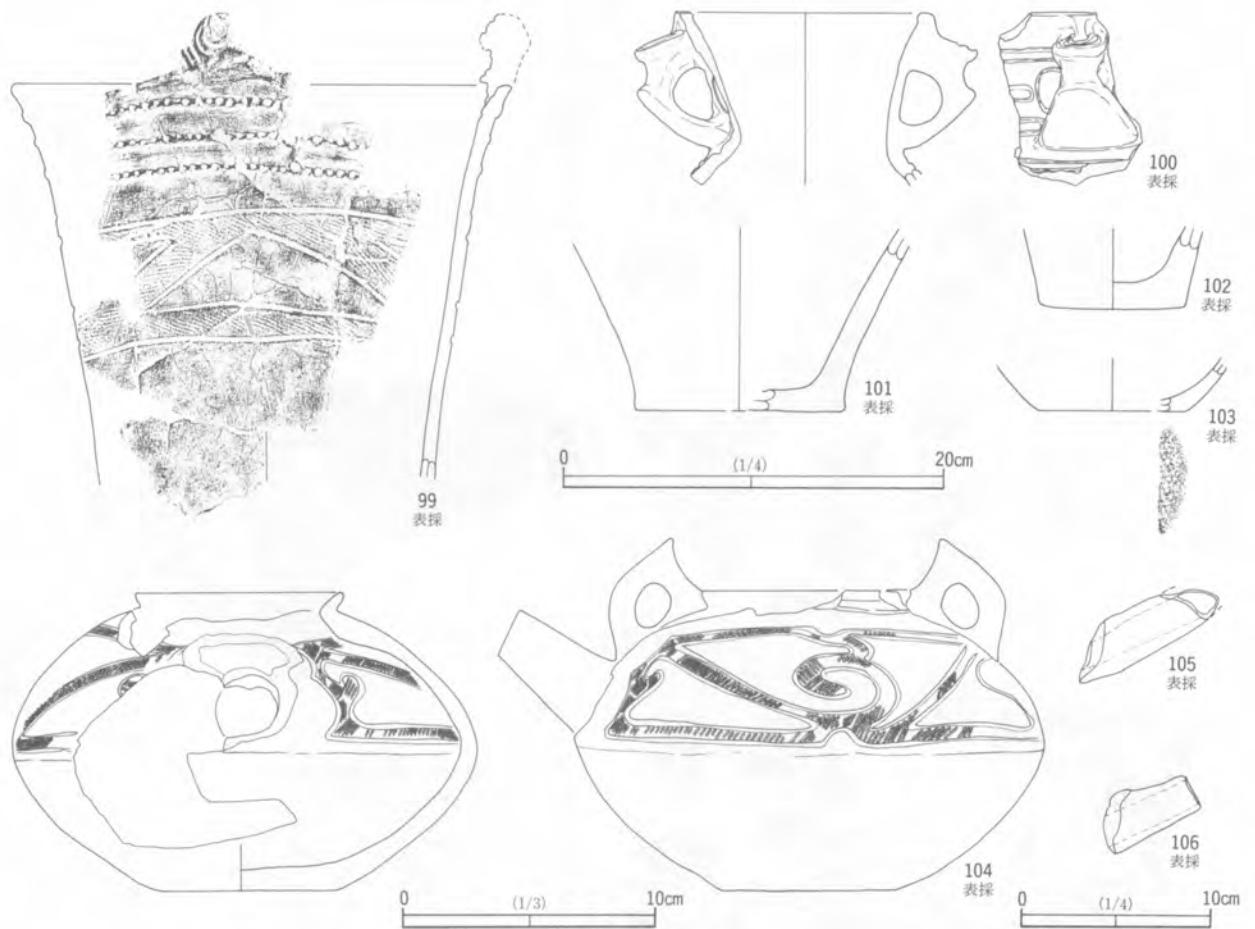
第68図 遺構外出土土器 (10)



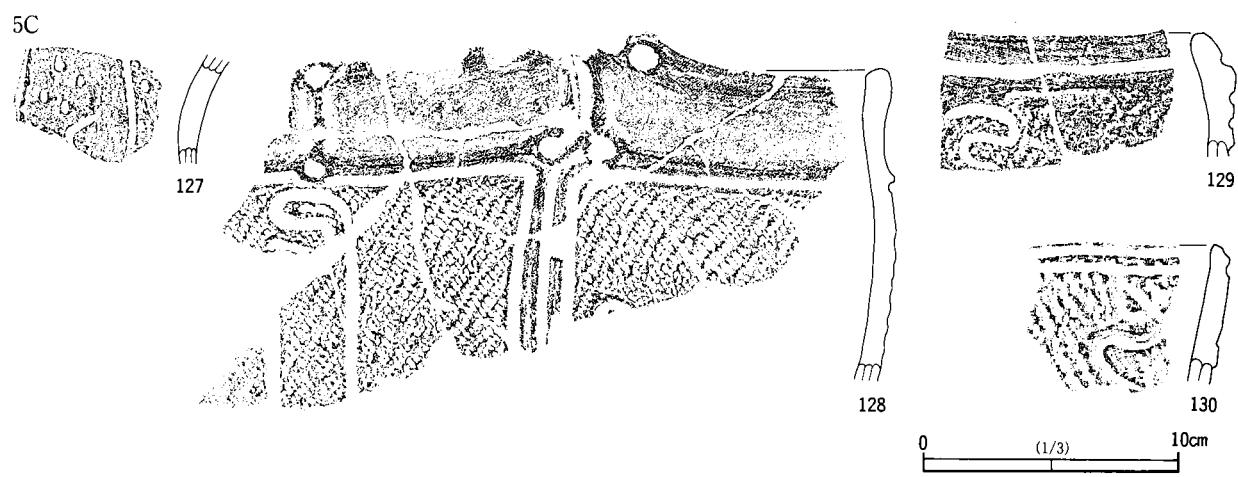
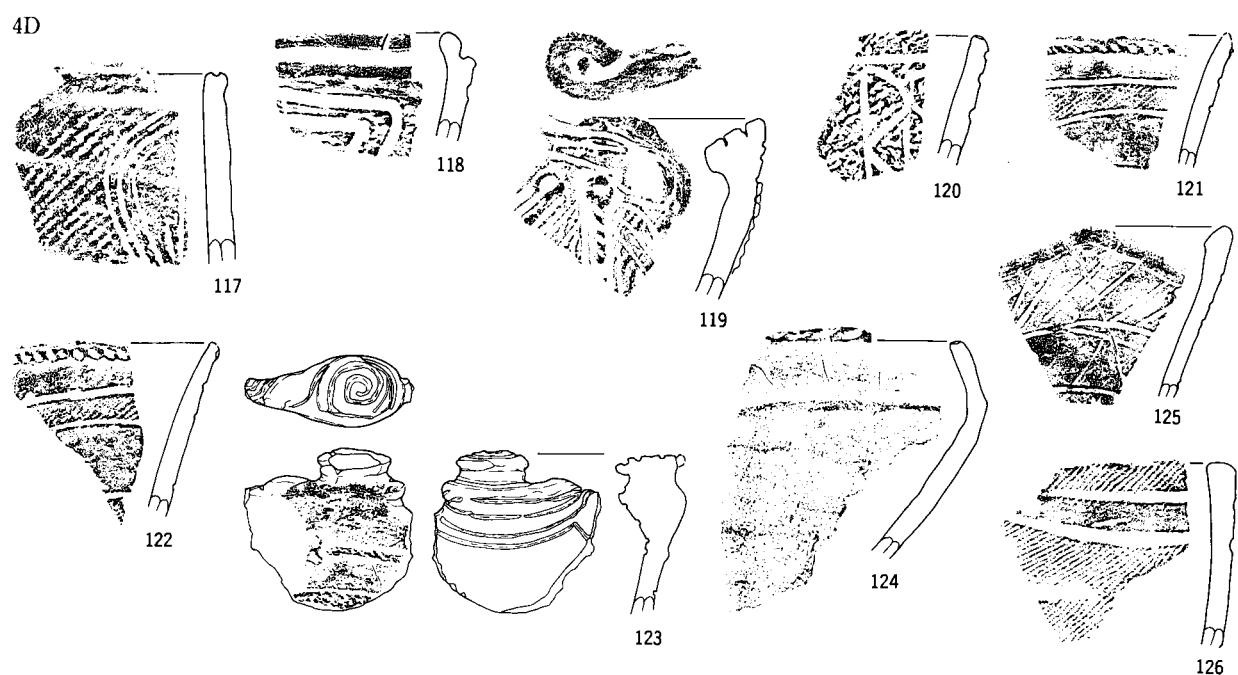
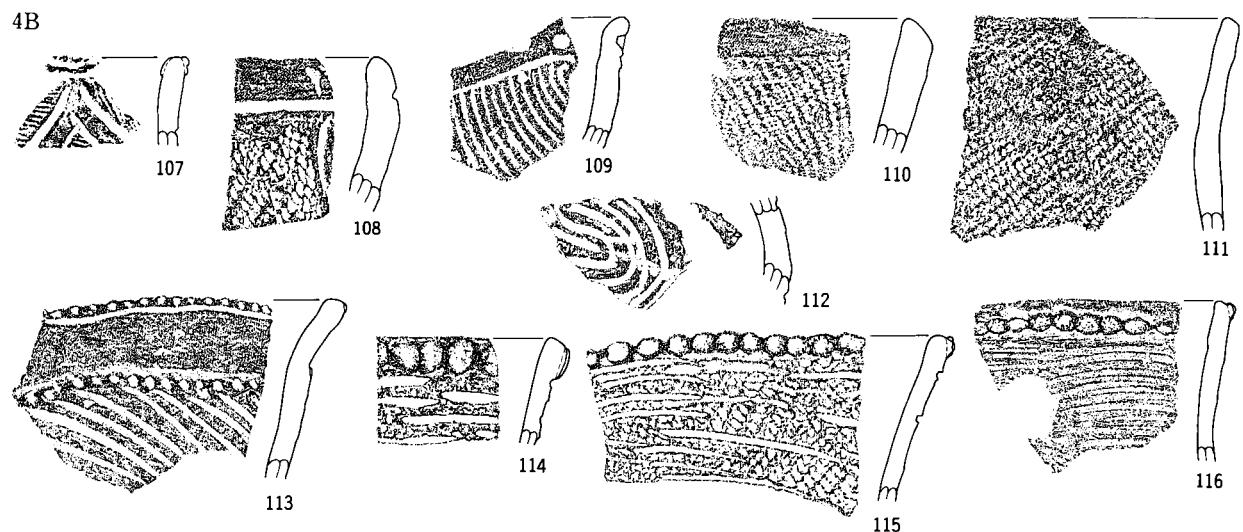
第69図 遺構外出土土器 (11)



第70図 遺構外出土土器 (12)

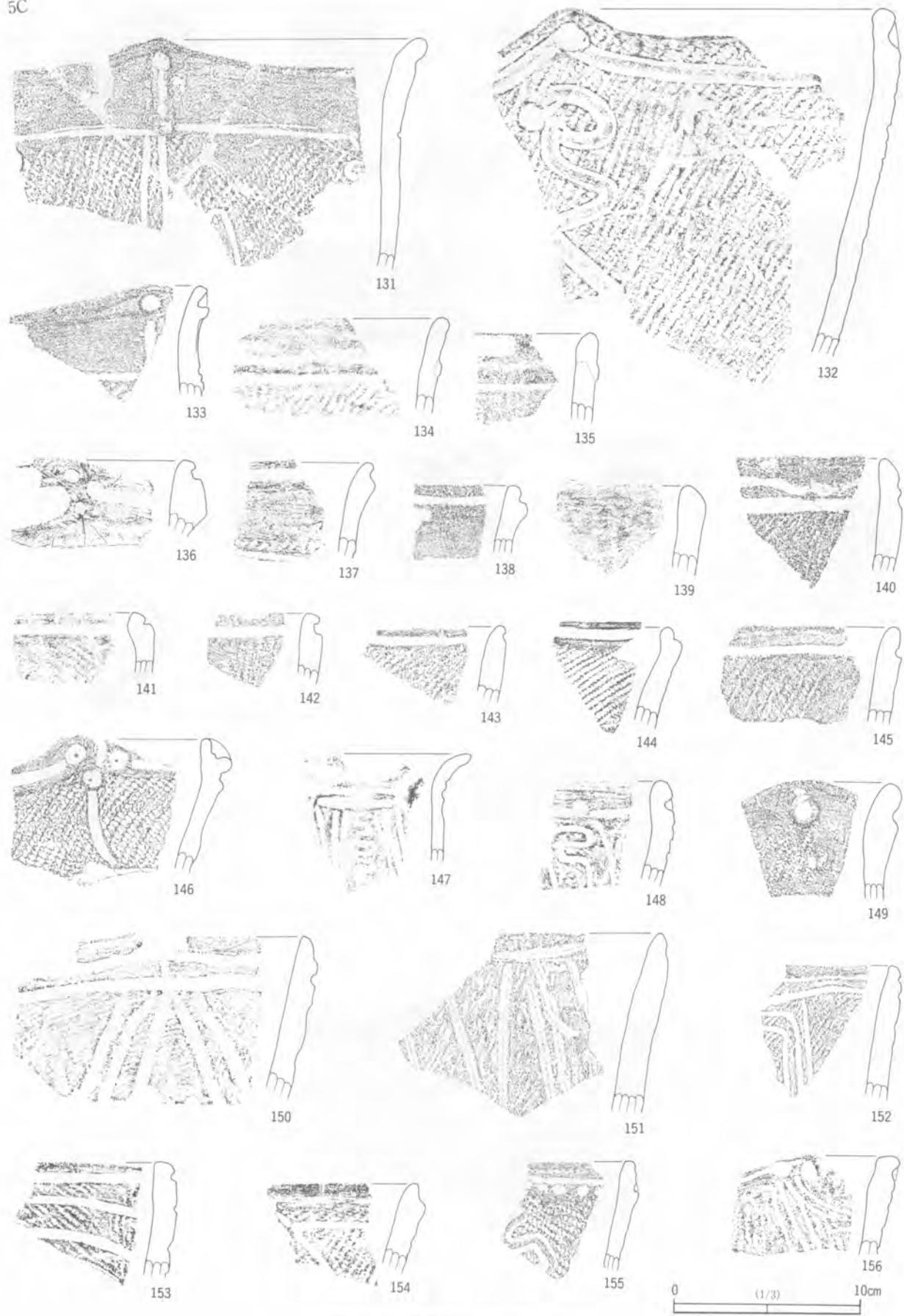


第71図 遺構外出土土器 (13)



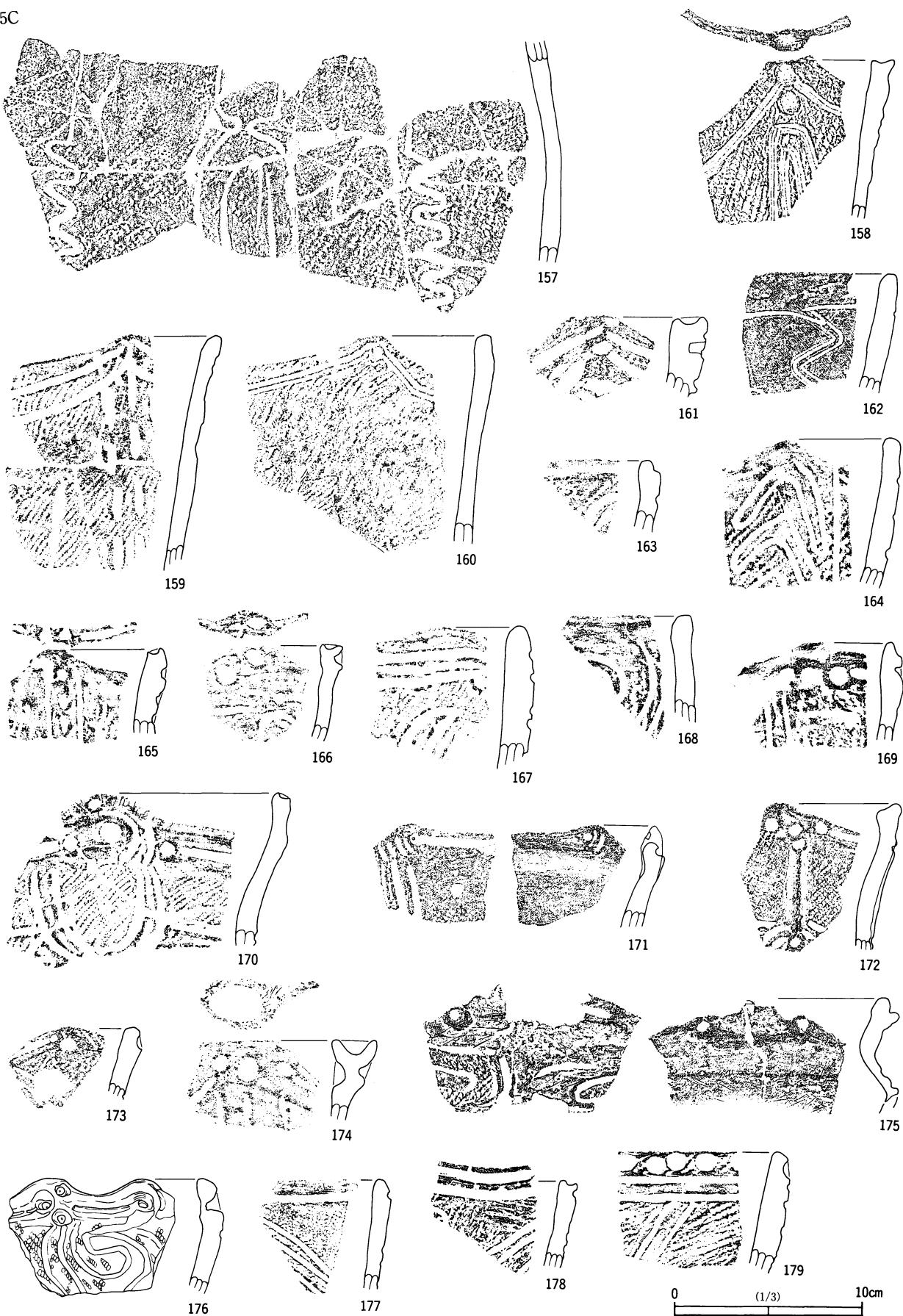
第72図 遺構外出土土器 (14)

5C

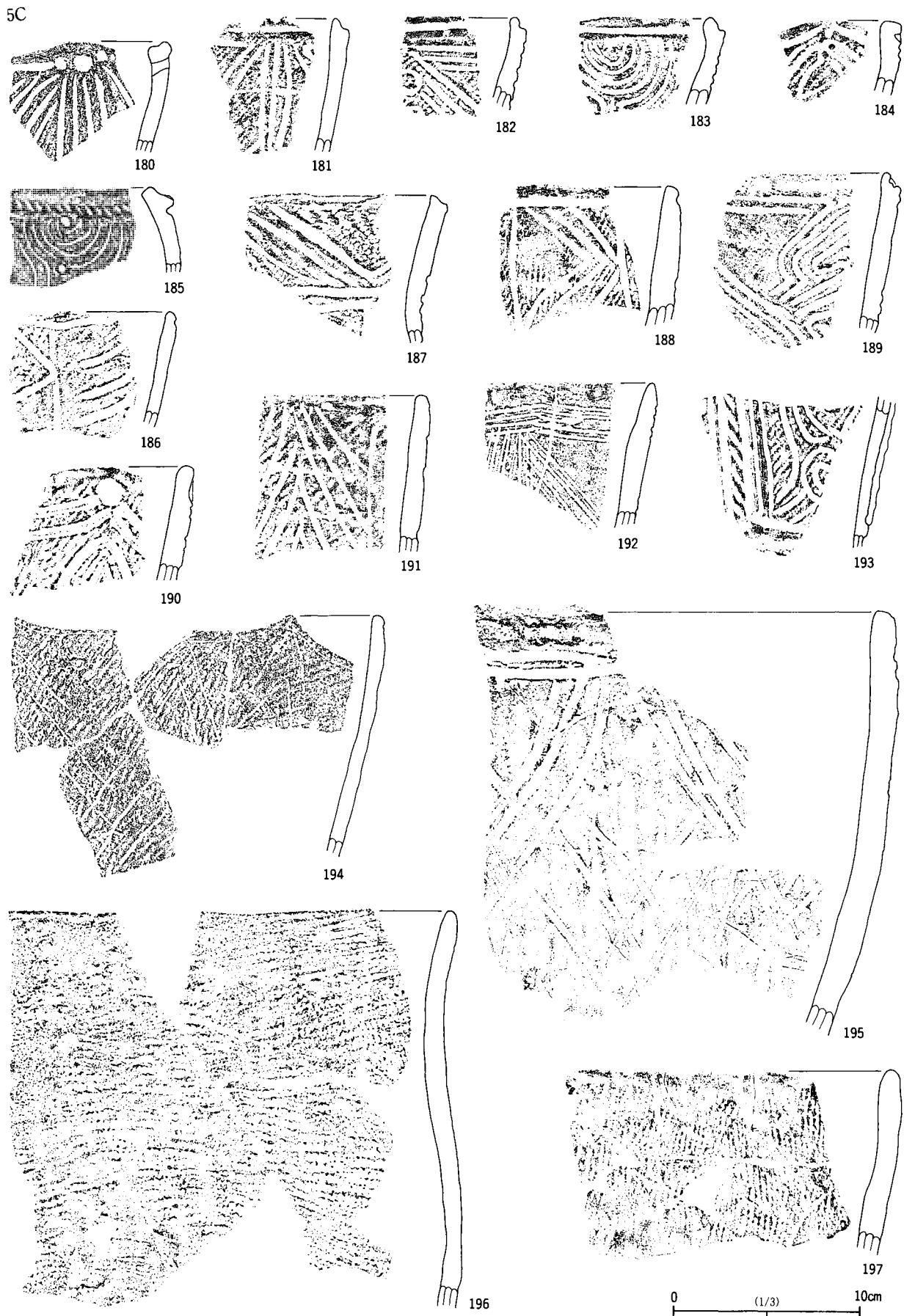


第73図 遺構外出土土器 (15)

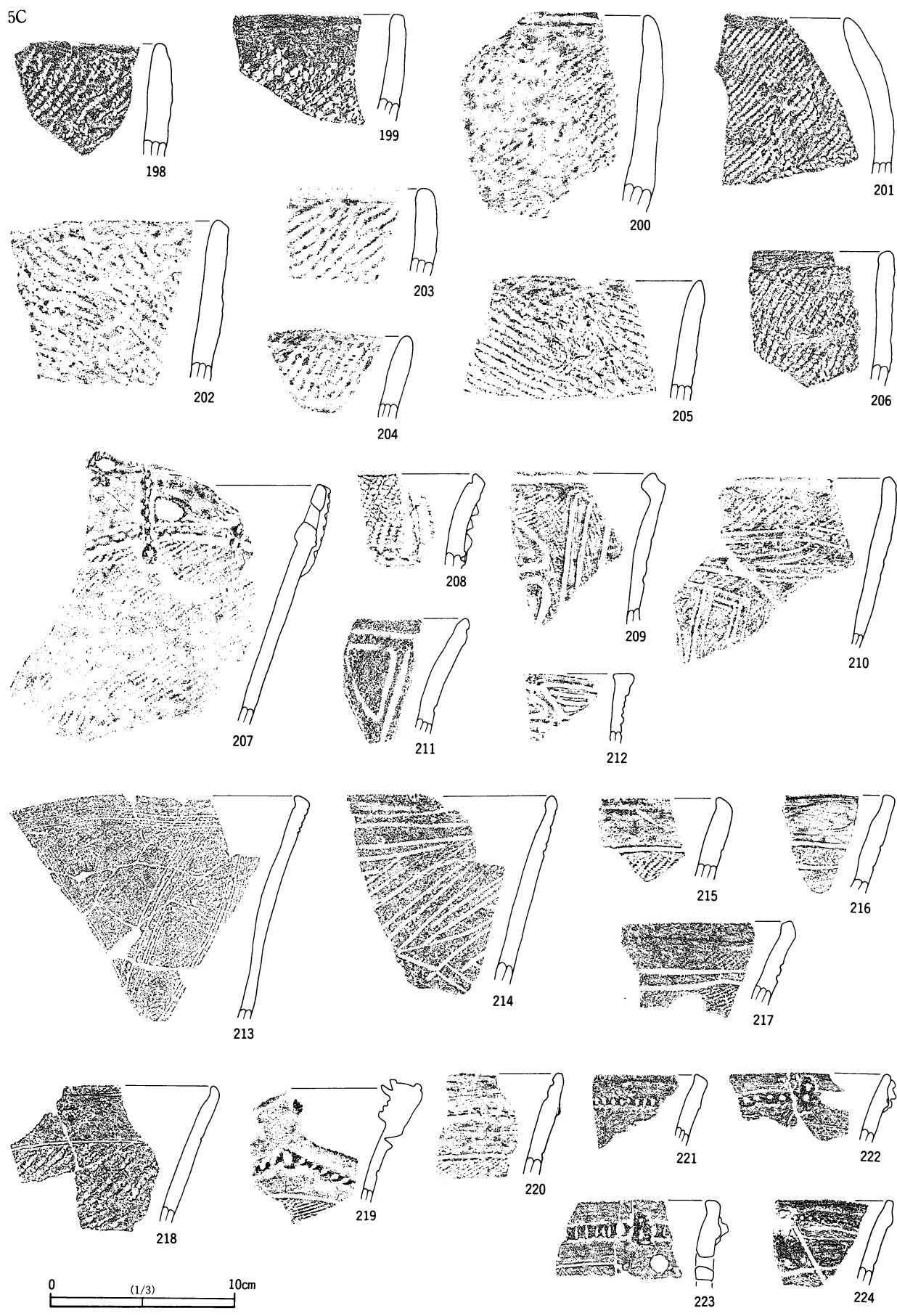
5C



第74図 遺構外出土土器 (16)



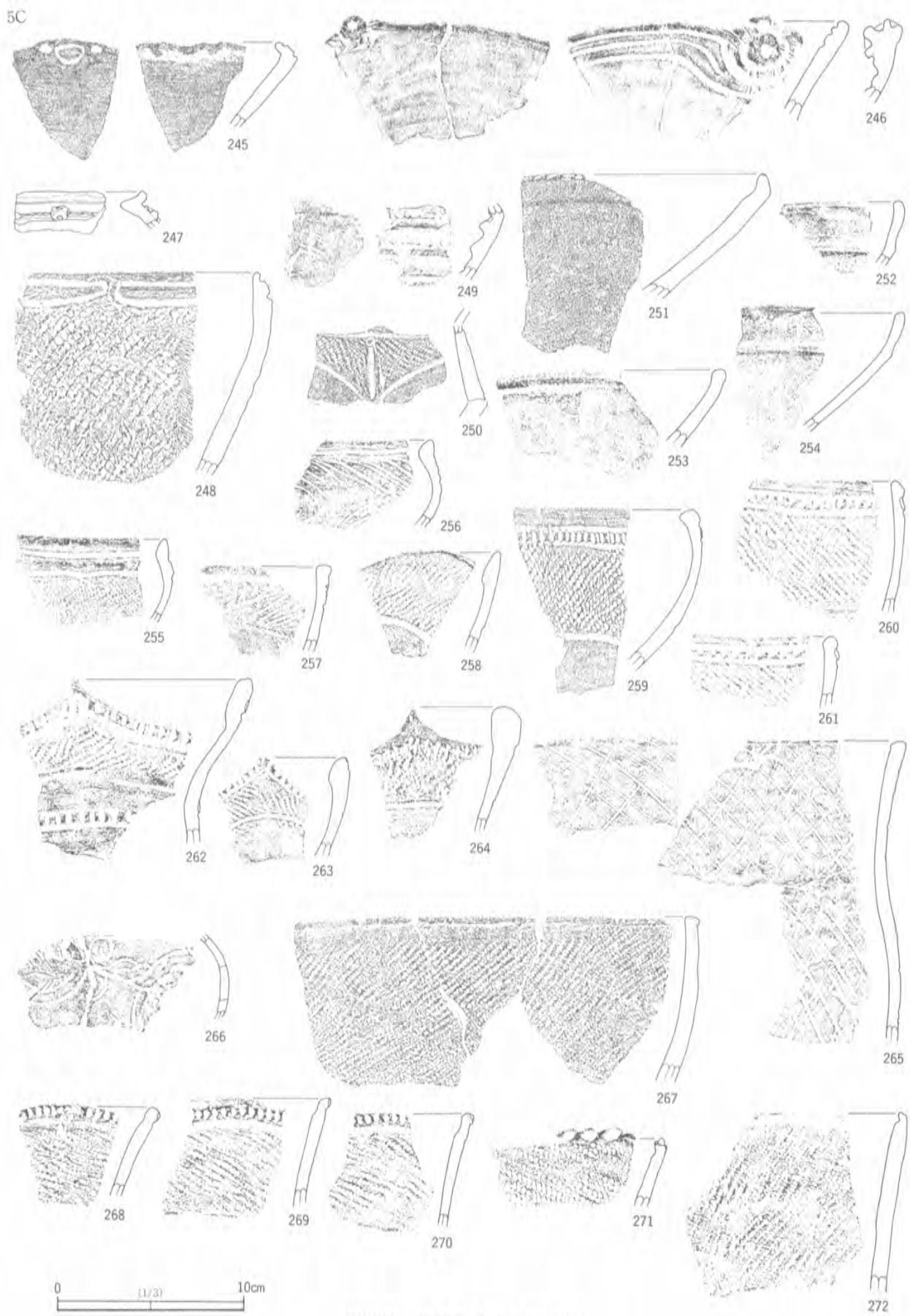
第75図 遺構外出土土器 (17)



第76図 遺構外出土土器 (18)



第77図 遺構外出土土器 (19)

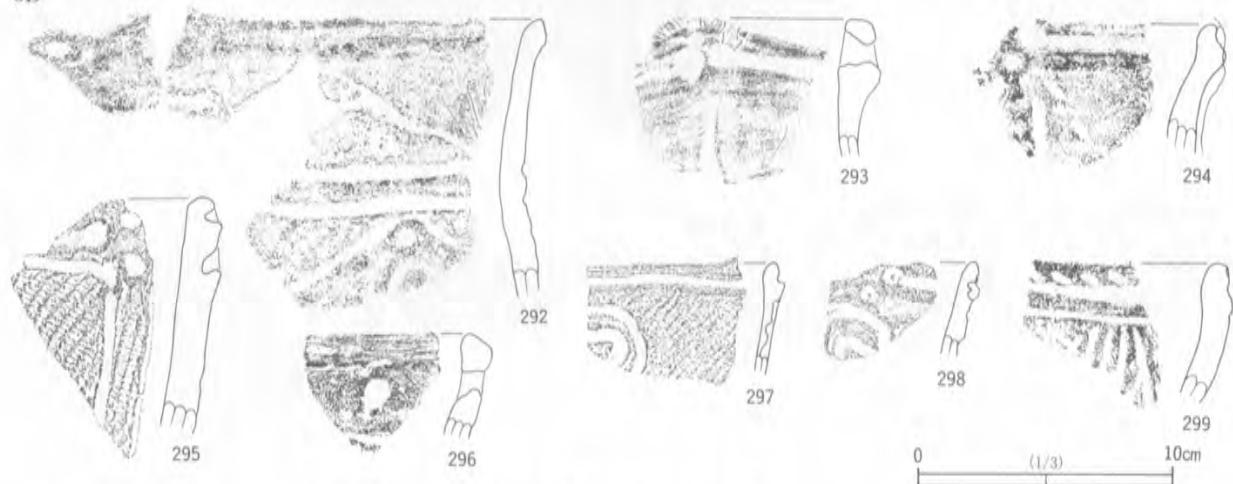


第78図 遺構外出土土器 (20)

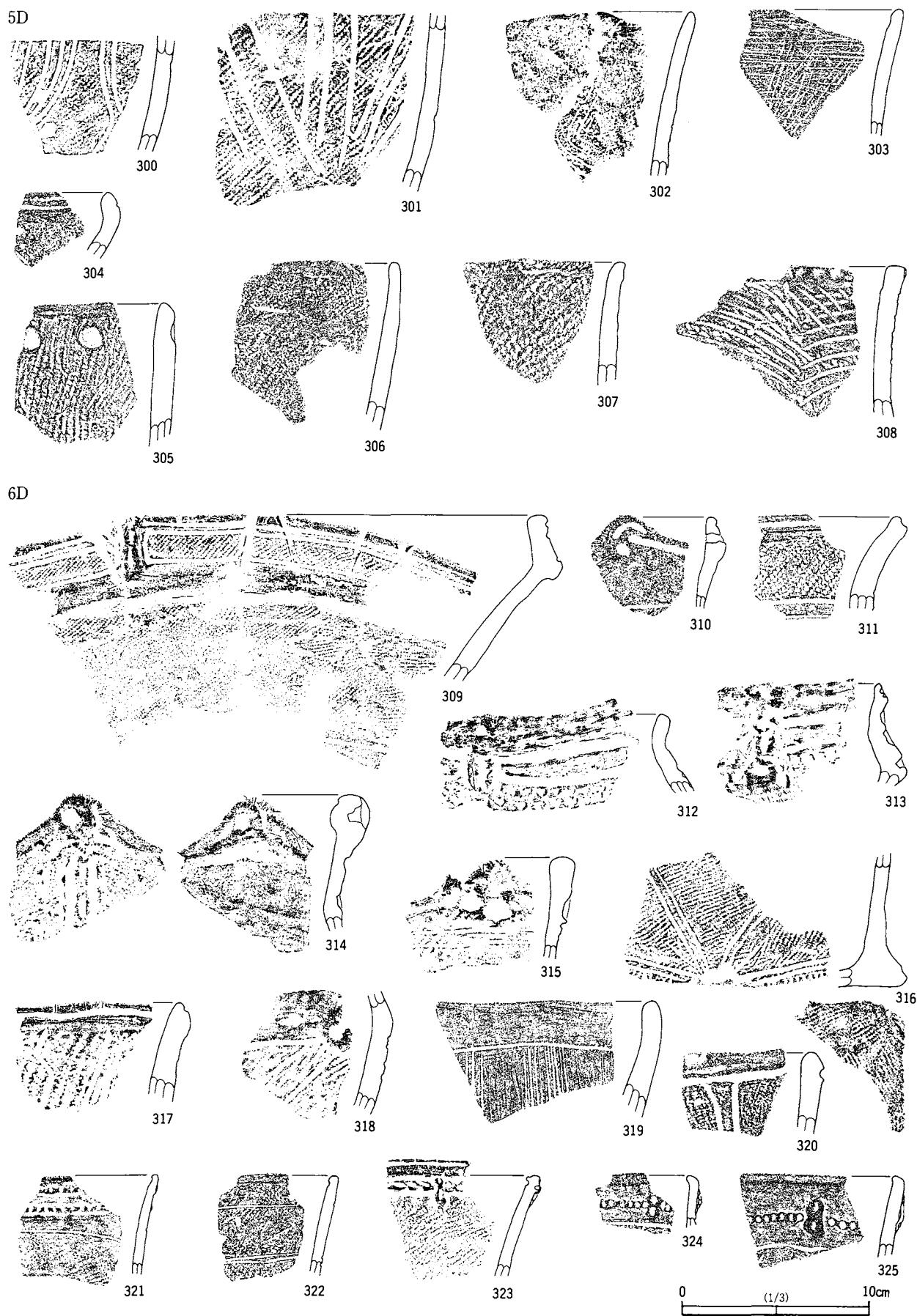
5C



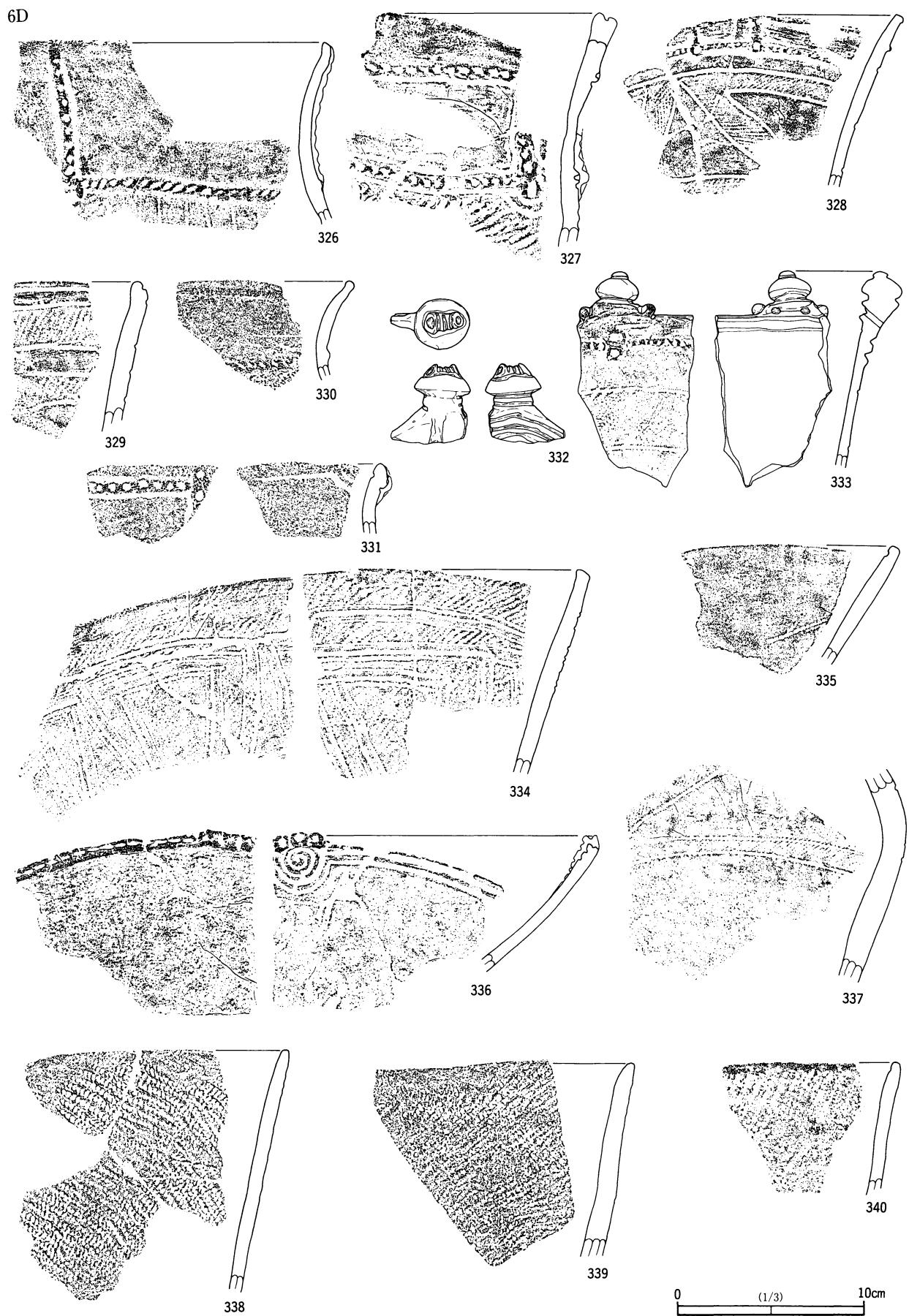
5D



第79図 遺構外出土土器 (21)



第80図 遺構外出土土器 (22)

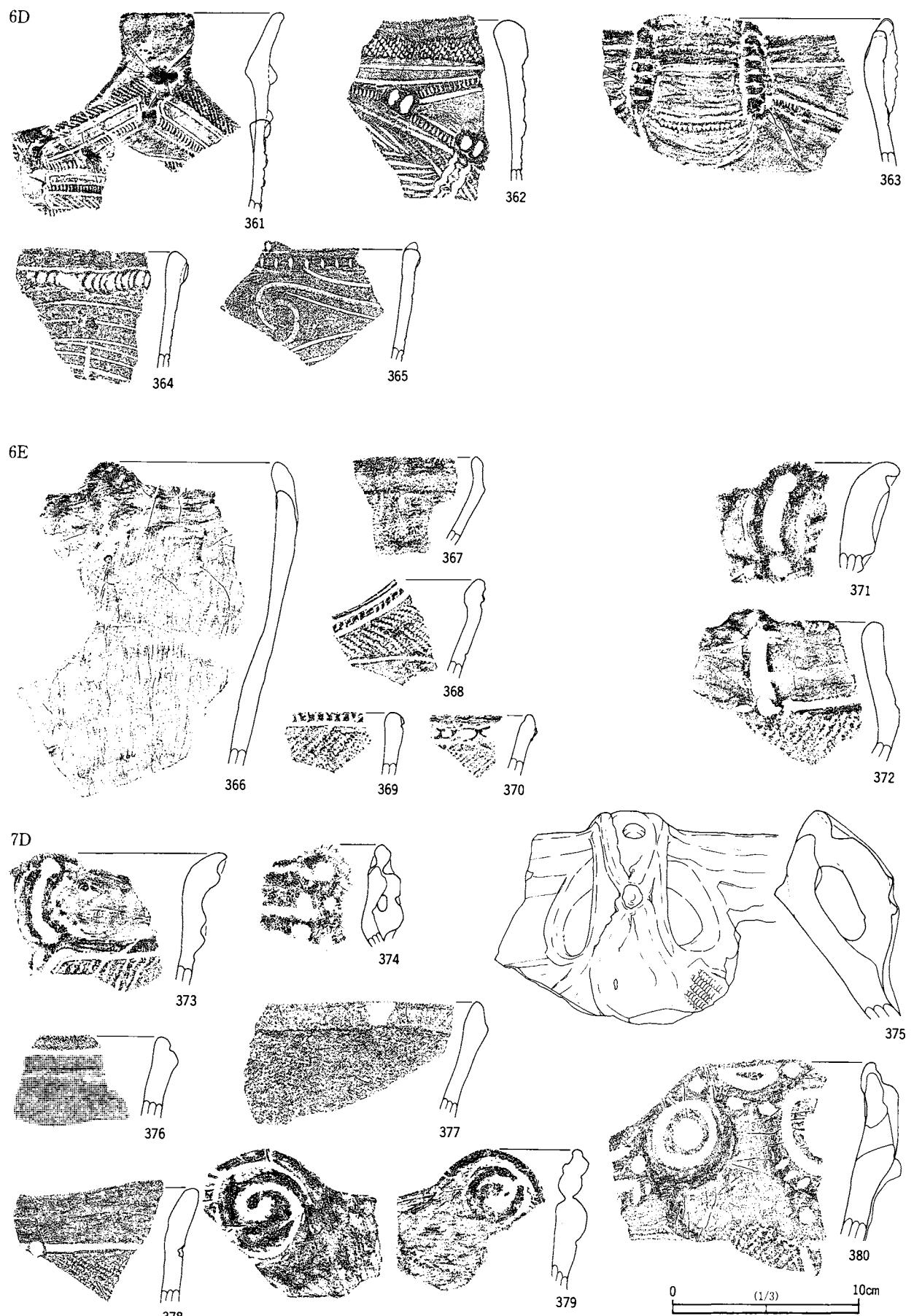


第81図 遺構外出土土器 (23)

6D

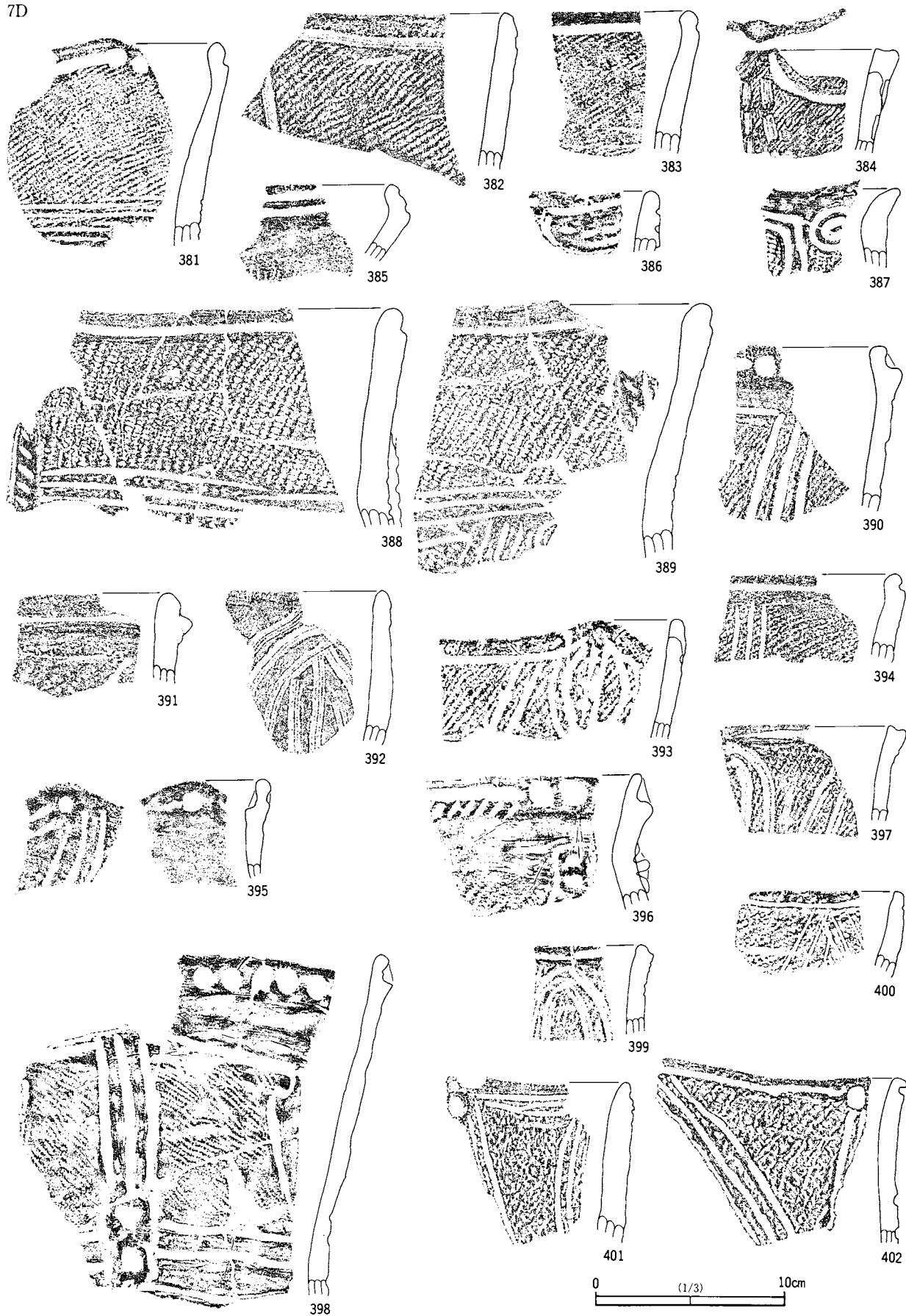


第82図 遺構外出土土器 (24)



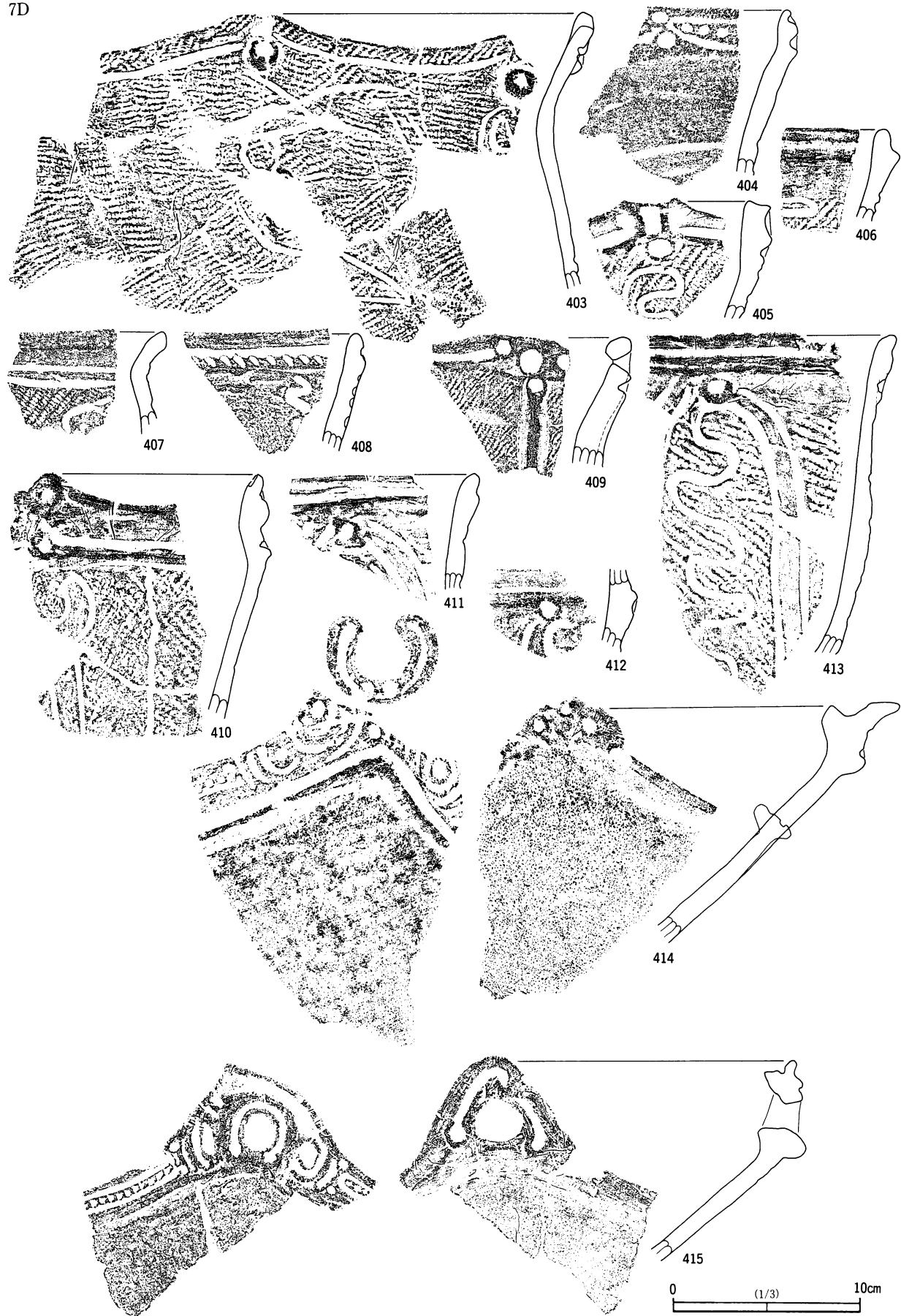
第83図 遺構外出土土器 (25)

7D

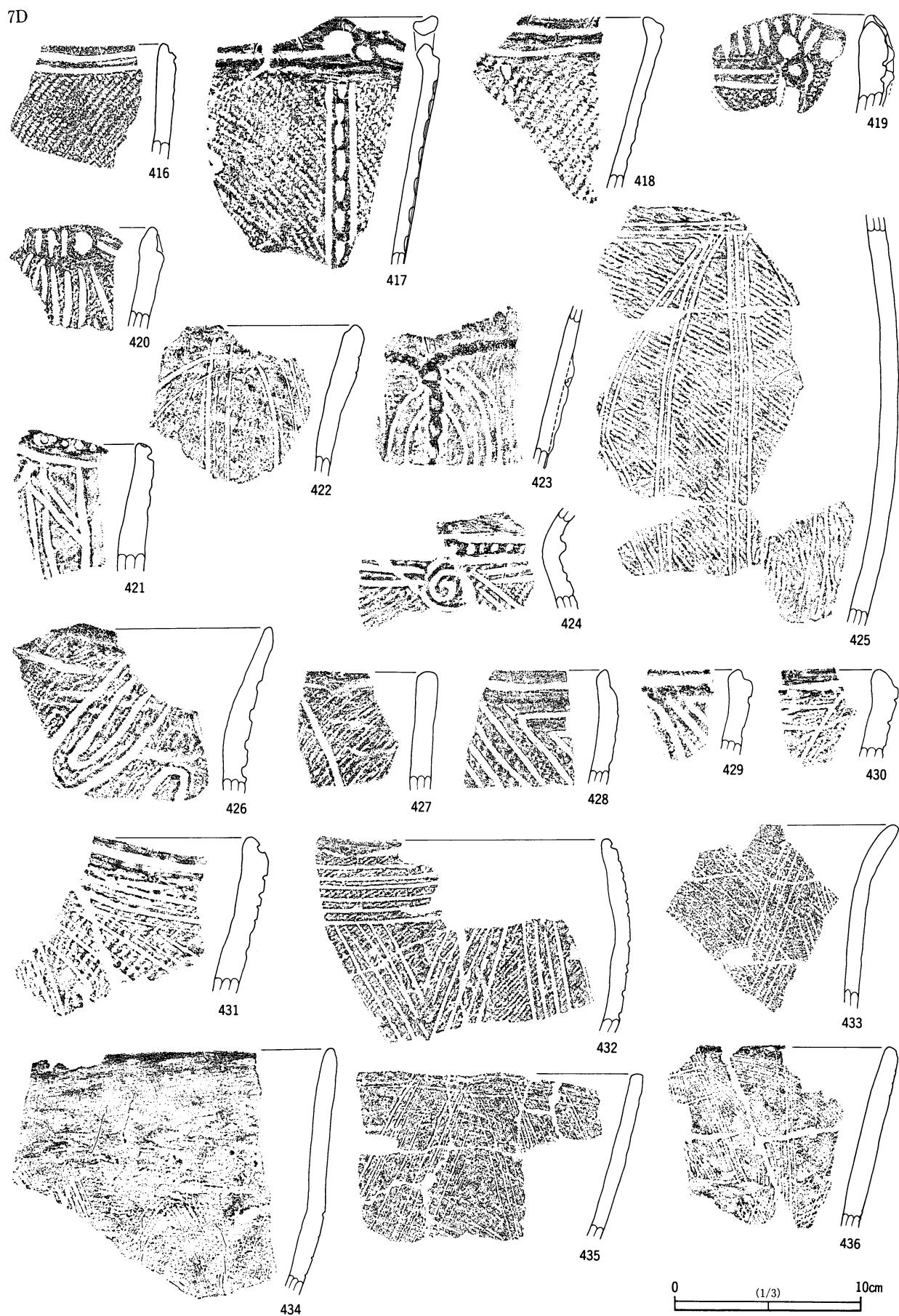


第84図 遺構外出土土器 (26)

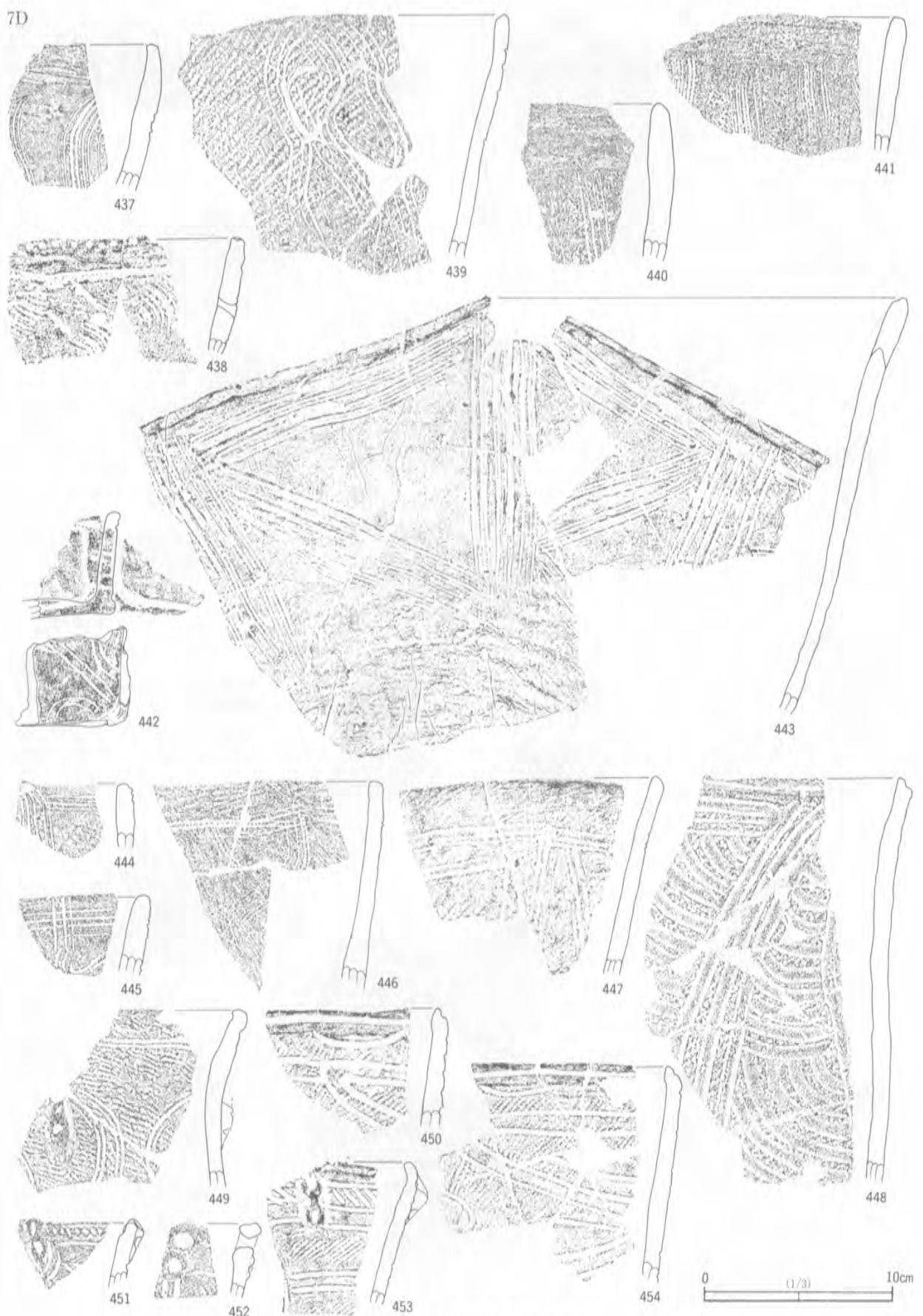
7D



第85図 遺構外出土土器 (27)



第86図 遺構外出土土器 (28)

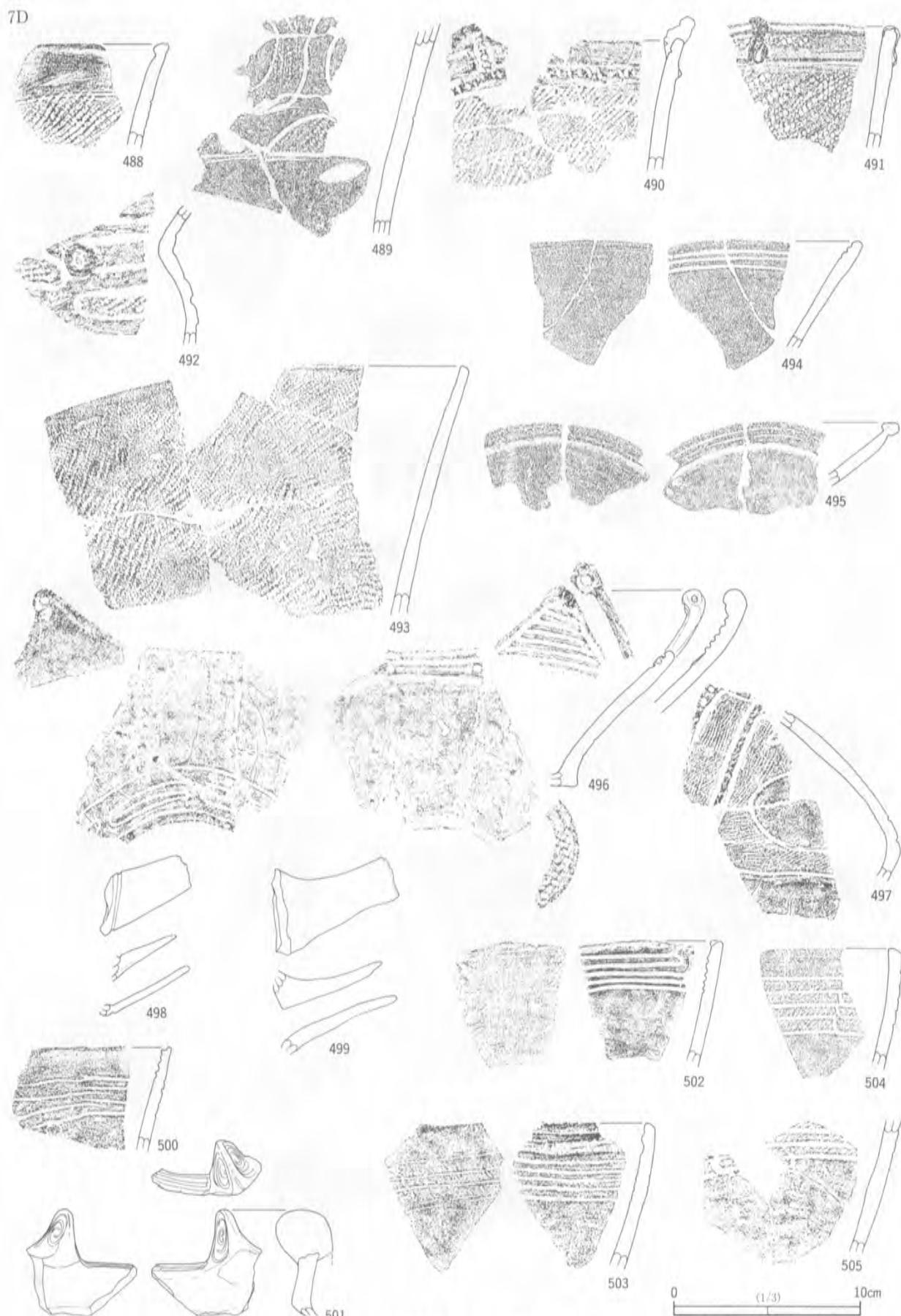


第87図 遺構外出土土器 (29)

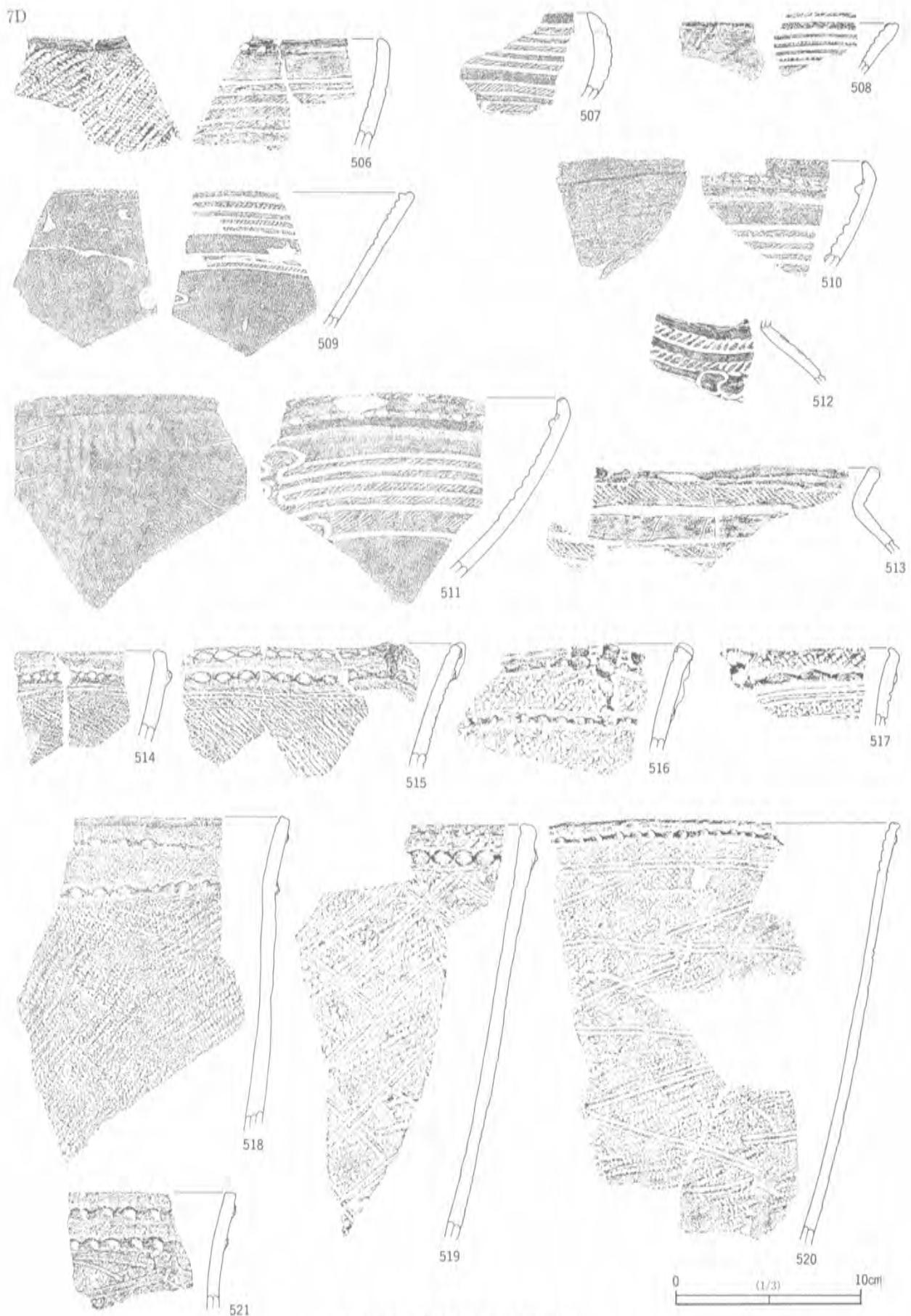
7D



第88図 遺構出土土器 (30)

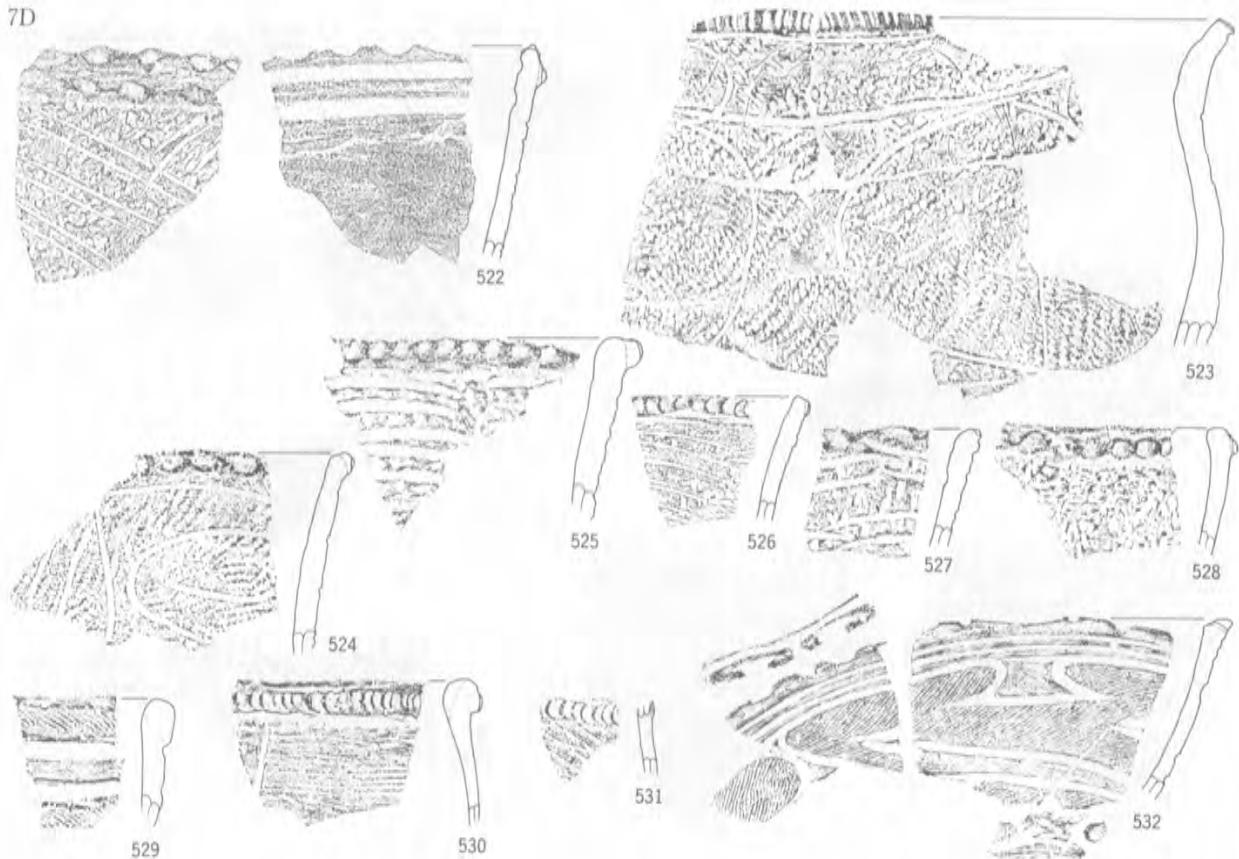


第89図 遺構外出土土器 (31)

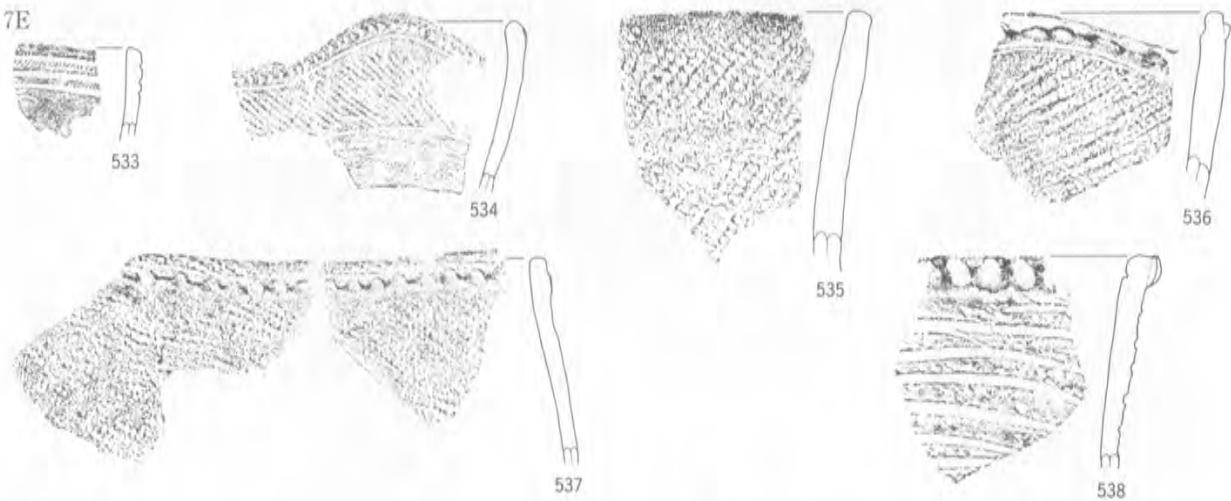


第90図 遺構外出土土器 (32)

7D



7E



8D



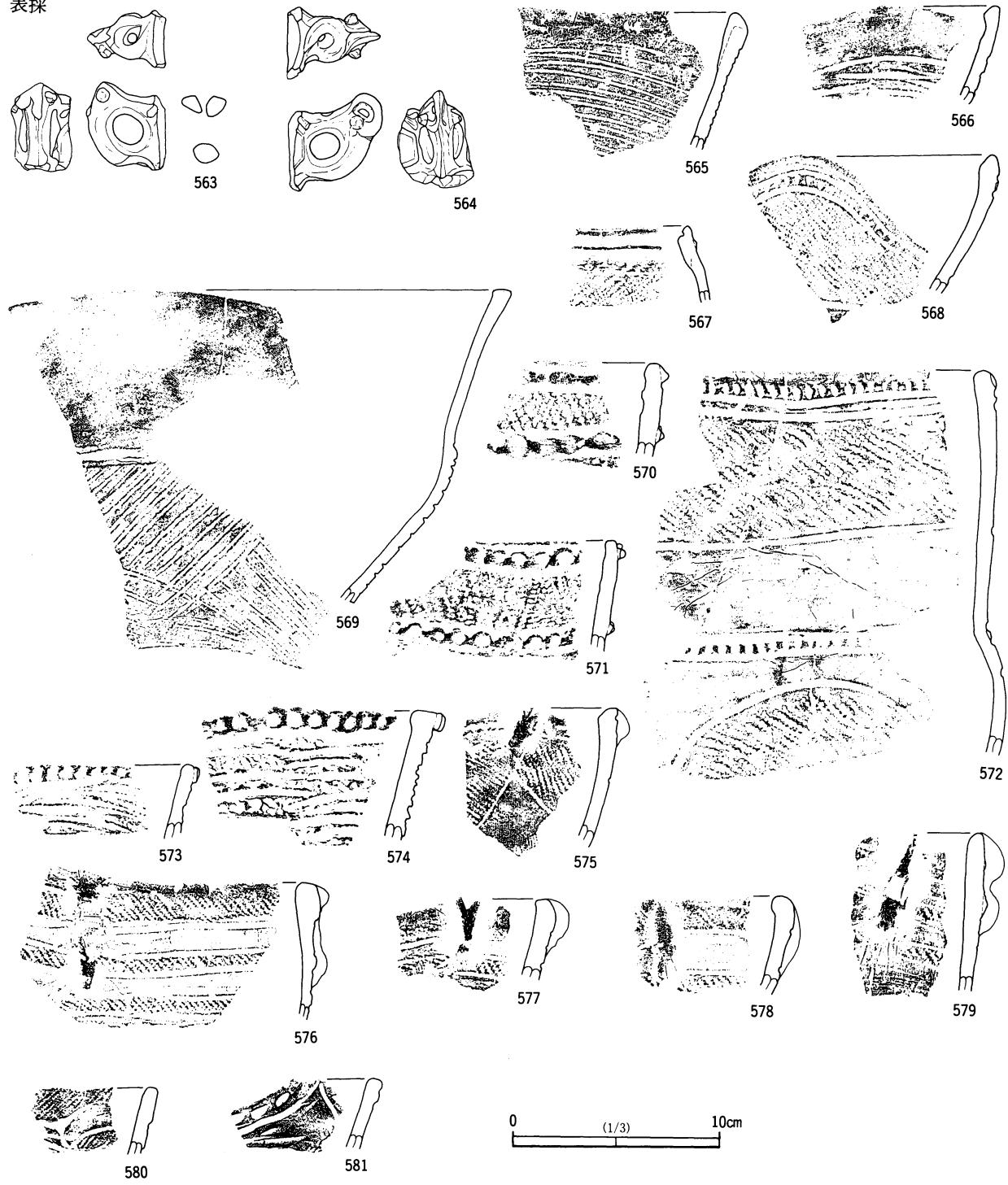
第91図 遺構外出土土器 (33)

5区



第92図 遺構外出土土器 (34)

表採



第93図 遺構外出土土器 (35)

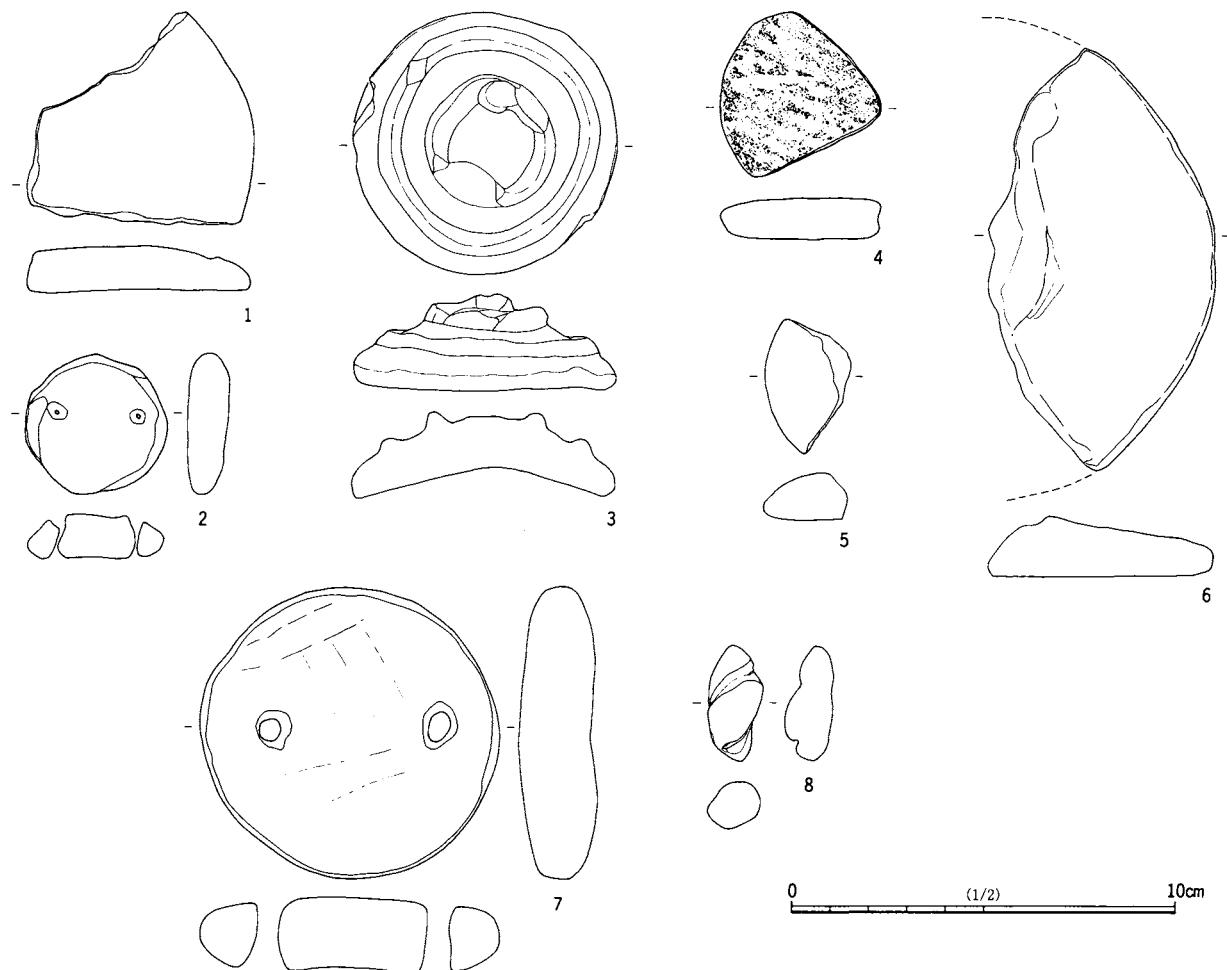
## 2 土製品 (第94~96図, 図版19)

第94図 1~3・5~7 は蓋形の土製品と考えられる。2・7には対になる形で小孔が穿たれている。3は欠損しているが、把手が付いていた可能性が高い。4は土器片の周囲に加工を施し、円板状に整形したものと考えられる。8は棒状の粘土に擦りを加えたものを焼成したと見られるが、用途は明らかでない。第95図は土器片錐である。ここに挙げた資料が土器片錐と判断可能なすべてである。いずれも堀之内式の胴部と考えられ、長軸方向に刻みが施されている。完形品の平均重量は14.5gである。第96図は土器片の周囲に加工を施し、円形状あるいは橢円形に仕上げたものである。加工は単に形を整えただけのものが多いが、35・45には研磨が施されている。

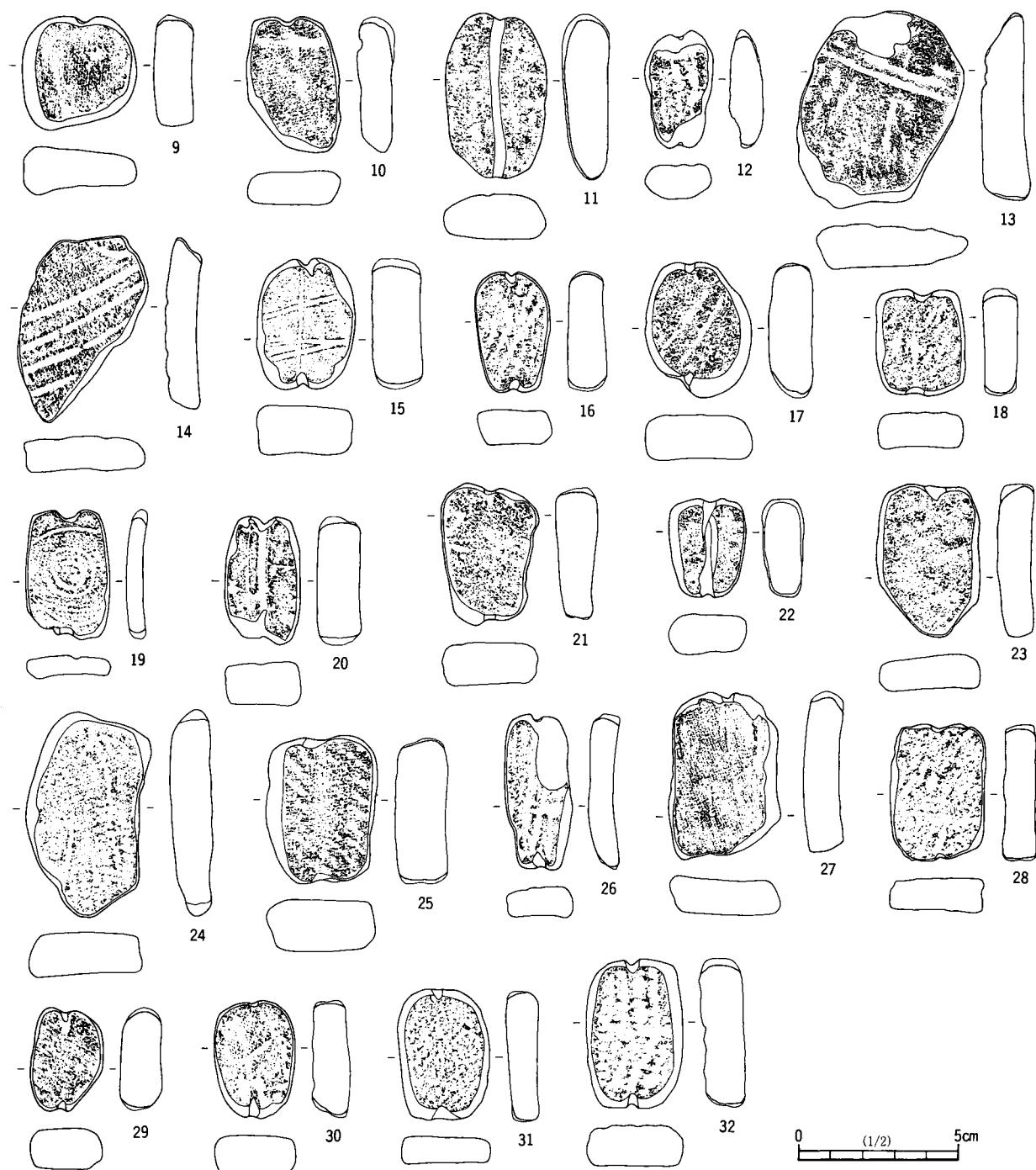
## 3 石器 (第98~126図, 図版35~38)

遺構外から出土した石器類は総数で811点になる。第6表に示した「その他」は主に礫の点数であり、811点の内訳は、同表の剥片以下砥石までの合計である。なお、本遺跡出土の黒曜石以外の石器石材については、千葉県立中央博物館高橋直樹氏から数々の御教示を得た。

第98図~第103図に示した石核を含む剥片石器類は231点である。石鏃は欠損品も含め合計点数が27点である。剥片の総数も144点と多くはない。これらの中には黒曜石を石材にするものが含まれるが、大多数が



第94図 遺構外出土土製品 (1)

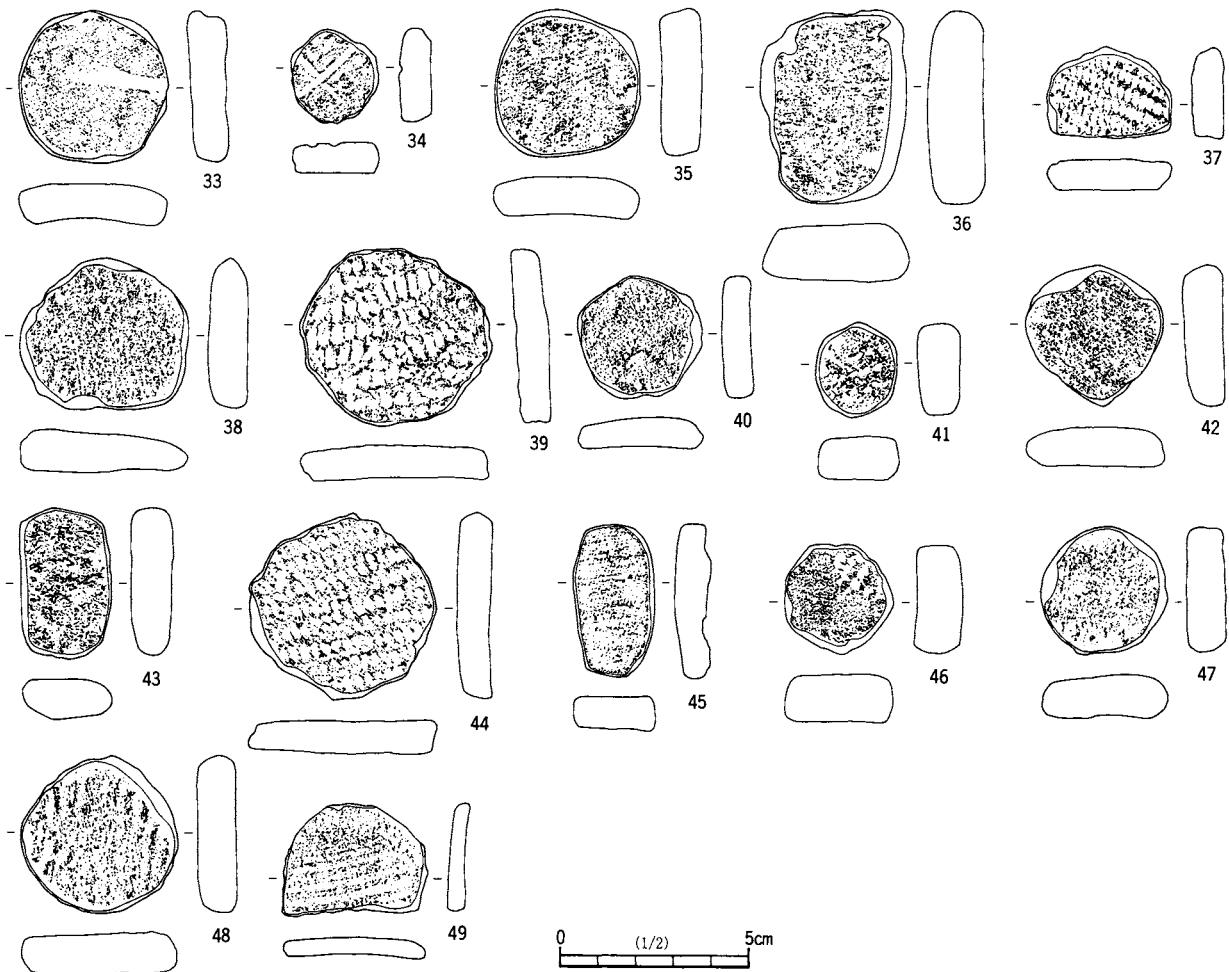


第95図 遺構外出土土製品（2）

不純物を多く含み、肉眼の観察では神津島産の可能性が高いといえる。

第104図からは石斧類を掲載している。打製石斧は28点の出土があり、磨製石斧の出土点数を下回る。石材ではホルンフェルスが卓越する。磨製石斧は刃部磨製も含め35点が出土している。比較的大型の部類は刃部などに欠損部が存在するが、第106図93・103・109の小型品は保存状態が良好に保たれている。また、102は長さ88mmのバランスのとれた完存品で、刃部に欠損は認められない。107の石材は多孔質の玄武岩であり、分厚い短冊形に作られ、出土品の中では石材と形態において異質な存在になっている。

主に敲打痕跡のみを認める敲石は12点である。第107図124は原礫面を残す緑色凝灰岩で、敲打痕のほか



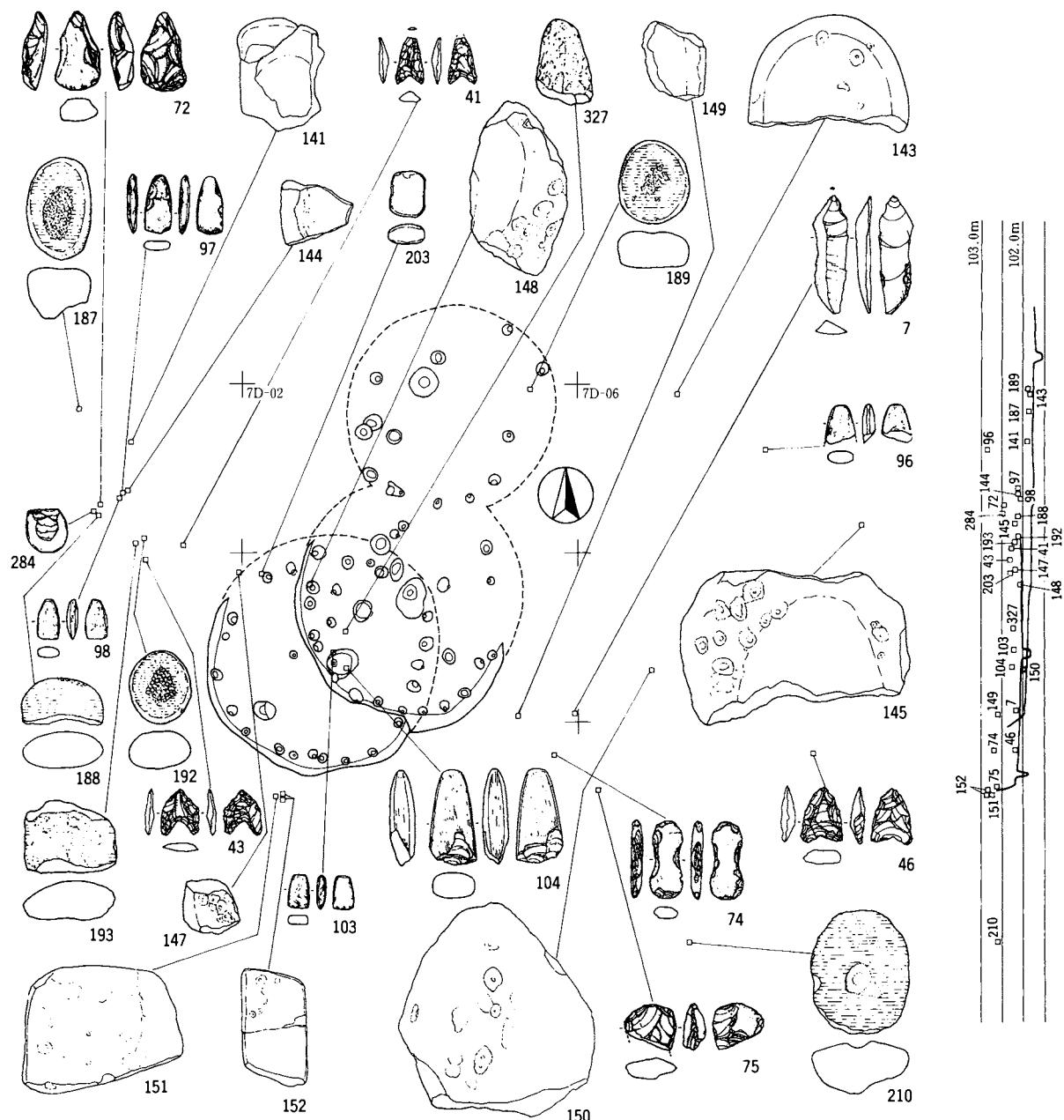
第96図 遺構外出土土製品（3）

第2表 土錘計測表

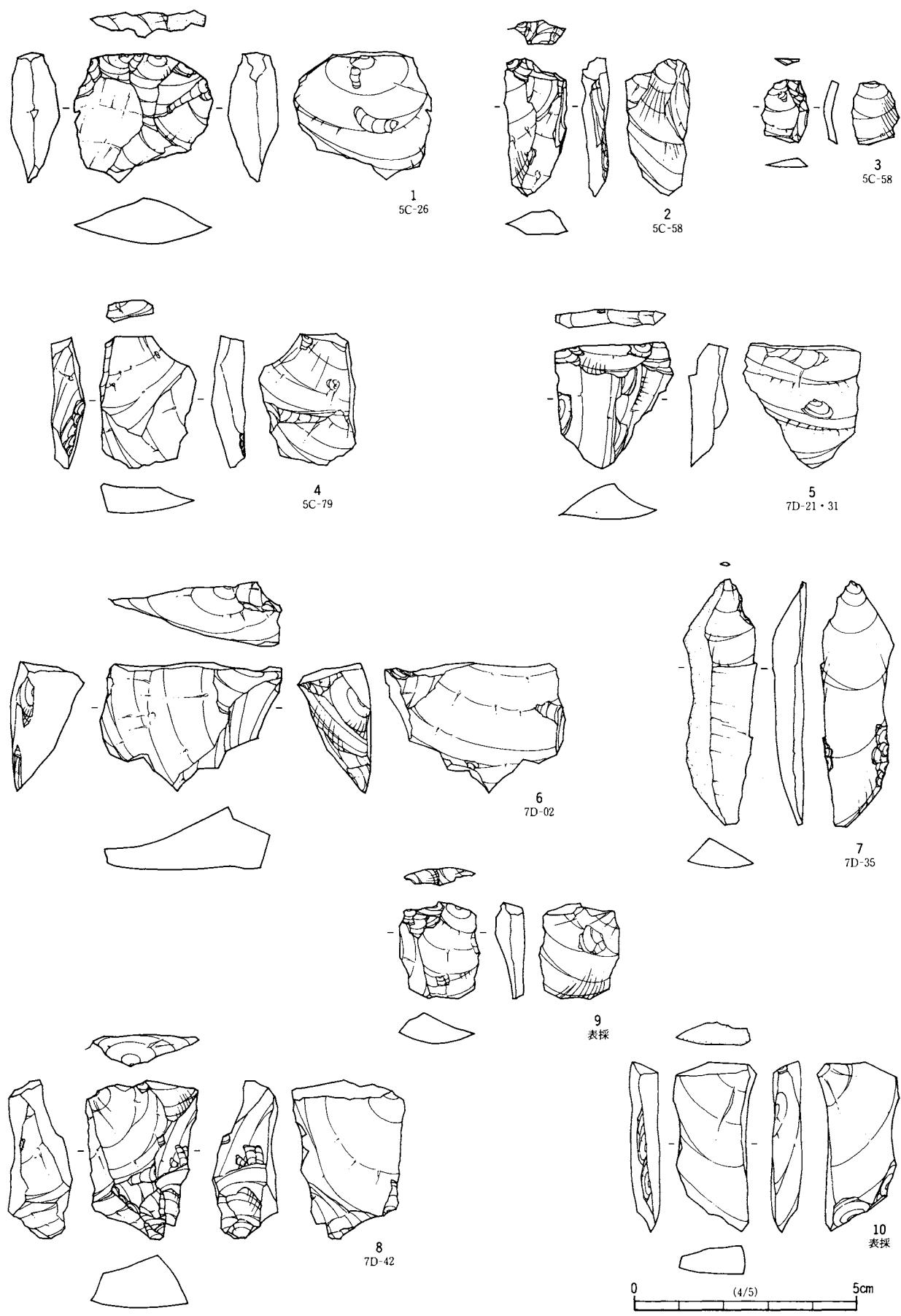
挿図番号	遺構番号	遺物番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	保存状態
第9図-67	001	1	36	19	11	7.96	完形
第50図-14	008	1	40	32	12	15.32	
第40図-45	011	2	51	27	10	15.66	完形
第95図-9	5C	46	(34)	35	15	(15.67)	一部欠損
第29図-15	029	2	(39)	25	14	(15.34)	一部欠損
第36図-18	P105	1	(51)	35	13	(25.01)	一部欠損
第56図-7	P112	1	(38)	28	11	(13.40)	一部欠損
第95図-10	5C-47	4	(42)	29	11	(11.56)	一部欠損
第95図-11	5D	1	51	32	14	20.57	完形
第95図-15	7D-00	1	40	31	15	21.87	完形
第95図-16	7D-03	1	37	23	12	10.94	完形
第95図-17	7D-12	1	(42)	33	13	(19.00)	一部欠損
第95図-18	7D-13	1	33	23	11	13.20	完形
第95図-19	7D-15	1	(40)	26	6	(9.39)	一部欠損
第95図-20	7D-21	1	(40)	23	13	(14.26)	一部欠損
第95図-21	7D-22	1	43	31	13	17.03	完形
第95図-22	7D-25	4	31	24	13	8.67	完形
第95図-23	7D-26	2	(47)	32	11	(18.03)	一部欠損
第95図-25	7D-52	1	45	34	16	(29.08)	一部欠損
第95図-26	7E-60	1	43	21	10	9.74	完形
第95図-27	表採	50	(35)	11		(21.16)	一部欠損
第95図-28	表採	42	29	10		15.74	完形
第95図-29	表採	32	23	13		9.68	完形
第95図-30	表採	37	35	12		13.71	完形
第95図-31	表採	39	28	11		14.38	完形
第95図-32	表採	46	40	13		22.98	完形

に剥離面が存在する。玉などの装身具の素材になっていた可能性もあるものの、石材の類似する成品は出土していない。

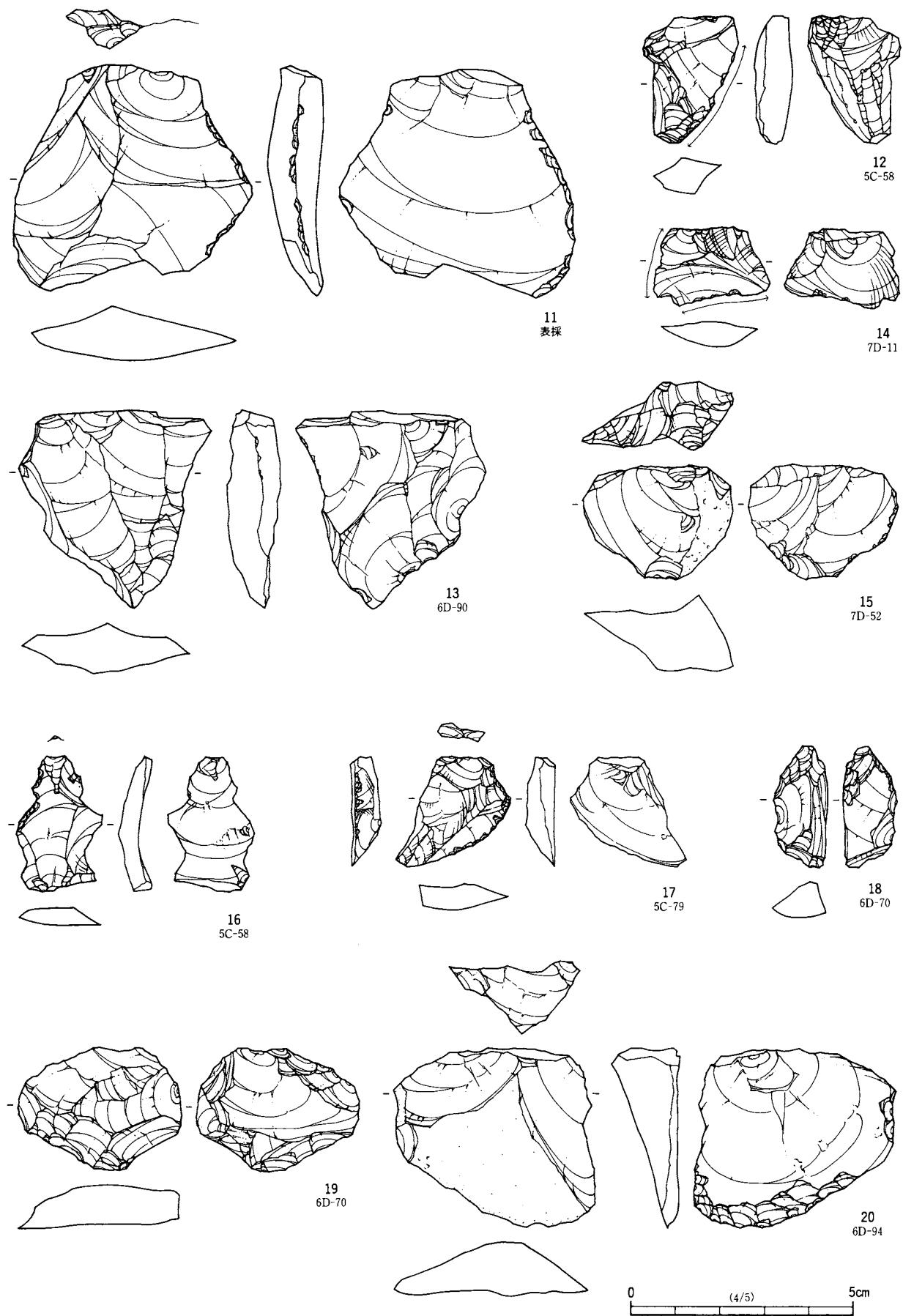
石皿の点数は129点である。この点数は単純に破片点数の合計で個体別点数ではない。全体を窺える資料は少なく、また、欠損後に凹石に転用している個体が多いのが特徴として挙げられる。第108図131は断面形態が弓形を呈し、片面のみが使用されている。第109図136も同様な形態を示す。135は扁平な板状の中央部に薬研状の使用痕跡を認める。第110図139・143は両面を使用している。第113図159は両面から使用され、中央部が貫通している。遺構に伴わない状態で、調査区の南側斜面から出土した（図版1-5参照）。長軸方向の長さは49.8cm、幅は39.7cmで、重量は25.4kgである。石材は凝灰岩で在地産と考えられる。両面と側面に凹部が多数残されており、その数は169か所になる。



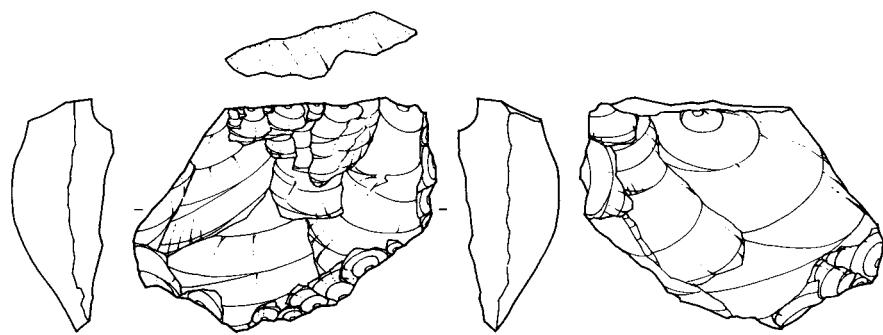
第97図 012周辺の石器出土状況



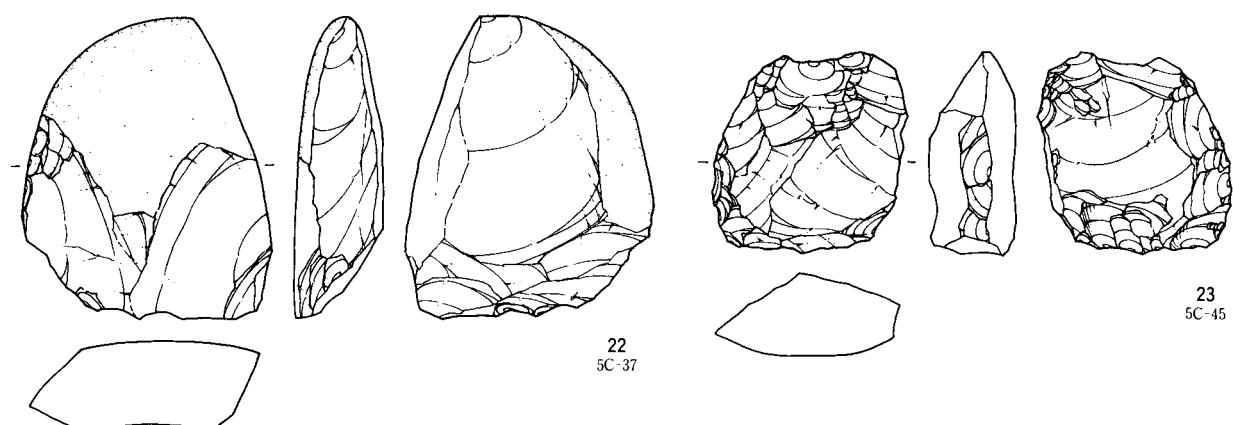
第98図 遺構外出土石器（1）



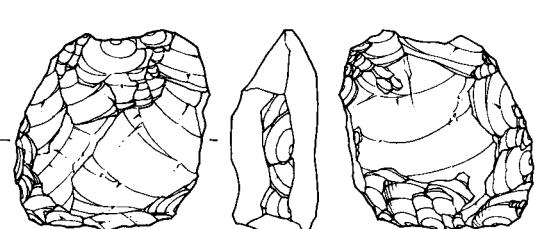
第99図 遺構外出土石器 (2)



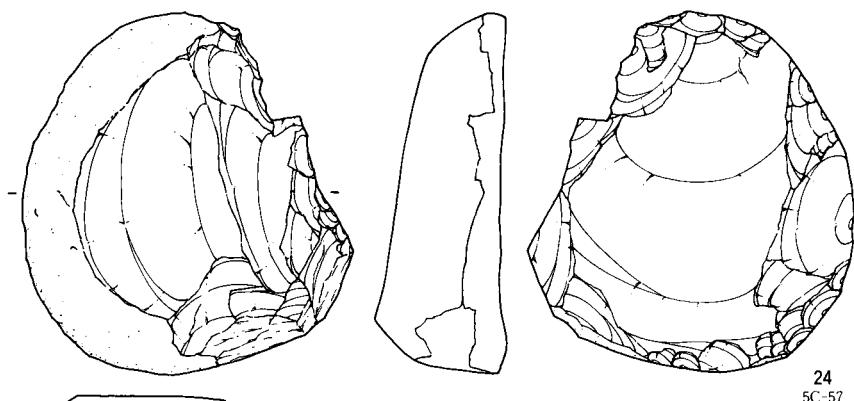
21  
7D



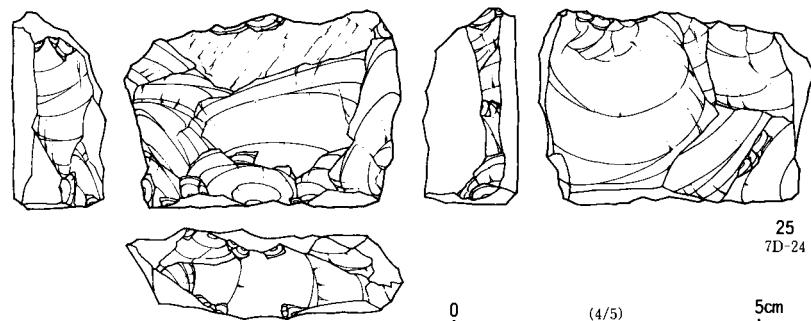
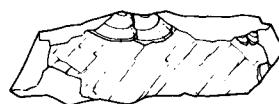
22  
5C-37



23  
5C-45



24  
5C-57

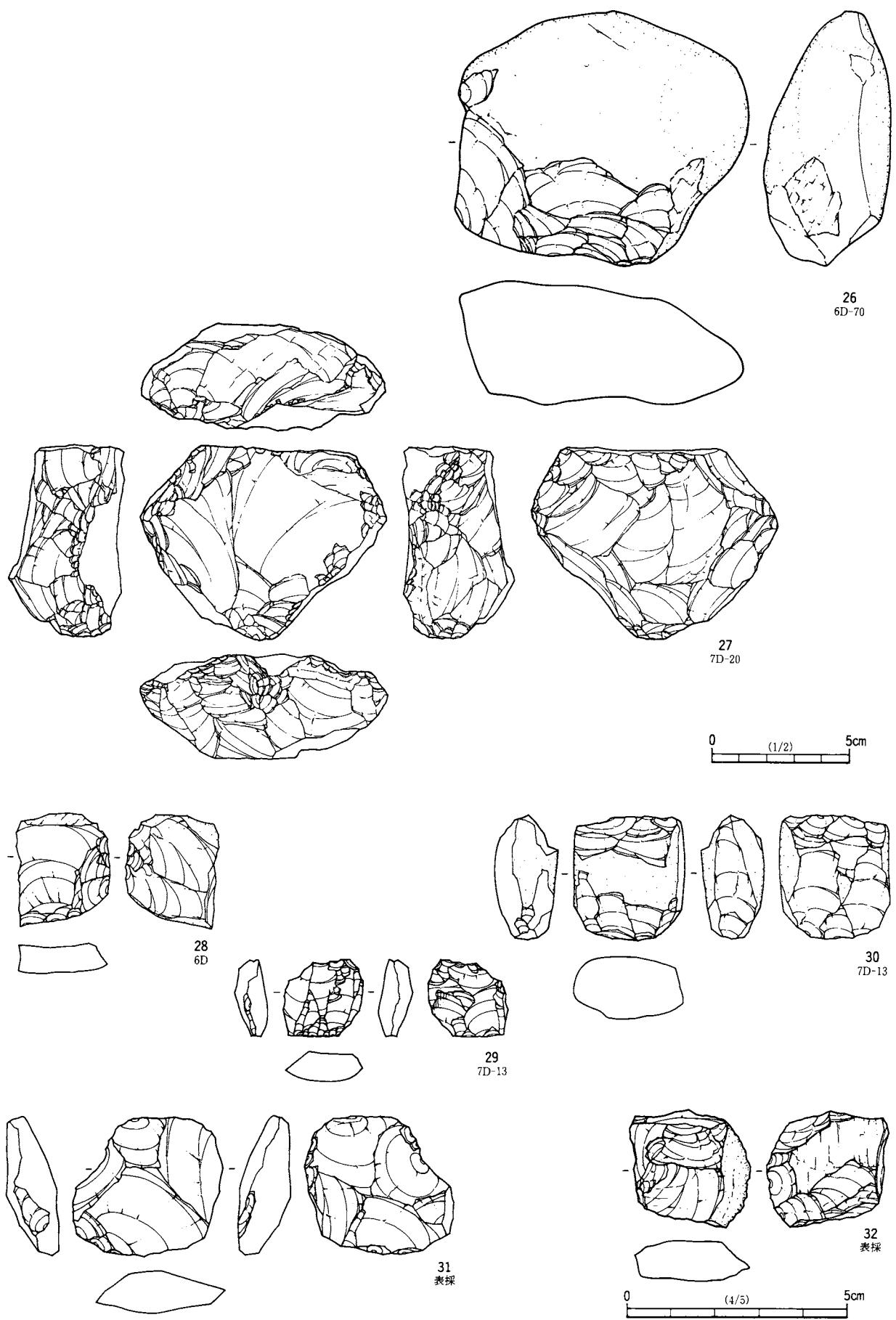


25  
7D-24

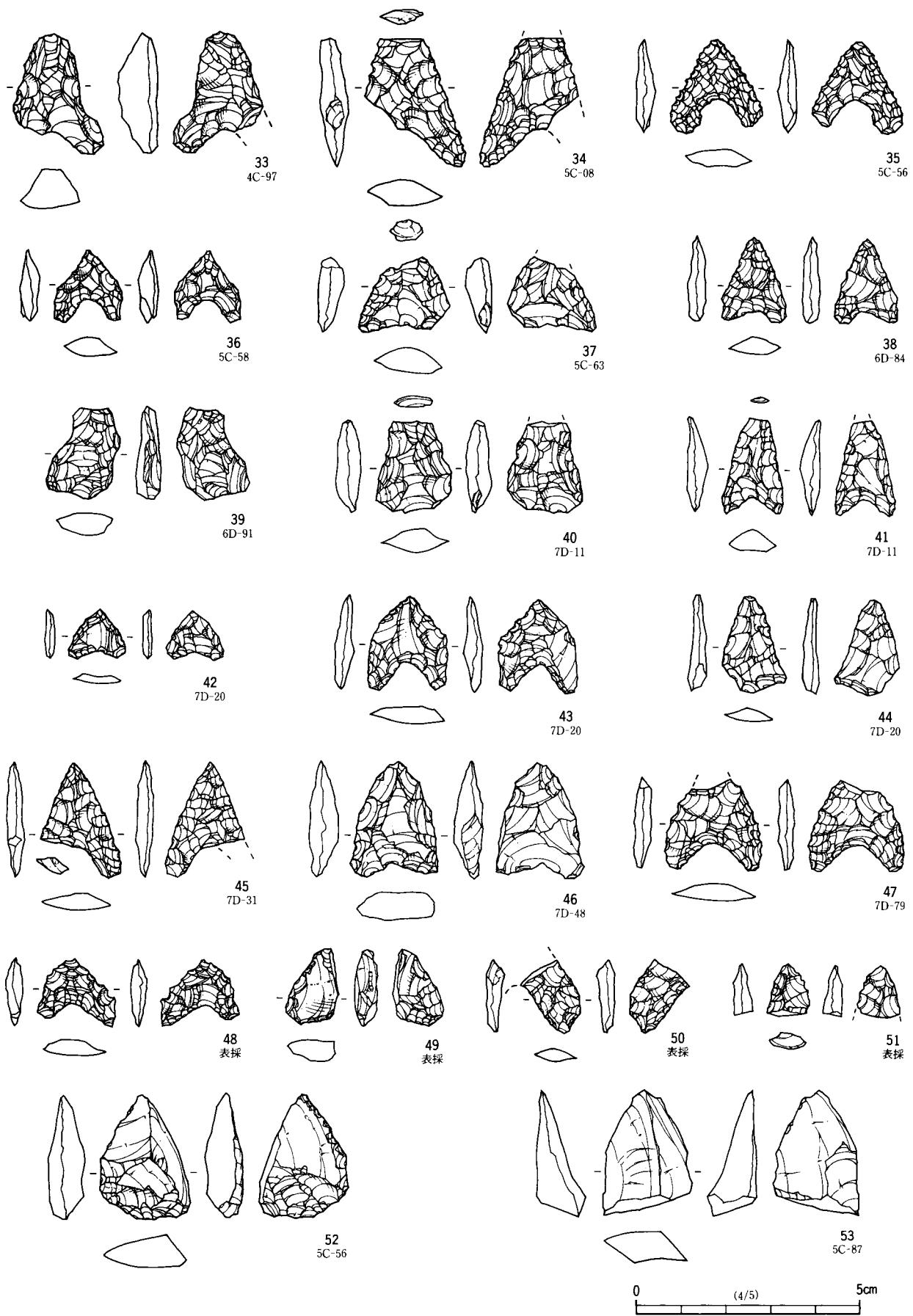


0 (4/5) 5cm

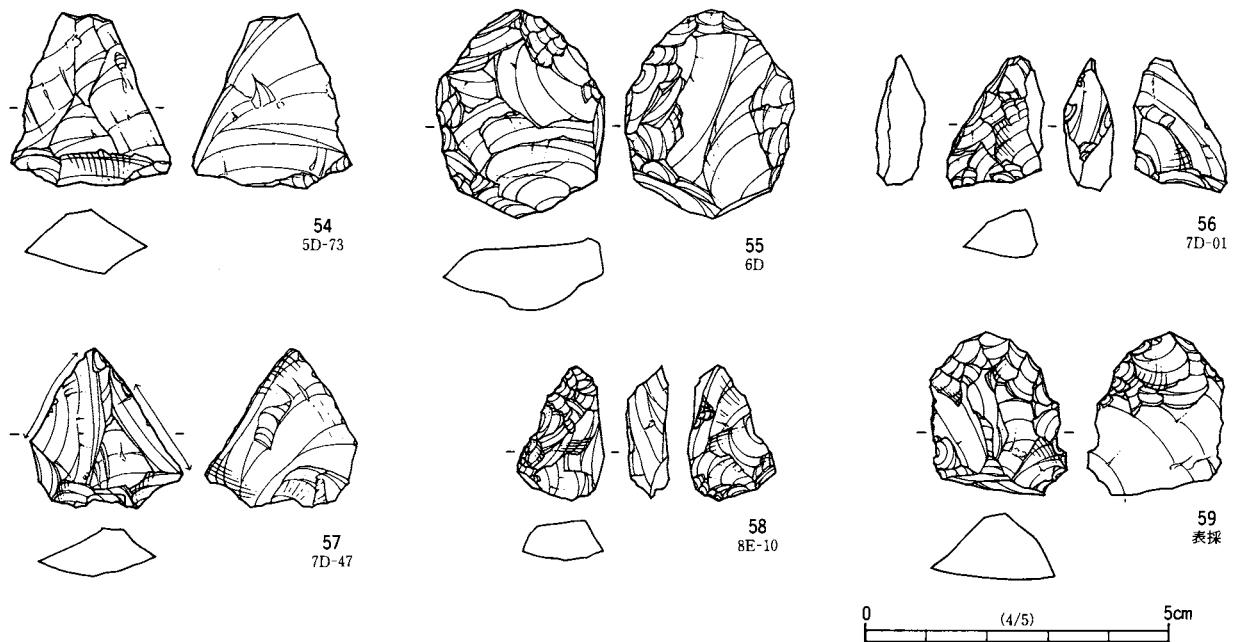
第100図 遺構外出土石器（3）



第101図 遺構外出土石器 (4)



第102図 遺構外出土石器（5）

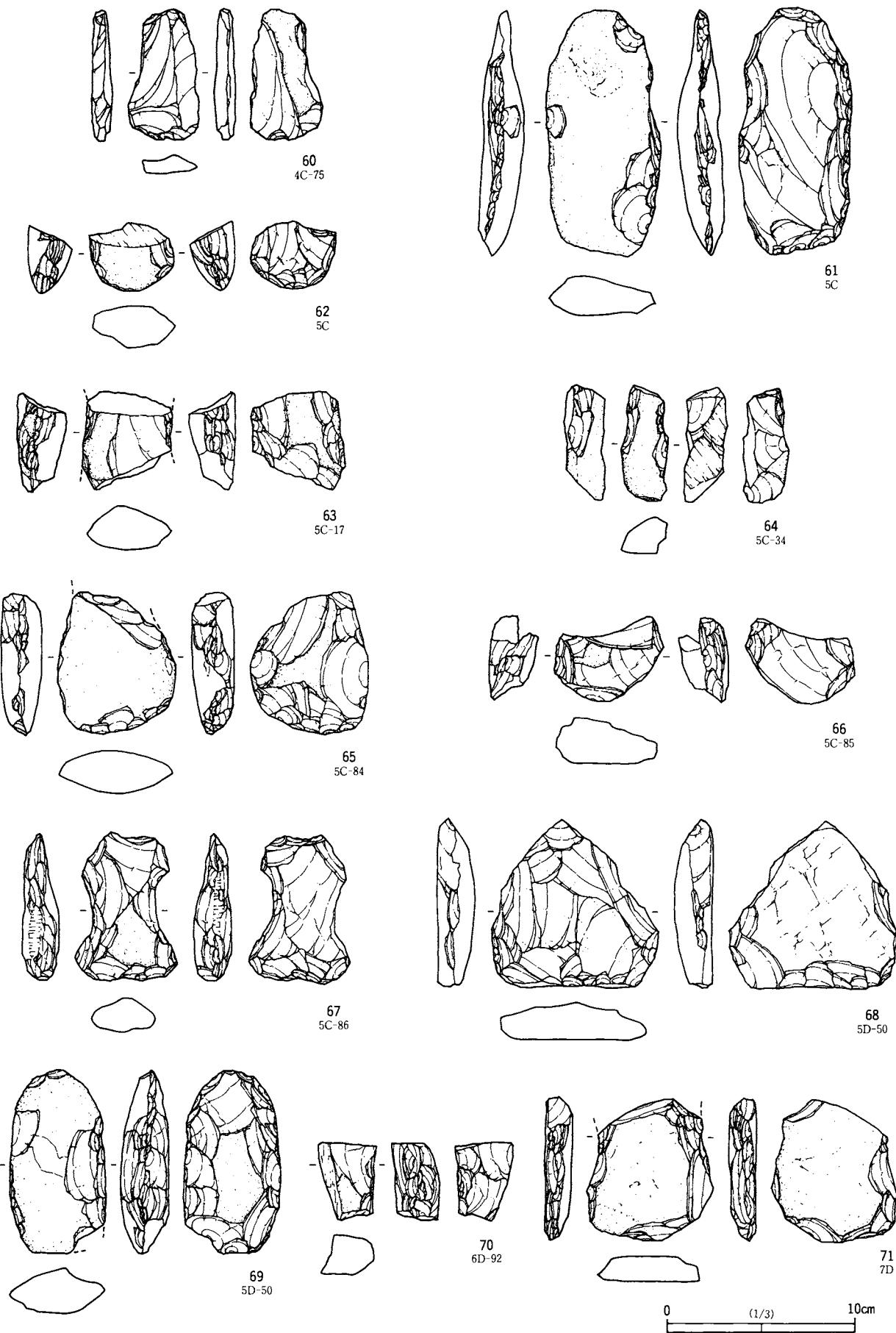


第103図 遺構外出土石器（6）

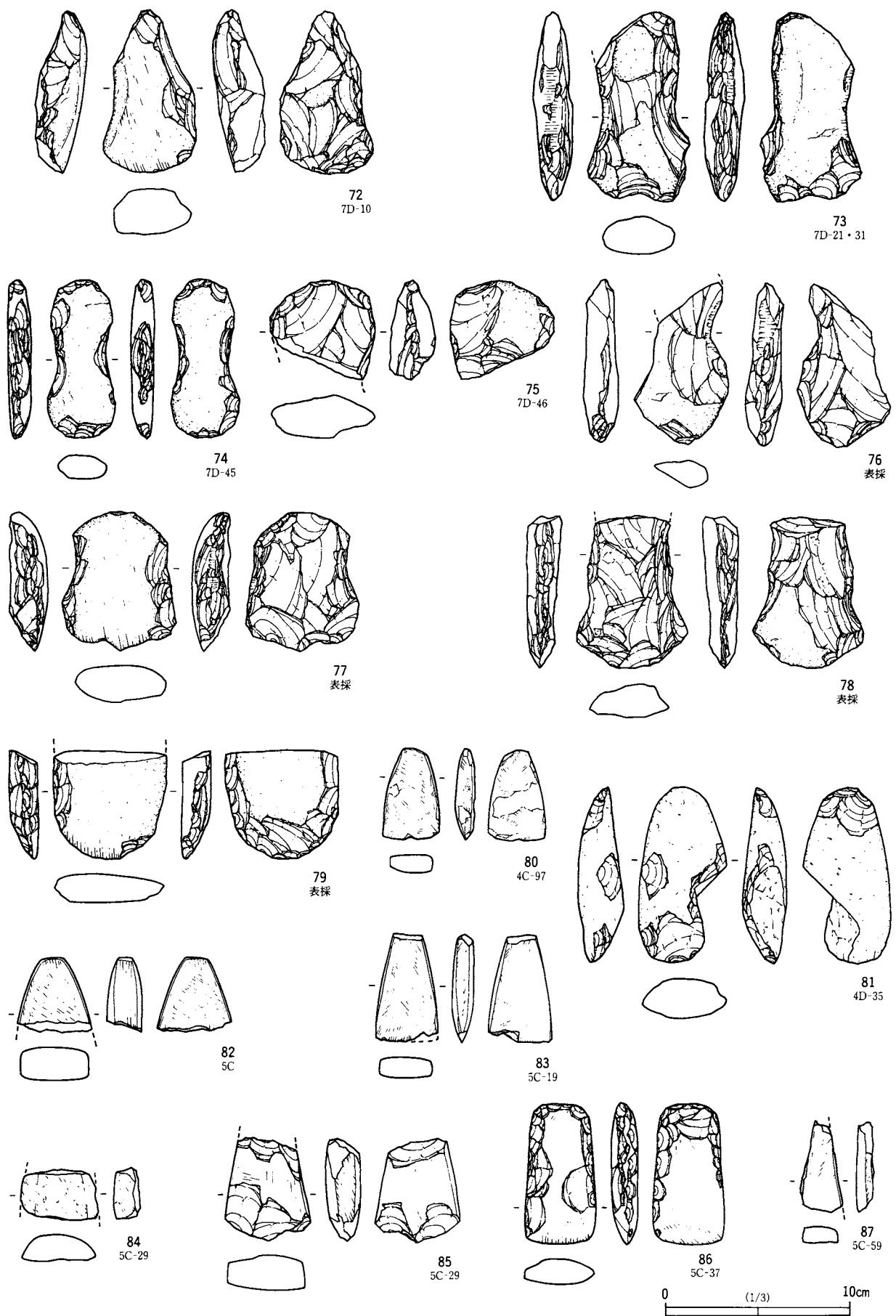
第114図～第120図は磨石である。礫に磨痕が認められるものであるが、一部に敲打痕を残したり、凹部が存在したりする。凹部を認めるものは、第119図207・210のように両面に存在する。

第121図～125図は礫石錘である。遺構外からは124点が出土した。全体として扁平で橢円形を呈する礫が使用され、石材は砂岩、チャート、流紋岩などで、平均重量は20.4gになる。

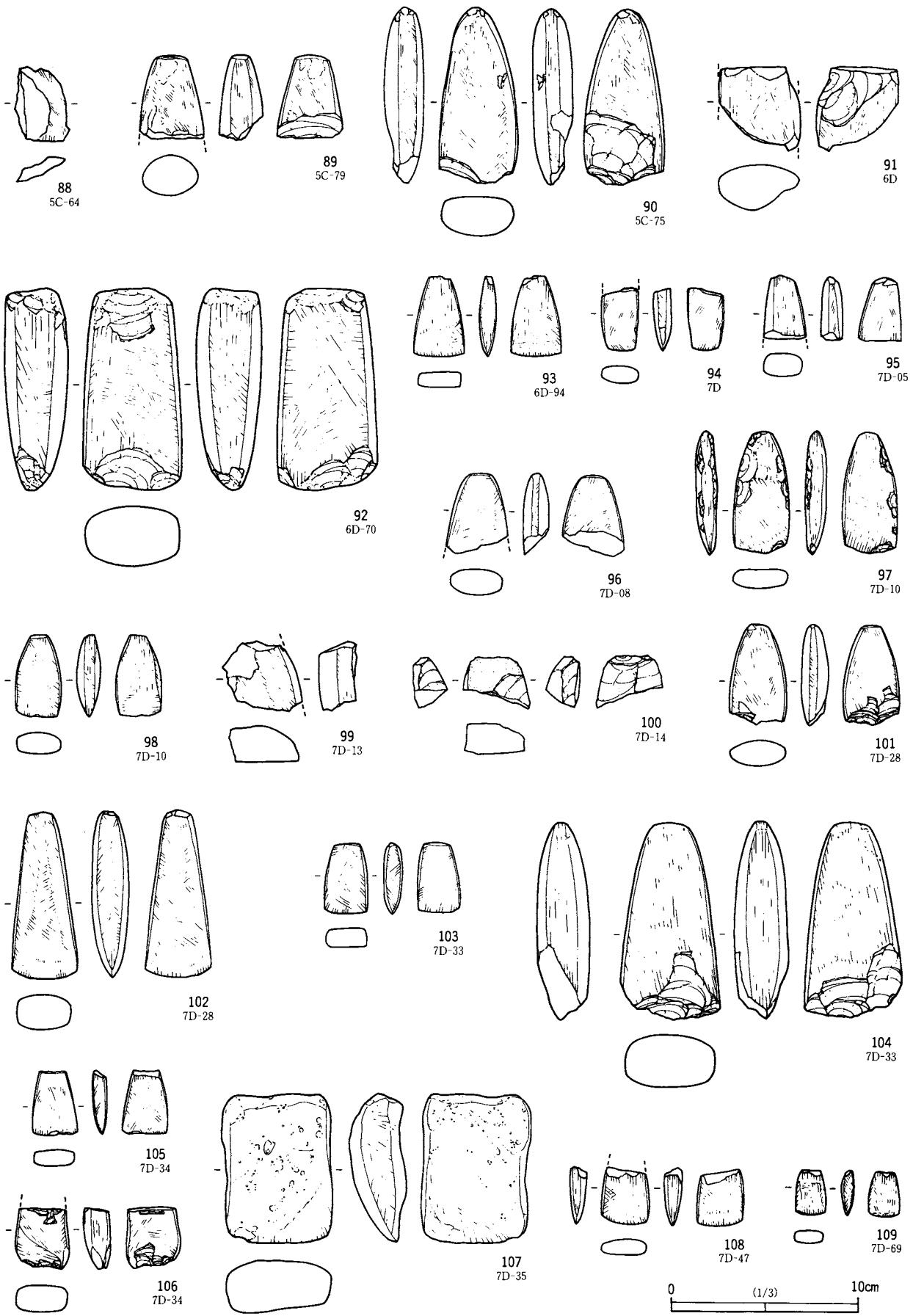
第126図324は砥石である。石材は凝灰岩で、Uの字形に中央部が磨り減っている。棒状品の研磨に用いられたと推測される。325も砥石である。断面が三角形になる凝灰岩の各面に筋状の使用痕が残されている。326～330は軽石である。326と327には顕著な加工痕や使用痕が認められないが、328は扁平な円板状に加工され、329には擦痕が観察できる。330は両側穿孔による孔が認められる。



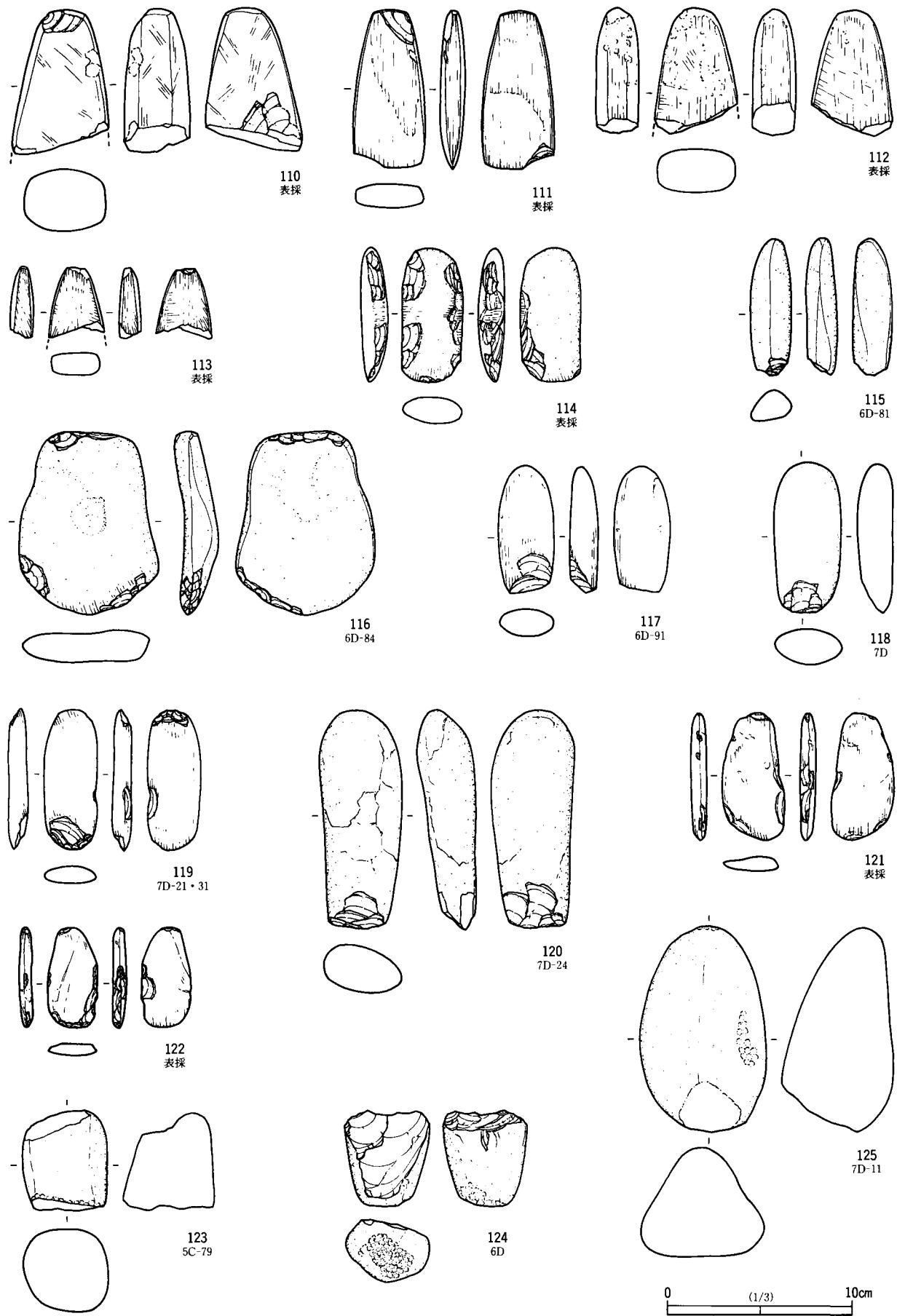
第104図 遺構外出土石器（7）



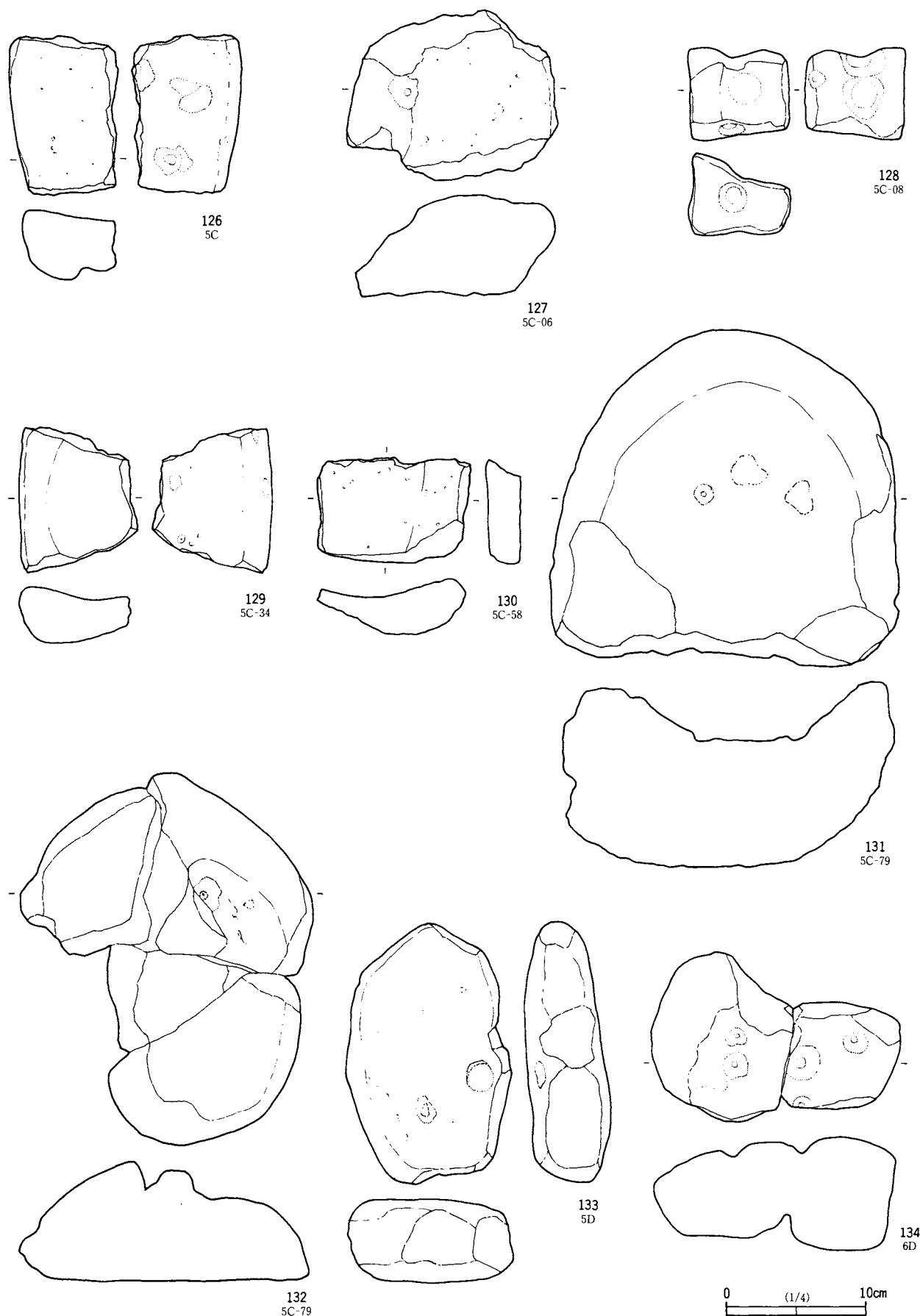
第105図 遺構外出土石器（8）



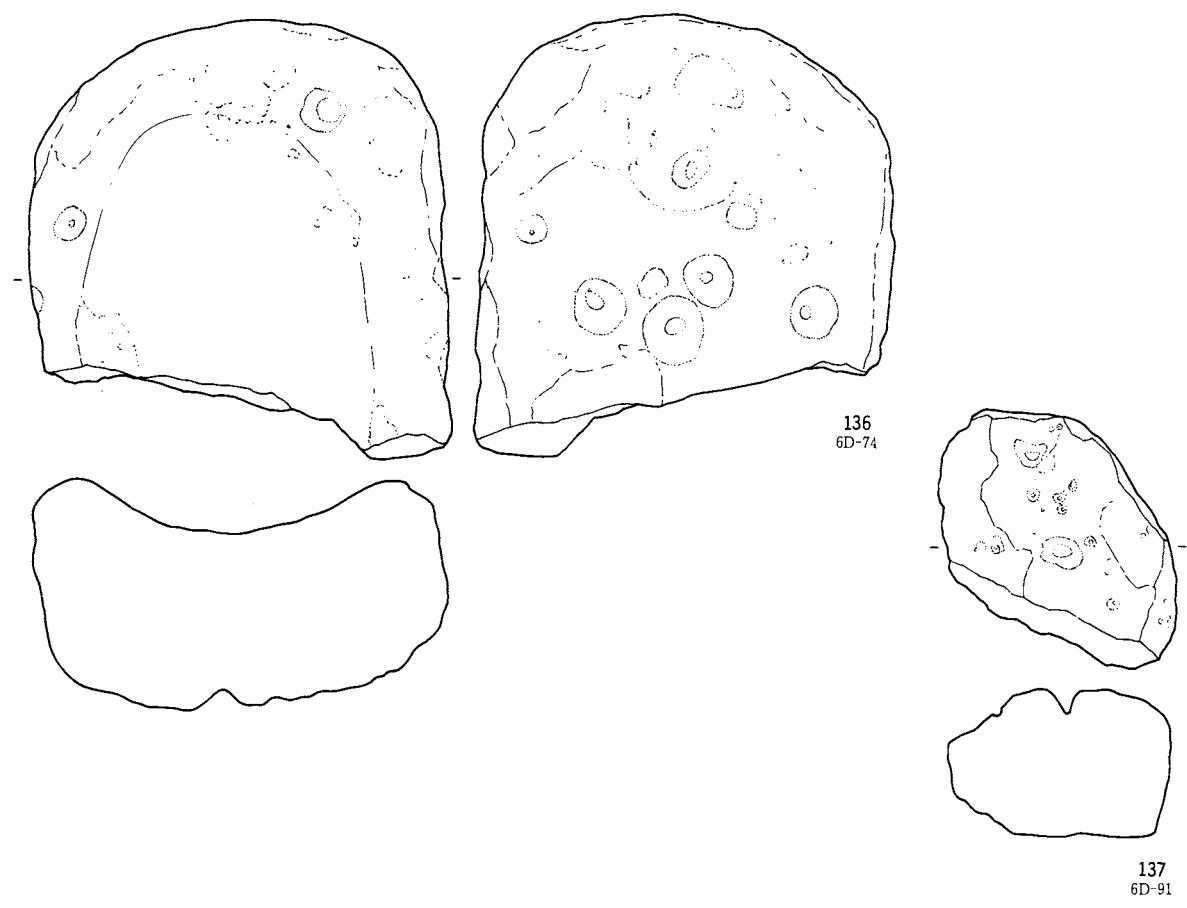
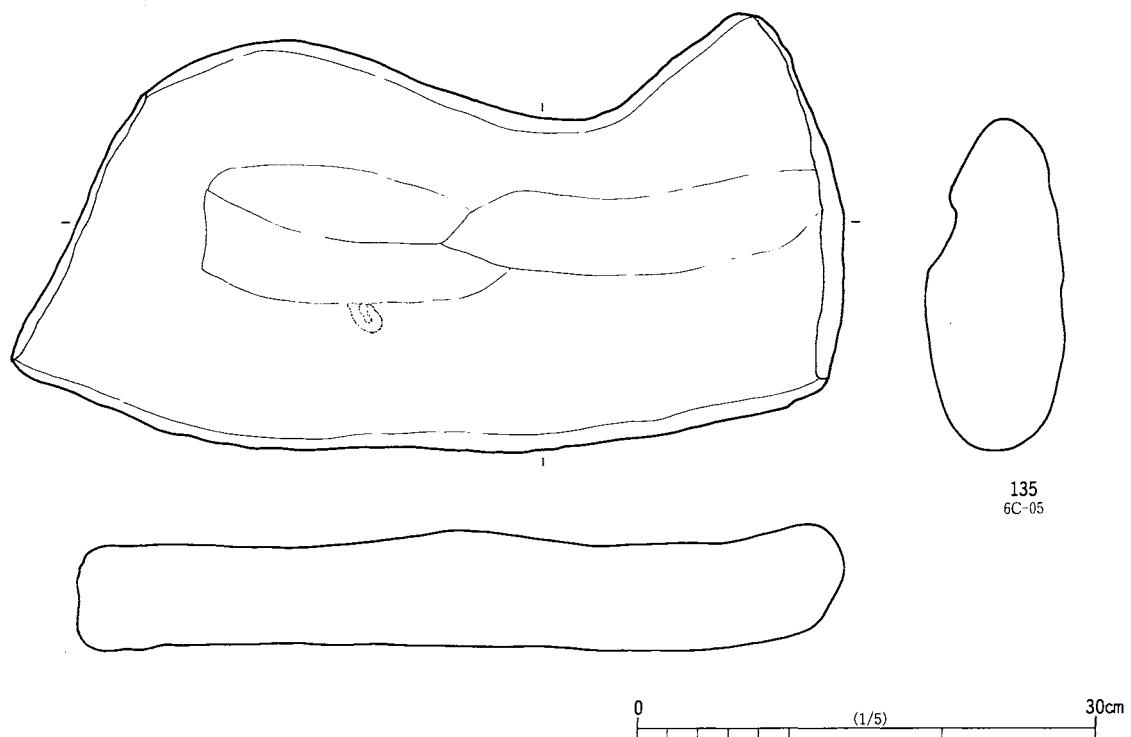
第106図 遺構出土石器（9）



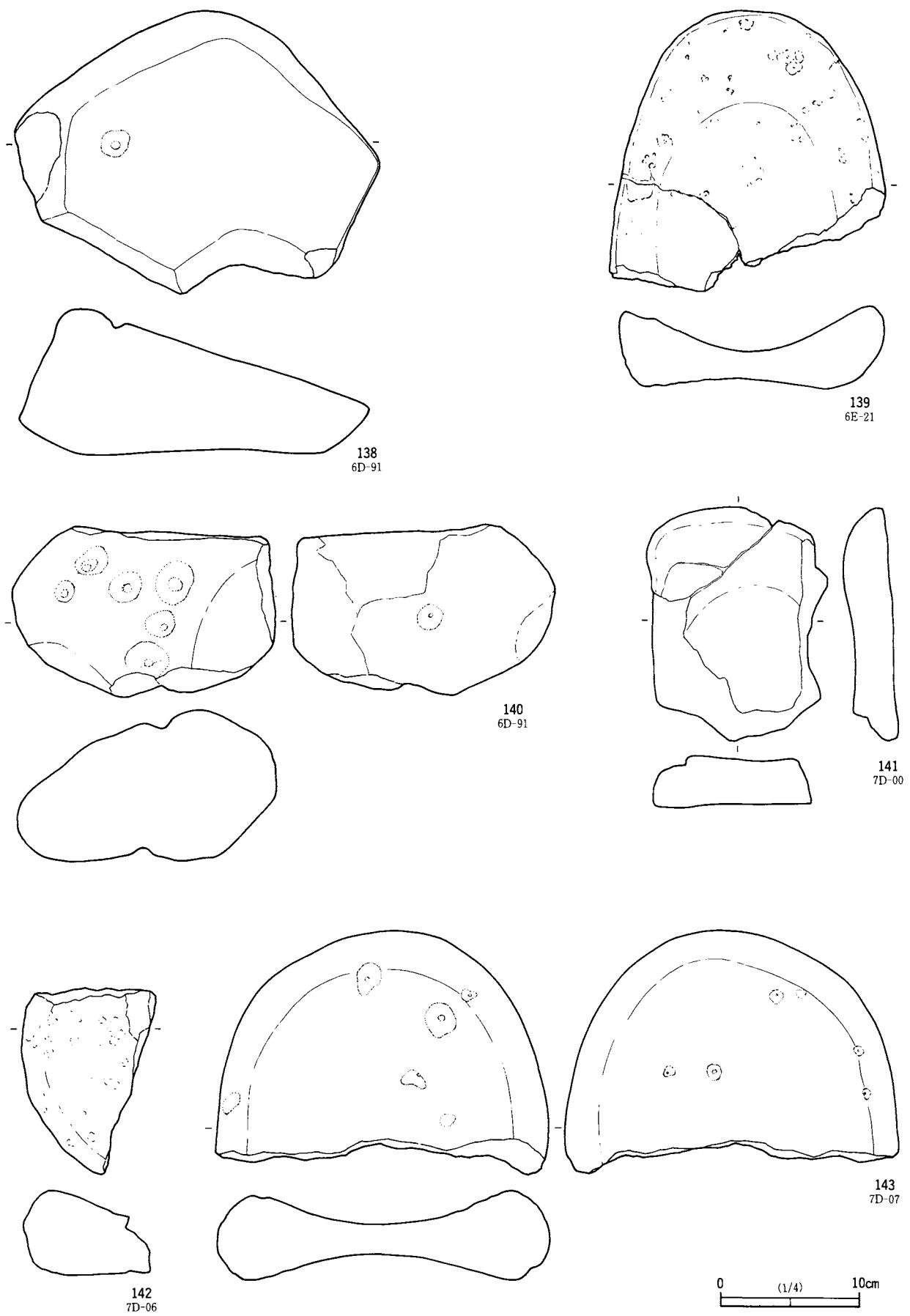
第107図 遺構外出土石器 (10)



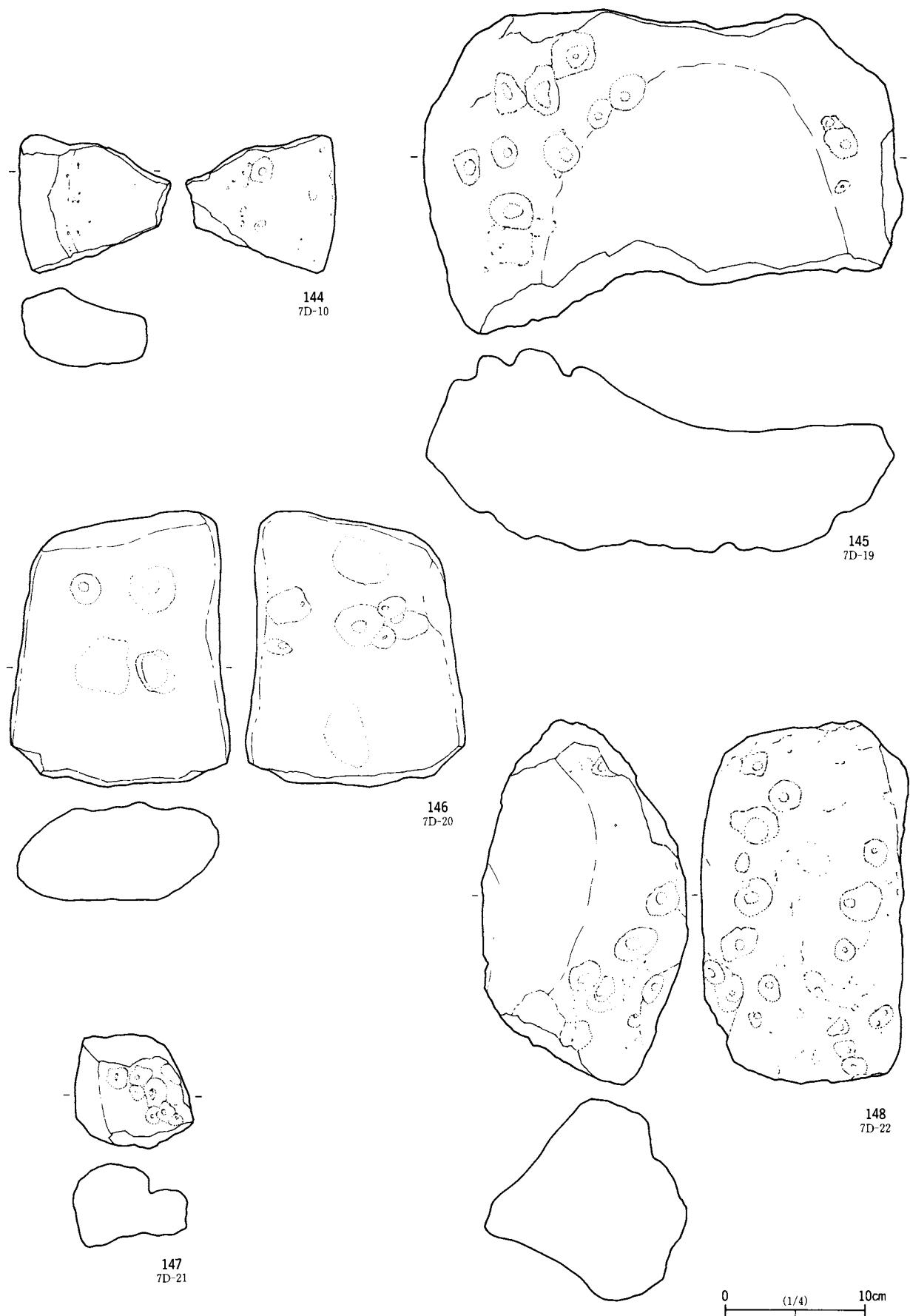
第108図 遺構外出土石器 (11)



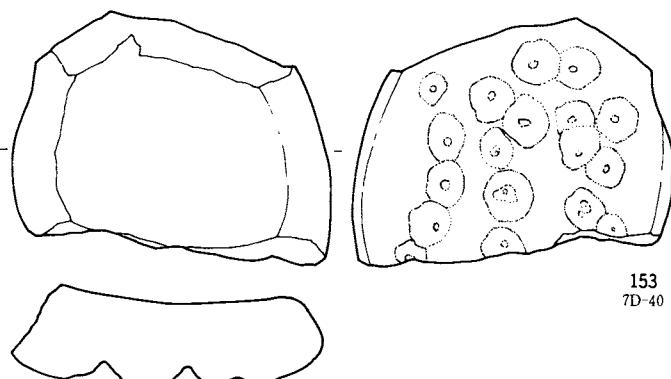
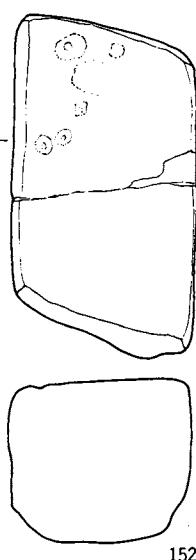
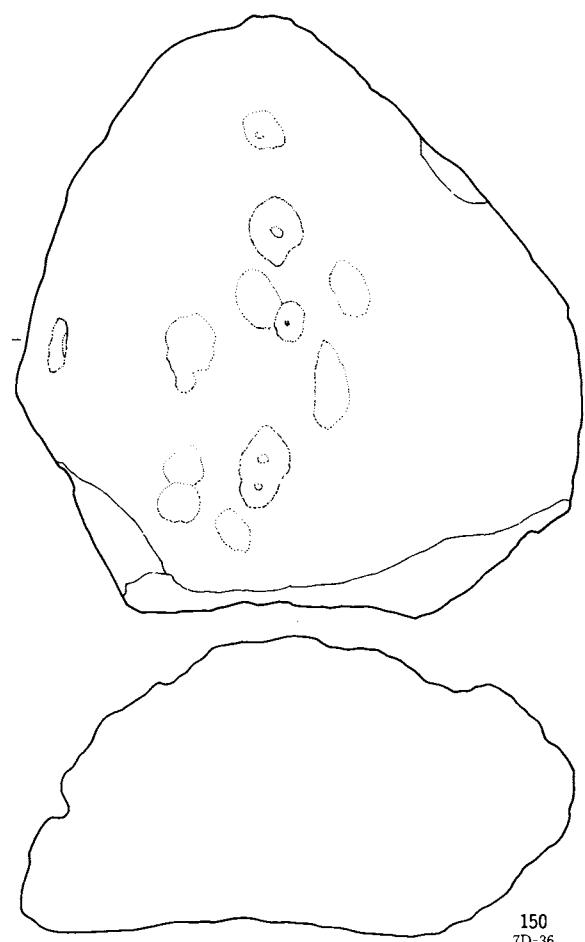
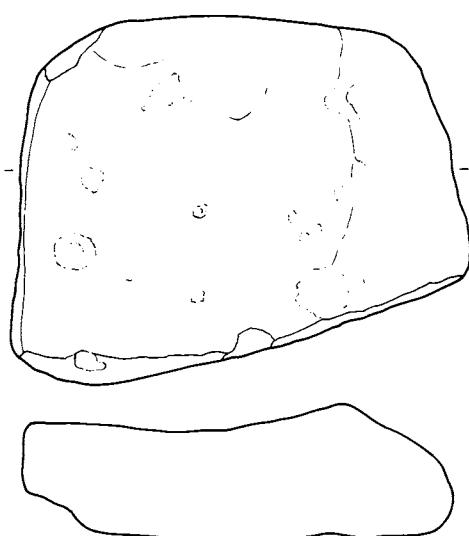
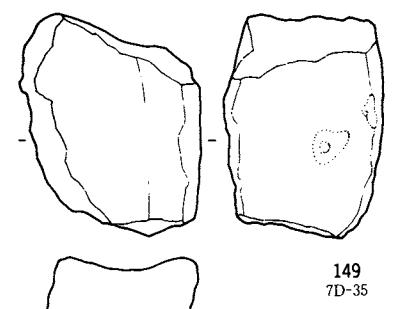
第109図 遺構外出土石器 (12)



第110図 遺構外出土石器 (13)

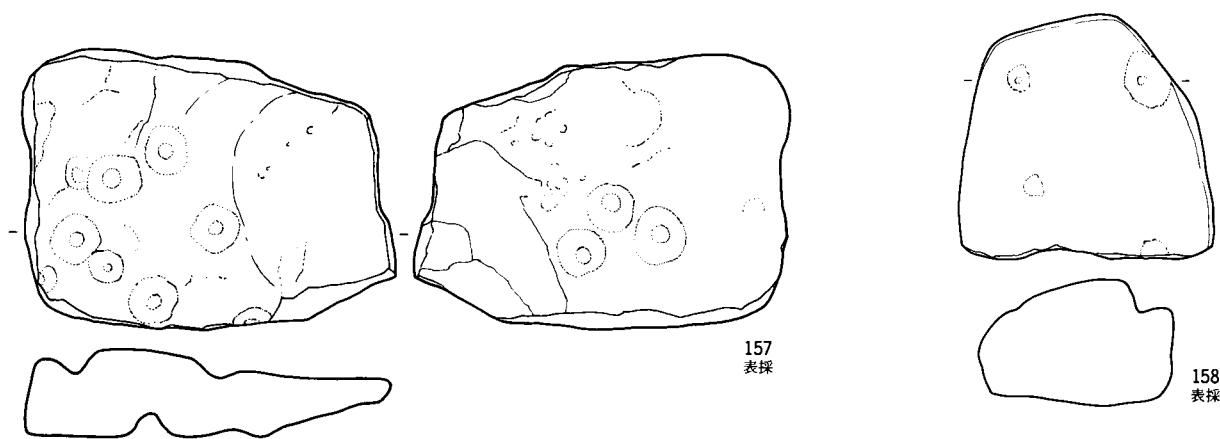
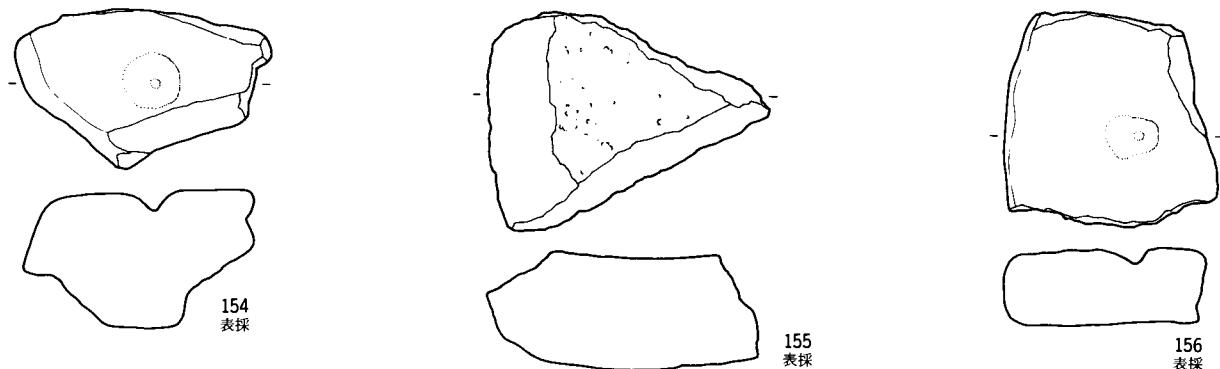


第111図 遺構外出土石器 (14)

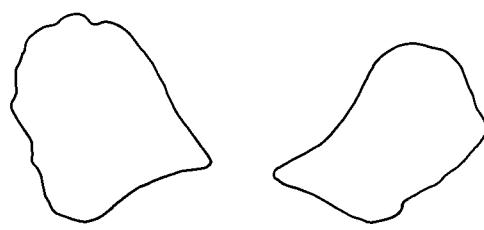
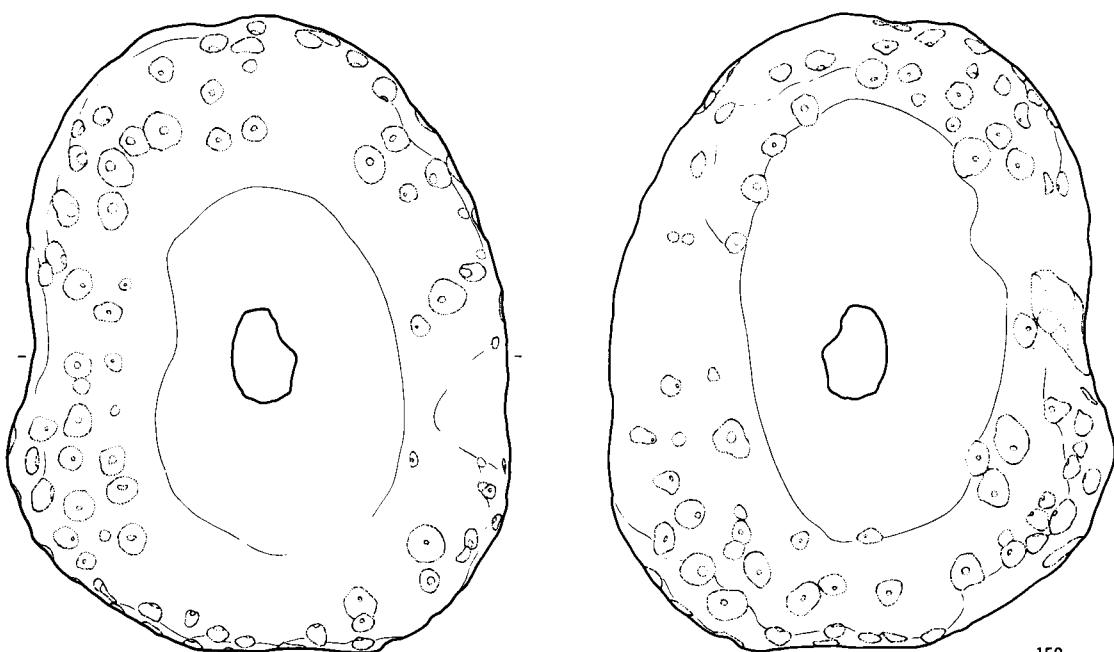


0 (1/4) 10cm

第112図 遺構外出土石器 (15)

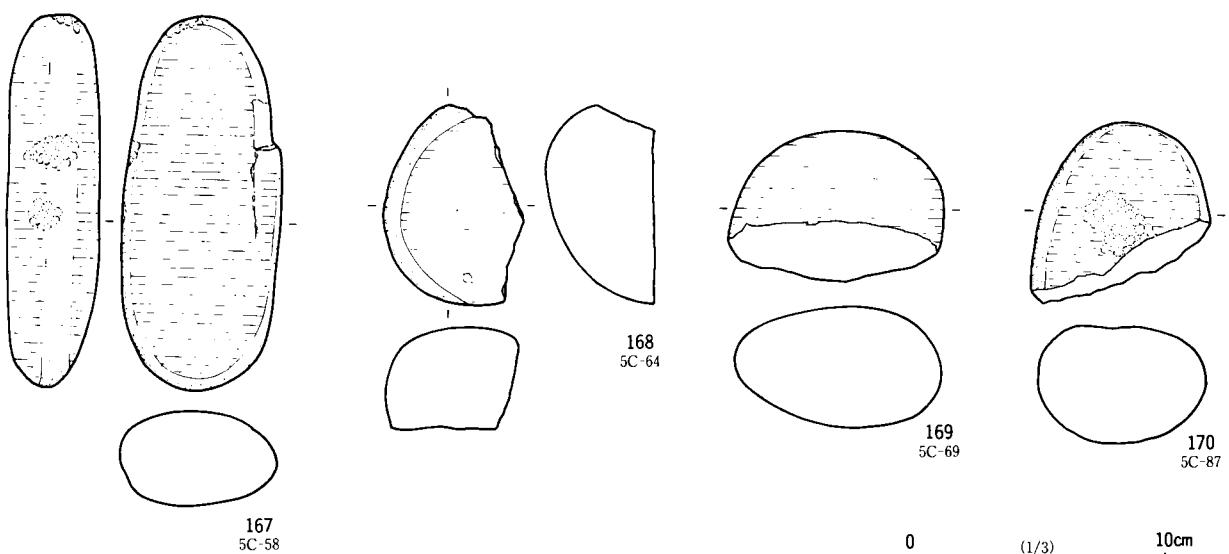
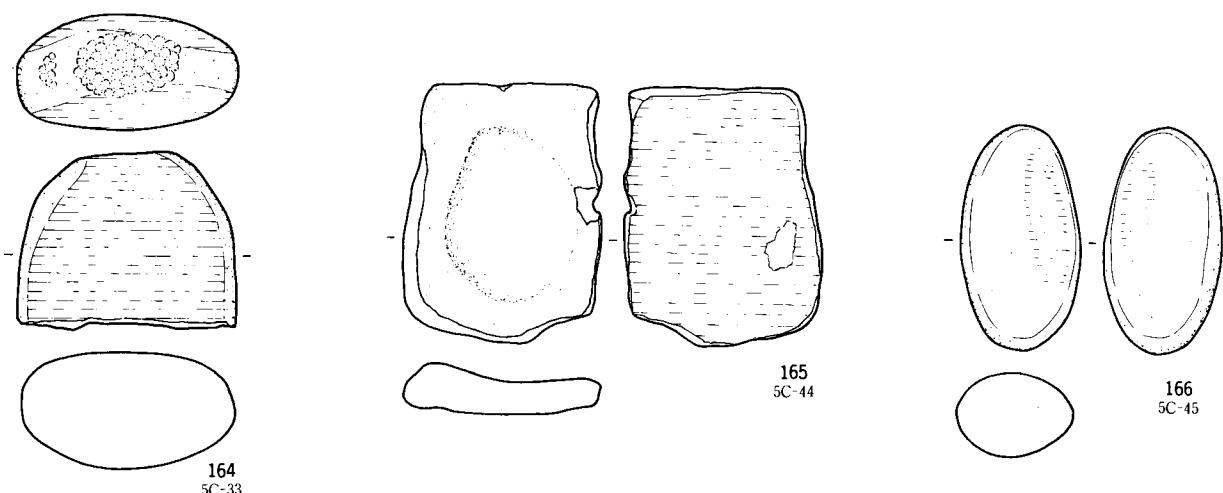
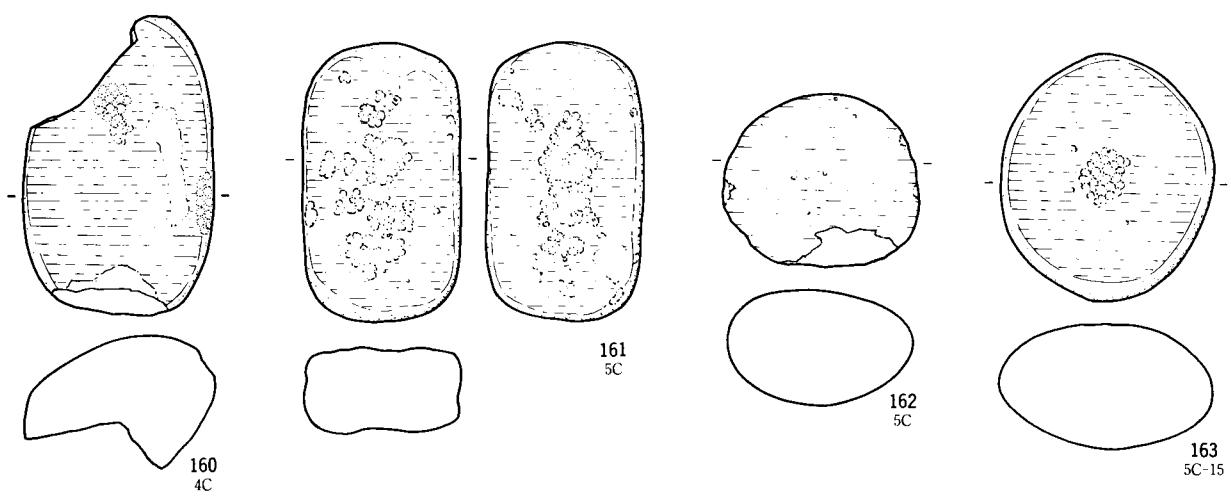


0 (1/4) 10cm



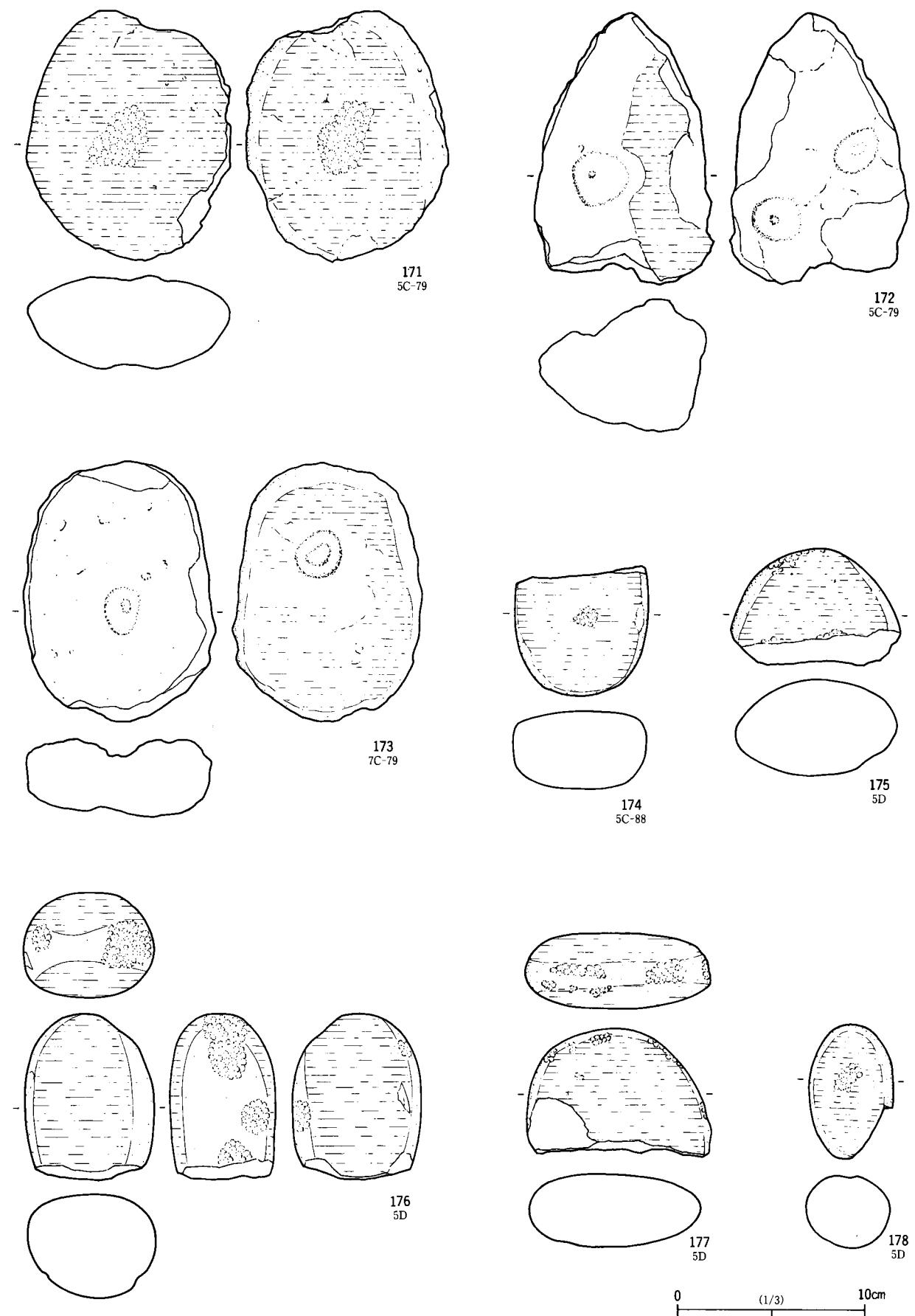
0 (1/6) 30cm

第113図 遺構外出土石器 (16)

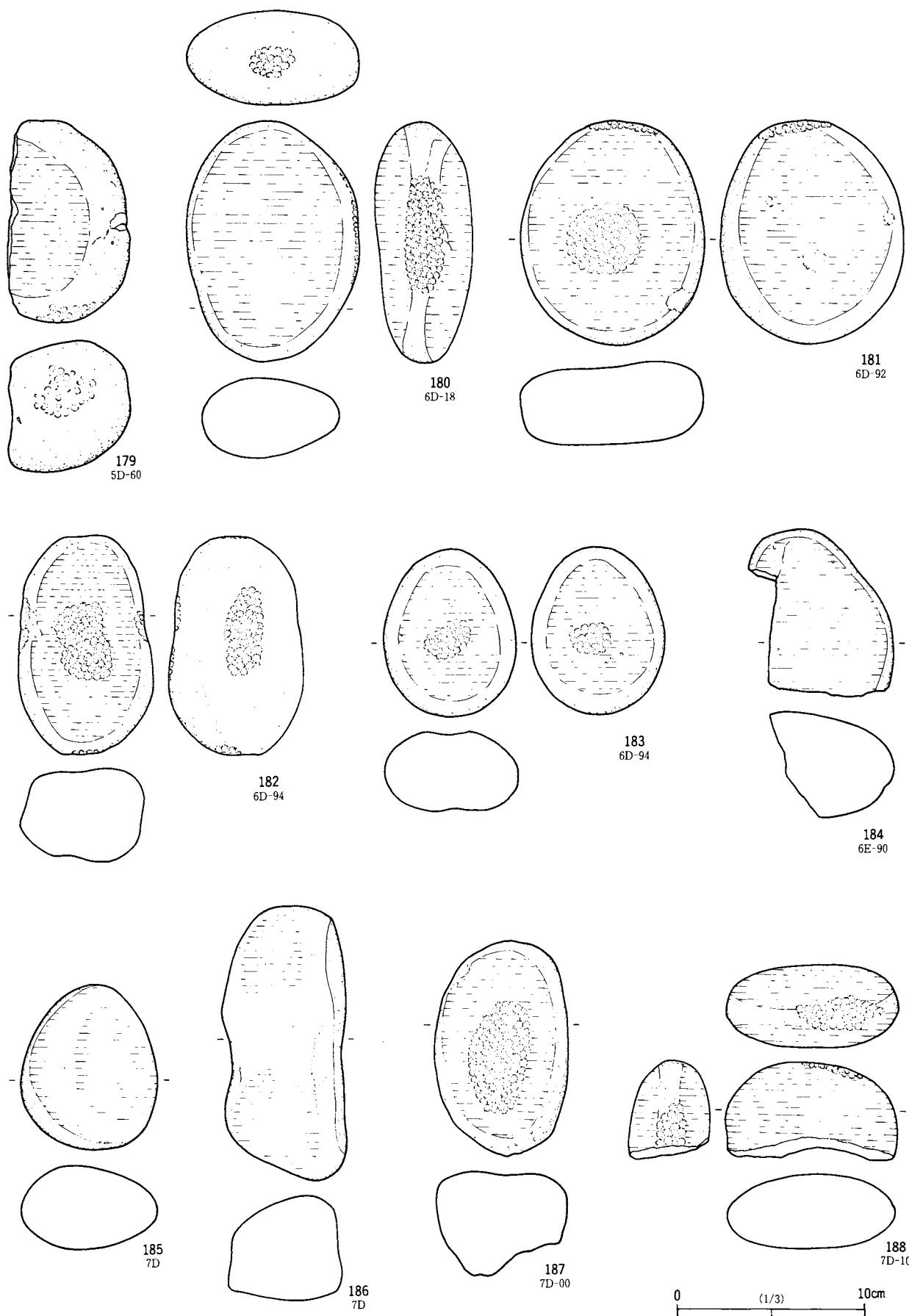


0 (1/3) 10cm

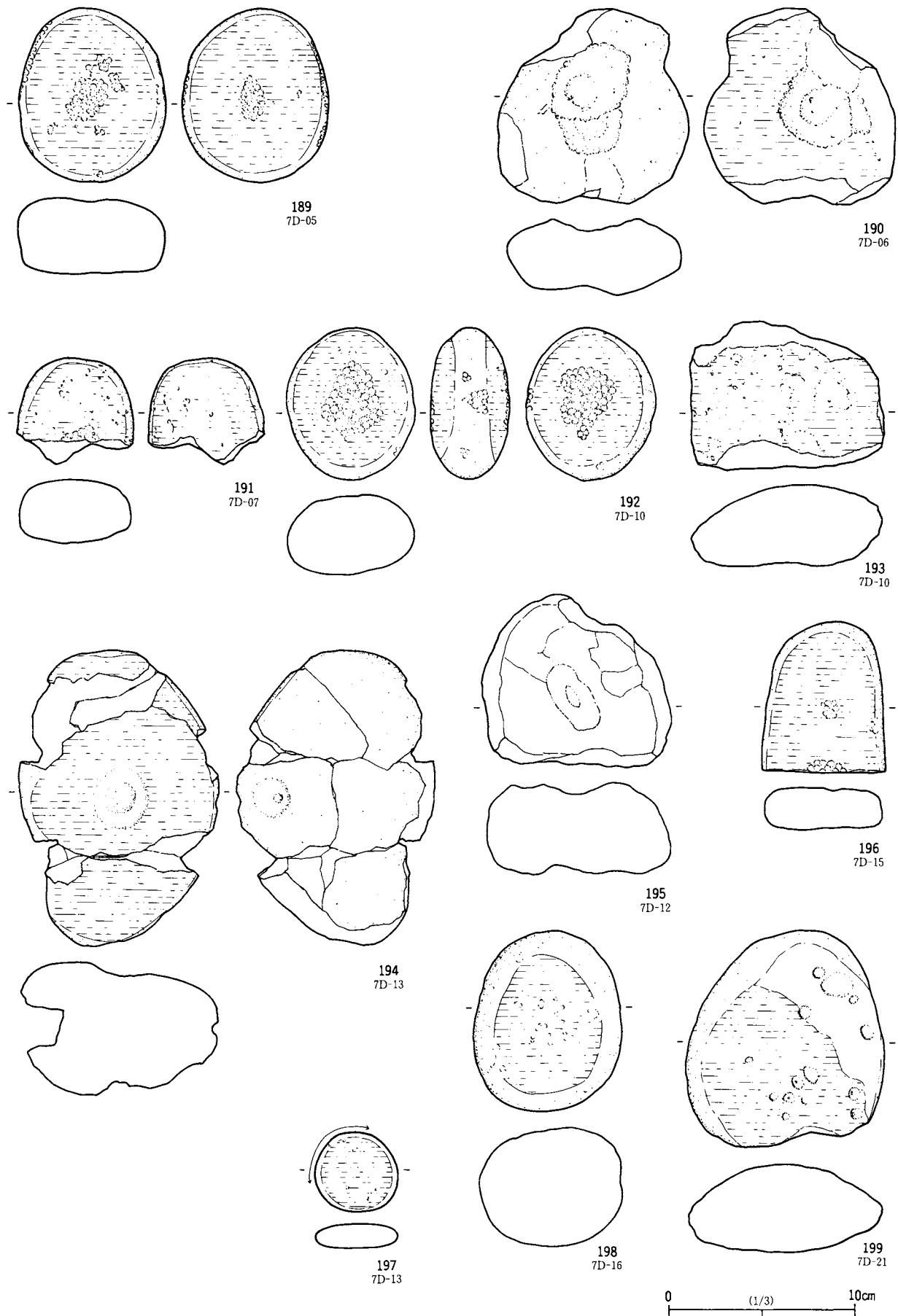
第114図 遺構外出土石器 (17)



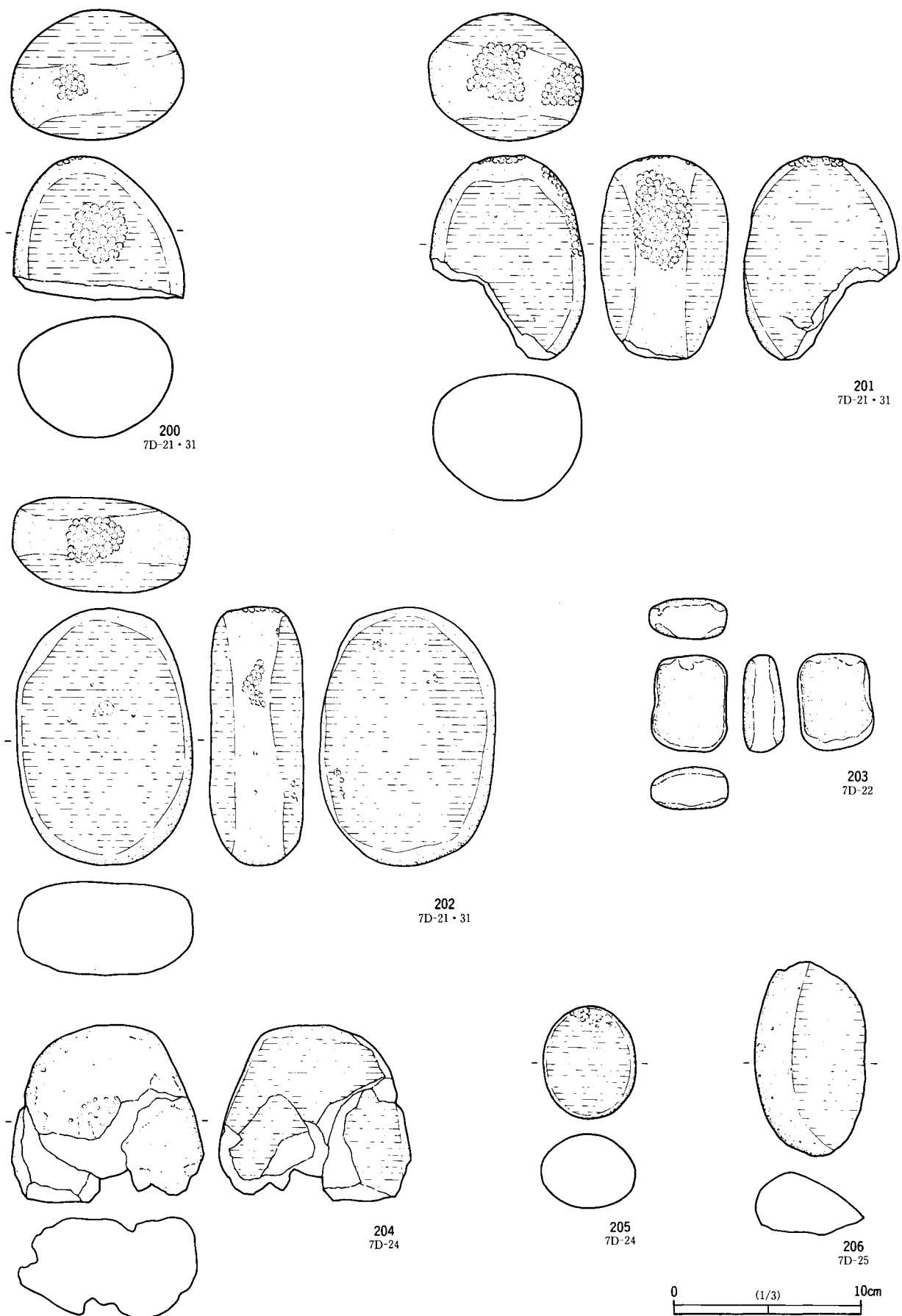
第115図 遺構外出土石器 (18)



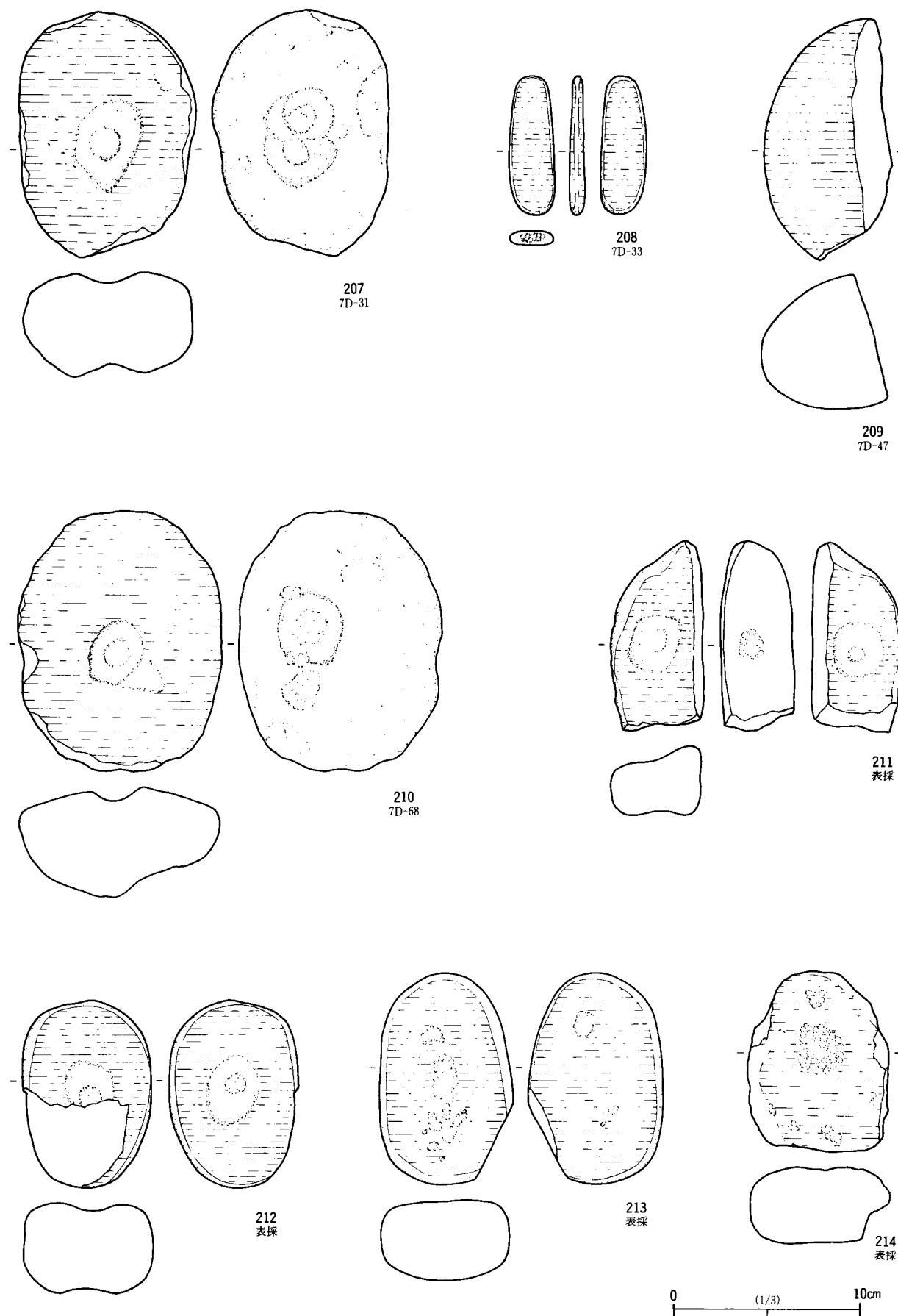
第116図 遺構外出土石器 (19)



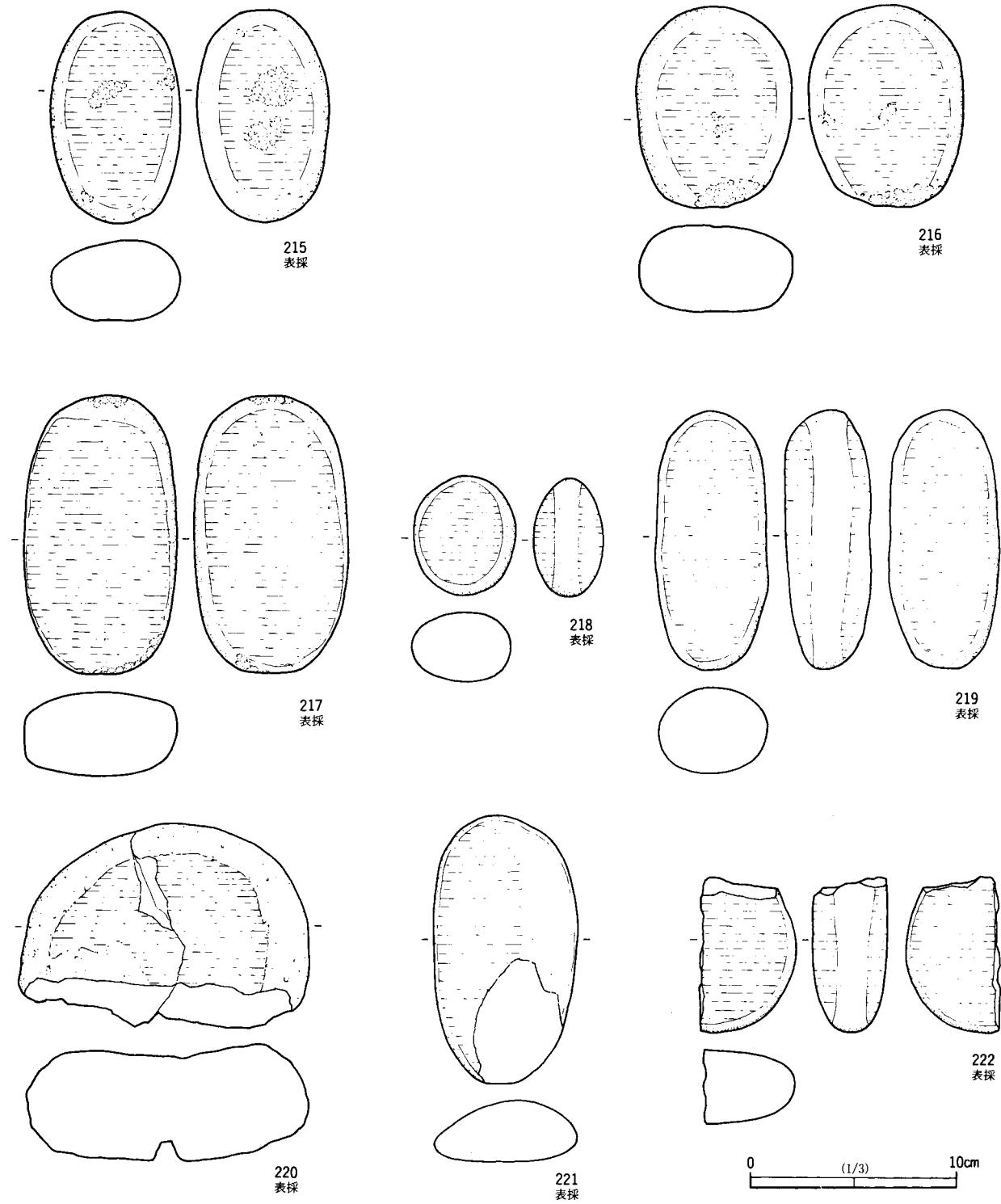
第117図 遺構外出土石器 (20)



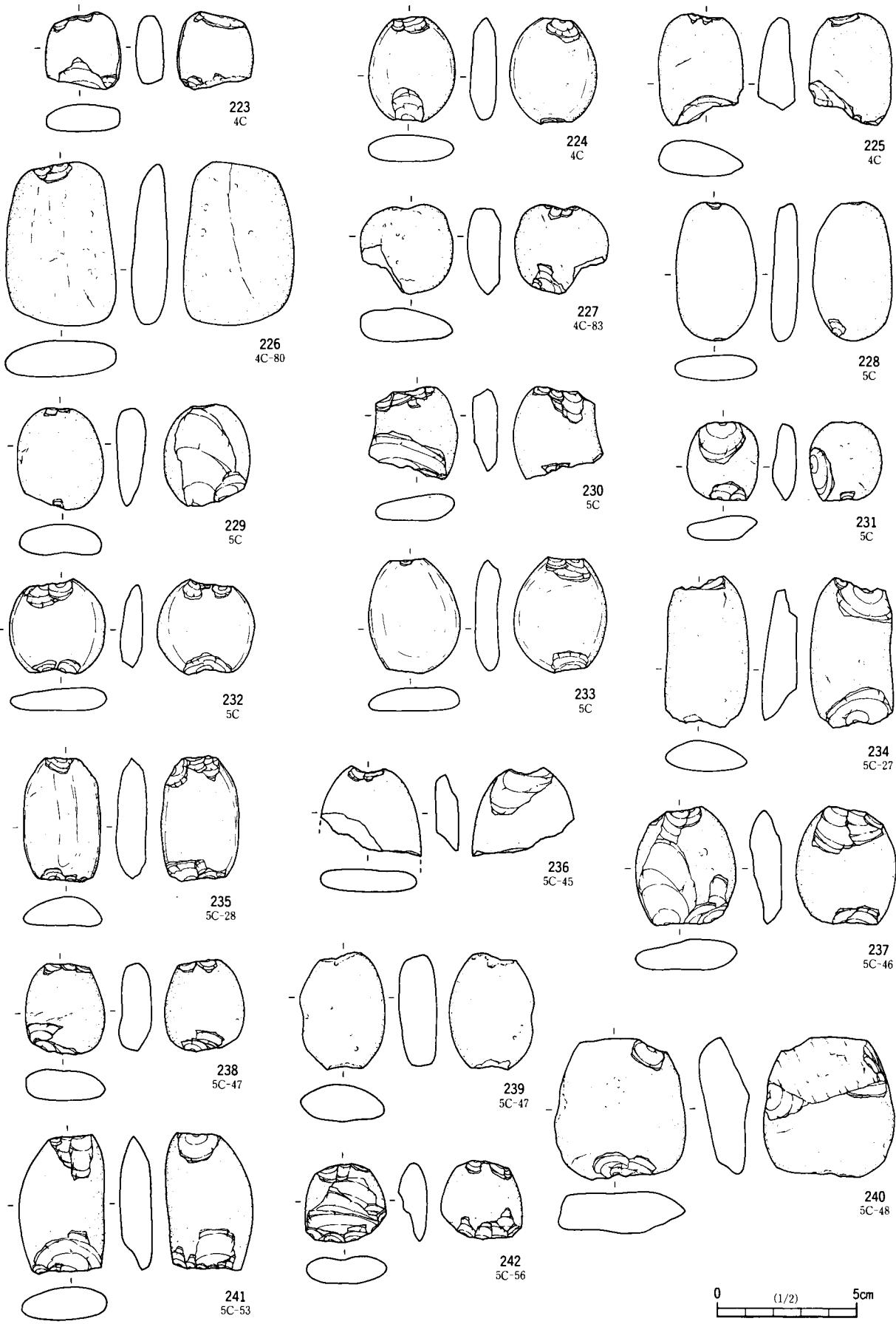
第118図 遺構外出土石器 (21)



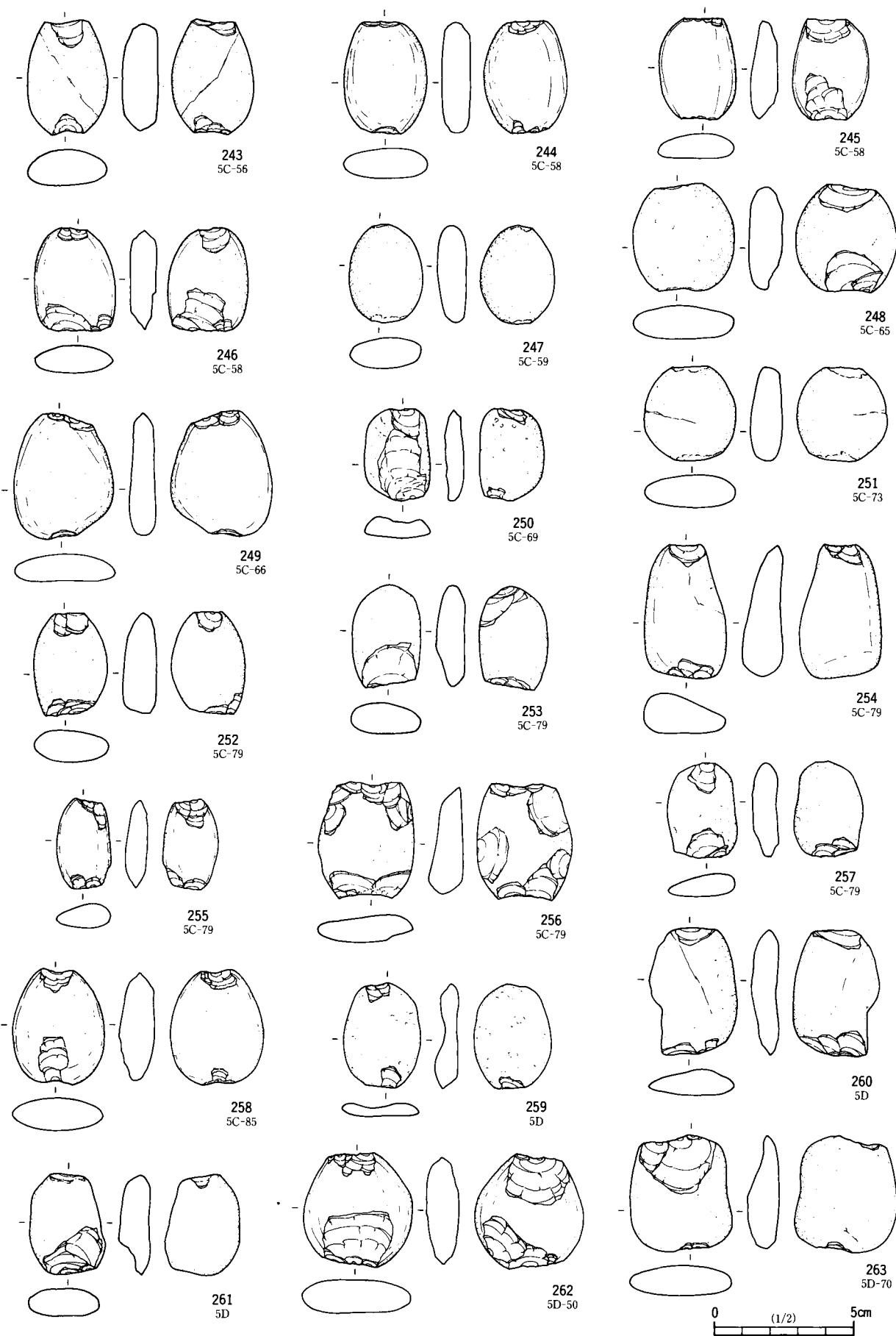
第119図 遺構外出土石器 (22)



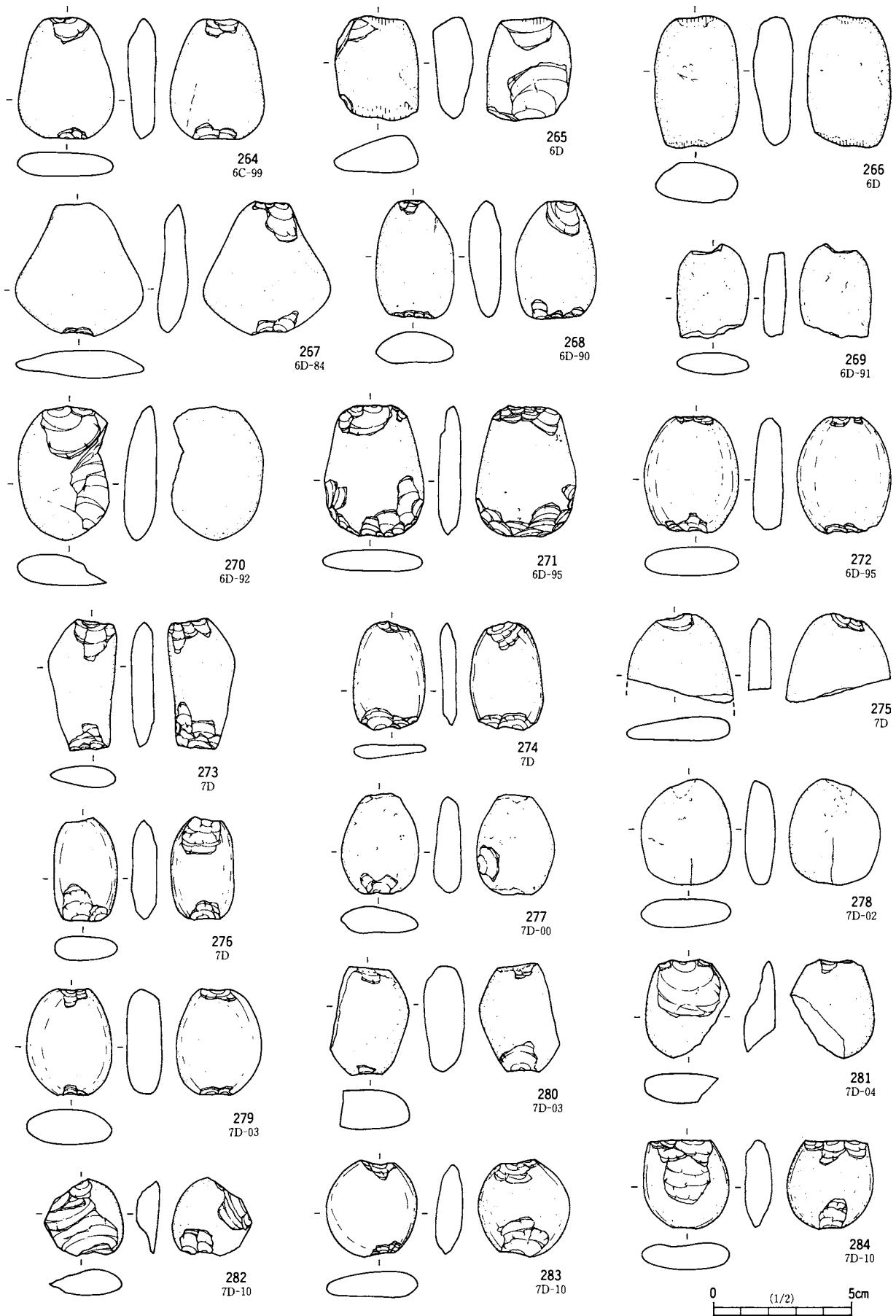
第120図 遺構外出土石器 (23)



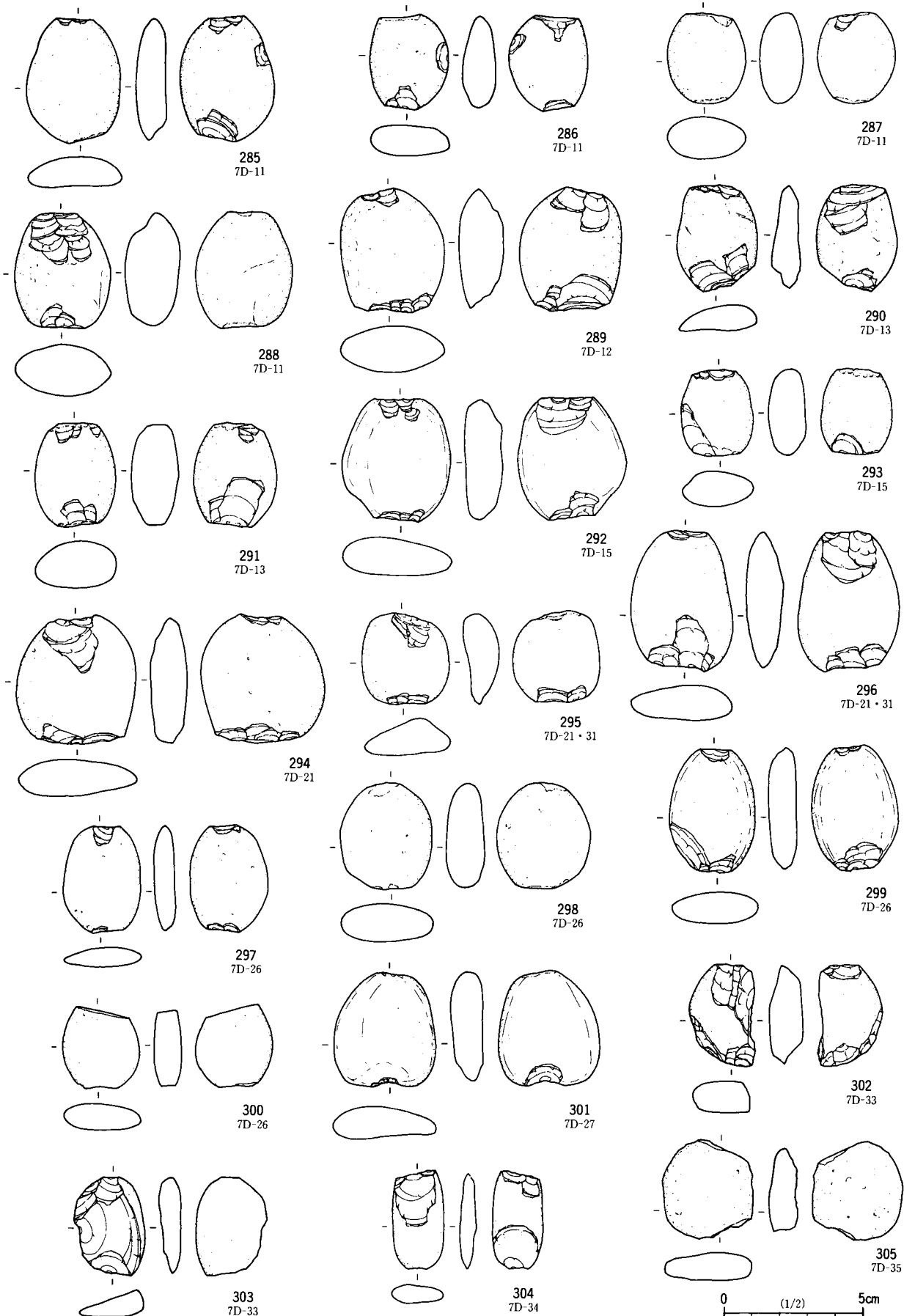
第121図 遺構外出土石器 (24)



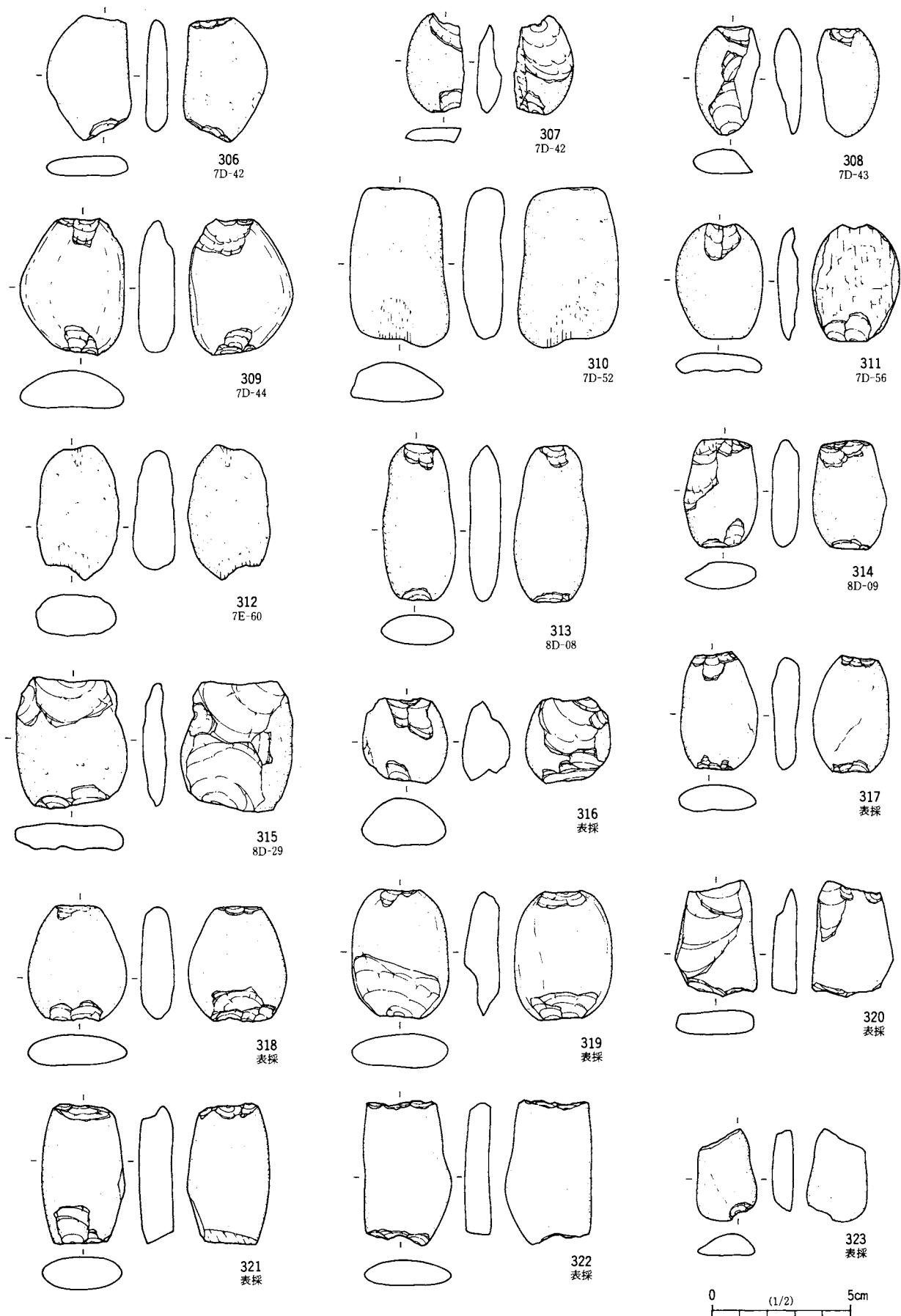
第122図 遺構出土石器 (25)



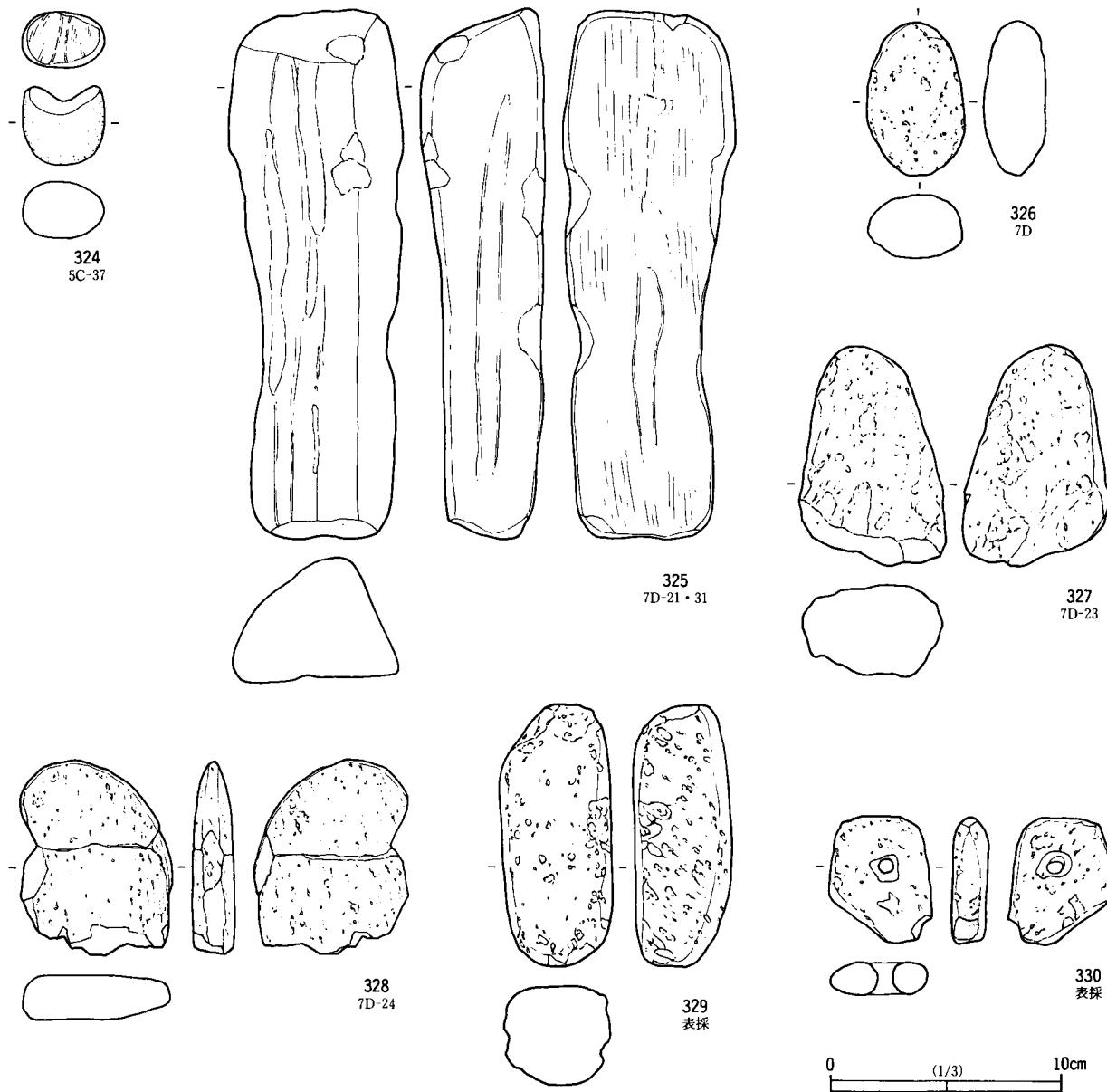
第123図 遺構外出土石器 (26)



第124図 遺構外出土石器 (27)



第125図 遺構外出土石器 (28)

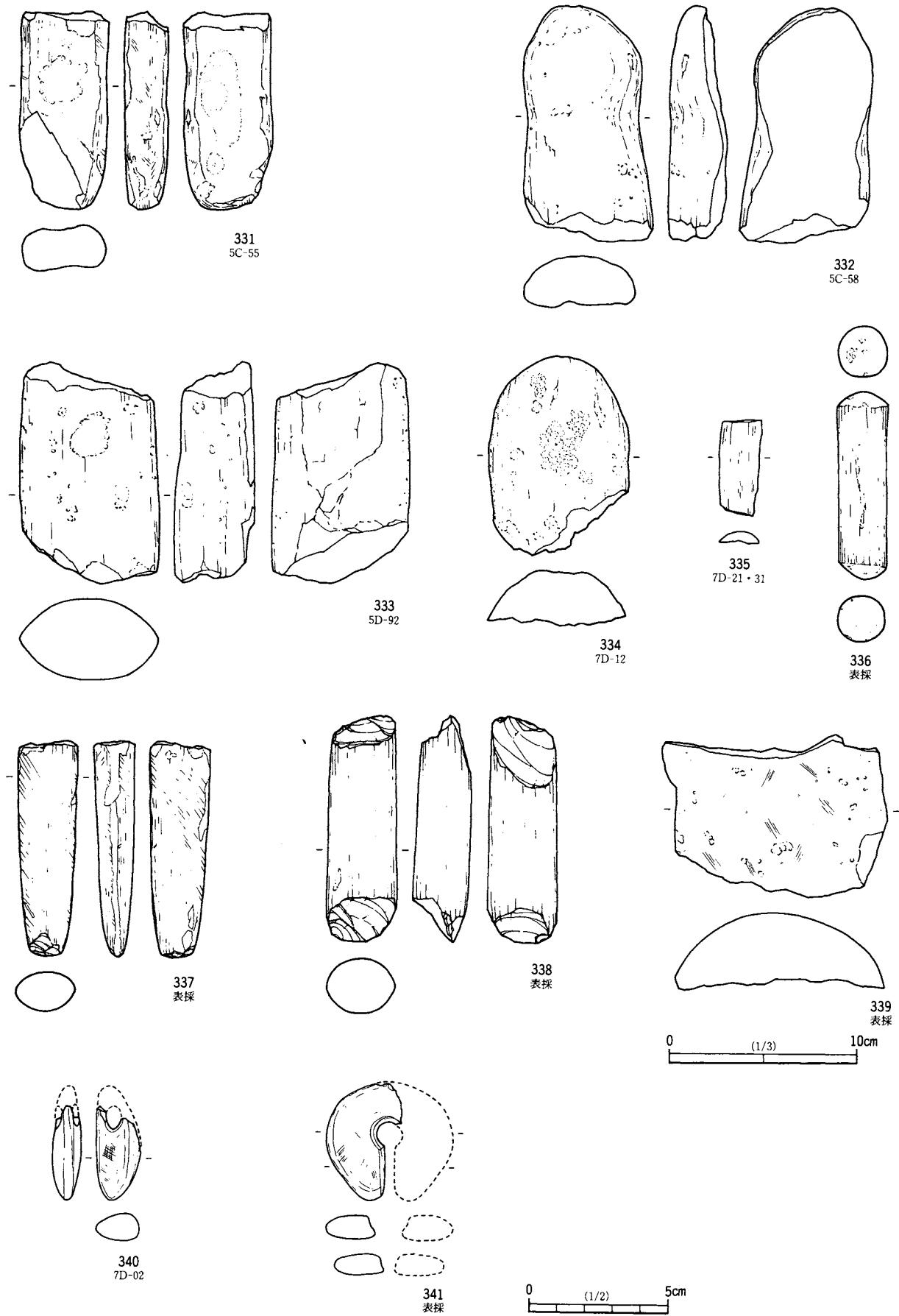


第126図 遺構外出土石器 (29)

#### 4 石製品 (第127図, 図版38)

331～339は石棒である。いずれも完形は保っていない石棒としては欠損品である。331・333・334は欠損後敲打具として使用され、336は両端に磨痕がついている。339は直径10cm以上の太さを有する大型石棒の一部と考えられる。

340は垂飾品である。楕円形の孔が開けられているが、孔の上部で破損している。石材は滑石である。341は滑石製玦状耳飾の欠損品である。



第127図 遺構外出土石製品

第3表 遺構出土石器計測表

捕図番号	遺構番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
第9図-69	001	1-1	軽石	(36.0)	(32.0)	(13.0)	(5.22)	軽石	欠損
-70	001	1	使用痕のある剝片	36.0	27.0	9.0	8.43	安山岩	完存
第12図-55	002	141	石棒	(165.0)	(32.5)	(18.0)	(131.23)	緑泥片岩	欠損
-56	002	3	磨製石斧	(60.0)	(43.5)	(21.0)	(87.11)	緑色岩	欠損
-57	002	1	石製品未成品	21.0	18.0	14.0	6.97	滑石	—
第47図-10	006	176	軽石	95.0	53.0	32.0	30.38	軽石	完存
-11	006	64	軽石	(66.0)	(64.0)	(31.0)	(15.87)	軽石	欠損
第49図-15	008	1	石錐	(45.4)	(33.5)	(9.9)	(19.38)	安山岩	欠損
-16	008	169	石皿	(222.0)	(205.0)	(57.0)	(2,708.61)	凝灰岩	欠損
第40図-46	011	1	石錐	43.0	38.0	6.8	17.54	安山岩	完存
-47	011	1	石斧	(72.0)	(43.0)	(23.0)	(65.17)	ホルンフェルス	欠損
-48	011	1	磨石	(93.0)	(54.0)	(40.0)	(253.71)	石英ハン岩	欠損
第25図-80	012	360	剝片	14.0	19.0	3.5	0.73	黒曜石	完存
-81	012	410	剝片	(16.5)	(26.5)	(5.0)	(2.16)	黒曜石	欠損
-82	012	412	剝片	12.5	21.0	4.0	0.60	珪質頁岩	完存
-83	012	428	剝片	(19.5)	(23.5)	(8.0)	(2.91)	黒曜石	欠損
-84	012	447	剝片	21.5	19.0	3.8	1.04	珪質頁岩	完存
-85	012	53	磨製石斧	(71.0)	(43.5)	(23.0)	(121.85)	砂岩	欠損
-86	012	388	磨製石斧	(72.0)	(46.0)	(26.0)	(155.03)	緑色岩	欠損
-87	012	409	磨製石斧	(35.0)	(26.0)	(11.0)	(14.84)	砂岩	欠損
-88	012	3	凹石	252.0	105.0	97.0	2,685.86	砂岩	完存
-89	012	405	石皿	(250.0)	(166.0)	(60.0)	(2,346.71)	砂岩	欠損
-90	012	406	石皿	(92.0)	(177.0)	(71.0)	(1,227.81)	安山岩	欠損
第26図-91	012	277	磨石	105.0	81.0	49.0	570.51	砂岩	完存
-92	012	392	磨石	110.0	78.0	56.0	683.72	安山岩	完存
-93	012	404	磨石	(101.0)	(107.0)	(50.0)	(339.31)	凝灰岩	欠損
-94	012	474	磨石	(108.0)	(56.0)	(43.0)	(418.24)	石英ハン岩	欠損
-95	012	476	磨石	(181.0)	(110.0)	(82.0)	(1,382.98)	凝灰岩	欠損
-96	012	476	磨石	(153.0)	(117.0)	(83.0)	(1,213.53)	凝灰岩	欠損
-97	012	476	磨石	107.0	69.0	42.0	546.44	安山岩	完存
-98	012	408	石錐	43.0	31.8	13.0	25.28	砂岩	完存
-99	012	409	石錐	34.3	32.0	10.0	16.28	砂岩	完存
-100	012	409	石錐	36.5	34.5	10.5	13.34	凝灰岩	完存
-101	012	409	石錐	35.5	16.0	5.1	4.02	砂岩	完存
-102	012	409	石錐	40.5	30.5	11.1	20.56	ホルンフェルス	完存
-103	012	409	石錐	47.0	40.8	8.5	24.47	砂岩	完存
-104	012	471	石錐	45.4	34.5	13.0	27.36	砂岩	完存
-105	012	408	石錐	(35.0)	(31.5)	(12.0)	(15.47)	砂岩	欠損
第41図-10	013	1	使用痕のある剝片	31.0	35.0	12.0	12.85	珪質頁岩	完存
第42図-11	013	1	石錐	39.0	31.5	10.1	16.84	安山岩	完存
-12	013	1	石錐	(17.0)	(25.0)	(6.5)	(3.10)	砂岩	欠損
-13	013	1	石皿	(156.0)	(166.0)	(84.0)	(1,009.58)	凝灰岩	欠損
第30図-16	029	10	剝片	26.5	36.0	12.5	8.78	黒曜石	完存
-17	029	1	石錐	40.5	29.0	7.2	13.15	玄武岩	完存
-18	029	22	磨石	136.0	108.0	41.0	296.73	凝灰岩	完存
-19	029	8	石皿	(118.0)	(77.0)	(52.0)	(298.11)	凝灰岩	欠損
第51図-2	034	1	石錐	47.5	39.5	15.5	28.15	凝灰岩	完存
第32図-6	035	33	石錐	46.0	26.5	10.0	18.13	安山岩	完存
第52図	P013-1	1	石錐	43.9	40.5	13.2	34.83	安山岩	完存
	P013-2	1	石錐	(24.0)	(22.0)	(7.8)	(4.34)	砂岩	欠損
	P031-1	1	剝片	(22.5)	(28.5)	(15.0)	(10.92)	黒曜石	欠損
第53図	P045-6	1	石製品未成品	16.5	26.5	9.0	5.36	滑石	完存
	P055A-6	23	磨石	76.0	59.0	38.0	238.23	安山岩	完存
	P055A-7	15	石棒	(72.0)	(46.0)	(17.0)	(63.69)	緑泥片岩	欠損
第54図-1	P064	47	石錐	30.0	36.5	11.0	18.54	砂岩	完存
-2	P064	47	石錐	54.5	26.8	10.0	23.50	安山岩	完存
第55図-1	P109	3	磨製石斧	82.0	41.0	17.0	85.83	珪質緑色凝灰岩	完存
-2	P109	1	磨製石斧	(40.0)	(39.0)	(28.0)	(58.93)	砂岩	欠損
第57図-3	P114	1	石錐	33.0	34.5	10.7	17.53	安山岩	完存

第4表 遺構出土石器一覧

遺構番号	遺構種別	剝片	使痕剝	石核	楔形	石鎌	打斧	磨斧	局磨斧	敲石	石皿	磨石類	石錐	砥石	石棒	垂飾	軽石	その他	小計
001	竪穴住居	1	1								2					1	60	65	
002	竪穴住居	2				1		1			6	2			1		31	44	
003	土 坑																12	12	
005	竪穴住居																20	20	
006	土 坑	1														2	59	62	
008	土 坑	1									1		1				45	48	
011	埋集遺構	4					1				3	1	1				60	70	
012	竪穴住居	8	1					3			14	12	9	3		2	1,081	1,133	
013	埋集遺構		1								1		2	1			26	31	
015	竪穴住居											1					12	13	
029	竪穴住居	4									4	3	1				125	137	
034	土 坑												1					1	
035	竪穴住居												1				7	8	
P002	土 坑																1	1	
P004	土 坑																2	2	
P008	土 坑																1	1	
P013	土 坑												2					2	
P018	土 坑																2	2	
P020	土 坑																2	2	
P022	土 坑																1	1	
P023	土 坑																2	2	
P031	土 坑	1																1	
P032	土 坑																1	1	
P038	土 坑																1	1	
P040	土 坑																4	4	
P045	土 坑					1						1					10	12	
P046	土 坑																1	1	
P047	土 坑																2	2	
P048	土 坑																8	8	
P052	土 坑																3	3	
P053	土 坑																1	1	
P055A	土 坑										2	1	1	1			1	6	
P057	土 坑																2	2	
P064	土 坑												2					2	
P066	土 坑											1					3	4	
P068	土 坑																3	3	
P069	土 坑																2	2	
P071	土 坑																2	2	
P075	土 坑																2	2	
P076	土 坑																1	1	
P102	土 坑																2	2	
P103	土 坑											1						1	
P105	竪穴住居											5					49	54	
P107	土 坑																2	2	
P109	土 坑							2		1							13	16	
P111	土 坑																1	1	
P112	土 坑																13	13	
P114	土 坑												1				1	2	
P116	土 坑																1	1	
合計		22	3	0	0	2	1	6	0	1	40	21	21	5	2	0	5	1,678 1,807	

第5表 遺構外出土石器計測表

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
第98図-1	5C-26	7	剝片	29.0	31.0	10.5	8.71	珪質頁岩	完存
-2	5C-58	12	剝片	(31.0)	(14.0)	(6.0)	(2.10)	黒曜石	欠損
-3	5C-58	14	剝片	14.0	10.5	3.0	0.32	黒曜石	完存
-4	5C-79	17	剝片	(29.0)	(21.5)	(7.5)	(4.35)	黒曜石	欠損
-5	7D-21・31	1	剝片	(27.5)	(26.0)	(8.5)	(5.07)	黒曜石	欠損
-6	7D-02	1	剝片	(29.0)	(40.5)	(16.5)	(11.73)	黒曜石	欠損
-7	7D-35	4	剝片	55.0	16.5	7.5	4.95	珪質頁岩	完存
-8	7D-42	1	剝片	(35.5)	(25.0)	(14.0)	(11.13)	黒曜石	欠損
-9	表採		剝片	(21.5)	(18.0)	(6.5)	(1.84)	黒曜石	欠損
-10	表採		剝片	(37.5)	(18.5)	(7.5)	(5.40)	安山岩	欠損
第99図-11	表採		剝片	(51.0)	(53.5)	(12.5)	(27.31)	チャート	欠損
-12	5C-58	13	使用痕のある剝片	28.0	21.0	8.5	3.87	黒曜石	完存
-13	6D-90	1	使用痕のある剝片	44.0	43.0	12.0	17.10	玉髓	完存
-14	7D-11	1	使用痕のある剝片	18.0	26.0	6.0	1.98	黒曜石	完存
-15	7D-52	1	使用痕のある剝片	25.5	33.0	17.0	11.10	頁岩	完存
-16	5C-58	8	使用痕のある剝片	30.0	19.5	7.5	2.27	黒曜石	完存
-17	5C-79	22	使用痕のある剝片	24.0	26.0	6.8	3.14	黒曜石	完存
-18	6D-70	4	使用痕のある剝片	27.0	12.0	8.0	2.87	頁岩	完存
-19	6D-70	6	使用痕のある剝片	28.0	37.0	10.5	11.13	流紋岩	完存
-20	6D-94	12	使用痕のある剝片	40.0	50.5	10.5	20.04	石英	完存
第100図-21	7D	14	使用痕のある剝片	37.5	49.5	16.5	23.64	珪質頁岩	完存
-22	5C-37	4	石核	49.0	41.0	14.5	35.40	ホルンフェルス	完存
-23	5C-45	4	石核	32.5	31.5	13.5	14.95	黒曜石	完存
-24	5C-57	1	石核	58.5	54.0	22.0	70.60	黒色緻密質安山岩	完存
-25	7D-24	4	石核	31.5	45.5	15.0	26.26	珪質頁岩	完存
第101図-26	6D-70	12	石核	92.0	160.0	46.0	578.69	安山岩	完存
-27	7D-20	1	石核	70.0	90.0	41.0	253.33	珪質頁岩	完存
-28	6D	1	楔形石器	26.0	21.0	7.0	5.20	チャート	完存
-29	7D-13	1	楔形石器	12.0	18.0	7.5	2.25	黒曜石	完存
-30	7D-13	1	楔形石器	27.5	25.0	14.0	13.15	安山岩	完存
-31	表採		楔形石器	31.0	34.0	11.5	11.20	珪質凝灰岩	完存
-32	表採		楔形石器	27.0	27.0	9.5	8.36	チャート	完存
第102図-33	4C-97	9	石鏃	(27.0)	(20.5)	(8.9)	(3.25)	黒曜石	欠損
-34	5C-08	7	石鏃	(29.4)	(22.5)	(6.3)	(2.39)	黒曜石	欠損
-35	5C-56	3	石鏃	20.6	20.0	4.2	0.95	黒曜石	完存
-36	5C-58	6	石鏃	16.0	15.0	4.5	0.69	黒曜石	完存
-37	5C-63	1	石鏃	(16.5)	(20.6)	(6.9)	(1.51)	ホルンフェルス	欠損
-38	6D-84	14	石鏃	19.0	14.0	4.5	0.85	黒曜石	完存
-39	6D-91	1	石鏃	(21.0)	(16.0)	(5.6)	(1.77)	黒曜石	欠損
-40	7D-11	1	石鏃	(21.0)	(17.0)	(6.0)	(1.70)	黒曜石	欠損
-41	7D-11	18	石鏃	(21.3)	(13.5)	(4.9)	(0.89)	流紋岩	欠損
-42	7D-20	1	石鏃	11.0	12.5	2.2	0.25	黒曜石	完存
-43	7D-20	2	石鏃	21.0	18.0	4.5	1.23	黒曜石	完存
-44	7D-20	3	石鏃	(21.5)	(14.5)	(3.8)	(0.94)	凝灰岩	欠損
-45	7D-31	1	石鏃	(26.0)	(17.9)	(4.0)	(0.98)	黒曜石	欠損
-46	7D-48	2	石鏃	(26.0)	(20.0)	(6.5)	(3.05)	チャート	欠損
-47	7D-79	1	石鏃	(20.0)	(21.5)	(4.0)	(1.18)	黒曜石	欠損
-48	表採		石鏃	19.6	18.0	3.5	0.58	黒曜石	完存
-49	表採		石鏃	(17.0)	(11.5)	(5.5)	(0.98)	黒曜石	欠損
-50	表採		石鏃	(16.0)	(13.5)	(4.0)	(0.55)	黒曜石	欠損
-51	表採		石鏃	(11.5)	(9.6)	(4.2)	(0.33)	黒曜石	欠損
-52	5C-56	1	石鏃未製品	27.0	20.0	8.0	3.63	黒曜石	完存
-53	5C-87	13	石鏃未製品	28.0	19.5	10.5	3.46	黒曜石	完存
第103図-54	5D-73	1	石鏃未製品	29.0	26.0	11.0	5.58	黒曜石	完存
-55	6D	1	石鏃未製品	34.0	28.0	12.0	12.11	珪質頁岩	完存
-56	7D-01	1	石鏃未製品	21.5	15.5	8.0	2.10	黒曜石	完存

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
-57	7D-47	1	石鏃未製品	26.0	25.0	8.0	3.94	黒曜石	完存
-58	8E-10	1	石鏃未製品	22.0	14.5	7.0	1.98	黒曜石	完存
-59	表採		石鏃未製品	26.5	22.0	11.0	5.96	黒曜石	完存
第104図-60	4C-75	1	石斧	69.0	38.0	11.0	29.36	ホルンフェルス	完存
-61	5C	1	石斧	135.0	61.0	24.0	198.19	ホルンフェルス	完存
-62	5C	3	石斧	(37.0)	(46.0)	(24.0)	(42.40)	玄武岩	欠損
-63	5C-17	11	石斧	(53.0)	(48.0)	(25.0)	(71.80)	ホルンフェルス	欠損
-64	5C-34	5	石斧	(62.0)	(25.0)	(19.0)	(33.80)	ホルンフェルス	欠損
-65	5C-84	2	石斧	(74.0)	(63.0)	(23.0)	(130.27)	砂岩	欠損
-66	5C-85	1	石斧	(46.0)	(58.0)	(26.0)	(63.00)	ホルンフェルス	欠損
-67	5C-86	1	石斧	78.0	54.0	20.0	93.09	緑泥片岩	完存
-68	5D-50	1	石斧	(89.0)	(89.0)	(20.0)	(198.63)	ホルンフェルス	欠損
-69	5D-50	2	石斧	97.0	51.0	26.0	151.41	ホルンフェルス	完存
-70	6D-92	1	石斧	(41.0)	(31.0)	(26.0)	(34.86)	ホルンフェルス	欠損
-71	7D	8	石斧	(76.0)	(67.0)	(14.0)	(94.15)	ホルンフェルス	欠損
第105図-72	7D-10	44	石斧	(87.0)	(51.0)	(28.0)	(131.51)	砂岩	欠損
-73	7D-21・31	1	石斧	(101.0)	(55.0)	(22.0)	(130.72)	ホルンフェルス	欠損
-74	7D-45	4	石斧	85.0	37.0	14.0	57.85	ホルンフェルス	完存
-75	7D-46	4	石斧	(53.0)	(57.0)	(25.0)	(72.36)	ホルンフェルス	欠損
-76	表採		石斧	(88.0)	(51.0)	(19.0)	(47.63)	泥岩	欠損
-77	表採		石斧	75.0	62.0	21.0	109.91	ホルンフェルス	完存
-78	表採		石斧	(82.0)	(59.0)	(19.0)	(102.67)	ホルンフェルス	欠損
-79	表採		石斧	(58.0)	(61.0)	(16.0)	(79.60)	ホルンフェルス	欠損
-80	4C-97	1	磨製石斧	49.0	31.0	11.0	24.81	珪質緑色凝灰岩	完存
-81	4D-35	6	磨製石斧	(94.0)	(48.0)	(25.0)	(111.42)	ホルンフェルス	欠損
-82	5C	1	磨製石斧	(41.0)	(41.0)	(19.0)	(45.34)	脈石	欠損
-83	5C-19	1	磨製石斧	(58.0)	(34.0)	(11.0)	(40.22)	珪質緑色凝灰岩	欠損
-84	5C-29	1	磨製石斧	(28.0)	(41.0)	(14.0)	(24.35)	砂岩	欠損
-85	5C-29	1	磨製石斧	(56.0)	(46.0)	(19.0)	(82.21)	チャート	欠損
-86	5C-37	9	磨製石斧	76.0	38.0	14.6	64.11	ホルンフェルス	完存
-87	5C-59	22	磨製石斧	(49.0)	(21.0)	(10.0)	(11.29)	砂岩	欠損
第106図-88	5C-64	3	磨製石斧	(39.0)	(29.0)	(14.0)	(10.58)	砂岩	欠損
-89	5C-79	3	磨製石斧	(44.0)	(35.0)	(22.5)	(47.93)	緑泥片岩	欠損
-90	5C-75	1	磨製石斧	(93.0)	(42.5)	(21.4)	(112.90)	緑色凝灰岩	欠損
-91	6D	1	磨製石斧	(44.0)	(43.0)	(24.0)	(68.22)	砂岩	欠損
-92	6D-70	16	磨製石斧	(107.0)	(53.5)	(32.0)	(375.00)	玄武岩	欠損
-93	6D-94	19	磨製石斧	42.0	27.0	8.0	15.50	珪質緑色凝灰岩	完存
-94	7D	14	磨製石斧	(33.0)	(19.0)	(9.0)	(10.07)	砂岩	欠損
-95	7D-05	2	磨製石斧	(33.0)	(23.0)	(12.0)	(15.43)	珪質緑色凝灰岩	欠損
-96	7D-08	2	磨製石斧	(43.0)	(32.0)	(14.0)	(27.41)	凝灰岩	欠損
-97	7D-10	2	磨製石斧	(65.0)	(30.0)	(12.0)	(37.26)	玄武岩	欠損
-98	7D-10	4	磨製石斧	44.0	25.0	12.0	19.35	砂岩	完存
-99	7D-13	1	磨製石斧	(37.0)	(38.0)	(20.0)	(37.92)	緑色凝灰岩	欠損
-100	7D-14	1	磨製石斧	(27.0)	(36.0)	(18.0)	(16.83)	ホルンフェルス	欠損
-101	7D-28	1	磨製石斧	(53.0)	(31.0)	(19.0)	(30.24)	珪質緑色凝灰岩	欠損
-102	7D-28	1	磨製石斧	88.0	35.0	20.0	87.78	珪質緑色凝灰岩	完存
-103	7D-33	2	磨製石斧	37.0	23.0	10.0	14.83	玄武岩	完存
-104	7D-33	14	磨製石斧	(105.0)	(52.0)	(28.0)	(233.89)	砂岩	欠損
-105	7D-34	1	磨製石斧	(33.0)	(24.0)	(8.0)	(11.51)	珪質緑色凝灰岩	欠損
-106	7D-34	4	磨製石斧	(34.0)	(29.0)	(14.0)	(25.46)	砂岩	欠損
-107	7D-35	1	磨製石斧	80.0	58.0	31.0	149.40	玄武岩	完存
-108	7D-47	1	磨製石斧	(31.0)	(25.0)	(9.0)	(10.86)	砂岩	欠損
-109	7D-69	2	磨製石斧	(24.0)	(17.0)	(7.0)	(4.67)	珪質緑色凝灰岩	欠損
第107図-110	表採		磨製石斧	(76.0)	(51.0)	(35.5)	(200.27)	安山岩	欠損
-111	表採		磨製石斧	(85.0)	(40.0)	(15.0)	(73.18)	ホルンフェルス	欠損
-112	表採		磨製石斧	(67.0)	(44.0)	(24.0)	(124.83)	緑色凝灰岩	欠損
-113	表採		磨製石斧	(38.0)	(30.0)	(12.0)	(21.87)	チャート	欠損

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
-114	表採		刃部磨製石斧	72.0	33.0	14.0	47.67	ホルンフェルス	完存
-115	6D-81	1	刃部作出石器	73.0	22.0	16.5	36.76	ホルンフェルス	完存
-116	6D-84	1	刃部作出石器	98.0	75.0	24.0	128.15	砂岩	完存
-117	6D-91		刃部作出石器	68.0	30.0	16.0	47.81	ホルンフェルス	完存
-118	7D	13	刃部作出石器	81.0	35.0	19.0	95.69	砂岩	完存
-119	7D-21・31	1	刃部作出石器	75.0	28.0	11.0	34.21	ホルンフェルス	完存
-120	7D-24	2	刃部作出石器	116.0	44.0	32.0	160.67	泥岩	完存
-121	表採		刃部作出石器	69.0	34.0	9.0	28.59	ホルンフェルス	完存
-122	表採		刃部作出石器	54.0	27.0	7.0	15.29	ホルンフェルス	完存
-123	5C-79	47	敲石	(55.0)	(46.0)	(45.0)	(190.92)	砂岩	欠損
-124	6D	1	敲石	(53.0)	(46.0)	(34.0)	(80.81)	緑色凝灰岩	欠損
-125	7D-11	36	敲石	109.5	66.0	60.0	562.98	砂岩	完存
第108図-126	5C	1	石皿	(113.0)	(79.0)	(50.0)	(553.67)	安山岩	欠損
-127	5C-06	1	石皿	(121.0)	(151.0)	(72.0)	(1,006.86)	凝灰岩	欠損
-128	5C-08	6	石皿	(66.0)	(71.0)	(58.0)	(259.18)	砂岩	欠損
-129	5C-34	4	石皿	(103.0)	(84.0)	(40.0)	(293.62)	安山岩	欠損
-130	5C-58	11	石皿	(75.0)	(109.0)	(40.0)	(373.64)	安山岩	欠損
-131	5C-79	20	石皿	(239.0)	(236.0)	(131.0)	(3,200.00)	凝灰岩	欠損
-132	5C-79	19	石皿	(264.0)	(209.0)	(86.0)	(2,880.31)	砂岩	欠損
-133	5D	1	石皿	(185.0)	(114.0)	(61.0)	(1,666.72)	礫岩	欠損
-134	6D	1	石皿	(120.0)	(178.0)	(83.0)	(1,511.30)	砂岩	欠損
第109図-135	6C-05	3	石皿	(549.0)	(267.0)	(90.0)	(13,400.00)	凝灰岩	欠損
-136	6D-74	2	石皿	(230.0)	(222.0)	(121.0)	(5,200.00)	凝灰岩	欠損
-137	6D-91	1	石皿	(136.0)	(124.0)	(80.0)	(873.12)	凝灰岩	欠損
第110図-138	6D-91	1	石皿	(210.0)	(260.0)	(140.0)	(3,810.00)	泥岩	欠損
-139	6E-21	1	石皿	(200.0)	(197.0)	(60.0)	(2,341.40)	安山岩	欠損
-140	6D-91	27	石皿	(122.0)	(191.0)	(107.0)	(2,849.80)	砂岩	欠損
-141	7D-00	61	石皿	(165.0)	(113.0)	(35.0)	(692.74)	砂岩	欠損
-142	7D-06	1	石皿	(133.0)	(97.0)	(62.0)	(870.13)	安山岩	欠損
-143	7D-07	5	石皿	(155.0)	(237.0)	(65.0)	(3,550.00)	安山岩	欠損
第111図-144	7D-10	3	石皿	(98.0)	(108.0)	(56.0)	(748.14)	安山岩	欠損
-145	7D-19	2	石皿	(230.0)	(340.0)	(144.0)	(9,134.00)	凝灰岩	欠損
-146	7D-20	18	石皿	(194.0)	(156.0)	(69.0)	(2,504.34)	凝灰岩	欠損
-147	7D-21	7	石皿	(80.0)	(84.0)	(61.0)	(360.87)	砂岩	欠損
-148	7D-22	76	石皿	(255.0)	(145.0)	(143.0)	(3,600.00)	凝灰岩	欠損
第112図-149	7D-35	2	石皿	(116.0)	(95.0)	(82.0)	(961.11)	凝灰岩	欠損
-150	7D-36	3	石皿	(313.0)	(296.0)	(156.0)	(9,200.00)	凝灰岩	欠損
-151	7D-42	2	石皿	(193.0)	(242.0)	(72.0)	(2,213.30)	凝灰岩	欠損
-152	7D-42	3	石皿	(178.0)	(98.0)	(86.0)	(1,567.96)	凝灰岩	欠損
-153	7D-40	1	石皿	(130.0)	(168.0)	(52.0)	(933.15)	安山岩	欠損
第113図-154	表採		石皿	(84.0)	(136.0)	(72.0)	(621.52)	砂岩	欠損
-155	表採		石皿	(114.0)	(150.0)	(62.0)	(1,210.19)	安山岩	欠損
-156	表採		石皿	(112.0)	(113.0)	(42.0)	(548.63)	凝灰岩	欠損
-157	表採		石皿	(145.0)	(195.0)	(47.0)	(1,134.46)	砂岩	欠損
-158	表採		石皿	(128.0)	(134.0)	(66.0)	(1,247.67)	砂岩	欠損
-159	表採		石皿	498.0	397.0	165.0	25,400.00	凝灰岩	完存
第114図-160	4C	1	磨石	(116.0)	(75.0)	(52.0)	(526.28)	砂岩	欠損
-161	5C	4	磨石	108.0	62.0	34.0	383.08	安山岩	完存
-162	5C	4	磨石	(68.0)	(77.0)	(46.0)	(262.26)	安山岩	欠損
-163	5C-15	4	磨石	95.0	84.0	49.0	533.40	石英ハン岩	完存
-164	5C-33	4	磨石	(69.0)	(86.0)	(45.0)	(456.47)	流紋岩	欠損
-165	5C-44	3	磨石	(101.0)	(78.0)	(19.0)	(170.73)	凝灰岩	欠損
-166	5C-45	3	磨石	88.0	46.0	32.0	177.58	砂岩	完存
-167	5C-58	1	磨石	146.0	62.0	37.0	555.56	砂岩	完存
-168	5C-64	1	磨石	(78.0)	(55.0)	(42.0)	(226.41)	花崗岩	欠損
-169	5C-69	5	磨石	(59.0)	(83.0)	(43.0)	(289.39)	石英ハン岩	欠損
-170	5C-87	6	磨石	(64.0)	(66.0)	(46.0)	(203.43)	凝灰岩	欠損

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
第115図-171	5C-79	14	磨石	(133.0)	(110.0)	(49.0)	(489.51)	凝灰岩	欠損
-172	5C-79	45	磨石	(143.0)	(95.0)	(71.0)	(725.00)	凝灰岩	欠損
-173	5C-79	47	磨石	(137.0)	(99.0)	(41.0)	(448.99)	凝灰岩	欠損
-174	5C-88	3	磨石	(69.0)	(71.0)	(42.0)	(318.54)	玄武岩	欠損
-175	5D	1	磨石	(60.0)	(90.0)	(51.0)	(360.99)	安山岩	欠損
-176	5D	1	磨石	(87.0)	(70.0)	(56.0)	(578.25)	玄武岩	欠損
-177	5D	1	磨石	(64.0)	(98.0)	(40.0)	(392.60)	安山岩	欠損
-178	5D	1	磨石	(70.0)	(44.5)	(39.0)	(176.84)	玄武岩	欠損
第116図-179	5D-60	1	磨石	(107.0)	(65.0)	(70.0)	(676.56)	砂岩	欠損
-180	6D-18	1	磨石	127.0	90.0	51.0	863.12	花崗岩	完存
-181	6D-92	1	磨石	120.0	97.0	45.0	549.14	凝灰岩	完存
-182	6D-94	2	磨石	117.0	72.0	50.0	325.88	泥岩	完存
-183	6D-94	24	磨石	89.0	71.0	42.0	401.51	安山岩	完存
-184	6E-90	1	磨石	(87.0)	(66.0)	(56.0)	(376.86)	流紋岩	欠損
-185	7D	5	磨石	87.0	73.0	45.0	391.76	砂岩	完存
-186	7D	8	磨石	145.0	66.0	55.0	803.57	流紋岩	完存
-187	7D-00	78	磨石	(115.0)	(72.0)	(57.0)	(291.13)	凝灰岩	欠損
-188	7D-10	21	磨石	(48.0)	(91.0)	(43.0)	(296.71)	石英ハン岩	欠損
第117図-189	7D-05	5	磨石	93.0	80.0	41.0	449.54	安山岩	完存
-190	7D-06	1	磨石	(105.0)	(103.0)	(40.0)	(269.10)	凝灰岩	欠損
-191	7D-07	1	磨石	(57.0)	(62.0)	(39.0)	(151.57)	安山岩	欠損
-192	7D-10	51	磨石	82.0	69.0	43.0	316.37	安山岩	完存
-193	7D-10	52	磨石	(79.0)	(102.0)	(44.0)	(297.42)	凝灰岩	欠損
-194	7D-13	1	磨石	(158.0)	(108.0)	(72.0)	(646.30)	凝灰岩	欠損
-195	7D-12	1	磨石	(92.0)	(102.0)	(50.0)	(338.62)	凝灰岩	欠損
-196	7D-15	1	磨石	(80.0)	(65.0)	(23.0)	(153.75)	凝灰岩	欠損
-197	7D-13	1	磨石	44.0	45.0	14.0	38.37	玄武岩	完存
-198	7D-16	2	磨石	97.0	81.0	65.0	643.18	安山岩	完存
-199	7D-21	1	磨石	(110.0)	(106.0)	(49.0)	(539.35)	凝灰岩	欠損
第118図-200	7D-21・31	1	磨石	(76.0)	(91.0)	(69.0)	(682.22)	玄武岩	欠損
-201	7D-21・31	1	磨石	(108.0)	(82.0)	(67.0)	(687.10)	安山岩	欠損
-202	7D-21・31	1	磨石	136.0	95.0	51.0	1,032.68	安山岩	完存
-203	7D-22	31	磨石	50.0	39.0	21.5	69.81	石英ハン岩	完存
-204	7D-24	1	磨石	(93.0)	(103.0)	(55.0)	(364.30)	凝灰岩	欠損
-205	7D-24	4	磨石	59.5	50.0	39.0	158.05	砂岩	完存
-206	7D-25	4	磨石	(103.0)	(58.0)	(39.0)	(242.70)	安山岩	欠損
第119図-207	7D-31	1	磨石	(130.0)	(96.0)	(55.0)	(464.37)	凝灰岩	欠損
-208	7D-33	1	磨石	74.0	24.0	8.0	23.11	ホルンフェルス	完存
-209	7D-47	1	磨石	(127.0)	(69.0)	(67.0)	(797.65)	砂岩	欠損
-210	7D-68	2	磨石	(138.0)	(109.0)	(59.0)	(669.70)	凝灰岩	欠損
-211	表採		磨石	(100.0)	(48.0)	(37.0)	(198.45)	凝灰岩	欠損
-212	表採		磨石	(99.5)	(69.0)	(49.0)	(265.25)	凝灰岩	欠損
-213	表採		磨石	(111.0)	(72.0)	(44.0)	(543.53)	砂岩	欠損
-214	表採		磨石	(96.0)	(76.0)	(42.0)	(335.61)	凝灰岩	欠損
第120図-215	表採		磨石	120.0	63.0	39.0	390.94	安山岩	完存
-216	表採		磨石	97.0	76.0	42.0	553.42	ハンレイ岩	完存
-217	表採		磨石	135.0	74.0	41.0	708.96	安山岩	完存
-218	表採		磨石	57.0	49.0	34.0	142.39	砂岩	完存
-219	表採		磨石	125.0	54.0	42.0	486.74	ハンレイ岩	完存
-220	表採		磨石	(99.0)	(142.0)	(56.0)	(594.73)	凝灰岩	欠損
-221	表採		磨石	(129.0)	(70.0)	(30.0)	(401.69)	石英ハン岩	欠損
-222	表採		磨石	(75.0)	(45.0)	(36.0)	(196.89)	安山岩	欠損
第121図-223	4C	3	石錐	27.0	26.5	9.9	11.77	砂岩	完存
-224	4C	6	石錐	36.7	30.8	9.5	16.26	砂岩	完存
-225	4C	6	石錐	39.6	30.0	12.8	19.74	砂岩	完存
-226	4C-80	5	石錐	57.5	39.5	13.2	47.67	ホルンフェルス	完存
-227	4C-83	4	石錐	(31.5)	(33.0)	(12.8)	(17.26)	チャート	欠損

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石材	保存状態
-228	5C	15	石錐	49.0	29.0	9.4	20.48	砂岩	完存
-229	5C	15	石錐	36.0	31.0	11.5	18.17	玄武岩	完存
-230	5C	15	石錐	32.5	32.0	9.9	12.08	流紋岩	完存
-231	5C	16	石錐	28.0	25.0	8.7	8.58	ホルンフェルス	完存
-232	5C	16	石錐	32.8	34.0	9.2	14.07	流紋岩	完存
-233	5C	17	石錐	40.5	32.2	9.0	18.09	流紋岩	完存
-234	5C-27	8	石錐	53.0	29.5	13.5	27.98	石英ハン岩	完存
-235	5C-28	4	石錐	44.2	37.6	11.0	19.52	流紋岩	完存
-236	5C-45	2	石錐	(31.5)	(36.0)	(8.2)	(12.60)	砂岩	欠損
-237	5C-46	3	石錐	41.5	35.5	11.7	23.69	玄武岩	完存
-238	5C-47	4	石錐	32.5	28.0	11.4	15.16	砂岩	完存
-239	5C-47	4	石錐	41.0	30.0	13.9	26.02	石英ハン岩	完存
-240	5C-48	9	石錐	(49.5)	(47.0)	(17.5)	(57.64)	砂岩	欠損
-241	5C-53	2	石錐	50.0	30.5	11.5	26.00	砂岩	完存
-242	5C-56	2	石錐	29.0	29.0	10.3	11.16	安山岩	完存
第122図-243	5C-56	6	石錐	40.0	29.0	13.0	22.78	花崗岩	完存
-244	5C-58	3	石錐	39.0	29.8	10.4	19.21	砂岩	完存
-245	5C-58	20	石錐	35.8	26.2	9.5	14.63	チャート	完存
-246	5C-58	20	石錐	36.1	28.2	9.9	13.20	チャート	完存
-247	5C-59	22	石錐	35.0	26.5	11.1	15.14	砂岩	完存
-248	5C-65	2	石錐	38.0	36.0	12.2	22.96	安山岩	完存
-249	5C-66	1	石錐	44.4	35.7	9.5	23.20	安山岩	完存
-250	5C-69	1	石錐	32.0	23.0	8.5	9.32	石英	完存
-251	5C-73	1	石錐	33.0	32.5	11.4	18.68	砂岩	完存
-252	5C-79	2	石錐	36.0	26.5	12.0	17.13	砂岩	完存
-253	5C-79	3	石錐	36.5	24.3	10.8	13.92	ホルンフェルス	完存
-254	5C-79	4	石錐	48.0	29.5	17.0	27.75	砂岩	完存
-255	5C-79	5	石錐	32.0	19.5	9.9	8.24	砂岩	完存
-256	5C-79	8	石錐	41.5	34.0	12.5	23.02	砂岩	完存
-257	5C-79	9	石錐	34.0	25.0	9.3	11.74	流紋岩	完存
-258	5C-85	2	石錐	41.0	33.0	12.5	21.75	安山岩	完存
-259	5D	1	石錐	37.5	28.0	8.0	11.10	流紋岩	完存
-260	5D	1	石錐	(45.5)	(31.0)	(11.0)	(20.70)	ホルンフェルス	欠損
-261	5D	1	石錐	36.5	27.0	11.0	15.42	石英ハン岩	完存
-262	5D-50	3	石錐	41.3	38.5	11.5	24.28	流紋岩	完存
-263	5D-70	4	石錐	42.0	36.5	11.6	25.92	安山岩	完存
第123図-264	6C-99	1	石錐	43.5	34.6	10.0	21.71	砂岩	完存
-265	6D	1	石錐	38.0	30.5	15.2	15.65	凝灰岩	完存
-266	6D	1	石錐	47.8	30.5	14.7	19.39	凝灰岩	完存
-267	6D-84	1	石錐	48.0	46.5	11.0	28.49	砂岩	完存
-268	6D-90	56	石錐	42.5	29.0	12.0	21.73	砂岩	完存
-269	6D-91	1	石錐	(34.0)	(25.9)	(8.0)	(10.30)	安山岩	欠損
-270	6D-92	1	石錐	(48.5)	(33.5)	(12.6)	(26.85)	砂岩	欠損
-271	6D-95	1	石錐	47.0	36.5	8.0	20.99	流紋岩	完存
-272	6D-95	2	石錐	41.3	33.7	11.0	23.98	砂岩	完存
-273	7D	1	石錐	46.5	24.5	8.3	12.40	流紋岩	完存
-274	7D	7	石錐	39.0	26.7	6.0	9.13	砂岩	完存
-275	7D	9	石錐	(32.0)	(38.0)	(8.7)	(13.18)	砂岩	欠損
-276	7D	17	石錐	36.5	22.5	9.0	11.90	ホルンフェルス	完存
-277	7D-00	1	石錐	36.0	28.5	10.4	14.04	安山岩	完存
-278	7D-02	1	石錐	38.5	32.5	10.6	20.20	砂岩	完存
-279	7D-03	1	石錐	38.2	30.5	12.2	21.47	砂岩	完存
-280	7D-03	1	石錐	(39.0)	(29.0)	(14.7)	(24.60)	安山岩	欠損
-281	7D-04	1	石錐	(35.0)	(30.0)	(11.3)	(13.39)	頁岩	欠損
-282	7D-10	1	石錐	(28.0)	(29.0)	(9.0)	(7.39)	砂岩	欠損
-283	7D-10	25	石錐	34.7	33.1	9.1	15.15	砂岩	完存
-284	7D-10	45	石錐	32.4	30.9	9.5	15.00	砂岩	完存

挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	保存状態
第124図-285	7D-11	1	石錘	45.0	34.0	11.5	25.25	砂岩	完存
-286	7D-11	1	石錘	34.0	29.0	12.0	17.06	砂岩	完存
-287	7D-11	1	石錘	32.1	28.0	15.8	19.48	砂岩	完存
-288	7D-11	1	石錘	41.0	34.5	20.0	38.05	チャート	完存
-289	7D-12	1	石錘	43.5	37.0	15.8	36.76	ホルンフェルス	完存
-290	7D-13	1	石錘	38.0	28.5	10.5	15.00	チャート	完存
-291	7D-13	1	石錘	36.5	29.0	17.1	28.05	砂岩	完存
-292	7D-15	2	石錘	43.6	39.3	14.1	34.73	ホルンフェルス	完存
-293	7D-15	2	石錘	31.0	25.5	13.4	16.25	砂岩	完存
-294	7D-21	1	石錘	46.0	43.5	13.0	38.62	砂岩	完存
-295	7D-21・31	1	石錘	33.0	31.5	13.2	18.35	砂岩	完存
-296	7D-21・31	1	石錘	50.5	36.5	13.5	31.20	ホルンフェルス	完存
-297	7D-26	1	石錘	38.0	27.5	7.7	12.37	安山岩	完存
-298	7D-26	1	石錘	37.5	33.0	14.2	27.50	石英ハン岩	完存
-299	7D-26	2	石錘	44.0	30.5	10.0	20.88	砂岩	完存
-300	7D-26	2	石錘	(30.0)	(27.5)	(9.5)	(11.32)	砂岩	欠損
-301	7D-27	1	石錘	40.1	36.3	11.5	25.20	玄武岩	完存
-302	7D-33	1	石錘	(36.5)	(23.5)	(12.3)	(13.75)	砂岩	欠損
-303	7D-33	1	石錘	(35.5)	(25.0)	(10.0)	(9.20)	砂岩	欠損
-304	7D-34	4	石錘	36.0	18.5	7.0	6.45	砂岩	完存
-305	7D-35	1	石錘	(36.0)	(32.0)	(10.3)	(10.08)	凝灰岩	欠損
第125図-306	7D-42	1	石錘	45.0	30.5	7.9	9.98	凝灰岩	完存
-307	7D-42	1	石錘	(36.2)	(21.0)	(8.5)	(6.85)	砂岩	欠損
-308	7D-43	1	石錘	(39.0)	(22.5)	(10.0)	(11.73)	砂岩	欠損
-309	7D-44	2	石錘	48.1	36.8	12.8	32.18	砂岩	完存
-310	7D-52	1	石錘	57.0	31.3	15.3	28.86	凝灰岩	完存
-311	7D-56	1	石錘	(41.5)	(31.2)	(7.5)	(13.30)	砂岩	欠損
-312	7E-60	1	石錘	48.5	29.7	15.0	19.57	凝灰岩	完存
-313	8D-08	1	石錘	56.0	26.5	11.0	25.26	砂岩	完存
-314	8D-09	1	石錘	38.9	26.5	10.0	14.57	砂岩	完存
-315	8D-29	1	石錘	47.0	40.5	9.3	22.88	砂岩	完存
-316	表採		石錘	31.0	31.0	17.5	20.26	安山岩	完存
-317	表採		石錘	42.5	27.7	9.7	17.33	砂岩	完存
-318	表採		石錘	41.0	35.5	12.0	24.57	砂岩	完存
-319	表採		石錘	46.0	34.6	12.1	26.92	玄武岩	完存
-320	表採		石錘	41.5	29.0	8.5	15.61	凝灰岩	完存
-321	表採		石錘	51.0	30.0	12.2	31.10	粘板岩	完存
-322	表採		石錘	52.0	31.5	9.5	25.25	砂岩	完存
-323	表採		石錘	(34.0)	(21.5)	(7.4)	(7.06)	砂岩	欠損
第126図-324	5C-37	1	砥石	34.0	35.0	24.0	29.94	凝灰岩	完存
-325	7D-21・31	1	砥石	226.0	75.0	53.0	758.98	凝灰岩	完存
-326	7D	1	軽石	66.0	42.0	27.0	21.05	軽石	完存
-327	7D-23	32	軽石	(95.0)	(63.0)	(40.0)	(50.77)	軽石	欠損
-328	7D-24	4	軽石	(84.0)	(65.0)	(19.0)	(24.38)	軽石	欠損
-329	表採		軽石	113.0	48.0	42.0	51.29	軽石	完存
-330	表採		軽石	(55.0)	(43.0)	(15.0)	(10.21)	軽石	欠損
第127図-331	5C-55	3	石棒	(105.0)	(47.0)	(23.0)	(224.95)	緑泥片岩	欠損
-332	5C-58	20	石棒	(125.0)	(68.0)	(31.0)	(421.62)	緑泥片岩	欠損
-333	5D-92	3	石棒	(111.0)	(70.0)	(43.0)	(572.42)	緑泥片岩	欠損
-334	7D-12	1	石棒	(105.0)	(75.0)	(30.0)	(325.64)	緑泥片岩	欠損
-335	7D-21・31	1	石棒	(51.0)	(22.0)	(7.0)	(11.31)	緑泥片岩	欠損
-336	表採		石棒	100.0	27.0	27.0	139.46	緑泥片岩	完存
-337	表採		石棒	(114.0)	(32.0)	(22.0)	(101.28)	粘板岩	欠損
-338	表採		石棒	(120.0)	(38.0)	(32.0)	(212.02)	砂岩	欠損
-339	表採		石棒	(85.0)	(120.0)	(35.0)	(512.65)	安山岩	欠損
-340	7D-02	3	垂飾	(33.6)	(15.8)	(10.6)	(7.27)	滑石	欠損
-341	表採		块状耳飾	(42.5)	(27.0)	(9.2)	(14.55)	滑石	欠損

第6表 グリッド出土石器一覧

大グリッド	小グリッド	剥片	使痕剥	石核	楔形	石鐵	打斧	磨斧	局磨斧	敲石	石皿	磨石類	石錐	砥石	石棒	垂飾	軽石	その他	小計
4B	79																1	1	
	89				1												6	7	
4C	一括	2											1	3	1		60	67	
4C	35	1																1	
	44																6	6	
	55																1	1	
	63																1	1	
	64																7	7	
	65																5	5	
	66	1															1	2	
	70																1	1	
	71	1																1	
	74																6	6	
	75						1										2	3	
	76																2	2	
	79																1	1	
	80												1				19	20	
	81	1																1	
	83											1						1	
	85																3	3	
	90																6	6	
	91																2	2	
	92																1	1	
	94																2	2	
	95																3	3	
	97						1	1									1	3	
	98																1	1	
4D	一括											16	1				62	79	
4D	35							1										1	
5C	一括	1						2	1			2	7	6	2		312	333	
5C	0																1	1	
	5													3			3		
	6											1					2	3	
	7	1															2	3	
	8	1				1					1						26	29	
	11																2	2	
	12																8	8	
	13																2	2	
	14																4	4	
	15											1						1	
	16	1												1			27	29	
	17						1					1	1				28	31	
	18																17	17	
	19							1										1	
	20																1	1	
	22				1												1	2	
	23																9	9	
	24											1					2	3	
	25																3	3	
	26	2															12	14	
	27	1	1										1				24	27	
	28	1										1	1				36	39	
	29						2				1						14	17	
	30																1	1	
	31																3	3	
	33											2					9	11	
	34			1			1				1						19	22	
	35	1															16	17	
	36	1										1					29	31	
	37	1		1				1							1		30	34	
	38											1					22	23	
	39											2					33	35	
	42										1						26	27	
	43																14	14	
	44											1					30	31	

大グリッド	小グリッド	剥片	使痕剝	石核	楔形	石鏃	打斧	磨斧	局磨斧	敲石	石皿	磨石類	石錐	砥石	石棒	垂飾	軽石	その他	小計
	45			1							1	1					13	16	
	46	1										1					18	20	
	47										3	2					11	16	
	48										1	1	1				42	45	
	49	1	1														10	12	
	52										1						2	3	
	53										1	1					30	32	
	54																12	12	
	55		1								1		1		1		32	36	
	56		1			2							2				16	21	
	57			1													51	52	
	58	5	2			1					1	3	3		1		138	154	
	59		1	1				1				2	3				38	46	
	63	1			1												36	38	
	64							1				2	2				174	179	
	65											2	1	3			30	36	
	66											1	1				30	32	
	67	1									1				1		46	49	
	68									1							29	30	
	69											1	1				54	56	
	73	1									1			1			71	74	
	74											1					30	31	
	75							1				1	1				34	37	
	76																3	3	
	77																23	23	
	78																47	47	
	79	2	1					1		1	5	4	12				983	1009	
	84	3	1				1										58	63	
	85						1				2		2				34	39	
	86						1				1						83	85	
	87					1					3	8					229	241	
	88										1						37	38	
	94																15	15	
	95										1						70	71	
	96										1	1				1	101	104	
	97	1									1						8	10	
	98											1						1	
	99										1							1	
5D	一括										3	6	3	1			62	75	
5D	6																1	1	
	25																1	1	
	26																3	3	
	30	1															16	17	
	40																19	19	
	50		1				2				1	1					9	14	
	59																5	5	
	60	1									2	3					89	95	
	66																1	1	
	70	1										1					130	132	
	73					1												1	
	80																7	7	
	84										1							1	
	88											1						1	
	89																2	2	
	92																1	1	
	95																15	15	
	96																1	1	
	97																3	3	
	98			1													19	20	
6C	一括																1	1	
6C	4																1	1	
	5										1						12	13	
	6				1												3	4	
	69																1	1	
	89																12	12	
	99			1							1	1	1				6	10	

大グリッド	小グリッド	剥片	使痕剝	石核	楔形	石錐	打斧	磨斧	局磨斧	敲石	石皿	磨石類	石錐	砥石	石棒	垂飾	軽石	その他	小計
6D	一括	8		1	1	1		1		1	1	2	2				12	30	
6D	1																51	51	
	6																5	5	
	8																2	2	
	18											1						1	
	51																1	1	
	70		2	1				1									1	5	
	72																1	1	
	73																1	1	
	74										1						3	4	
	80																1	1	
	81						1										3	4	
	82	1															7	8	
	83	1	1														3	5	
	84	3				1	1				1	1	1				9	17	
	86																1	1	
	87	1															4	5	
	88																4	4	
	89																3	3	
	90	2	1									4	1				39	47	
	91	2				1	1				4	2	1				30	41	
	92						1				1	1					12	15	
	93	1															13	14	
	94		1					1				2					9	13	
	95												2				4	6	
	96																16	16	
	97																10	10	
	98																1	1	
	99																1	1	
6E	一括												2	2			10	14	
6E	21										1							1	
	30											1						1	
	40																1	1	
	42																4	4	
	90											1						1	
7C	9											2		1			5	8	
7D	一括	12	1	5			4	1		2	4	27	8	3	1	1	406	475	
7D	0	2								1	1	2					14	20	
	1					1							1				22	24	
	2	4									1	1	1			1		19	27
	3												2				6	8	
	4	1	1								1		1				50	54	
	5							1				3					24	28	
	6										1	2					12	15	
	7										1	3					24	28	
	8							1			1						8	10	
	10	4					1	2			1	3	3				10	24	
	11	5	2	2		2				1		2	4	3			54	75	
	12	6	1	1						1		2	1	2	1		73	88	
	13	3		1	2			1			2	2	1				51	63	
	14							1			1						32	34	
	15	3									1	2	2				18	26	
	16										1						33	34	
	17																21	21	
	18																7	7	
	19			1							1						7	9	
	20	1		1		3				1	1						35	42	
	21										3	4	1	1			28	37	
	22	4		1						1	1	3		1			47	58	
	23											1					1	10	12
	24			1			1					4	1	2		2	60	71	
	25	1									1	3		1			31	37	
	26									1	1	2	5				18	27	
	27	1										1					11	13	
	28							2			1			1		1	33	38	
	29																4	4	

大グリッド	小グリッド	剥片	使痕剝	石核	楔形	石鐵	打斧	磨斧	局磨斧	敲石	石皿	磨石類	石錘	砥石	石棒	垂飾	軽石	その他	小計
	31					1						1						5	7
	32										1			1				36	38
	33							2				2	2					22	28
	34			1				2					1				2	14	20
	35	2						1			1		1					9	14
	36		1								1							5	7
	37																	9	9
	38																	7	7
	39																	3	3
	40										1								1
	42	1	1								2	1	2	1				29	37
	43										1	1	2					10	14
	44												1	2				7	10
	45	1					1							2				23	27
	46	2					1				1	2						5	11
	47	1				1		1				1						8	12
	48					1													1
	52	1	1								1	1	1	2				16	23
	53																	19	19
	54																	18	18
	55																	7	7
	56												1					7	8
	57																	3	3
	66																	3	3
	67																	3	3
	68											1							1
	69							1										3	4
	77																	1	1
	78																	16	16
	79					1						1						15	17
	91																	1	1
7E	30																	1	1
	50																	3	3
	60												1					13	14
	70																	2	2
	71																	3	3
	80																	4	4
	81																	4	4
	91		1																1
8D	8												1					2	3
	9											6	1					6	13
	29												1					5	6
	39																	1	1
8E	0																	4	4
	10					1								1				6	8
表採		34	4	1	2	5	6	4	1	1	34	27	8	4	4	1	1	693	830
合計		144	26	29	5	27	28	34	1	12	129	182	124	50	9	2	9	6,508	7,319

## 第3章 まとめ

小櫃川上流域における縄文時代の調査例に、新たな一例を加えることとなった今回の発掘では、縄文時代後期の竪穴住居8軒、土坑88基、埋設土器集中遺構2か所を検出した。路線内の限定された調査区であったため、遺跡全体から見れば一部の知見にとどまるが、以下に簡単に調査を振り返って概観しておきたい。

竪穴住居は8軒検出されたが、その内の7軒が緩斜面に所在し、015の一軒のみが一段下がったテラス状の平坦部に位置していた。001は今回発見された竪穴住居中最も規模が大きく、長軸長が6.80mを超している。平面形態は明瞭に捉えられなかったが、張りのある隅丸方形であった可能性が高い。竪穴住居の南西側に別の土坑状遺構が重複し、また、ピットの配列も不規則であるものの、入り口部は竪穴住居中央から見て南西側に設けられていたと推測される。遺物は堀之内式、加曾利B式も出土しているが、保存状態の良好な土器はいずれも安行1式であるため、この時期の竪穴住居と考えられる。

002は長径5.70mの不整円形を呈する竪穴住居で、地床炉を設けている。基本的に壁下にピットを配置するが、同間隔では一巡していない。加曾利B1式期と考えられる。

005は全体に保存状態が不良であったが、平面形は円形を呈していたと推測される。柱穴と見られる小ピットが壁際からやや内側に存在し、その配置には粗密が認められるものの、ほぼ一巡している状況が認められる。炉は地床炉で、中央からやや北に寄った斜面側に設けられている。出土遺物は少ないが、時期は堀之内2式期になるであろう。

012は029と035と重複している。029と重複する南西側の壁の遺存状態は良好であったが、035と重複する北側は、壁が残存せず床面も硬質面を残していないなかったので、規模の確定が一部不可能であった。基本的には円形プランで壁柱穴が伴うと考えられるが、035との重複部分に発見された集石が本遺構に伴うことが確実であるならば、柄鏡状のプランも想定されてくる。その集石は竪穴住居中央から北東方向に位置し、0.9m×0.8mの範囲に、平面的に敷かれた状態で検出されたものである。石材に乏しい当地域では、この時期の竪穴住居に伴う平面的な集石の検出例は寡聞にして知らない。おそらく初の検出例になるであろう。敷石や祭壇的な意味づけも可能かもしれないが、類例の検出を待って検討することとし、その性格は現段階では断定せずに保留しておきたい。遺物は土器を主体に石器も含んで多量に出土し、整理箱で27箱の量になった。出土土器は堀之内1式～2式によって占められている。第23図に示したように、一部に堀之内1式の古い段階の土器も散見されるが、第18図～第20図に挙げた多くは、堀之内1式の新しい部類から2式期と考えられる<sup>1・2)</sup>。また、この竪穴住居からは8個体以上になる注口土器が出土しており注目される。

029は012に切られている竪穴住居である。平面プランは円形で規模は直径5.50mと考えられる。柱穴は壁柱穴で、壁の下にほぼ一巡する形で検出されている。個々の壁柱穴の掘り方は小型である。炉は地床炉で、火床の発達が認められた。遺物の出土量は少ないが、堀之内1式期に比定される。

035は012と重複するうえに、壁が失われていたため、形態や規模について確定することが困難であった。また、ピット配置に規則性が認められず、床面も硬質面を捉えられなかったが、埋甕が1基検出された。

埋甕は炉の1m南側に、底部を欠く粗製の深鉢が埋設されていた。床面からの出土遺物は、伏せられた状態で検出された注口土器以外には、わずかな土器しか出土しなかった。堀之内1式期に比定しておきたい。

P105は緩斜面から急斜面への変換地点で検出された竪穴住居である。急斜面側の壁の保存状態は不良で、それに対して山側は70cmの壁高が存在していた。平面形は略円形を呈し、壁柱穴が巡る。炉は埋甕炉である。大型の粗製深鉢の上部を炉体にし、その底全体に大型の破片を敷き詰めている。遺物は覆土の上層から多く出土し、床面上には保存状態の良好な土器は出土しなかった。覆土の土器と炉体土器から、堀之内1式期と考えられる。

015は斜面部から一段下がったテラス状の平坦部で検出された。直径2.5m内外の規模の小型の竪穴住居である。遺物は堀之内1式の特徴をもつ細片が出土したにとどまる。

次に埋設土器集中遺構についてふれておきたい。同遺構は2か所に検出され、その中の一基である011は黒色土中に検出され、明確な掘込み面をつかむことが不可能であった。しかし、もう一基の013は土坑状の掘込みの中に埋納されていたことが結果的に判明した。おそらく011についても、同一地点において2回以上の土器の埋納行為が行われたものと推測されるが、その根拠については本文中に述べたとおりである。この埋設された土器の性格としては、骨片等の出土は確認できなかったが、屋外の埋甕と理解しておきたい。時期は両者とも堀之内1式期になるだろう。

土坑は88基検出した。第1表中に示したように規模については一様でない。特徴的な土坑としては、006、P107、P109を挙げることができよう。006は円筒状を呈する土坑で、深さが1.7m以上になる。P107は楕円形を呈し、底面の平坦部が狭い小土坑であるが、加曾利B1式の精製深鉢が伏せられた状態で出土している。P109は円筒形の深さ66cmの土坑で、底面からやや浮いた位置から完存する磨製石斧が、そして底面近くから自然石が出土している。

土坑には柱穴状の小型のピットも含まれているが、建物を構成するような配置は看取できなかった。また、埋設土器集中遺構011が検出された周辺は全体的に黒色土が厚く堆積していたので、その中に掘り込まれた土坑は未発見で終わったという危惧を残すが、いずれも時期的には堀之内1式期から加曾利B1式期に構築されたものと考えられる。

以上のように発掘区内に検出された遺構は、堀之内1式期から安行1式期の期間であった。遺跡全域の表面的な観察では、緩斜面での堀之内1式土器の濃密な分布や、安行2式の土器が散布する区域も存在するので、集落景観の歴史的復元は難しい。しかし、堀之内期の竪穴住居が緩斜面に大規模に展開することは想像に難くない結果といえよう。

遺物は土器類を主に多量に出土し、特に堀之内1式から2式にかけての資料が充実していた。また、加曾利B式期から安行式期の土器群も多出し、近接する豊田遺跡<sup>3)</sup>での在り方と極めて近似する様相が明ら

第7表 検出竪穴住居一覧

遺構No	位置	規模(長軸長)m	規模(短軸長)m	深さm	特 徴	出 土 遺 物	時 期
001	7E-99	(6.80)	(6.38)	(0.37)	隅丸方形? 地床炉	土器	安行1
002	7E-42	5.70	4.95	0.30	不整円形 地床炉	土器・石器・石棒	加曾利B1
005	6C-27	(4.60)	(4.38)	(0.30)	集石 地床炉	土器	堀之内2
012	7D-24	(5.36)	5.20	(0.45)	円形 地床炉	土器・石器・骨粉	堀之内1~2
015	4C-65	2.55	2.50	0.26	円形 地床炉	土器・石器・種子	堀之内1?
029	7D-32	5.50	(5.50)	(0.45)	円形 地床炉	土器・土製品・石器	堀之内1
035	7D-04	(5.00)	(5.00)	—	地床炉 埋甕	土器・石器	堀之内1?
P-105	5D-65	(4.38)	(4.06)	(0.70)	円形 埋甕炉	土器・石器	堀之内1

かになった。さらに、わずかではあるものの撲糸文系土器である稻荷台式と、中期の阿玉台式の出土も坂畠南遺跡<sup>4)</sup>との関連で注視しておきたい。今後の課題としては、先に述べた堀之内式の中に存在する、第68図80、第80図309のような搬入土器の検討や、個体数の多かった注口土器の存在意味をふまえた上で、遺跡の特質を抽出していく作業などが残されている。

土器と並んで石器の出土量も豊富であった。石器について気づいた点を下記に列挙してみたい。まず、剝片石器の石材の中で黒曜石については、肉眼的観察による所見では神津島産で占められている可能性が高いと判断された。遺跡の所在地と産出地の距離的な位置関係から興味深いことである。石斧類での特徴は、単純な数量比較において磨製石斧の出土点数が打製石斧を上回っている。石皿や磨石には在地産の石材が使用され、大型の石皿が製作されていたにも関わらず、石皿には完形品が少なく、欠損後凹石に転用されている例が多い。礫石錐が房総半島の遺跡にあっては異例の点数が出土した、等が挙げられる。

礫石錐は遺構出土と遺構外出土の合計で145点になる。本遺跡と時期的に並行する市原市武士遺跡<sup>5)</sup>は、大集落遺跡として知られているが、そこでの石錐の出土点数は、礫石錐1点と切目石錐3点にすぎない。本遺跡の数量は突出した存在である。遺構外出土の礫石錐の長さの平均値は40.4mm、同じく幅は31.0mm、厚さ11.4mm、重量20.4gになる。ちなみに15点出土した保存状態の良好な土器片錐の平均値は、長さ40.0mm、幅27.9mm、厚さ12.0mm、重量14.5gで重量を除けば形態上の特質は近似している。土器片錐、石錐が漁撈具の一部を構成するという見解にしたがえば、礫石錐の素材となる礫を産出する礫層が付近に存在することと、小櫃川に接するように営まれた遺跡の環境が、土器片錐よりも礫石錐を選択したことに大きく関与したものと考えられる。

以上遺構と遺物について概観しまとめたい。

注 1 鈴木徳雄 1982 「南関東東部」 『シンポジウム堀之内式土器資料集』 市川市立考古博物館

2 領塚正浩 1992 「堀之内貝塚出土の堀之内式土器」 『堀之内貝塚資料図譜』 市立市川考古博物館

3 君津市教育委員会 1991 「豊田遺跡」 『平成2年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』

4 財団法人君津郡市文化財センターの御教示による。

5 加納 実ほか 1998 『市原市武士遺跡2』 財団法人千葉県文化財センター

# 写 真 図 版



1. 遺跡の立地（亀山ダムから）



2. 遺跡から見た亀山ダム



3. 遺跡近景（南から）



4. 確認調査状況



5. 確認トレンチ内遺物出土状況



1. 001 (北東から)



2. 002 (北西から)



3. 005 (北西から)



1. 012 (北から)



2. 012遺物出土状況（北東から）



3. 012遺物出土状況（部分・北東から）



4. 012集石検出状況



5. 012 (左) と029 (右) 土層断面



1. 029 (北から)



2. 035 (北から)



3. P105 (南西から)



1. P105土層断面（西から）



2. 015（西から）



3. 006（南西から）



4. 013遺物出土状況（南から）



5. 011遺物出土状況（南から）



6. P008遺物出土状況



7. P055遺物出土状況



8. P102（南から）



1. P103 (南東から)



2. P104 (南東から)



3. P107遺物出土状況 (西から)



4. P108・P109 (南西から)



5. P109 (南西から)



6. P110 (西から)



7. P111 (西から)



8. P112 (南から)



1. P113 (北から)



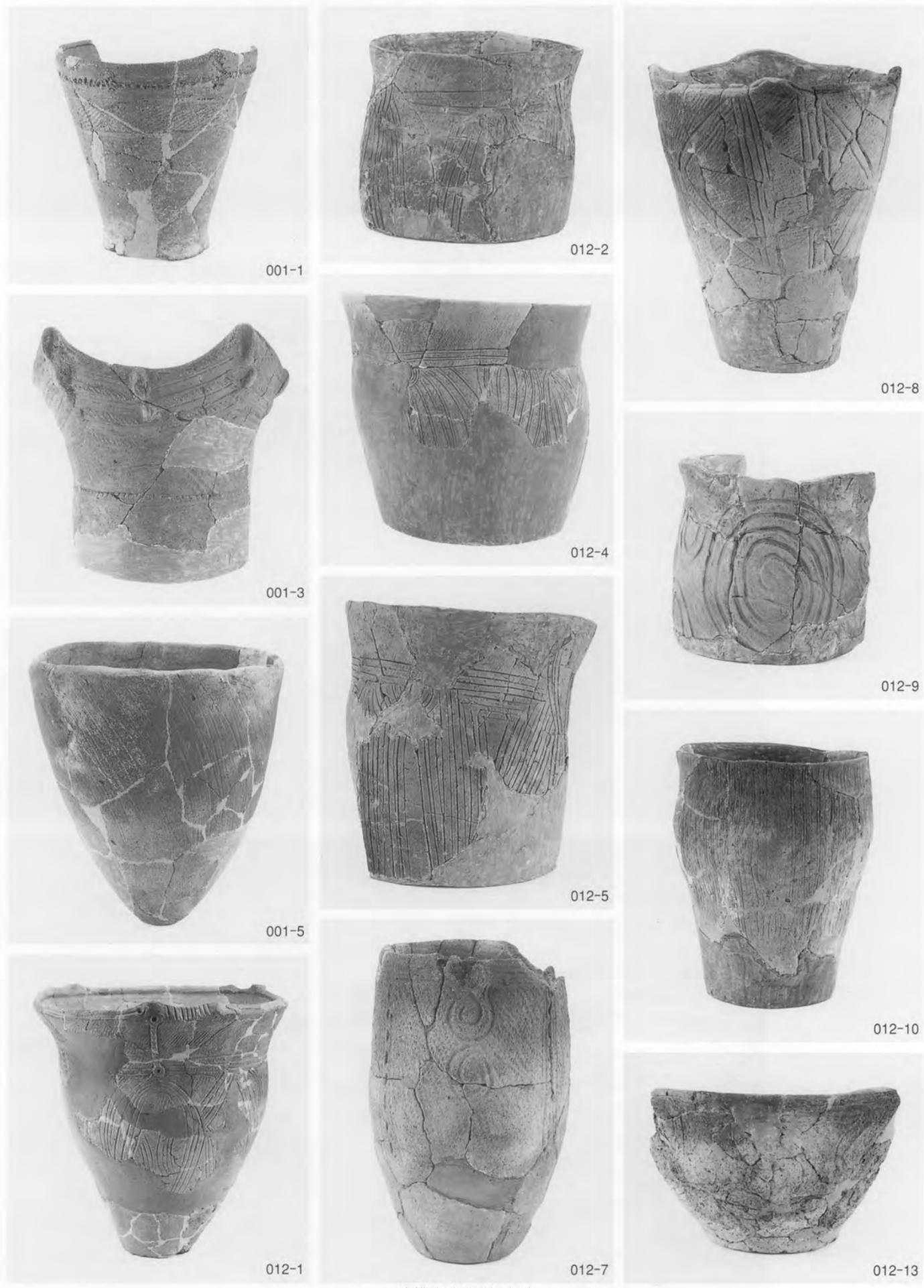
2. P116 (西から)



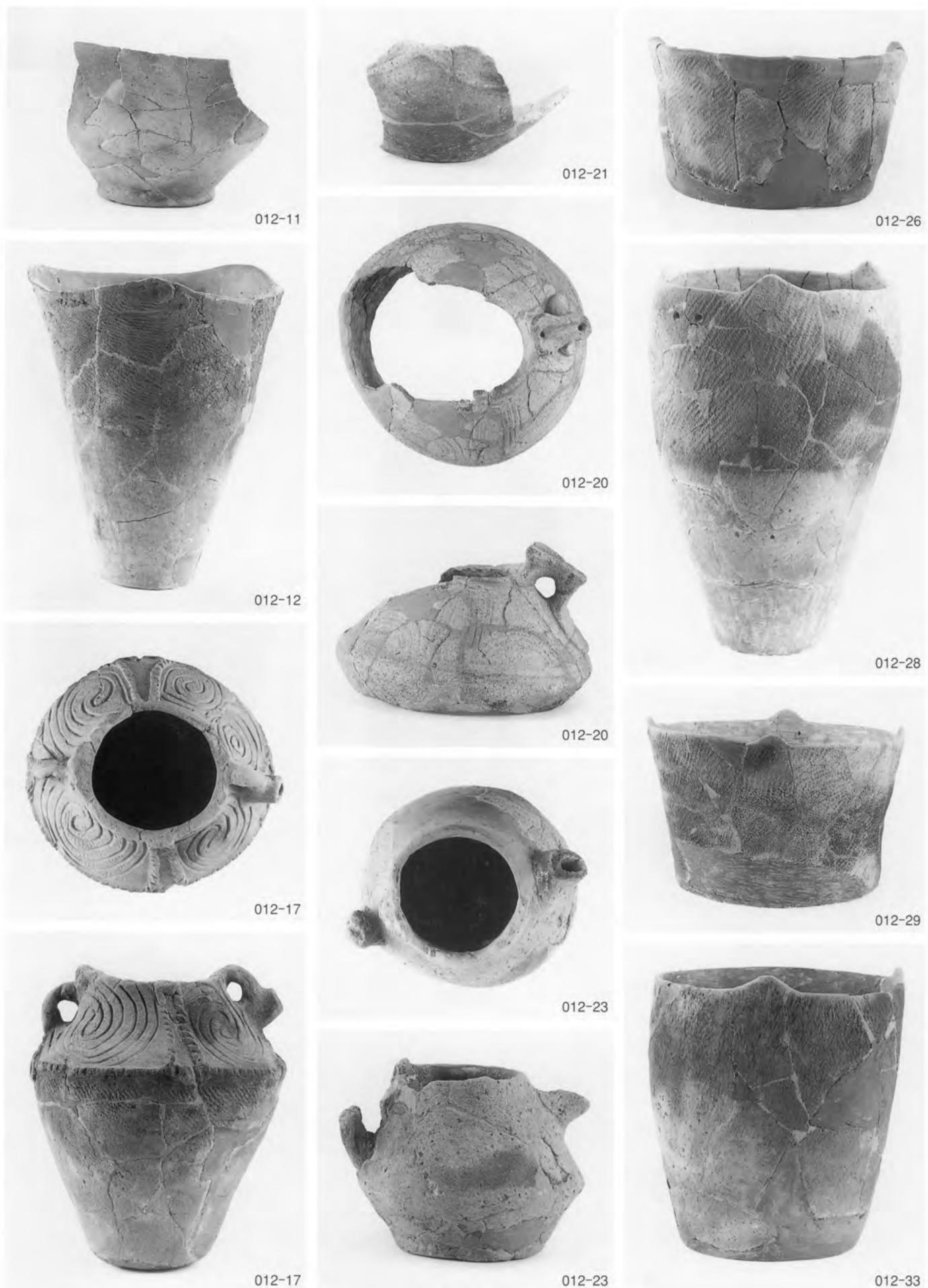
3. 031・033・036  
(北東から)



4. 6区ピット群  
(南東から)



遺構出土土器（1）



遺構出土土器（2）



029-2



P105-1



011-4



029-2



P105-3



008-12



035-5



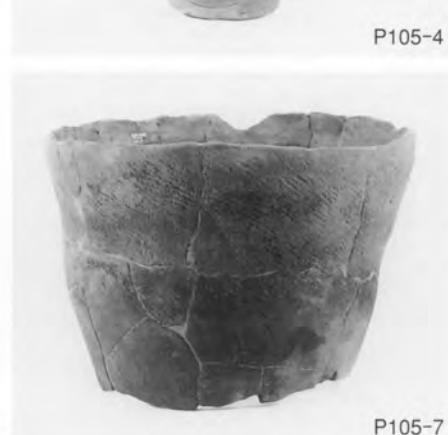
P105-4



P107-1



035-5



P105-7

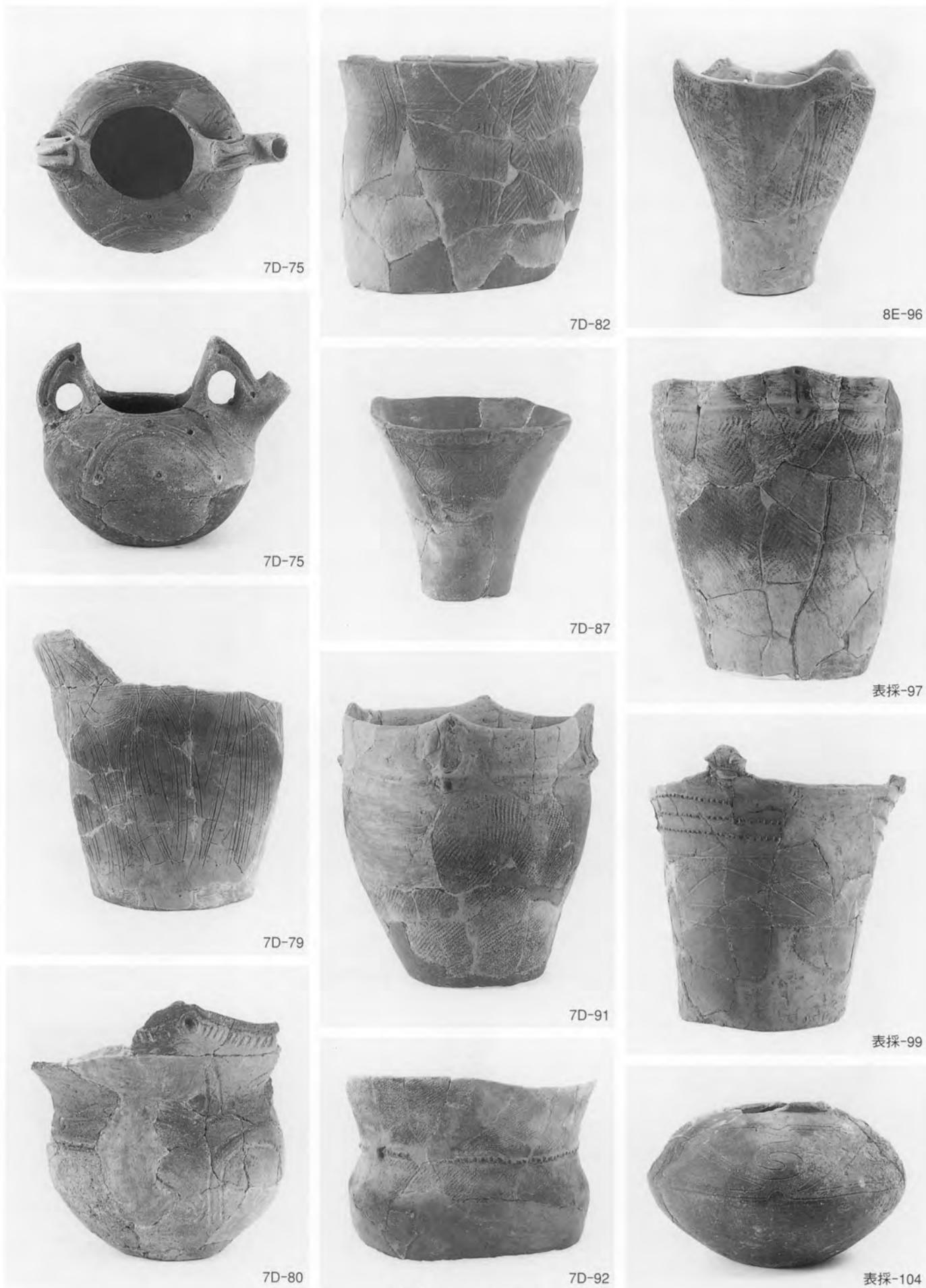


P114-1

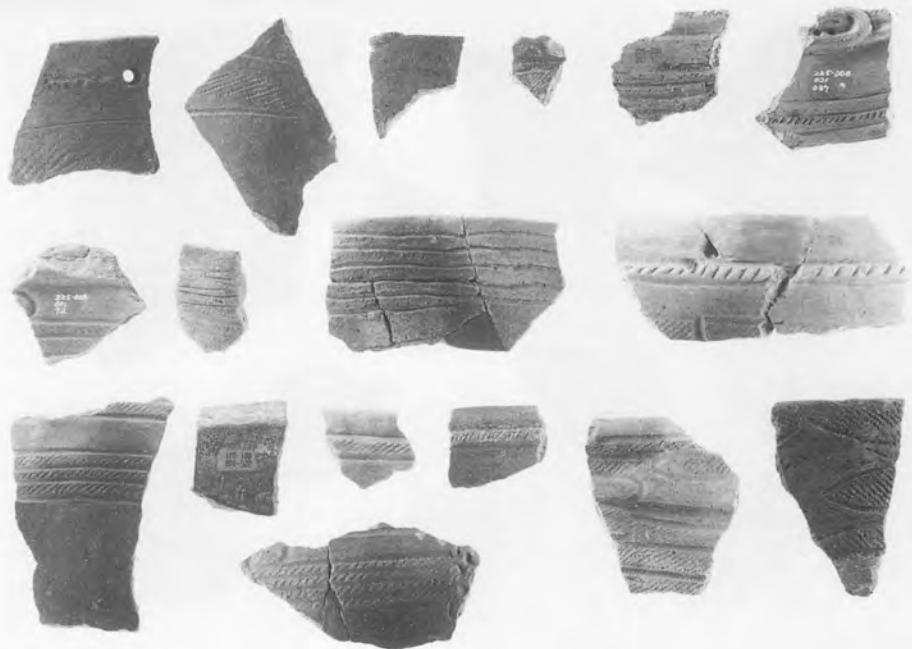
遺構出土土器（3）



遺構外出土土器（1）



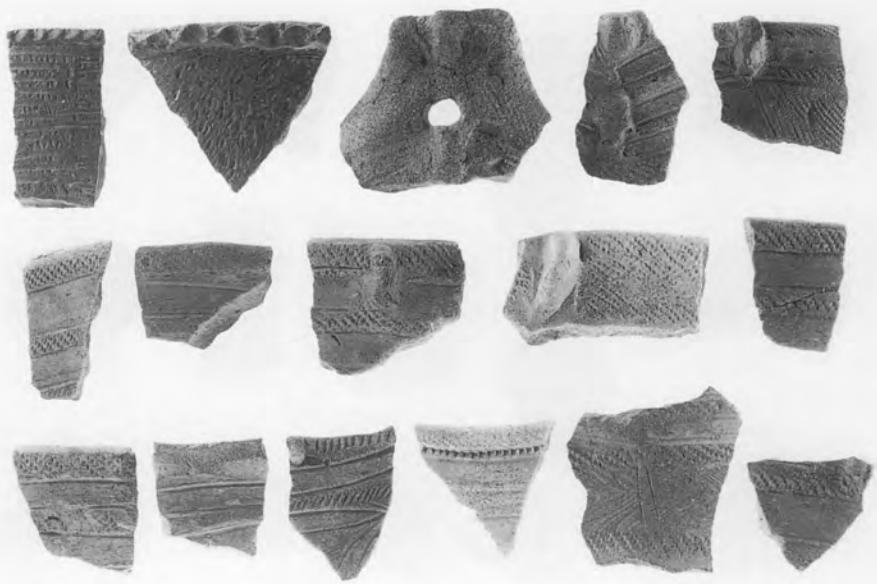
遺構外出土土器（2）



1. 001出土土器（1）



2. 001出土土器（2）



3. 001出土土器（3）



1. 001出土土器 (4)



2. 002出土土器 (1)



3. 002出土土器 (2)



1. 012出土土器（1）



2. 012出土土器（2）



3. 012出土土器（3）



1. 029出土土器



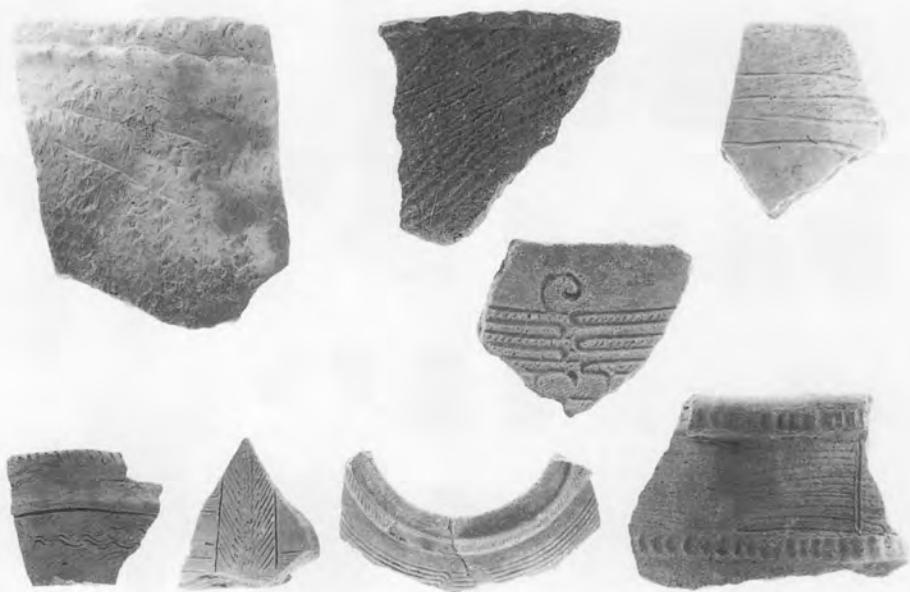
2. P105出土土器



3. 011出土土器（1）



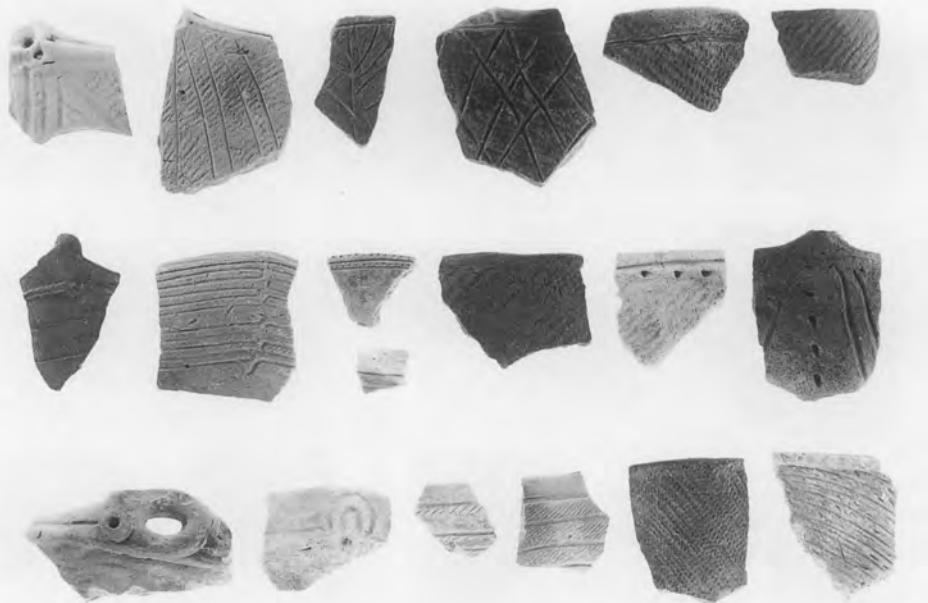
1. 011出土土器（2）



2. 011出土土器（3）



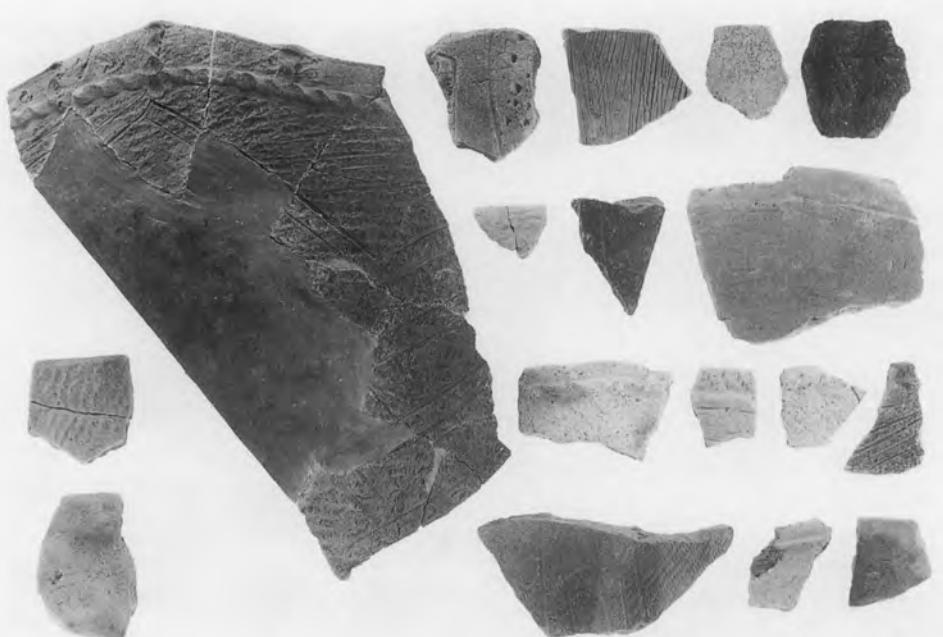
3. 036出土土器



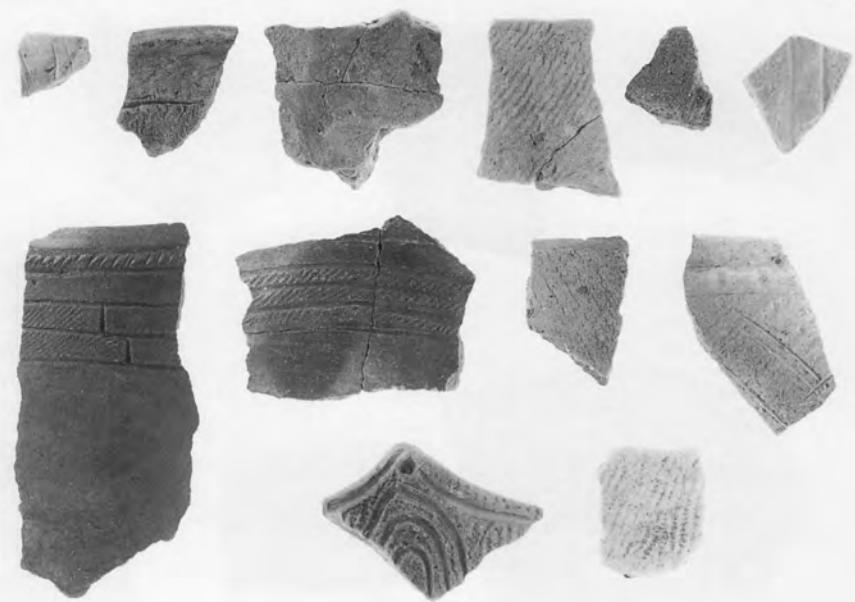
1. 003・006・008出土土器



2. P020・P022・P027・P032・P039・P040・  
P045・P051・P052・P053・P055A・P055B  
出土土器



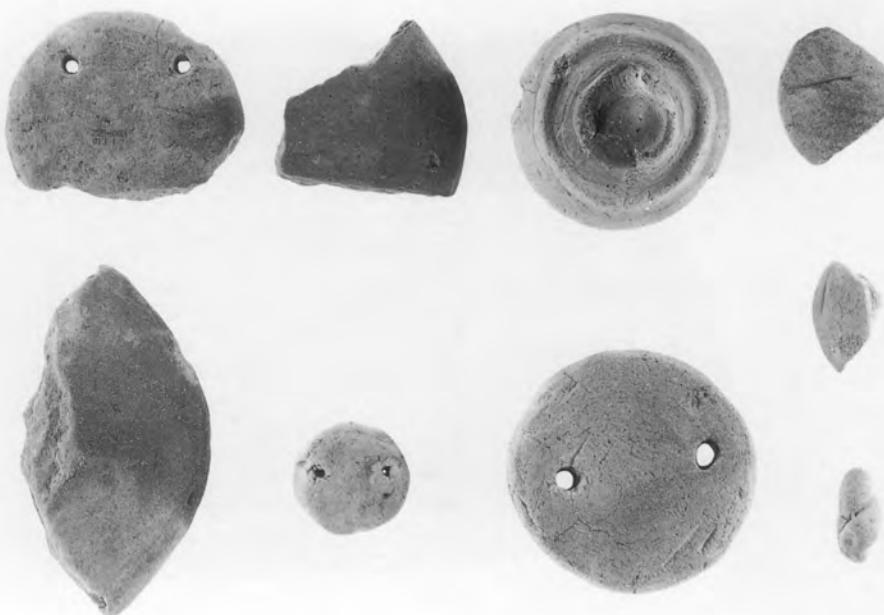
3. P060・P064・P065・P067・P068・P071・  
P074・P075・P076出土土器



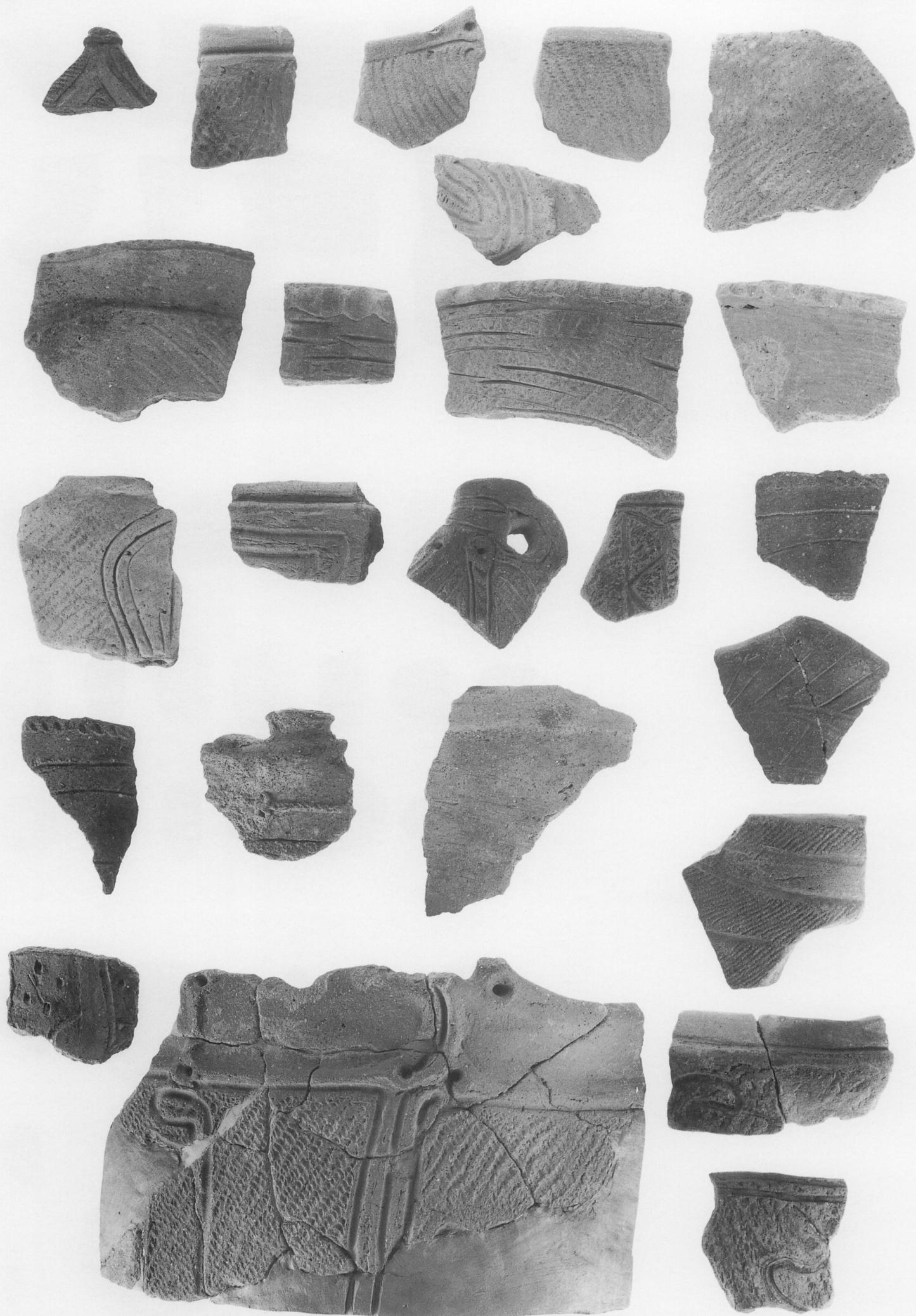
1. P077・P104・P107・P110・P116出土土器



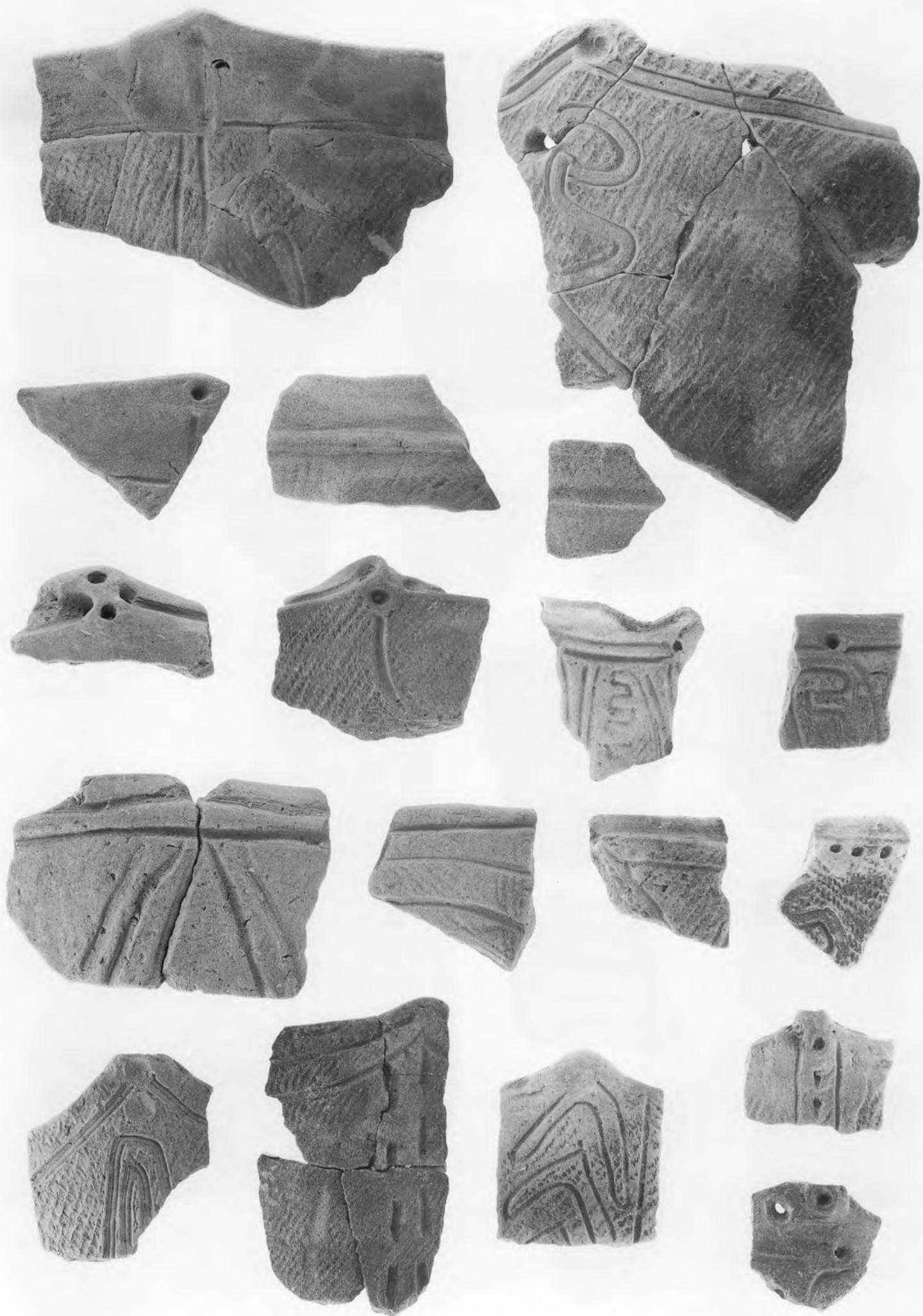
2. 土製品（1）



3. 土製品（2）



4B・C・D・5C出土土器



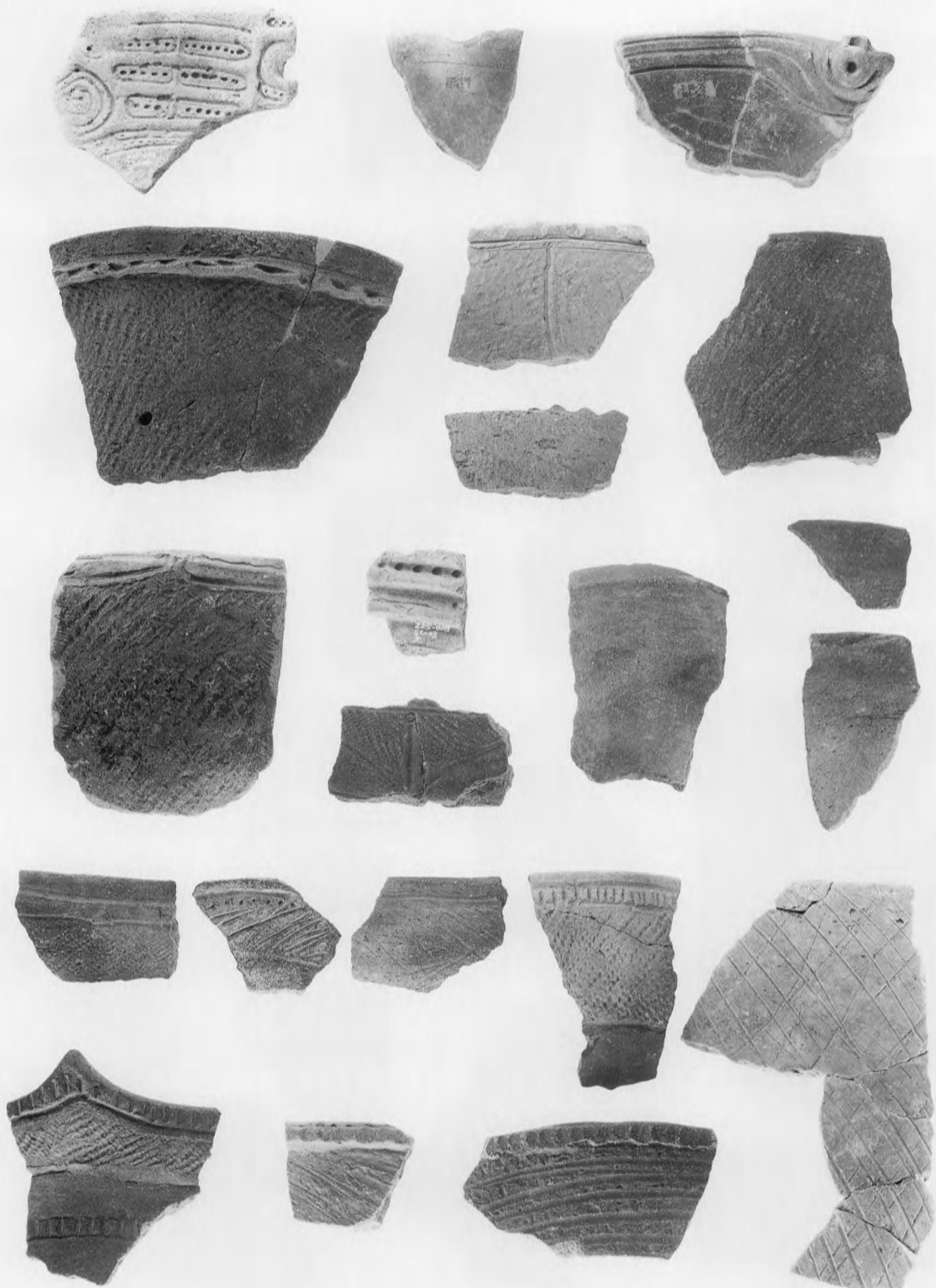
5C出土土器（2）



5C出土土器（3）



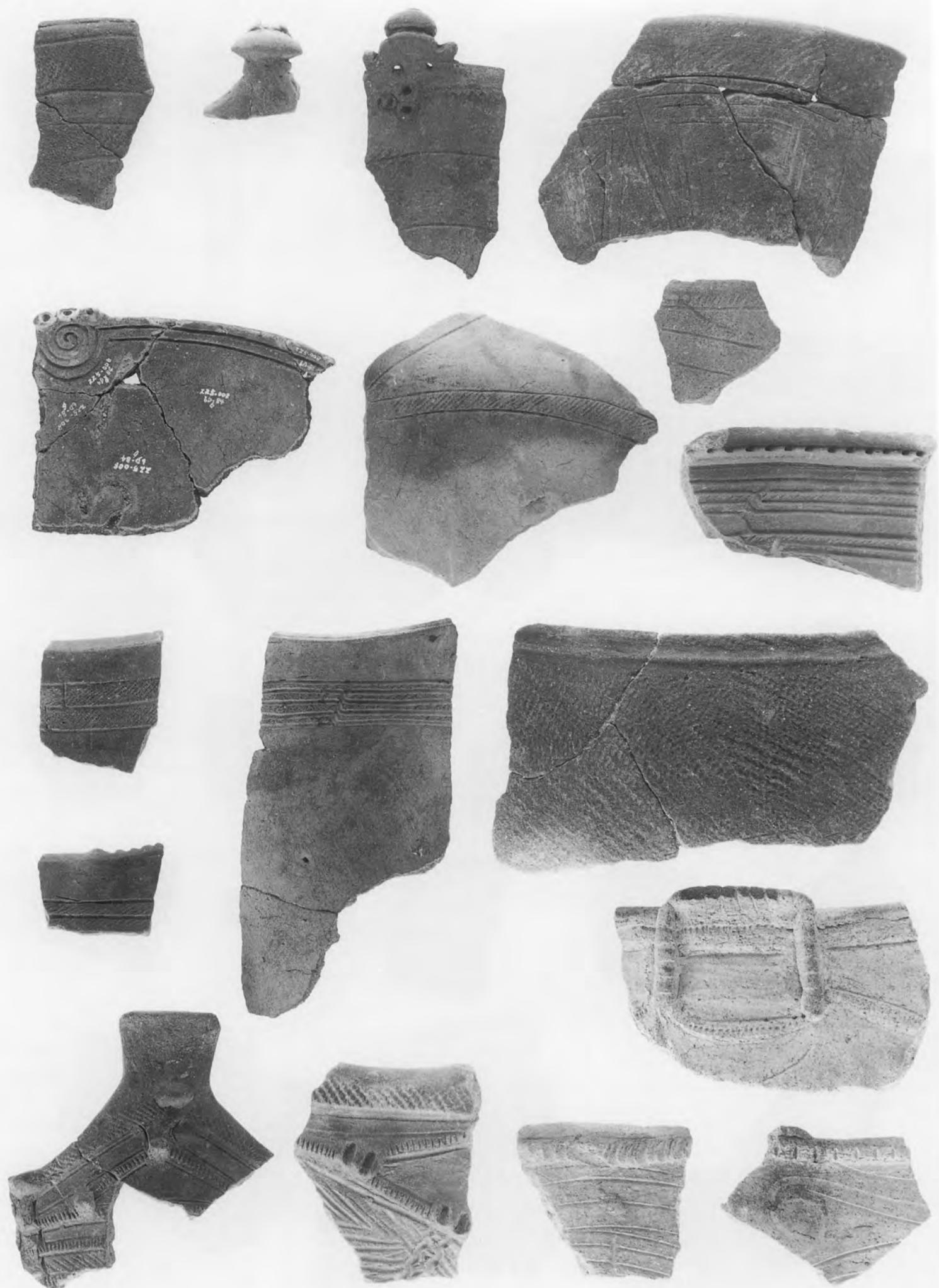
5C出土土器（4）



5C出土土器（5）



5D・6D出土土器



6D出土土器（2）



7D出土土器（1）



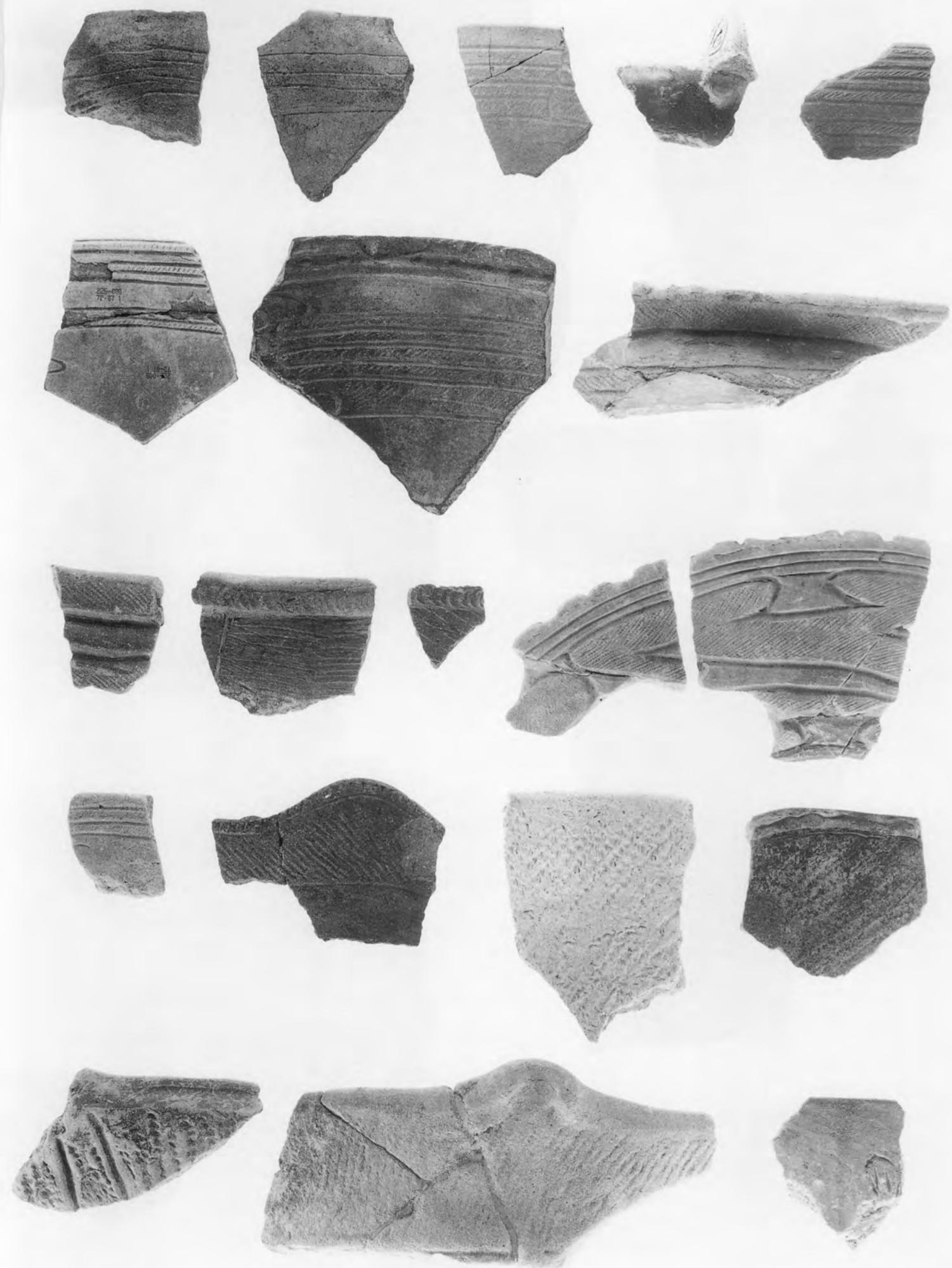
7D出土土器（2）



7D出土土器（3）



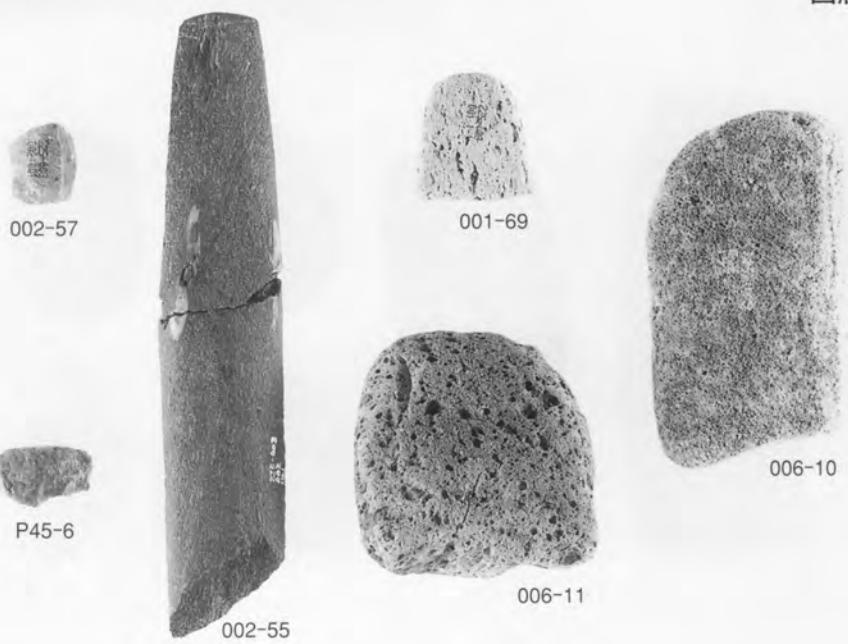
7D出土土器（4）



7D出土土器（5）



表採土器



1. 遺構出土石器（1）



2. 遺構出土石器（2）



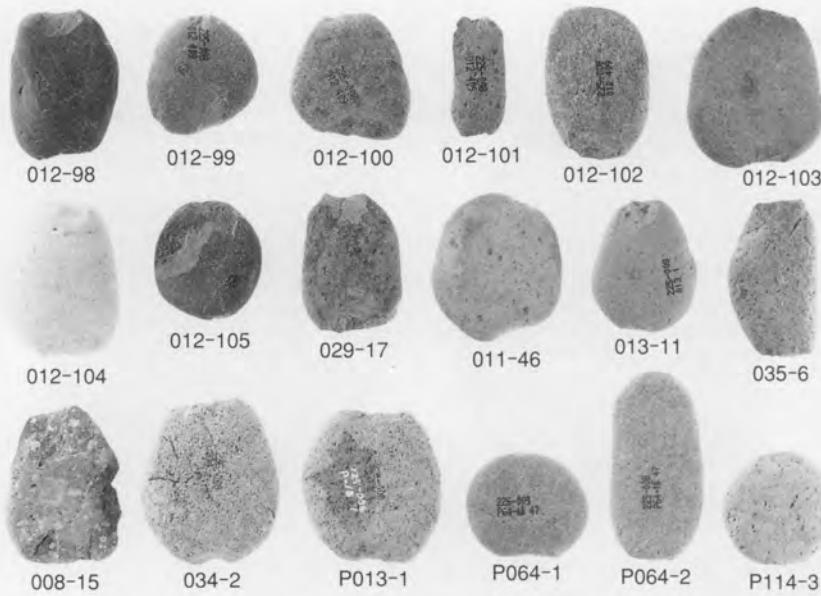
3. 遺構出土石器（3）



1. 遺構出土石器 (4)



2. 遺構出土石器 (5)



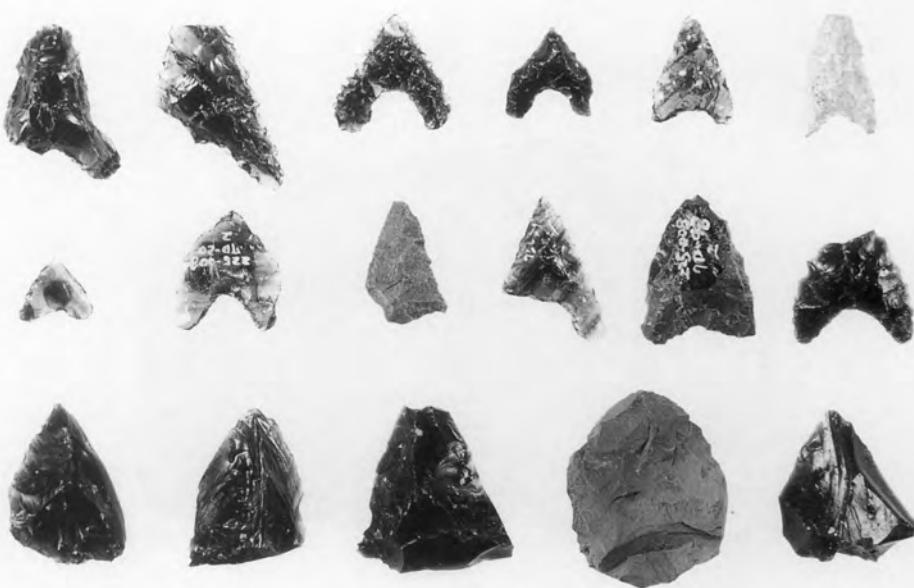
3. 遺構出土石器 (6)



1. 剥片



2. 石核



3. 石器



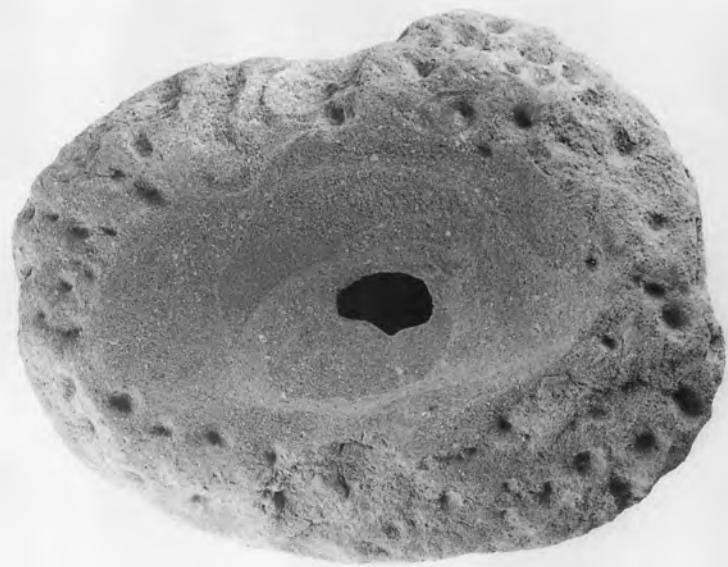
1. 打製石斧・磨製石斧



2. 石皿（1）



3. 石皿（2）



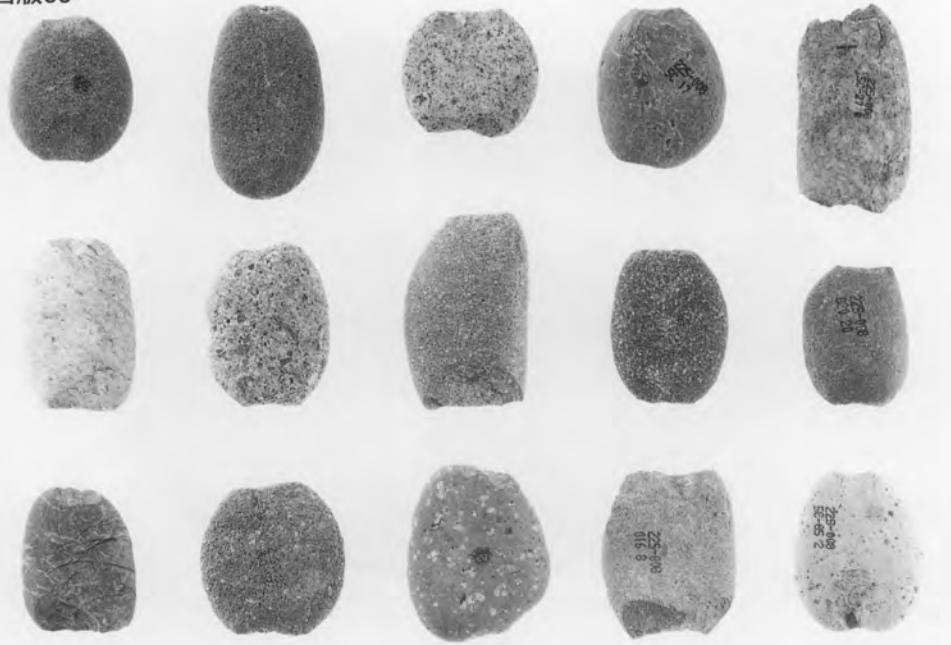
1. 石皿（3）



2. 磨石（1）



3. 磨石（2）



1. 石錘 (1)



2. 石錘 (2)



3. 石製品・装身具

## 報告書抄録

ふりがな	きみつしてらのだいいせき							
書名	君津市寺ノ代遺跡							
副書名	県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書							
卷次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第412集							
編著者名	小林清隆・高梨友子							
編集機関	千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地 2 TEL 043-422-8811							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
てらのだい 寺ノ代	ちばけんきみつ 千葉県君津市 ふじばれし てらのだい 藤林字寺ノ代 357ほか	市町村 12225	遺跡番号 008	35° 13' 44"	140° 05' 25"	19951002～ 19951130 19961001～ 19961129 19970901～ 19971114	1,800m <sup>2</sup> (本調査) 770m <sup>2</sup> 430m <sup>2</sup>	県単道路改良に伴 う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
寺ノ代	集落 散布地	縄文時代	竪穴住居跡 埋設土器集中遺構 土坑	8軒 2基 88基	縄文土器（早期、中期、後期、 晩期） 土製品（土偶、土錐、蓋形土製 品、円板状土製品） 石器（石鎚、打製石斧、磨製石 斧、石皿、磨石、石錐、砥石） 石製品（石棒） 装身具（玦状耳飾、垂飾）	後期の集落 竪穴住居内に 集石検出 石錐多数出土		

千葉県文化財センター調査報告第412集  
**君津市寺ノ代遺跡**  
—県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書—

---

平成13年3月30日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県土木部  
千葉市中央区市場町1-1

財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正文社  
千葉市中央区都町1-10-6

---